

令和元年度自己点検・自己評価委員会総会

日時 令和2年3月2日（月）13:30～15:30

会場 九州保健福祉大学 講義棟（F棟）

学校法人 順正学園

建学の理念

学生一人ひとりのもつ能力を最大限に
引き出し引き伸ばし、社会に有為な
人材を養成する。

加藤



Mission Statement

Our aim is to maximize students' individual potential and develop good citizens in both local and international communities.

令和元年度自己点検・自己評価委員会総会プログラム

日 時 令和2年3月2日(月) 13:30 ～ 15:30

理事長・総長挨拶	加計美也子 理事長・総長	13:30 ～
学長挨拶(外部評価員紹介を含む)	高崎真弓学長	13:40 ～
実施部会報告 基本事項検討部会	山本隆一部会長	13:45 ～
《各部会報告の全体総括》		
組織別報告 通信教育部会	川崎順子部会長	13:55 ～
大学院部会	正野知基部会長	14:00 ～
学生の受入部会	渡邊一平部会長	14:05 ～
※その他の部会は書面報告		
《3Pを踏まえた各学科の中期計画報告》		
スポーツ健康福祉学科	正野知基学科長	14:10 ～
臨床福祉学科	稲田弘子学科長	14:15 ～
作業療法学科	立石修康学科長	14:20 ～
言語聴覚療法学科	倉内紀子学科長	14:25 ～
視機能療法学科	山本隆一学科長	14:30 ～
臨床工学科	戸畑裕志学科長	14:35 ～
薬学科	黒川昌彦学科長	14:40 ～
動物生命薬科学科	明石 敏学科長	14:45 ～
生命医科学科	三苫純也学科長	14:50 ～
《平成30年度授業アンケート結果報告》		
結果報告	比佐博彰教育開発部門副部門長	14:55 ～
《講評・総評》 外部評価員 講評	澤野幸司延岡市教育長	15:00 ～
学長 総評	高崎真弓学長	15:05 ～
閉会挨拶	山本隆一副学長	15:10 ～

【点検・評価項目】(各部会において最重点項目に◎、重点項目に○)

- ①理念・目的
- ②教育研究組織
- ③教員・教員組織
- ④教育内容・方法・成果
- ⑤学生の受け入れ
- ⑥学生支援
- ⑦教育研究等環境
- ⑧社会連携・社会貢献
- ⑨管理運営・財務
- ⑩内部質保障

令和元年度自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
基本事項検討部会	○	○	○	○	○	○	○	○		○
<p>○今年度の取組状況</p> <p>本学の建学の理念は、「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸し社会に有為な人材を養成する」である。学生の基礎・専門学力そして自ら考える力を高めることにより社会において高く評価される有為な人材を排出し、高校生から是非進学したいと思われる大学を目指している。基本事項検討部会では、第2期中期目標・中期計画に従って、教育内容・方法・成果、学生の受け入れに等に関する取り組みを検証してきた。さらに、高等教育無償化の2020年度開始を念頭に、機関認証にむけての学内準備を行ってきた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生自ら考える力のアップ（アクティブラーニング導入教科が増加している） 2. 学生の基礎学力のアップ（特に、国語力の向上を目指した全学的取り組みで成果が見られる） 3. 国家試験の合格率アップ（各学科において、全国平均を上回る目標設定を行っている） 4. 学科教員の教育力アップ（教員相互による授業参観等が実施されている） 5. 教育施設のレベルアップ（文科省/厚労省補助金の申請等が行われている） 6. 就職率のアップ（キャリアサポートセンターとの連携が図られている） 7. 学生生活サポートと向上（ユニバーサルパスポート活用の推進等が図られている） 8. 中途退学者の減少（学科内での学生情報の共有が図られている） 9. 社会人としてのマナー向上（挨拶等の態度教育の推進が図られている） 10. 入学定員の充足率向上（入試広報室と学科との連携強化等が図られている） <p>○来年度の計画案</p> <p>来年度は、第2期中期目標・中期計画に従って全学共通目標の達成のために、引き続き教育内容・方法・成果、学生の受け入れに関する基本事項についての実施案を検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生自ら考える力のアップ 2. 学生の基礎学力のアップ 3. 国家試験の合格率アップ 4. 学科教員の教育力アップ 5. 教育施設のレベルアップ 6. 就職率のアップ 7. 学生生活サポートと向上 8. 中途退学者の減少 9. 社会人としてのマナー向上 10. 入学定員の充足率向上 										

令和元年度自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
カリキュラム部会	○			◎			○			
<p>○今年度の取組状況</p> <p>カリキュラム部会は、教育指導部会（中核センター・教育開発部門）と共に、種々の取り組みをおこなった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3つのポリシーとカリキュラムとの整合性の検証 各学部学科のカリキュラムに対してそれぞれ3つのポリシーとの整合性を検証して見直した。 大学共通基礎科目の検討 申請時期の関係もあり現行の大学共通基礎科目を臨床心理学部に適用した。 カリキュラムマップの見直し 各学科においてカリキュラムマップを基にカリキュラムツリー（履修系統図）を作成した。 シラバスチェック体制の強化 高等教育無償化制度への対応（実務経験を持つ担当教員）や評価方法について、シラバスのチェック体制を強化した。 										
<p>○来年度の計画案</p> <p>教育指導部会（中核センター・教育開発部門）と共に、以下の取り組みを行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 大学共通基礎科目の検討 アセスメントポリシーの検証 シラバスチェック体制の強化 										

令和元年度自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
教育指導部会	◎	○	○	◎	○	◎				○
<p>○今年度の取組状況</p> <p>本年度は、第2期中期目標・中期計画に従って、学生の能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会から高く評価される人材育成を目指した教育改革に取り組んできた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 令和2年度から開始される「高等教育無償化」に本学が対応できるよう関連する教育システムの改革等に取り組んだ。 リメディアル教育として全学的に e-learning システムを引き続き導入し、全ての教科の基礎学力として重要な国語能力の向上に取り組んだ。全学共通の実力テストでは、多くの学科で国語力の向上が確認されている。 各学科での更なる国家試験合格率の向上を目指した。少なくとも、全国の大学の国家試験合格率平均を決して下回ることがないよう国家試験対策の充実に取り組んだ。 教員の教育力向上のためにワークショップ形式でのFD研修会の充実に目指したが、実施できなかった。 教員による学生へのセクハラ・パワハラなど起こさないよう、研修会等が開催された。 教員から積極的に挨拶をおこなうなど、学生の社会人としてのマナーを向上に取り組んだ。 <p>○来年度の計画案</p> <p>来年度も、第2期中期目標・中期計画に従って、学生の能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会から高く評価される人材育成を目指した教育改革に取り組んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> リメディアル教育として全学的に e-learning システムを引き続き導入し、全ての教科の基礎学力として重要な国語能力の更なる向上に取り組む。 各学科での国家試験合格率の向上を目指す。少なくとも、全国の大学の国家試験合格率平均を決して下回ることがないよう国家試験対策の充実に取り組む。 教員の教育力向上のためにワークショップ形式でのFD研修会の充実に目指す。 教員による学生へのセクハラ・パワハラなど起こさないよう研修会等の充実に目指す。 教員から積極的に挨拶をおこなうなど、学生の社会人としてのマナーを向上に取り組む。 										

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
研究活動部会							◎			
<p>○今年度の取組状況</p> <p>1. 共同研究について</p> <p>①教員による研究・社会貢献を推進するために、共同研究費(1,000万円)を「研究経費助成」及び「地域創生事業経費助成」として配分を行った。研究経費助成の審査については、科研費の審査評価に重点を置き、採択・配分額を決定した。</p> <p>令和元年度の研究経費助成の申請数13件、採択数11件（昨年度は申請数12件、採択数8件）、地域創生事業経費助成の申請数5件、採択数4件（昨年度は申請数3件、採択数3件）であった。</p> <p>②平成30年度の「研究経費助成」及び「地域創生事業経費助成」の成果報告書の提出を求め、該当者全員から成果報告書の提出がなされた。</p> <p>2. 科学研究費助成事業について</p> <p>科研費（文部科学省・日本学術振興会）の申請を促進するため、「令和2年度科研費公募要領等説明会」を開催した。</p> <p>開催日：令和元年9月24日（火）・25日（水）</p> <p>参加者：57名</p> <p>内 容：・科研費改革の概要 ・公募内容の変更点 ・researchmapについて</p> <p>・科研費電子システムの操作方法について</p> <p>・研究費の不正使用、研究活動における不正行為の防止（研究機関ルールについて）</p> <p>令和2年度科研費申請数：45件 基盤研究（C）：32件 （昨年度申請数：50件） 挑戦的研究(萌芽)：1件 若手研究（B）：12件</p> <p>3. 「公的研究費コンプライアンス研修会」の開催について</p> <p>開催日：令和元年12月25日（水）</p> <p>講 師：三宮紀彦公認会計士事務所 代表 三宮 紀彦</p> <p>内 容：・公的研究費コンプライアンス研修</p> <p>・理解度テストの実施</p> <p>4. 「研究データ等の保存状況の確認アンケート」のとりまとめ</p>										

○来年度の計画案

1. 共同研究について

研究・社会貢献推進のため、共同研究費(1,000万円)を「研究経費助成」及び「地域創生事業経費助成」としての適切な配分を図る。

研究経費助成の配分に関しては、引き続き科研費申請の審査評価に重点を置き、科研費の採択率の向上を目指し支援していく。

また、地域創生事業経費助成についても、社会貢献度に重点を置き配分額を決定する。

2. 科学研究費助成事業について

科研費申請(文部科学省・日本学術振興会)を促進し、「科研費公募要領等説明会」を開催して変更点や申請手続き等についての的確な指示・説明を行う。

また、「科研費申請書(研究計画調書)作成のポイント」等の研修会を開催し、採択件数増加の方策を講ずる。

3. 「公的研究費コンプライアンス研修・研究倫理教育研修」について

「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)(平成26年2月18日改正)文部科学大臣決定」及び「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン(平成26年8月26日文部科学大臣決定)」に則った研修会(FD・SD)を開催し、研究を推奨するとともに研究の倫理に関する取組みや体制整備を行っていく。

令和元年度自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
学生生活部会	○					◎		○		
<p>○今年度の取組状況</p> <p>1. 交通トラブル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講習会、立て看板、注意喚起ポスター、ユニパで周知しているが、原付バイクの転倒による重篤事故が発生している。4月から12月までの学生課への届け出件数24件（昨年は32件、一昨年は41件の届け出）と減少しているが、これでも実数とは隔たりがあるものと考えられる。 ・事故の傾向は、学生の安全運転意識の欠如や運転技量の未熟に起因するものが大半を占め、引き続き更なる安全運転のための意識向上への取り組み、特に、届け出24件中の6件が原付・バイクによる事故であり、また学生が第一当となった事故が13件あることから、更なる学生への安全運転指導強化が必要である。 <p>2. 犯罪、生活トラブル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度2件（昨年度9件）受理。届け出件数は減少した。 ・盗難事件の発生はないが、学生間のストーカー事件及び居宅付近で刃物を携帯した銃刀法違反が発生し警察に委ねている。 <p>3. 防災に対する意識向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月に南海トラフ大地震を想定した消防防災総合訓練を実施した。訓練では、避難訓練及び消火訓練を実施した。全3年生を対象に延岡警察署員による防災講座を行い、災害時に慌てることがないように日ごろからの備えが重要であることを参加者全員が認識した。 <p>4. キャンパスアメニティの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カメラを改装し、「ラーニングラウンジカメラ」として、フリーWi-Fiを設置し、勉強する場としてだけでなく、コーヒーを飲みながらパソコンを利用したり、昼コーナーでくつろげるスペースとしてリニューアルを行った。 										
<p>○来年度の計画案</p> <p>1. 交通トラブル対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車通学者、バイク・自転車通学者を対象とし定期的な安全運転講習、交通安全啓発活動、立て看板による周知および一斉メールなどにより、昨年度に引き続き更なる交通事故の減少を目指し、延岡警察署との連携を継続する。特に重大事故が発生しないよう地道な啓発活動を行い、特に原付、自動二輪車の通学者の指導を強化する。また、事故発生時の学生課への届け出をきちんと行うよう引き続き指導する。 <p>2. 犯罪、生活トラブル対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犯罪、トラブルに巻き込まれないように、そのような兆候があれば速やかにユニパでの周知を行い、学生の無知・常識のなさ・情報収集力の未熟さからくるトラブル・軽犯罪の防止や啓蒙を継続する。また、発生した場合には迅速かつ丁寧に対応する。 <p>3. 防災に対する意識向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ大地震に対する備えとして、学生の防災意識の向上及び防災訓練の実施、オリエンテーションでの講習会、防災マニュアルの配布など各種対策を昨年に引き続き推進する。 <p>4. キャンパスアメニティの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生が勉学や課外活動等で充実したキャンパスライフを過ごせるように活動の場を整備する必要がある。学生へのアンケート等や動向調査等を実施し、快適なキャンパスライフの実現に向けて、学内外と連携を図りながら中長期に向けたビジョンの策定を行う。 										

令和元年度自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
図書館部会						○	◎			
<p>○今年度の取組状況</p> <p>1) 学習支援及び教育活動への直接の関与</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度はじめに図書館利用法・情報検索法について初年次生に3回、卒業論文のための文献調査指導を3年生対象に1回実施した。また、通信制大学院生（修士・博士）に対しては文献管理および著作権についても詳細な指導を行った。学生・研究者が実習先など学外においても利用できるよう、医学中央雑誌WEB版をアクセスフリー利用にすることができた。 ・学科授業で行う「ビブリオバトル」（本の書評合戦）には、あまり参加できなかったがビブリオバトルで学生が推薦する図書は可能な限り図書館で購入し、ホームページ上でも紹介した。 <p>2) 研究活動に即した支援と知の産生への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要第21号を3月末に発行する。紀要論文、学位論文ほか学内の研究成果物は遺漏なくリポジトリに登録、公開している。 ・懸案だったリポジトリ運用指針（オープンアクセスポリシー）を定め公開した。 ・オープンアクセスジャーナルへの論文投稿料が10%割引となるMDPIに参加した。 <p>3) コレクション構築と適切なナビゲーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人権コーナー」を常設とし、その中で、子ども、障がい者、高齢者、女性・ジェンダー、エスニシティ、文化の多様性など概ね2か月ごとにコレクションテーマを設定して学生の人権・差別に対する意識啓発に努めた。 <p>4) 他機関・地域等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延岡市立図書館との連携を継続、8月と2月に認知症をテーマとした企画展示を行った。 ・8月から9月にかけてオープンライブラリを実施、地域の中学生・高校生に図書館を開放した。 ・宮崎県大学図書館協議会の当番校、私立大学図書館協会西地区部会九州地区協議会の研究発表校であったため、夫々の役務を滞りなく遂行した。 <p>○来年度の計画案</p> <p>1) 学習支援及び教育活動への直接の関与</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用指導、情報リテラシー、論文作成などの支援に、より能動的に取り組む。 <p>2) 研究活動に即した支援と知の産生への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要第22号を発行する。投稿数増加を促進する。 ・リポジトリでの研究成果の公開を推進する。 <p>3) コレクション構築と適切なナビゲーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子ジャーナルや外国雑誌の利用調査を詳細に行い、利用度に応じた購読の見直しを行う。 ・テーマを変えて企画展示を行う。 <p>4) 他機関・地域等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延岡市立図書館との連携を継続する。 ・オープンライブラリを実施、より多くの高校生に利用してもらえるよう工夫をする。 										

令和元年度自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		⑧	⑨	⑩
キャリアサポート部会						◎			○		
<p>○今年度の取組状況</p> <p><取組内容></p> <p>1. 就職希望者の就職率 100%をめざすとともに、数値目標だけでなく個人指導重視の支援を通して学生の発達を促し、一人ひとりが満足できる進路選択ができるよう質の高いキャリアサポートをする。</p> <p>2. 低学年からのキャリア意識の醸成を目的とした支援、就職活動の円滑な展開や就職試験への対応に繋がる各種企画を積極的に実施する。また、公務員対策を中心に外部機関と連携し、適切な支援を継続する。</p> <p><取組状況></p> <p>学生面談予約制の定着により、計画的な支援をすることができている。職員が面談記録を共有することで継続的な支援に注力し、面談記録や求職票記載内容から学生本人が希望する情報提供にも努めている。就職率向上に留まらず卒業の先にある自立を重視し、職員間での情報共有・意見交換を頻繁に行った。また、学生一人ひとりが満足できる進路選択ができるよう、キャリアサポートセンターと各学科が連携・協力し進路支援にあたり、特に就職活動等を進める上で何らかの問題を抱えている学生に対しては、関係部署・地元ハローワーク・ヤング JOB サポートみやざき等と連携し、長期的な視点で支援にあたっている。</p> <p>各学科4年生（薬学科のみ5年生）を対象にした就職面談会（全4回、本学・宮崎・福岡会場含む）をはじめ、薬学科3年生を対象とした仕事説明会、生命医科学部を対象にした業界説明会や専門の講師による就職活動前の学生を対象とした「インターンシップガイダンス」「就職情報サイト登録説明会」「自己分析講座」「SPI 対策講座」「合同企業説明会回り方講座」など、昨年よりもさらに充実させたイベントを計9回実施した。その他、公務員試験対策講座（全3回）を開催。全学年全学科を対象に「WorkCafe のべおか」（全2回）や「ひなた就活女子会」など、現場で活躍する宮崎出身の若手職員と気軽に話のできる場を提供し、職業理解やキャリア意識醸成を支援している。</p>											
<p>○来年度の計画案</p> <p>1. 就職希望者の就職率 100%をめざすとともに、数値目標だけでなく、個人指導重視の支援を通して学生の発達を促し、一人ひとりが満足できる進路選択ができるよう質の高いキャリアサポートをする。</p> <p>2. 低学年からのキャリア意識の醸成を目的とした支援、就職活動の円滑な展開や就職試験への対応に繋がる各種企画を積極的に実施する。また、公務員対策を中心に外部機関と連携し、公的機関への就職者増を実現させる。</p> <p>3. 学生への各種行事等の伝達を強化し、学生参加数の向上を図るため中核センターへ報告事項として周知することで、対象の学部学科の教授会の報告事項として周知を徹底するほか、積極的に各学科のキャリアサポート委員と連携を図りながら実現させる。</p>											

令和元年度自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
社会貢献部会								◎		
<p>○今年度の取組状況</p> <p>1. 地域社会のニーズに大学のシーズの接点を見出すことにより地域社会発展に向けて、今年度も多くの取り組みを推進した。その成果について、各学部・各学科・各部活動・ボランティア・各個人における社会貢献（表彰等含む）等、前期と後期に分けて調査し、集約した内容を大学ホームページにて公表した。その際、「社会貢献活動のまとめ〈分類〉」を表にして数字表記することで見易さを心がけた。</p> <p>2. ボランティアセンター活動支援 ボランティアセンターが中心となり、学生を主体とした各種ボランティア活動を推進した結果、活動総件数 151 件、総参加人数 509 人以上であった。また、学生主体で台風 17 号延岡竜巻被害の義援金を集め、市に贈呈した。</p> <p>3. 順正ジョイフルキッズクラブ（JKC）は、延岡市の「ひとり親家庭等学習支援等事業」の業務委託事業として、中学生を対象に本学において今年も 20 回を計画したが、天候不良のため 1 回中止となり、最終的に 19 回実施した。実施内容としては、学習支援に加えて調理実習も行い、更に今年度は、初の試みとして、8 月に「むかばき体験型学習会」を行った。毎回 12～20 名程度の生徒が参加し、延人数は 276 名であった。</p>										
<p>○来年度の計画案</p> <p>1. 社会貢献活動の推進 大学と地域、関係機関との連携を図り、地域の活性化に向けて、更に活動を支援していく。次年度から 3 年間、県の人権啓発活動協働推進事業の受託を予定しているため、社会貢献部門を中心として、事業実施に向け取り組んでいく。</p> <p>2. 情報公開、情報発信の充実 学内の情報収集に努め、各学部・各学科・各部活動・ボランティア・各個人における社会貢献等を集約して、ホームページに公開するとともに、多様な方法で情報発信を行う。</p> <p>3. ボランティアセンター活動の推進 ボランティアセンターを中心として、学生への積極的な参画を促し、学生主体のボランティア活動を推進していく。災害ボランティア活動等の環境設定を検討する。</p> <p>4. 順正ジョイフルキッズクラブ（JKC）の充実 令和元年度の JK C の活動実績をもとに令和 2 年度は更に充実を図る。実施回数は 20 回を計画し、参加生徒の増加と実施体制の強化を図る。</p>										

令和元年度自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
通信教育部会	○		○	○	○	◎				
<p>○今年度の取組状況</p> <p>1. 学生満足度の向上 学生アンケートをスクーリング並びに卒業時に実施し、満足度の状況を把握した。 学生からの意見を踏まえ、スクーリングの日程や時間設定などの改善点を見出すことができた。</p> <p>2. 広報戦略の充実を図る ①広報媒体の活用 関係機関や団体への広報はもとより、福祉専門雑誌、JR車内誌、ラジオ、インターネット等の媒体を活用し、広報を拡充した。 ②訪問活動 ・宮崎県内の福祉科を持つ高等学校を中心に訪問活動を行った。</p> <p>3. 学生のサポート体制 ① 学生相談会の実施 通信教育による学びの不安（勉強方法や単位取得）を解消するため、学生相談会を7県にて実施し、充実を図った。 ② 社会福祉士国家試験対策の充実 受験予定者を把握し、試験対策参考書や有料模擬試験の案内を行い、学内で実施される通学生向けの有料模擬試験にも受験を促した。また、2日間の直前対策講座の充実を図った。</p> <p>○来年度の計画案</p> <p>1. 入学者の確保に向けた広報活動の充実 ホームページ等の充実や広報媒体の活用を検討し、入学者の確保を目指す。</p> <p>2. 学生サポート体制の充実 学習相談会を実施するとともに、相談内容から学生のニーズを把握し、サポート体制の充実を図る。障がい学生の学習保障についても検討していく。 国家試験対策講座等の充実に向けて検討を重ね、合格率向上に向けた取り組みを強化する。 学生アンケートを実施・分析し、教員へのフィードバックを行い、改善事項を明確にし、満足度向上に向けた取り組みを検討していく。</p> <p>3. 社会福祉士養成カリキュラムの改正に伴う教育プログラムの再検討 2021年度改正に向けたカリキュラムの再編成作業を進める。加えて、スクールソーシャルワーク教育課程認定事業の導入についても検討していく。</p>										

令和元年度自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
学生の受入部会					◎					
<p>○今年度の取組状況</p> <p>改善勧告である「定員充足」に向けて</p> <p>(オープンキャンパス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3回のオープンキャンパスについて、7月の連日実施をやめ、学科改組の関係上7月に1回、8月に1回、9月に1回の計3回で実施した。無料送迎バス停留所の増設（別府、日田）、増便（八代ルート）を行い参加者数の増加を図った。 ・高校教員対象大学説明会（宮崎）を7月～8月に実施する予定であったが、台風接近のため中止とし、個別訪問にて対応。 <p>土日見学会を10月～12月で5回実施（学園祭と同時開催や12月 Special イベントとして無償化の説明会等も取り入れて実施）。後半2月、3月で5回実施予定。合格者対象にも別途実施。</p> <p>(学科リーフレット等の作成・ホームページ等の広報強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度同様に大学案内とは別に学科の詳しい内容、トピックス等本学の魅力を記載した補助資料【リーフレット】等を作成し、高校訪問、説明会、オープンキャンパスなどで活用。ホームページの使用変更、インターネット関連の広報活動の強化を行っている。 <p>(分野別説明会、ガイダンスの参加強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校内で実施される分野別説明会の参加を増やし、各学科の先生方に直接高校生に説明できる機会をこれまで以上に増やす取り組みを行っている。 										
<p>○来年度の計画案</p> <p>(オープンキャンパス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期受験生獲得を目的に6月に1回、7月に1回、8月に1回の計3回で実施する。 また、土日見学会も今年度同様に4月の早い時期より実施する。 ・高校教員対象大学説明会（宮崎）を5月中旬に実施予定。 <p>(学科リーフレット等の作成・ホームページ等の広報強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度同様に大学案内とは別に学科の詳しい内容、トピックス等本学の魅力を記載した補助資料【リーフレット】等を作成し、高校訪問、説明会、オープンキャンパスなどで活用する。 ホームページ、インターネット関連の広報媒体等を活用し九保大の認知度を上げるとともに、見学会、オープンキャンパスへの参加者数を増やようネット広報を強化する。 <p>(分野別説明会、ガイダンスの参加強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校内で実施される分野別説明会の参加を今年度同様に強化し、直接高校生に説明できる機会を増やす。 										

令和元年度自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
大学院部会	○	○	○	○	○					
<p>○今年度の取組状況</p> <p>1. 時代のニーズに対応したカリキュラムの検討・検証を引き続き行う。医療薬学研究科では、各研究室の研究力をアップし IF を有する英文学術論文発表数を増やす。</p> <p>社会福祉学研究科では、指導体制の充実を図るため、研究指導教員および研究指導補助教員への昇格を積極的に進めた。保健科学研究科では、生命医科関連からの入学に対応すべくカリキュラムを一部増設したが、今年度は内容を充実させるため、担当教員の見直しも行った。これによって、時代のニーズに対応したカリキュラムとなった。医療薬学研究科では、各研究室の研究力をアップし IF を有する英文学術論文発表数を増やす対策を行った。また、教員が互いに刺激し合い研究力をアップするために、学生・一般市民を対象に教員研究成果発表会である「宮崎県北サイエンスフォーラム」を開催した。</p> <p>2. 定員充足を目指し、とくに社会人を対象にした広報活動に取り組む。</p> <p>研究科ごとに対応を検討した。定員充足率は、社会福祉学研究科 修士課程 20%、連合社会福祉学研究科 博士（後期）課程 100%、保健科学研究科 博士（前期）課程 150%、保健科学研究科 博士（後期）課程 56%、医療薬学研究科 博士課程は 38%となっている。</p> <p>社会福祉学研究科では、通信教育部のスクーリング時に広報活動を継続して行っている。また、修士課程の定員 20 名の見直しも継続課題である。保健科学研究科では、日本生体医工学会関連行事などで社会人への広報活動を行った。医療薬学研究科では、様々な取り組みを行ったが、残念ながら入学者を確保できていない。</p> <p>3. 大学院と医療・福祉現場との連携強化を図っていく。</p> <p>社会福祉学研究科では、QOL 研究機構社会福祉学研究所を活用して、福祉などの現場と連携強化を図る取り組みを継続して行っている。保健科学研究科では、院生の研究を介して医療現場の医療の質向上につながっており、良好な連携が図られつつある。医療薬学研究科では、院生の多くは、現場に出向いて実務経験を積んでおり、研究科としても奨励している。</p> <p>○来年度の計画案</p> <p>1. 時代のニーズに対応したカリキュラムの検討・検証を引き続き行う。医療薬学研究科では、各研究室の研究力をアップし IF を有する英文学術論文発表数を増やす。研究力アップのために、教員の研究成果発表会である「宮崎県北サイエンスフォーラム」の開催を継続していく。</p> <p>2. 定員充足を目指し、とくに社会人を対象にした広報活動に取り組む。医療薬学研究科では、夜間に講義を受講できる体制であることをアピールしていく。</p> <p>3. 大学院と医療・福祉現場との連携強化を図っていく。医療薬学研究科では、院生の実務経験の有用性をアピールしていく。</p>										

令和元年度自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	②	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
留学生部会						◎				
<p>○今年度の取組状況</p> <p>本年度の留学生部会の目標は、以下の3点であった。</p> <p>①留学生の除籍・退学者を少なくし、復学を支援する。</p> <p>②留学生が日本の生活習慣に慣れてもらえるよう指導する機会の工夫を行う。</p> <p>③留学生と日本人学生、教職員及び地域住民との相互交流を拡大・進展させる。</p> <p>上記の3目標を達成すべく、下記の取り組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月8日に餅つき・ぜんざい会を開催し、留学生10名の参加があった。 <p>【参考資料：令和元年度の留学生の状況】 (令和2年2月1日現在)</p> <p>在学生総数 18人(韓国) 1人(中国) 計19名 ※15人(韓国) (※は令和元年3月末実績) 令和元年度入学者数 5人(韓国)、1名(中国) 令和元年度退学者数 3人</p>										
<p>○来年度の計画案</p> <p>①留学生の除籍・退学者を少なくし、復学を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生の出身国にあわせた支援ができるように工夫する。 ・韓国籍留学生の場合、兵役による退学があり、そのまま復学しないことが多い。兵役終了後の復学希望に対する支援体制を関係部署と進める。 <p>②留学生が日本での生活に慣れてもらえるよう指導する機会の工夫を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学初期に、延岡での生活において特に注意すべき点やルールについて十分説明する。 ・留学初期に、新入留学生と在学留学生が交流する機会を設ける。 ・大学関係者及び学生と触れ合い、肌で生活習慣になれてもらえるような学内行事をおこなうと同時に地域イベントへの積極的な参加を促す。 ・日本語の習得支援として、ラーニングサポートセンターでの相談・日本語指導や e-ラーニングシステム「すらら」の活用を進める。 <p>③留学生と日本人学生、教職員及び地域住民との相互交流を拡大・進展させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科とも協力し、合宿研修や日帰りの研修旅行を行う。 ・留学生として支援過剰とにならないよう配慮し、特別扱いすることなく学内の諸活動に一学生として参加できるよう、学生の所属する学部学科及び学生課所轄の団体等に協力を依頼し、連携して支援する原則を継続する。 										

九州保健福祉大学 社会福祉学部 スポーツ健康福祉学科

2019年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>九保大だから学べる「スポーツで健康に生きる幸せ」をプロデュースできる能力を身につけた人材を輩出する。</p>
<p>学科からの メッセージ</p>	<p>スポーツ健康福祉学科の教育は、健康長寿社会の実現を目指して、スポーツ・健康・福祉そして東洋医学の視点からアプローチします。本学には「スポーツ健康福祉」と「鍼灸健康福祉」の2つのコースがあります。「スポーツ健康福祉コース」では、スポーツを軸に健康、福祉、教育、コンディショニング等の専門知識を有する健康運動指導士やアスレティックトレーナー、保健体育教員、社会福祉士等を養成します。「鍼灸健康福祉コース」では、スポーツとともに、健康、福祉、コンディショニング等の専門知識を有するはり師・きゅう師を養成します。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、各コースの専門知識に加えて、人々の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を涵養します。</p>
<p>教育力 (ブランド) 「学修成果の可視化」の観点を含む</p>	<p>【学生自ら考える力のアップへの対策】DP<4>CP1<5>CP3<11></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1期中期計画で作成された卒業論文の評価基準をもとに、1年次の初年次教育からスポーツ社会福祉学演習、卒業研究へと段階的な学習計画を作成する。 ・卒業論文発表会へ1年次より参加し、スポーツ社会福祉学演習・卒業研究における研究テーマを検討する。 ・卒業論文発表会では3年生が「企画」、「運営」、「評価」、「課題発見・解決」と主体的に取り組めるよう、教員が補助する。 <p>《取り組み状況・実績・成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生の卒業論文発表会への参加呼びかけを行い、参加を促したところ、ほぼ全員が参加した。これにより、スポーツ社会福祉学演習・卒業研究における研究テーマを検討のきっかけになったと思われる。 ・本年度より希望ゼミのアンケートを卒業研究発表会後に取っており、2年次のゼミ選択に発表会が役立つものと考えられる。1年生、2年生の参加は、卒業研究への動機づけや意識づけにつながるものと思われ、学生自身が取り組みたい内容が、どのゼミで実現可能か、考える機会を与えられたものと思われる。 ・卒業研究発表会の運営は3年生が中心となり、設営、進行、撤収が行われた。本年度は教員がこれまで行われてきた運営の問題点などを修正し、学生自身に役割を割り振らせたため、スムーズな運営が実現できた。 <p>《課題・次年度へ向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、1、2年生について卒業研究発表会への参加以外、継続して卒業研究につながる講義が存在しない。1年次から卒業研究に段階的に関わるために、現行のカリキュラムで実現可能な工夫を考えたい。 ・学習成果の可視化については、次年度は3年次の評価基準の策定を視野に入れ、検討する。 ・本年度の運営には、教員が積極的に関わった。来年度は3年生が主体性（問題発見・解決力）を持って運営にあたれる準備・工夫を考えていきたい。 <p>【基礎国語力増進への対策】CP1<1></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義科目におけるe-learningシステム「すらら-国語」導入の長期運用の可能性を調査する。 ・積極的なe-learningシステム「すらら-国語」の活用を学生に推奨する。 ・e-learningシステム「すらら-国語」実施による学生の国語力の変化について調査・検討を行う。 <p>《取り組み状況・実績・成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎演習(リメディアル教育に関する講義科目)にて、「すらら-国語」を導入・運用することができ、実施率は前・後期とも100%であった。 ・「すらら」開始前に実施した国語テストの結果から学生のレベルごとに「すらら-国語」の学習課題を設定し、その学習課題全ての達成を必須条件として、全て達成できた学生にのみ確認テストを実施した。結果、前・後期とも対象学生29名中29名が全ての学習課題を達成することができた(課題達成率100%)。また、前期・後期に各々1回ずつ実施した確認テスト(レベルごとの学習課題の内容と同程度の内容のもの)の結果では、対象学生29名中28名に点数の増加(国語力向上)がみられた。 <p>《課題・次年度へ向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も引き続き、「すらら-国語」の活用を促し、実施率100%を目指す。 ・「すらら-国語」の長期的な実施を目指し、引き続き学習内容や学習時間の精査・検証を続けていく。 ・国語力の更なる向上を目指すべく、次年度も「すらら-国語」の継続的な実施および学習課題の内容や学習時間等の検討を行い、調査を続ける。

【国語以外のリメディアル教育への対策】CP1<1>

- ・既存のリメディアル教育の内容の調査・検討を行う。
- ・e-learning システム「すらら-数学・英語」について、学生が利用しやすい環境の整備を行う。
- ・e-learning システム「すらら-数学・英語」の活用を学生に推奨する。

《取り組み状況・実績・成果》

- ・「すらら-英語・数学」の実施に関して、学習内容や時間数等の検討を行い、学生が取り組みやすい環境の整備を行った。

《課題・次年度へ向けて》

- ・次年度も引き続き実施内容を精査し、リメディアル教育の質的向上を図る。
- ・次年度は「すらら-英語・数学」の更なる実施率向上を目指し、内容の精査と導入方法などについて引き続き検討を続けていく。

【国家試験合格率アップへの対策】CP2<8>

《はり師・きゆう師》

- ・新卒合格率 100%を目指す。
- ・新カリキュラム移行後の国家試験に対応した受験対策を模索する。
- ・ロードマップの更新を行い、その年度における受験者全員の国家試験合格を目指す。

《取り組み状況・実績・成果》

- ・合格率100%を目指し、担当教員で学生の学力に合わせた個別フォローを行った。
- ・本年度は国家試験対策講義を講義外でも積極的に行った。特に、1、2年次の基礎科目や臨床医学系の科目を中心に対策講義を行った。

《課題・次年度へ向けて》

- ・新カリキュラムで新たに加わる科目において、問題傾向を今後継続的に分析把握する必要がある。
- ・新カリキュラムに対応できるよう、現在よりも国家試験対策に力を入れる必要がある。特に4年生前期の国家試験対策について、担当教員間で協議を行い、新たなロードマップを策定する。

《社会福祉士》

- ・学部で連携して可能な限り早期より模擬試験に取り組みせ、その結果を基に弱点を分析し、弱点を克服するための方策を練る。
- ・新卒合格率の全国平均を常に上回ることを目指す。

《取り組み状況・実績・成果》

- ・学部共通科目の時事福祉学では、受験予定者26名が17回の模擬試験（内有料模擬試験4回）を受け、その成績評価を踏まえ、個別指導を充実させた。今年度は全国有料模擬試験結果で第1位の学生もおり、学生同士の勉強会の機運も高まった。
- ・本試験終了後にマークシートの提出を求め、受験者26名中22名（84.6%）から提出された。
- ・2年3年については、自主勉強会を企画し前期8回、後期10回の計18回の模擬試験を実施した。今年度新たな取り組みとして科目担当教員による解説時間を設定した。希望者は前期58名、後期52名であった。ただし、後半になるにつれて参加者が減少したことから、継続的な学習支援が課題である。
- ・大学休業期間中は演習室を開放し、自主的な学習環境を整えた。

《課題・次年度へ向けて》

- ・本年度同様にロードマップを作成し、時事福祉学において段階的な学習を進めていく。特に、苦手科目の分析を行い、克服策を検討し、指導を充実していくことが求められる。
- ・2年3年生の自主勉強会では、継続的な学習に取り組むための実施方法を検討する必要がある。

【学科教員の教育力アップの対策】CP1 CP2

1. 授業の質を高める。

- ・大学で実施されている教員相互の授業参観の推進を行う。
- ・学生からの授業評価を受けて、教員が自らの授業の問題点を把握し、改善するための工夫について学科内で発表、検討を行う。
- ・学部FD（教育部門）との連携を図り、研修の成果を教育に反映させる。

2. 適切な教育評価を実施するため、特にはり師・きゆう師の国家試験関連科目（専門分野）における定期試験問題を教員間で閲覧可能な体制を整える。

3. その他

・各年度に実施した内容の結果・成果について検討し、年次改善が可能な体制を作る。

《取り組み状況・実績・成果》

1. 授業参観の推進について、学科会議等を通して教員へ通知し参加を促した。また学生からの授業評価を有効に活用するため、年度末の学科会議で報告を行う予定である。「学部FD（教育部門）との連携を図る」については、今年度教育部門FDが未開催であったことから未達成となった。しかし研究に関する倫理講義が学科長よりゼミ担当教員および学生に対して行われた。これによりゼミ担当教員の卒業論文作成時における倫理教育の指針が得られた。

2. 国家試験に関わる教科担当教員が定期試験問題・レポート課題等を閲覧できるシステム内容を一部見直し、試験問題の保全という観点から、原則紙ベースで1か所への集約保管とすることとした。

《課題・次年度へ向けて》

1. 倫理教育の指針は得られたが、学部教育部門との連携が十分でなかったことから、次年度は当該部門と連絡を図り、FD開催も含めた教育力アップへとつながる方策を図る必要がある。

【教育施設のレベルアップのための対策】

- ・学生に対して教育施設・設備・備品への要望を調査し、実現可能な整備を行う。
- ・体育館、グラウンドなどのスポーツ関連施設・設備・備品について、安全性等を調査し、整備する。
- ・資格試験対策別（鍼灸・社福・教職・AT）の自習室を確保する。各部屋に試験対策の問題や書籍を常置する。
- ・実習・実技科目において必要と考えられる設備・備品等について、費用対効果を踏まえて優先順位をつけ、順次整備を行う。さらに、既存の設備・備品等のより効果的な活用法について検討する。

《取り組み状況・実績・成果》

- ・ICTを活用した双方向型の講義を実践するために、ICT関連機器の導入を提案した。
- ・学生からの教育施設（グラウンド）についての要望を確認し、大学内の担当部署に相談をした。（サッカー場の芝、野球場の内野の砂等）
- ・体育館倉庫内のスポーツ関連備品について、整理し、安全性等の調査を行った。
- ・教職関連の問題集をB402に常置し、定期的な学習会で使用した。
- ・鍼灸関連の問題集を常置した。
- ・高額な実習・実技科目における設備・備品等について、現在の状況について確認をした。

《課題・次年度へ向けて》

- ・ICTを活用した双方向型の講義を実践するために、ICT関連機器を導入する。
- ・学生からの教育施設についての要望を確認し、大学内の担当部署に提案する。
- ・体育館、グラウンドなどのスポーツ関連施設・設備・備品について、安全性等を調査し、整備を検討する。なお、使用頻度が少ないものについては、教員へ使用を促す。
- ・資格試験対策（鍼灸・社福・教職・AT）の自習室確保を検討し、各部屋に試験対策の問題集等（印刷）を常置する。
- ・実習・実技科目における設備・備品等について費用対効果を踏まえ再検討し、予算と照らして、優先順位をつける。十分に活用されていない高額な設備・備品等については、活用法について検討する。

【就職率アップへの対策】DP

- ・就職活動中の学生の取り組み状況や希望職種について把握し、就職活動を支援できる環境整備を行い、高い就職率を維持する。
- ・キャリアサポートセンターの利用や就職懇談会への参加を引き続き促す。
- ・キャリアサポートセンターと教員との連絡を密にとり、就職活動が遅れている学生の指導に役立てられる環境整備を行う。

《取り組み状況・実績・成果》

- ・キャリアサポートセンターが把握する内定状況をメールで送ってもらい、学科教員に配布した、就職状況の把握と指導に役立てられるよう、情報の共有化を図った。
- ・就職懇談会の運営や開催方法について、キャリアサポートセンターと意見交換を行った。

《課題・次年度へ向けて》

- ・キャリアサポートセンターの利用が少ない学生は、就職の進捗状況が把握しづらい状況になるため、定期的にチューターからも情報収集を行い、キャリアサポートセンターとの情報共有を行う必要があると思われる。学科会議の活用なども視野に入れ、就職状況についての情報収集と共有化を計画する。

- ・資格試験が控える学生は資格取得に集中するため、内定が得られるまで時間がかかる者が一定数存在する。こういった学生の就職活動（特に資格試験合格後）について最善の支援策を模索する。

【学生生活サポート対策】

- ・悩み（授業、部活動など）のある学生が、より相談しやすい体制を構築する。
- ・学科会議において学生の状況を共有する。
- ・学生同士、横の繋がりのみならず、縦の繋がりを築ける行事を開催する。
※既に実施している、茶話会、合同交流会、運動会、宿泊研修等に加えて新たな行事を検討する。

《取り組み状況・実績・成果》

- ・チューターによる学生相談に加え、保険室内の学生相談室でのカウンセラーによる学生相談を受けられることを学生に周知した。
- ・個人情報の管理に十分配慮しながら、学内のカウンセリングに関する状況をカウンセラーと関係教員とで共有し、学生指導に活かした。
- ・月1回の学科会議において、学生に関する情報交換を行い、その内容を教員間で共有した。
- ・オフィスアワーを積極的に活用するように学生に促した。オフィスアワー以外でも、何かあればチューターもしくは自分の話しやすい教員に相談が可能であることを伝えた。
- ・入学式後に保護者も交えた茶話会、4月中旬に学内での宿泊研修および学科交流会、6月中旬にウォークラリー大会、11月中旬に学科運動会を実施し、学生と教員および学生同士の親睦を図りながら学生の状況把握に努めた。
- ・新たな行事については検討した結果、難しかったので、既存の行事の内容や時期を見直して、学生がより参加しやすいような内容および時期を検討し、実施した（特に宿泊研修の内容と学科交流会の開催時期）。
- ・学科戦略会議にて、学生生活のサポートにより役立つ学科行事の時期・内容等について現状の評価および次年度についての検討を行った。

《課題・次年度へ向けて》

- ・問題を抱えた学生を可能な限り早期に発見・対応するために、チューター・学科教員・カウンセラー・保護者・事務職員との連携を図ったサポート体制をさらに充実させる。
- ・よりよい学生生活を送れるようにするために、学科行事の内容の見直しや新たな行事を検討し、実施する。

【退学者防止対策】

- ・チューター時間(1回/月)、ゼミ指導時間(1回/週)を通じ、学生の学業への取組姿勢、出席状況、その他の学生生活状況を把握し、学生の学習意欲、心身面の健康状況をチェックする。
- ・学科行事やゼミ活動等を通じ、異学年の学生や卒業生と交流の場を企画し、各学生が卒業までの過程をイメージした上で、卒業に向けたモチベーションを高く持ち学生生活に臨めるように学習環境を整える。
- ・退学の意向を示す学生に対しては、チューターが個別に抱え込まず、学科教員全体で当該学生の課題解決、退学防止に向けた対策を考え、実施する。

《取り組み状況・実績・成果》

- ・チューター時間(1回/月)、ゼミ指導時間(1回/週)での個別面談によりチューター生の学生生活状況を把握し、学業や人間関係、その他における学生生活をサポートし、大学での生活課題の抱え込み、孤立等を予防し、学生の学習・生活環境を整えた。
- ・学科行事として、3、4年生を企画者とするミニバレー大会(6月)、学科運動会(10月)を開催し、1～4年生の縦の関係を通じた学生間の支援力、自立力を育成すると共に、学生と学科教員間の信頼関係、連携力を深めた。
- ・2年生時のGPAおよび2年次までの習得単位数に基準を設定したことが、1～2年次の卒業に向けた共通の短期目標となり、2年次までに学習目標を見失い将来に悩む学生を減少することができた。
- ・退学や休学の意向を示す学生の悩みや意向を個別面談にてチューター、学科長が聴く場を設け対応すると共に、当該の現況を学科会議(1回/月)で情報共有し、学業、学生生活に課題を抱える学生を学科教員全体でフォローする体制を構築し、学科学生の退学防止に努めた。

《課題・次年度へ向けて》

- ・チューター時間、ゼミ時間等を通じた教員による個別支援の場と共に、大学での学びを活かし参加可能なスポーツ・レクリエーション活動を中心とした学科行事等を通じ、学科生1～4年間の横・縦関係による支援力を育て、学科学生が大学生活と卒業後の将来に希望をもち学業生活に臨む場を構築し、退学者防止に努める。
- ・2年生時のGPAおよび2年次までの習得単位数に設けた基準の意義を学生にわかりやすく説明し、卒業に向けた学生の短期目標として学科学生が学業生活を楽しみながら、将来に希望をもって学業に取り組む環境を整える。

	<p>【学生指導力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チューター制度を活用し、学生の単位取得状況や生活状況を把握し、学生一人ひとりの状況に応じた適切な助言、指導を行う。また必要に応じて保護者や関係者へ連絡を行う。 ・学科教員全体で学生の情報を共有する。 <p>《取り組み状況・実績・成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部において教育力向上のためのFDが行われた。各教員がチューター制度を活用し、学生の出席状況や成績、単位取得状況の確認を行い、必要に応じて指導、支援を行った。 ・進級や資格取得、卒業に係る単位の修得のために、早期に授業の出席状況を確認し、単位取得に向けて早めの対応を心掛けた。 ・毎月行われる学科会議において、学生の状況について情報交換を行い全教員で情報を共有した。チューターだけでなく講義担当教員やその他の教員も把握し、随時適切な支援や助言が行えるよう努めた。 ・各チューターが単位習得状況や出席状況だけでなく様々な学生生活状況を把握し、必要に応じて早期に保護者への連絡を行った。 <p>《課題・次年度へ向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早い段階での出席不振や学業不振、単位習得状況の把握を行い、必要な支援やサポートをさらに行うことによって、留年者や退学者を出さないよう努める。 <p>【社会人としてのマナー対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員から積極的に学生への挨拶を行い、模範を示す。 ・全学科教員が学生生活の様々な場面において、社会人としての態度や発言などのマナーについて必要な指導を行う。 ・学科行事やイベントを通して適切な態度を身につけさせる。 ・学外活動を通して、社会人としてのマナーを自覚させる。 <p>《取り組み状況・実績・成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科全教員が講義やチューター、ゼミ等も含めた様々な場面において、一般的なマナーや社会性を身につけることができるよう働きかけを行った。 ・1年生にはチューター時間を利用してマナー講座を7月に行い、実習やイベント、各種ボランティア活動で必要とされるマナーの修得に努めた。 ・すべての学年が、学科イベント（交流会、スポーツ大会等）やチューター時間、ゼミ活動を通してさまざまな人と関わり、他者に対して自らの考えを発信し、また他者の考えを受け入れ理解するなどの社会で必要とされるコミュニケーション能力を身につける機会を持った。 ・各種学外実習などの実習授業を通して、知識や技術の獲得だけではなく実社会で必要とされる社会人としてのマナーの獲得ができた。また、オープンキャンパスや各種ボランティアへの参加を通して学外のさまざまな人々と関わることができ、社会性を身につける機会となった。 <p>《課題・次年度へ向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も教員が積極的にマナーの規範となるよう取り組む。 ・多くの学生が大学生活において学内外のイベントおよび各種実習などがあることから、講義だけではなく様々な場面において、社会で必要とされるマナーを身につける機会を持つ。また、教員が学生に積極的に関わり、マナー修得を働きかける。 ・学科のイベントを通して、多くの人と関わりマナーについて学ぶ機会にする。また積極的に学外でのボランティア活動への参加を促し、大学以外の社会を体験することで社会性やマナーを学ぶ機会にする。 ・学外実習を通して、必要とされる社会人としてのマナーを身につける。
募集力	<p>【学科入学定員確保のための対策】AP</p> <ul style="list-style-type: none"> ○戦略的な募集活動を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・高校生や在學生に進学に関する調査を行い、戦略的に広報活動を行う。 ・部活動単位での募集活動を行う。 ・女子学生の受験者数を増やす。 ・県別に高校の特徴を把握し、本学科への進学が見込めそうな高校に広報活動を重点的に行う。 ○学内の施設・設備の整備を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ関連施設・設備を整備し、特色ある環境にすることで他大学との差別化を図る。 ・グラウンドやウェイトトレーニング場を段階的かつ継続的に整備し、高校生に魅力ある環境を整える。 ○社会的ニーズに応じた教育力を上げる。 <ul style="list-style-type: none"> ・はり師・きゅう師やアスレティックトレーナー、健康運動指導士、教員免許等資格等の資格取得率を上げる

ため、対策講座や実践的研修を実施する。

- ・地域の要請に応じて、教員が運動指導に出向いたり、アスレティックトレーナーを目指している学生を派遣したりすることで、より活発な交流を図る。

○広報活動

- ・SNSを活用し、学生目線で一般市民へ大学をアピールする。
- ・スポーツ関連の各種大会やイベントに教員やアスレティックトレーナーを目指している学生を派遣し、学科のPRを行う。
- ・在学生が出身高校へ現況報告や実習挨拶を行う機会等を活用し、本学科のPRを行う。
- ・スポーツ関連の各種大会やイベントに教員が赴き、学科のPRを行う。

《取り組み状況・実績・成果》

- ・戦略的な募集活動については以下の通りである。
 - ①教育実習や部活動で母校を訪問し、高校生に進学に際して大学を選ぶ理由を口頭で聞き取りを行った。特にスポーツ系の大学を選ぶ際のポイントについて聞き取りを行った。
 - ②部活動単位での募集に関しては、AT部が高校運動部にトレーナー派遣を行うことや講演会、講習会を行うことで、トレーナー希望の生徒に個別的にアプローチすることができた。サッカー部では高校生を本学学生会館への宿泊、合同練習、練習試合を行うことで、本学の施設や大学の説明を個別的に行った。また、陸上部では延岡市内で行われる陸上競技の合同練習会や合同合宿に積極的に出向き、本学の説明を行った。
 - ③福岡県、鹿児島県内の高校へ学科教員が支局長に帯同し訪問した。
- ・学内の施設・設備の整備については以下の通りである。
 - ①2号棟プレイルームにATルームの機能を持たせた。それによってオープンキャンパスや大学見学会等で施設を有効に活用できるようになった。特に高校生が施設見学をする際に鍼灸の施設と合わせて同時に見学できるようになった。
 - ②グラウンドの天然芝の管理ではサッカー部の学生を中心に水やり、肥料の散布、冬芝の種蒔きを計画的に行い、緑化に努めた。また、芝刈りに関しては学科の教員が行うことで、芝生の生育が促進された。
- ・社会的ニーズに応じた教育力を上げるについては以下の通りである。
 - ①資格取得率向上のために、各資格の担当者が模擬試験や個別に学生対応などの対策講座を行った。教員採用では、初めての現役合格に繋がった。
 - ②ATの学生や教員が積極的に地域や高校に出向き、トレーナーとしてのサポートや講習会を実施した。特に神田助教、佐々木助教がオリンピックや日本代表関連のトレーナーとして競技団体をサポートした。また、学生では全国大会に出場する高校運動部のトレーナーとして帯同した。
 - ③高大連携事業では、正野教授が高校水泳部への指導を継続的に行っている。
 - ④学科の多くの教員がスポーツ関連の外部団体の委員を行うことで先進的なスポーツの関連の情報を得るとともに小中高の競技団体の指導者と交流を行い、本学の広報を行った。
- ・広報活動については、上述した通り、多角的な視点から本学の広報活動を行った。SNSの活用ではAT部サッカー部を中心に行ってきたが、大学HP内の学科ブログの更新回数が十分ではなかった。

《課題・次年度へ向けて》

- ・高校生への進学に関する調査を、学園広報を通じて実施をお願いしたい。特に、本学科に関するスポーツ系への進学において高校生が重要視する点に関する情報を収集、分析し、戦略的に活用したい。
- ・女子の受験生を増やすために、女子生徒が魅力を感じる点について積極的にPRしていく。また、女子教育に関する取り組みを増やしていく（学部・学科単位のみでは難しいので、大学全体として取り組めるよう学内へも働きかける）。
- ・施設の整備では継続的にグラウンドの整備に努める。今年度トレーニングルームのトレッドミルを入れ替えたが、その他のトレーニングマシンも段階的に入れ替えていくよう学生課と協力して行う。
- ・今年度、地域へ教員や学生を積極的に派遣してきたが、次年度も継続して実施するとともに本学の広報活動の一助となるよう学科戦略部会でPRポイントを整理し活用する。
- ・SNSを活用した広報活動では大学案内の冊子とWebでの情報を連動させ、より多くの情報提供を行う必要がある。また、HP上学部トピックス、学科ブログの更新回数を増やすとともに各部活動単位でのSNSを有効活用し、情報公開を行う。

【学科の魅力発信】AP

- ・近隣高校を中心に、出張授業の回数を増やし、学科の魅力を発信していく。
- ・在学生・卒業生が近隣高校へ赴き、学科の魅力を発信する機会を検討する。

《取り組み状況・実績・成果》

- ・近隣高校へのお出張授業に関して、実施することができなかった。
- ・在学生や卒業生が学科の魅力発信を目的に近隣高校へ行く機会は無かった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習生が学科（大学）の看板を背負って実習を行うことは、学科の魅力発信に繋がっている。 <p>《課題・次年度へ向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員、在学生が近隣高校へ赴く回数を増やしていく必要がある ・在学生が学科に魅力を感じ、母校や地元で本学の魅力について発信してもらえるよう、在学生への教育を充実させる必要がある
研究力	<p>【学科教員の研究力アップのための対策】（DP〈4〉CP1〈5〉）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科長が学科教員に対して、年間1本以上の論文作成を促す。 ・学科長が学位（博士号）未取得者に対して学位取得を促す。 ・最新知識および技術を習得するため、関連学会、各種セミナーへの参加を促し、その内容を教育などにフィードバックする。 ・各年度に実施した内容の結果・成果について検討し、年次改善が可能な体制を作る。 <p>《取り組み状況・実績・成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科会議において学科長が教員および学位未取得者に対し論文作成の意義と学位取得の重要性を示した。また今年度開催される関連学会、各種セミナーへの参加を促すアナウンスを行った。さらに学部研究推進部会と共同で、今年度学位（社会福祉学博士）を取得した教員による論文発表会を開催し、学位取得を促した。また今年度の論文等執筆について学科内調査を実施予定した。その結果、著作数、論文数、学会発表（参加）数、科研費応募数など各項目において前年度より増加した。 <p>《課題・次年度へ向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文、学会発表、科研費応募数は増加したが、新たに学位を取得した（あるいは取得予定）教員はいなかったため、学位取得の促しが必要である。 <p>【研究施設のレベルアップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存施設（機器備品を含む）の最大限の活性化および有効活用・共用化促進のために、「研究機器備品一覧」を作成する。 ・各年度に実施した内容の結果・成果について検討し、年次改善が可能な体制を作る。 <p>《取り組み状況・実績・成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究機器備品一覧を作成するためのフォーマット原案を作成した。この原案をもとに次年度から庶務課、会計課と協働で一覧作成に取り掛かる予定である。 <p>《課題・次年度へ向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度はフォーマット作成が主目的であったため、現時点で特に課題はない。 <p>【外部研究資金獲得のための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部研究部門と連携し、外部資金獲得関連FDへ積極的な参加を促す。 ・大学より各教員に配信される外部研究資金研究案内について、学科会議においても周知し、応募を促す。 ・各年度に実施した内容の結果・成果について検討し、年次改善が可能な体制を作る。 <p>《取り組み状況・実績・成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学より配信された外部資金が獲得可能な研究助成について学科会議で周知し、応募を促した。また学部研究部門では前述した通り、学位取得促進FDを開催したため、外部資金獲得関連のFDは開催されなかった。しかし、一昨年、昨年と比して科研費への応募件数は増加した。 <p>《課題・次年度へ向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FDを多数回開催することが日程上困難であったためFDに変わる他の方策を再考する必要がある。
地域連携力	<p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】（DP、CP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の依頼に応じたスポーツや健康に関する講演または講習会等を実施する。 ・地域との協力により、スポーツイベントを実施する。 ・地域の依頼に応じて、スポーツイベント等に学科教員を派遣する。 ・地域課題の解決を目的とし、地域の依頼に応じて、教員・学生による地域のスポーツや健康に関する調査研究を実施し、報告する。 ・地域の依頼に応じて、教員・学生を地域のイベントにボランティアとして派遣する。 <p>《取り組み状況・実績・成果》</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学においてAT関連、東洋医学関連の講演会を実施した。 ・ 延岡市JC、県体育協会等の要請を受け、講演を実施した。 ・ のべおか子どもセンターの依頼により、2回の講話を教員が担当した。 ・ 「ゴールデンゲームズ延岡」と「延岡西日本マラソン」の全国規模の大会、その他地域の大会に教員を派遣。 ・ バドミントンと陸上において宮崎県北部の高校生を対象とした合宿に教員と学生を派遣し、指導を行った。 ・ 木城町プログラムの一環で、教員と学生を派遣し、体力測定や運動教室を実施し、木城町における子どもの体力に関する課題を報告した。 ・ 大学を会場とした「JC杯少年サッカー大会」に教員・学生を審判等で派遣し、大会運営に協力した。 ・ 延岡市の「天下一のべおか中学駅伝大会」に教員・学生をボランティアとして派遣し、トレーナーブースを開設した。 <p>《課題・次年度へ向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学の施設や人材等を活用し、地域と協力したスポーツイベントを企画、実施する。 ・ イベント情報を教員が把握し、より多くの学生にイベント参加を促す。
総合力	<p>公私協力方式で設置された本大学の使命のひとつは、地域へ学生を呼び込み（定員充足率）、建学の理念に基づいて教育し、社会に有為な人材として輩出することで地域社会の発展に寄与することである（各種試験合格率、就職率）。スポーツ健康福祉学科の「教育力」、「募集力」、「研究力」、「地域連携力」を本中期目標・中期計画により向上させ、それらを戦略的・有機的に統合することで、学科の総合力を高め、学生および地域にとって有益な価値を創造し、提供することを目指す（公表論文数、講習会等講師派遣数、地域連携事業数など）。</p> <p>《取り組み状況・実績・成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学科の「教育力」、「募集力」、「研究力」、「地域連携力」を向上させるために、本中期目標・中期計画に基づき様々な取り組みを実施した。 ・ 中でも「地域連携力」の向上に向けた取り組みにおいて、教員や学生がかかわる活動が顕著に増加した。 ・ 「教育力」の向上を目指した取り組みにおいては、システムや施設・設備の改善を進めることができた。 ・ 「募集力」の向上を目指した取り組みにおいては、教育実習や部活動を活用した取り組み、入試広報課と連携した取り組みに進展が見られた。 <p>《課題・次年度へ向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「研究力」についての改善が必要である。 ・ 「教育力」、「研究力」、「地域連携力」の戦略的・有機的な統合により、「募集力」を高める。
3つのポリシーからの総評	<p>ディプロマ・ポリシー（DP）に掲げた目標達成のために、本中期目標・中期計画にて策定した「教育力」「募集力」「研究力」「地域連携力」および「総合力」を高める取り組みを行った。</p> <p>「教育力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生自ら考える力のアップへの対策（DP4）では、卒業論文発表会への2年生の参加をゼミ選択のため必修とした。また、1年生には任意での参加を促したところ、ほぼ全員が参加した。発表会への参加は、卒業研究への動機づけや意識づけにつながり、学生自身の取り組みたい内容が、どのゼミで実現可能か考える機会を提供できた。3年生による会の運営もスムーズに行えるようになってきた（CP1<5>）。第1期の中期目標・中期計画で作成した卒業研究総合評価表（ルーブリック）を用いた評価も円滑に実施できるようになった（CP3<11>）。 ・ 基礎国語力増進を図るために e-learning を活用したリメディアル教育を実施し、全員が課題を達成した。確認テストではほとんどの学生（96.6%）に得点の向上が認められ、国語統一試験の点数も向上した（CP1<1>）。 ・ 専門的知識・技能の活用力向上（DP3）を目指し、社会福祉士国家試験対策では、模擬試験の成績評価を踏まえた個別指導の充実を図った。今年度は全国有料模擬試験結果で1位の学生もでて、学生同士の勉強会の機運も高まった（CP2<8>）。次年度も同様にロードマップを作成し、時事福祉学において段階的な学習を進めていく。特に、苦手科目の分析を行い、克服策を検討し、指導の充実を図る。2、3年生については、自主勉強会を企画して前・後期で計18回の模擬試験を実施した。今年度新たな取り組みとして科目担当教員による解説時間を設定したが、後半になるにつれて参加者が減少したことから、継続的な学習支援が課題である。はり師・きゆう師国家試験対策では、国家試験対策を講義外でも積極的に行い、担当教員で学生の学力に合わせた個別フォローを行った。特に、1、2年次の基礎科目や臨床医学系の科目を中心に対策を行った（CP2<8>）。新カリキュラムに対応するため、さらに国家試験対策に力を入れる必要がある。特に4年生前期の国家試験対策について、担当教員間で協議を行い、新たなロードマップを策定する。 ・ 学科教員の教育力アップの対策（CP1、CP2）では、研究に関する倫理講義が学科長よりゼミ担当教員

	<p>および学生に対して行われた。これによりゼミ担当教員の卒業論文作成時における倫理教育の指針が得られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職率アップへの対策（DP）については、キャリアサポートセンターとの協力により例年通り順調に推移している。しかし、キャリアサポートセンターの利用が少ない学生は、就職の進捗状況が把握しづらい状況になるため、チューターとキャリアサポートセンターとの情報共有を行う必要がある。 <p>「募集力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科入学定員確保および学科の魅力発信のための対策（AP）では、教育実習や部活動を活用した取り組み、入試広報課と連携した取り組みに進展が見られた。これらの活動を今後の学生募集に如何にして繋げていくかが課題である。 <p>「研究力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科教員の研究力アップのための対策（DP〈4〉CP1〈5〉）は、カリキュラム・ポリシーを実践するための基礎となるものである。論文、学会発表、科研費応募数は増加したが、新たに学位を取得した（あるいは取得予定）教員はいなかった。また、ここ数年業績のみられない教員がおり、研究活動の促進が依然として課題である。 <p>「地域連携力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科教員の地域連携力アップのための対策は、本学科のディプロマ・ポリシーとして挙げた力を学生に身につけさせるためにカリキュラム・ポリシーを実践するのに重要な要素となるものである。本年度は、教員や学生がかかわる活動が顕著に増加した。学生にとって有益な活動となるように、さらなる改善を図る。 <p>「総合力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科の「教育力」、「募集力」、「研究力」、「地域連携力」を向上させるために、様々な取り組みを実施したが、「総合力」を高めるためにはまだ不十分である。次年度も本中期目標・中期計画に基づき改善を図っていく。
<p>次年度への展望 (まとめ)</p>	<p>第2期中期目標・中期計画の実施初年度では、複数の取り組みによって教育体制の充実を図ることができ、学生の声に応えるいくつかの支援が実施された。しかし、まだ十分であるとは言い難く、時代の変化に伴うニーズの変化に対応できるように、教員個々が考えを新たに、学科のさまざまな体制を改革させていかなければならない。現状は、新設された他大学のスポーツ系学部・学科の影響を受け、2年続けて定員を確保できていない。次年度は、本学科へ進学したいという高校生に対する魅力づくりと、それらを広報する策についてさらに検討を重ね、可能なものから実施していく。</p> <p>本学科では、関連する複数の資格を目指せるようにカリキュラムが構成されているが、最終的に国家試験および認定試験をクリアしなければ資格を得ることができない。したがって、それぞれに合ったロードマップの作成やそれらを学科全教員が共通認識を持って理解した上で学生の指導にあたるように、改善策を講じていく。</p> <p>実施初年度の実施・評価結果を次年度に活かし、さらなる学生生活の充実を図り、満足度を高めることを目指し、計画を遂行していく。</p>

九州保健福祉大学 社会福祉学部 臨床福祉学科

2019年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>九保大だから学べる「人の生き方を支える幸せ」をプロデュースできる能力を身につけた人材を輩出する。</p>
<p>学科からの メッセージ</p>	<p>臨床福祉学科の教育には、誰もが自分らしさを発揮し安心して暮らせる社会の実現を目指して、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士を育成する「臨床福祉」と、カウンセリングの専門性を有する心理・福祉の専門職を育成する「臨床心理」の2つの専攻がある。現在社会では、悩みや問題を抱える方の生活を支える福祉学と心を支える心理学の専門的な知識と技術を備えた人材がますます必要となっている。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、専門知識に加えて人々の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を涵養する。</p>
<p>教育力 (ブランド力)</p> <p>「学修成果の可視化」の観点を含む</p>	<p>【学生自ら考える力のアップへの対策】DP(6) (7), CP(1-7) (2-1) (3-3) ■卒業研究評価用ルーブリックの導入の検討を進め、学科共通および専攻ごとの試案を作成し、試案に基づいた卒業研究指導のあり方を学科で共有したうえで指導を実践し、学生が自ら学ぶ力を十分に引き出すことのできる卒業研究発表会の実現を目指す。 ■全ての講義において学科教育力を向上させるアクティブラーニングの導入を目指す。</p> <p>・卒業研究評価用のルーブリックの導入を検討する。アクティブラーニング実施科目における現状と課題の分析を行う。 その結果をもとに、導入可能なルーブリックの試案を作成し、卒業研究指導のあり方について学科で共通理解を行い実践し、最終的にはルーブリックに基づいた卒業研究発表会を開催する。 また、アクティブラーニング実施科目について拡大するとともに根幹をなすスモールグループディスカッションの効果的な実施方法について検討・評価・改善を並行して行う。</p> <p>【2019年度の取り組み状況】 ・卒業研究評価用ルーブリックの導入を検討進めたが、学科共通および専攻ごとの試案作成までは至らなかったが、専攻ごとの卒業研究発表会の実施を実現した。 ・全ての講義での全面的なアクティブラーニングの導入には至らなかったが、個別の講義においてはアクティブラーニングの導入が進んだ。</p> <p>【次年度の課題】 ・卒業研究における学生の自ら考える力とは何かについて学科教員間においてさらなる共通理解を深めながら卒業研究評価用ルーブリックの試案作成を目指す。 ・アクティブラーニングを導入した講義における学習効果について検討を行い、さらなるアクティブラーニングの効果的な導入を検討する。</p> <p>【基礎国語力増進への対策】DP(3) (4) (5) (6), CP(3) (8) ■基礎演習および e-learning を活用した国語力増進プログラムを構築し、文章力・読解力の基礎を身につけ、専門書の内容理解やレポート報告書の作成、卒業論文の執筆ができるようにする。同時に論理的思考を身につける。</p> <p>・中期計画第1期では学生自身が積極的に e-learning による学習を進めることができなかった。初年度は学生が自発的に取り組む学習プログラムを再検討し試行し、計画的に検証し改善を行い、学習プログラムならびに学習効果の測定方法を構築する。</p> <p>【2019年度の取り組み状況】 ・学生ごとの文章力と読解力のレベルを確認テストにより評価し、それぞれのレベルに合わせた学習プログラムを作成した ・また、それぞれの学習の到達目標を示し、学習への動機づけを図った</p> <p>【次年度の課題】 ・半期(5-7月、10-1月)単位での学習プログラムを構成したが、学期末直前の駆け込み学習が</p>

見られた

・再度、学習プログラムを検討するとともに、学期を通じた継続学習に取り組ませる工夫を検討する。

【国語以外のリメディアル教育への対策】DP(6), CP(3)(8)

■統計や社会調査等のデータの取り扱いに際し必要となる数学的知識や操作スキルの習得プログラムの作成と導入方法の検討ならびに実施(福祉専攻)

【2019年度の取り組み状況】

・文章力・読解力の育成に精力を傾けざるを得なかった状況であったため、統計や社会調査等のデータの取り扱いに際し必要となる数学的知識や操作スキル習得の指導にはほとんど着手できなかった。

【次年度の課題】

・基礎演習の指導プログラムを再調整し、統計や社会調査等のデータの取り扱いに関する基礎能力も育成できるよう取り組む。

■大学院進学希望者への受験対策として高校英語の再学習の機会を設け、語学力の増進を図る(心理専攻)

【2019年度の取り組み状況】

・2年生1名、3年生4名、4年生2名に対して個別の英語学習を行った。今年度の参加の4年生2人は国内の大学院私学希望ではなく、海外の大学院進学に向けて準備をしている。3年生、2年生の参加者に関しては、国内の大学進学を希望している。

【次年度の課題】

・心理学系大学院への希望者だけでなく、留学希望者も増えてきているため、海外への大学院進学対策も行う必要がある。

【国家試験合格率アップへの対策】DP(3), CP(5)(6)(7)

■臨床福祉学科において社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の国家資格に関する知識、技術、価値を修得し、資格取得を目指すすべての学生が確実に国家試験に合格する。

・学部共通科目である時事福祉学への受講を促す。

・2年次から国家試験対策学習支援を実施する。

・社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の国家試験合格率アップのためのロードマップを作成する。

・1年次から資格関連科目授業において、資格取得の意義・意識づけを行う。

・計画的に国家試験結果を振り返り、時事福祉学での国家試験対策の検討・評価・改善を行う。また、年度初めに模擬試験を実施し、2年次からの国家試験対策学習支援の成果を評価し、学習支援の方法を検討する。

【2019年度の取り組み状況】

<社会福祉士国家試験対策>

・学部共通科目の時事福祉学では、受験予定者26名が17回の模擬試験(内有料模擬試験4回)を受け、その成績評価を踏まえ、個別指導を充実した。今年度は全国有料模擬試験結果で第1位の学生もおり、学生同士の勉強会の機運も高まった。

・本試験終了後にマークシートの提出を求め、受験者26名中22名(84.6%)から提出された。

・2年3年については、自主勉強会を企画し前期8回、後期10回の計18回の模擬試験を実施した。今年度新たな取り組みとして科目担当教員による解説時間を設定した。希望者は前期58名、後期52名であった。ただし、後半になるにつれて参加者が減少したことから、継続的な学習支援が課題である。

・大学休業期間中は演習室を開放し、自主的な学習環境を整えた。

<精神保健福祉士国家試験対策>

・社会福祉士同様、時事福祉学で17回の模擬試験(内有料模擬試験3回)を実施し、その成績評

価を踏まえ個別指導を行った。また、精神保健福祉士のみ受験の学生には、社会福祉士専門科目(相談援助・高齢者・就労支援・更生保護)の模擬問題も実施し、基礎力の強化を図った。

・試験対策ではグループによる試験勉強を行うとともに、受験者9名が協力し勉強に取り組めるよう、学習面だけでなく精神的側面、心理的側面に対しても働きかけを行った。

・社会福祉士同様、冬休みの大学休業期間中も演習室を開放し、自主的な学習環境を整えた。

＜介護福祉士国家試験対策＞

・1年次より、終了した科目ごと課題を実施した。また、夏季・冬季・春季の休業時期にも課題を実施した。

・4年生は模擬試験を8回と科目ごとの試験対策を実施した。成績が振るわない学生には、追加模試を実施した。

・最初から正誤は教えず、一から自分で調べ解答を書くよう指導していた。解答内容を教員が確認し、調べ方ができていない学生に対しては、調べ方や勉強の方法などを指導した。

【次年度の課題】

＜社会福祉士国家試験対策＞

・本年度同様にロードマップを作成し、時事福祉学において段階的な学習を進めていく。特に、苦手科目の分析を行い、克服策を検討し、指導を充実していくことが求められる。

・2年3年生の自主勉強会では、継続的な学習に取り組むための実施方法を検討する必要がある。

＜精神保健福祉士国家試験対策＞

・本年度同様にロードマップを作成し、時事福祉学において段階的な学習を進めていく。

・4年次夏季に実施される病院実習での学びを国家試験勉強につなげるために、専門科目に関する国家試験の出題傾向を前期に掴めるよう指導する。

・4年次は、病院実習、卒業論文作成、就職活動などストレスの多い時間となるので、前向きに課題に取り組めるように、必要に応じて精神的・心理的側面の支援を行う。

＜介護福祉士国家試験対策＞

・不得意科目や間違えやすい問題の傾向などを分析し、個別に対応していく必要がある。

・すぐに「解答を下さい」と学習に対し受動的な学生が多い傾向がある。学習の方法など1年次からの指導・対策が必要である。

【学科教員の教育力アップの対策】CP

■「学習成果の可視化」に向けた授業改善の仕組みの導入

・学部FDの積極的参加を促す。

・「学修成果の可視化」に向けた教員相互による授業改善の仕組みの検討・評価・改善を行う。

【2019年度の取り組み状況】

・教員に対して学部FDへの参加を促した。

【次年度の課題】

・「学習成果の可視化」に向けて、2019年度が具体的な取り組みを十分に進めることができなかった。2020年度は、学科教員間で連携し、教員相互による授業改善の仕組みの具体化に向けて、検討・評価・改善を試みる。

【教育施設のレベルアップのための対策】DP(3)(6)(7)、CP(6)(8)

■学生の学習場所を整備する。具体的には、4年間で学生が利用しやすい環境を作るため、学習資料やPC等の学習ツールを順次、設置する。

・学生の学習場所として4・5階の演習室を開放し、国家試験対策や単位認定試験対策等の学習の利用を促し、利用状況を確認する。

・演習室について修繕する物品(いす・机等)があれば、各演習室に関する窓口を設け、対応する。

- ・学生の学習場所(4・5階演習室)の利用状況を把握し、必要な設備を調査する。
- ・学生の学習場所(4・5階演習室)で学生が使用できる学習資料や学習ツール(インターネットが使えるPC等)を充実させる。

【2019年度の取り組み状況】

- ・学生の学習場所として演習室を開放し、5階の演習室にはパソコンとプリンターを自由に利用できるように設置し、ゼミ活動や自己学習等での利用を促している。
- ・使用状況は主に4年生が国家試験対策やゼミ活動で授業の空き時間に使用している状況である。また、3年生も授業課題を行うため、空き時間にパソコンを利用している状況である。

【次年度の課題】

- ・学生の学習場所として4・5階の演習室を開放し、国家試験対策や単位認定試験対策・ゼミ活動等の学習の利用を促し、利用状況を確認する。
- ・演習室について修繕する物品(いす・机等)があれば、各演習室に関する窓口を設け、対応する。
- ・学生の学習場所(4・5階演習室)の利用状況を把握し、必要な設備を調査する。
- ・学生の学習場所(4・5階演習室)で学生が使用できる学習資料や学習ツール(インターネットが使えるPC等)を充実させる。

【就職率アップへの対策】DP, CP(11)

■就職率100%を達成するため、教員間の連携の下、学生の個性や多様性を尊重したニーズに添った就職支援を推進する。また、推進にあたっては、地域社会や福祉現場、保護者、関係機関・団体等との連携を強化し、人材ニーズ把握に努めるとともに、キャリア教育、就職支援体制の充実強化に努める。

- ・キャリアサポートセンターとの連携による支援体制の強化に向けた取組を行う。
- ・学生に対し、キャリアサポートセンターの積極的な活用を促すとともに、就職先情報を共有し個別指導に活かす。
- ・インターンシップへの積極的な参加を促す。
- ・就職面談会(本学、他機関実施)の情報把握と学生への参加を促す。

【2019年度の取り組み状況】

- ・キャリアサポートセンターとの連携を図り、就活状況などの情報把握に努めるとともに学科内への情報提供に取り組んだ。
- ・キャリアサポートセンターについて、学生へ活用を促すとともに、就職先の情報把握に努め、適宜情報の提供を行った。
- ・インターンシップについては、2名がフェニックス自然動物園、黒瀬水産で行っている。
- ・7月本学開催の就職面談会には学科教員が積極的に出席し、学生の面談状況を確認したり、事業所選定の助言を行ったり、面談会の運営を支援した。
- ・臨床福祉学科の前年度の就職率は国家試験終了以降の年度末にかけて上がるので、昨年度同様の数値は期待できる。なお、キャリアサポートセンターへ進路確定の状況報告を行うよう指導している。

【次年度の課題】

- ・キャリアサポートセンターと教員間の就職情報や就活状況について、さらに密な情報共有化について強化する必要がある。
- ・4年生が国家試験終了後、就職活動や国家試験の取組について在学生の疑問や不安について学生同士で情報交換をする機会を設ける必要がある。
- ・3年生への就活への心構えや取組方法について、キャリアサポートセンターと連携して、早期に対応する必要がある。

【学生生活サポート対策】

■学生の悩みを早期発見できる支援体制の構築。

- ・オフィスアワーだけではなく、相談やコミュニケーションがとりやすい環境を作る。
- ・チューターも含めた複数の教員で学生に寄り添い、不安や困りごとに対応する。
- ・学生の相談内容について、場合によっては学生課や学科で情報を共有し、安心・安全な生活を支援する体制を構築する。
- ・個々の取り組みについて検証するため、学科会において個々の教員がどのような工夫や支援を行ったか、また、学生がどのような生活課題を抱えているのかを共有し振り返りを行い、内容によっては教員だけではなく、専門職(カウンセリング・学生課等)と連携を図るシステムを構築する。

【2019年度の取り組み状況】

- ・学科会議で気になる学生について報告し情報の共有を図った。また講義中の学生の心身状況について、気になったり異変があったりする場合はその都度、チューターに報告した。
- ・大学全体で「多様な学生」についての支援方法を今後どのように行うべきかの第1回会議が開催された。明確な方向性は打ち出されなかったものの各学科での状況を知ることができた。
- ・学科全教員の研究室のドアにオフィスアワーの時間帯を明記しているため、学生が相談をしやすい環境になったと考える。
- ・新入生が早期に大学の雰囲気になれるよう、今年も在学生が主体となって教員も含め親睦会を開催した。

【次年度の課題】

- ・学内での状況を教員が常に観察し些細なことでも何かあればチューターと連携を図り学生を支援することが必要である。しかし次年度より改組の為、心理の2年生から4年生についての情報が今までどおり共有されない可能性が生じてくるため、この点を検証する必要がある。
- ・入学性が減少しているなか、これをチャンスと捉え新歓では横の繋がりだけではなく縦の繋がりを今まで以上に太いパイプができるよう新歓の内容について検討することが必要である。

【中途退学者防止対策】CP(1)(5)(6)

■中途退学者ゼロに向けた支援体制の構築。

- ・連続欠席者に対して、チューターや授業担当者を中心に早期対応を行う。
- ・連続欠席者について、教員間で情報を共有し、早期対応を行う体制を構築する。
- ・転学科してきた学生に対して、チューターや授業担当者を中心に早期対応を行う。
- ・転学科してきた学生について、教員間で情報を共有し、早期対応を行う体制を構築する。
- ・中途退学の学生の原因を分析し、対応策を検討する。
- ・中途退学防止に有効であったと考えられる支援を教員間で共有する。

【2019年度の取り組み状況】

- ・今年度の臨床福祉学科の退学者は3名(福2名、心1名)であった。
- ・気になる学生については学科会議で報告され、教員間での情報共有が行われた。またチューターや科目担当者を中心に早期対応が行われた。
- ・転学科してきた学生に対しては、チューターを中心に年度当初の時間割作成をはじめ積極的かつ丁寧な指導を行った。今年度に転学科してきた学生では中途退学者はいなかった。

【次年度の課題】

- ・学生の抱える問題は多岐にわたり、学内で早期発見しても解決への対応が難しいことが増えてきた。そのため、来年度には、中途退学の原因を中心に学生の抱える問題について整理する必要がある。また、これまでにを行った退学防止の支援をふまえ、有効な対応策について十分な検討が必要である。

【社会人としてのマナー対策】

■学科教員から学生に積極的な挨拶をする運動を推進する。

- 各チューターやゼミ担当教員が、マナーについて学生の心構えについて確認し、大学生の生活の様々な場面で、社会が求めるマナーが身につくように必要な指導を実施する。

- ・教員から学生へ積極的なあいさつ運動を実施し、チューター・ゼミ担当教員が普段から細やか

	<p>な指導を行い、学生にどの程度のマナーが身についているかを教員間で確認する。初年度の施行の結果を基に、取り組みを検証したうえで、指導計画に修正を加え、試行を重ね、指導体制のさらなる充実を図る。</p> <p>【2019年度の取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科の全教員が講義前後で挨拶を行うなど、メリハリのある授業態度を身につけるよう指導を実施した。また講義以外での日常生活においても教員から積極的に挨拶や声掛けを行い、社会性を身につけることができるよう働きかけを行った。 ・特に1年生にはチューター時間や基礎演習の時間を利用して声掛けを行い、今後行われる実習等で必要とされるマナーの修得に努めた。 <p>【次年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も様々な側面において、教員が積極的にマナーの規範となるよう取り組む。 教員が学生に積極的に関わりマナー修得に働きかける。 ・学科のイベントなどを通して、多くの人と関わりマナーについて学ぶ機会にする。また積極的に学外でのボランティア活動への参加を促し、大学以外の社会を体験することで社会性やマナーを学ぶ機会にする。 ・学外実習(社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士)を通して、将来必要とされる社会人としてのマナーを身につける。
募集力	<p>【学科入学定員確保のための対策】AP</p> <p>■入試広報、教員との連携を進めて広報活動を活発にする。高校訪問、出前講座等を活用して社会福祉に興味関心を向けてもらえるよう働きかけ、指定校・推薦入試を中心に早期の入学希望者の増加につなげる。</p> <p>また、在学生の満足度の向上を目指し、退学を防止するとともに学生自らが本学科の魅力を発信したくなるような学科を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学科の教育理念、方針(社会福祉の必要性を基礎に)についてわかりやすく説明できるチラシ等の作成を行う。 ・入学者に対する入学動機、傾向を調査し結果を広報活動にいかす。 ・入試広報室と定期的に情報交換会を設け、広報活動のあり方を協議する。 ・在学生や卒業生が活躍している様子を出身校に伝える。 ・高校訪問、出張講義等を積極的に行い、本学科をアピールする。 <p>【2019年度の取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集用の新たなチラシの検討、作成を行った。 ・入学者にアンケート調査を実施して入学動機、傾向の把握を行った。 ・在学生から出身校に向けての手紙を送付した。 ・高校訪問、出張講義等積極的に参加した。 <p>【次年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学定員確保にまでは至っていないため、引き続き対策を検討して実施する。 <p>【学科の魅力発信】 AP</p> <p>■大学生生活の魅力も含め、臨床福祉学科で学べることを多世代にわかりやすく伝える。宮崎県で唯一、専門的に社会福祉・心理が学べる大学として、宮崎県の社会福祉を支えてきた実績や、本学科の卒業生の幅広い活躍を発信する。また、本学科に在籍するからこそ経験できることも積極的に発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家資格取得状況についてチラシ、ホームページ等を活用して発信する。 ・ホームページのブログを活用して、学科の近況をアップする。 ・保護者通信で在学生の様子や学科の取り組みを紹介する。 ・オープンキャンパスについて今までの内容を検証し、変更点も含めて検討する。 <p>【2019年度の取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科での取り組みや、国家試験対策等ホームページにて掲載した。 ・定期的なブログの更新を行った。 ・定期的な保護者通信の作成、発送を行った。

	<p>・オープンキャンパスに新たなプログラムを追加して実施した。</p> <p>【次年度の課題】</p> <p>・臨床福祉専攻のアピールについて再度検討が必要である。</p> <p>・ホームページ、ブログの充実を図る。</p>
研究力	<p>【学科教員の研究力アップのための対策】DP(4) (6) (7) ,CP(8)</p> <p>■教員の研究力のレベルアップを図り、学術論文の数を増やす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科教員間で研究力アップの仕組みを検討する。 ・研究力アップの仕組みを充実させ、研修等で周知する。 ・学術雑誌への積極的な投稿を促す。 <p>【2019年度の取り組み状況】</p> <p>・臨床福祉学科の教員3人でワーキンググループを立ち上げ、研究力アップの仕組みを検討した。</p> <p>・ワーキンググループから、教員に対して査読付き論文である最新社会福祉学研究への積極的な投稿を促した。</p> <p>【次年度の課題】</p> <p>・最新社会福祉学研究への投稿数をさらに上げるため、より積極的な投稿を促していく方法を検討していく必要がある。</p> <p>【研究施設のレベルアップのための対策】DP(1) (3) (7) ,CP(8)</p> <p>■研究に必要な施設の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な研究設備の調査。 ・研究施設充実のための資金調達の検討。 ・必要な教育研究整備を行う。 <p>【2019年度の取り組み状況】</p> <p>・ワーキンググループで必要な研究施設の調査、資金調達の方法について検討した。</p> <p>【次年度の課題】</p> <p>・次年度も研究施設についての調査がすすめられるが、資金調達に関しては外部資金等の活用等も関わってくる課題でもあり、教員の研究内容を考慮しながら、さらに詳細に検討を進め行く必要がある。</p> <p>【外部研究資金獲得のための対策】DP(1) (6) (7) ,CP(8)</p> <p>■科研費申請の増加を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部資金獲得に関する研修・FD等への参加を積極的に促す。 ・研修等で得た知識を活かして外部資金を獲得するための対策を立てる。 ・科研費や外部資金への積極的な申請を促す。 <p>【2019年度の取り組み状況】</p> <p>・外部資金獲得のための研究計画の書き方等を検討した。</p> <p>・ワーキンググループから、外部資金獲得に関する研修・FD等への参加を積極的に促した。</p> <p>・社会福祉学科から5件の科研申請があった。</p> <p>【次年度の課題】</p> <p>・外部資金獲得に対する研修・FD等のさらなる参加を学科教員に促す。</p> <p>・科研費申請の件数をアップさせるための方策を検討する。</p>
地域連携力	<p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <p>■学科教員の専門知識・技術を地域に提供する機会を増やすとともに、地域との連携・協働事業を推進し、地域の活性化、地域課題の解決、生涯学習等に寄与できる教員の地域連携力をアップする。また、学生への教育力にも波及させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員と自治体・関係機関・団体・学校との連携活動状況(連携協働事業、教員の専門知識・技術、研究成果の提供状況)を把握し、状況を教員間で共有するとともに、その成果を検証・分析し、連携関係の強化を図る ・教員に期待される地域のニーズ・期待度を把握する(自治体・関係機関等) ・連携推進に係る検討チームを設置し、地域の要請に応えられる相談窓口を検討する。 ・地域連携推進事業成果報告会を開催し、今後の方向性を検討する <p>【2019年度の取り組み状況】</p> <p>・自治体や関係機関との連携事業が推進されている。例として、延岡市委託によるJKC事業、木城</p>

	<p>町との連携事業、延岡市社会福祉協議会との協働による災害ボランティアセンター設置運営訓練等にて教員や学生の参画により実施されている。大学ホームページにて社会貢献に関する活動状況を公開している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自治体や関係機関からの各種審議会、委員会委員を積極的に担い、地域のニーズに応じて役割を果たしながら、地域連携を推進してきた。 ・次年度の県事業の実施に向けたワーキングチームを編成して検討を行った。 <p>【次年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの連携活動状況について、教員間で共有する機会をつくり、さらなる連携力アップに向けた検討が必要である。 ・連携推進に係る検討チームを編成し、学科教員の総力で地域連携力を高めていくことが求められる。
<p>総合力</p>	<p>【総合力】DP</p> <p>■臨床福祉学科の強みでもある、学生に寄り添った丁寧な指導・対応、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・公認心理師の国家資格、高校の教職(福祉)・認定心理士など多様な資格の養成、就職率 100%、これらをさらに充実させ、「福祉」や「心理」の専門職として社会に有用な人材が輩出できるよう教員一丸となって、教育・指導に取り組む。また、研究活動、地域貢献(学生を含めた地域活動を含む)を推進し、魅力ある学科づくりを目指す。臨床福祉学科の強みを基に、学生募集 PR を積極的に取り組み、入学定員充足率 100%を目指す。</p> <p>【2019 年度の取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科会議を定例化し事前に会議内容等を送信し、効率化・充実化を図った。学生に関することは学科内で共有し、該当する教員への指導の依頼を行った。平成 31 年度、12名の転学部・転学科生と1名の編入学生がいるが、教員の学生に寄り添った丁寧な指導により、退学者は現在3名である。また、各国家資格の受験対策は、ロードマップを作成しいままでの取り組みを継続・強化している。入学定員の充足に関しては、今年度の取り組みとして、職能団体(社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員等)の協力を得て、会員宛ての文書に学科のチラシを同封した。 <p>【次年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学定員の確保に向け、更なる取り組み(仕掛け)が必要である。また、臨床心理学部が新設し心理専攻の教員は2つの学科に所属するため学科教員の連携のあり方を考えていく必要がある。 ・「福祉」「心理」は、今の日本にとって必要不可欠な分野であることの魅力発信活動を展開する必要がある。
<p>3つのポリシーからの総評</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学科のディプロマポリシー(DP)を具現化するために、個々のカリキュラムポリシー(CP)の実践に取り組んだ。卒業研究は学科の DP(3,6)に掲げる実践力、研究力を養う重要な過程である。ゼミ内、専攻で発表会を実施した。3年生は全員参加とし来年度に向けての意識を高めさせた。ルーブリック評価に関しては試案作成までには至らなかった。 ・リメディリア教育(DP3,4,5,6, CP3,8)に関しては、文章力・読解力に力を入れざるおう得なかったため、数学的知識等の習得の指導には着手できなかった。心理学の大学院進学希望者への受験対策として語学力(英語)の学習を行った。 ・国家試験合格率のアップ(DP3,CP5,6,7)に関しては、各資格ともロードマップを作成し取り組んだ。今年度の結果は未発表ではあるが、介護 100%、社福と精神は合格点が何点に設定されるかによって左右されるが、昨年以上の合格者が期待されている。 ・学生の学習の場(国家試験の勉強、ゼミ活動、自主学習等)として、演習室の整備やパソコン等、学習資料を少しずつではあるが、充実しつつある。(DP3,6,7,CP6,8) ・就職率アップへの対応(DP,CP11)に関しては、キャリアサポートセンターと連携を図り、就活情報を学科内で共有することができた。 ・学生への支援(CP1,5,6)では、在学生が主体となって、新入生・教員との親睦会を学科全体で開催した。また、学科会議で気になる学生について報告し教員間で情報の共有を図った。当学科は、今年度 12 名の転学部転学科生がいるが、教員の丁寧な指導により中途退学者はいなかったが、学科全体で3名の退学者がいた。 ・募集力(AP)に関しては、今年度の取り組みとして社会福祉協議会に依頼し、福祉の職能団体へ学科のチラシ(オープンキャンパス等)を送付したが、成果が出ていない。来年度より臨床心理学部が新設されることにより臨床福祉学科(現. 臨床福祉専攻)の定員確保が厳しい状況ではあるが、ミニオープンキャンパスの開催(3/8. 22)、来年度より小学校教諭免許取得(吉備国際大学通信制度利用)の PR をすること等、教員の意識が高まっている。

	<p>・地域連系力に関しては、JKC 事業や災害ボランティアセンター(延岡市委託)をはじめ、木城町との連携事業等を学生も参加し実施している。また、各自治体や関係機関からの各種審査会、委員会委員を積極的に担い、地域連携を推進している。</p>
<p>次年度への展望 (まとめ)</p>	<p>本学科は、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士、公認心理士・認定心理士、高校教諭(福祉)と複数の資格が取得できるようカリキュラムが構成されている。入学してくる学生が、「なりたい自分」になれるよう国家試験合格を目指し学科教員が一丸となって今後も教育や学生指導に取り組んでいきたい。</p> <p>社会に有用な福祉職の育成を行うため、国語力を含む基礎学力教育への強化、アクティブラーニングの導入を試みているが、学生は単位取得のための学習で受動的な学習状況である。入学時より学生が能動的にそして専門性を深めるような学習ができるように、学生への意識づけ、授業の改善をしていく必要がある。</p> <p>また、本学科は学生に寄り添った丁寧な対応、学生の満足度の向上に力を入れている。本学科の特徴として転学部転学科生が多いことから、これらの学生も含め今後も個々の学生に合わせた丁寧な指導を心がけていく。</p> <p>これだけ世の中で福祉のニーズが高まっているが、入学者が増加しない。入学生の保護者が福祉関係に就労していることもあり、今年度は、新たなPRの場として福祉系の職能団体の会員へオープンキャンパスや学科のチラシを配布したが、成果が表れていない。危機意識を持って、新たな「仕掛け」を検討することとしたい。</p> <p>来年度より臨床心理学部が新設され、臨床心理専攻の教員が2つの学部・学科に所属することになる。情報共有を強化し、更なる教員の連携を図っていく。</p>

九州保健福祉大学 保健科学部 作業療法学科

2019年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>九保大だから学べる「たとえ障害があったとしても自分らしく生きていくことの幸せ」をプロデュースできる能力を身につける</p>
<p>学科からの メッセージ</p>	<p>作業療法学科の教育目標は、作業療法士国家試験合格のもと先にあります。少子高齢化に伴う介護の問題、うつ病による自殺、障害者の雇用問題など、単に病気や障害への対応だけでは自分らしく生きていく事が難しいほど、生活困難の様が多様化しています。作業療法は健康面の問題でどのような状況に置かれても、常に心と身体のバランスに目を向け、その人らしく生きていく事を医療・福祉の側面から支えています。本学では、入学後の医学の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、患者さんに対し「病気や障害がある人も自分らしく輝いて生きていくこと」の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につけることができます。</p>
<p>教育力 (ブランド力)</p> <p>「学修成果の可視化」の観点を含む</p>	<p>(R1) 【学生自ら考える力のアップへの対策】DP ・演習系座学系を問わず、ほとんどの科目でアクティブラーニングが用いられて授業遂行がなされているが、教員によってその手法はまちまちである。今後は、各教員の手法の共有化を行い改善点の抽出および手法の向上を図る。 ・各年次に実施される学外実習にてルーブリック評価表を使用し、実習遂行結果を学生に提示する。 <取り組み状況と次年度への課題> 全学年のルーブリック評価が完成し、現在使用している。今後はその活用を検討する。厚労省が推奨する臨床参加型実習（CCS）への移行を受けて対応する。</p> <p>【基礎国語力増進への対策】AP(2) ・キャリア教育や作業療法概論およびホームルームなどで当日学んだことを作文する時間を設け、書く力、まとめる力、読み解く力を養う。 ・国語の e-learning 結果を学生に提示する。 <取り組み状況と次年度への課題> HR などでの作文時間の確保、実習セミナーなどでの作文レポート課題の創案などを行なっている。次年度からは募集停止を受けてすらは実施しない。</p> <p>【国語以外のリメディアル教育への対策】AP(1)(5) ・既存のリメディアル教育内容の検証を行う。 ・高校まで勉強経験のなかった学生が多く存在する。そのため教科書の読み方、ノートの取り方、勉強の仕方など勉強の仕方をいちから教える。 <取り組み状況と次年度への課題> リメディアル検証は募集停止を受けて実施しない。学科内リメディアルは学習の仕方などのガイダンスを編集して配布し、授業に応用させる。</p> <p>【国家試験合格率アップへの対策】CP(1～3) ・1年次から主体的に学習する機会の提供（放課後自主学習）を行い、同時に国家試験に必要な基礎科目(解剖学、生理学、運動学)を中心とした学習内容を行っていく。 ・各年次の特性（基礎学力が低い、全体的に意欲が低いなど）を勘案した学習方法を担当チューターが中心となって学科全体で話し合いながら国家試験対策を考えていく。 ・国家試験模試の結果を粗点グラフ、席次などで可視化した総合成績表を配布する。 ・規則正しい生活を常に指導する。 ・成績の振るわない学生に対して特別指導を行う。 <取り組み状況と次年度への課題> 放課後自習学習、成績の振るわない学生に対する特別指導など、すべてを実施した。また、模擬試験を1回増やし11回とした。ただし、4年生の国試対策学習に対する出席率は思わしくない。今後は出席率をあげる工夫が必要となる。課題の多さ、難易度の高さが問題なのかもしれない。</p> <p>【学科教員の教育力アップの対策】</p>

- ・定期的な会議で授業内容および教授法の確認を行い、教育力の向上を図る。
- ・日本作業療法協会が指定する教員の教育力向上研修や新しい評価方法の研修会に積極的に参加し、その内容を学科内にフィードバックする。また、学生の講義内容に反映するように教員間でコンセンサスを得ておく。

・年 1 本以上の論文執筆を指導する。

<取り組み状況と次年度への課題>

診療参加型臨床実習講習会を始めとする研修会に複数の教員が参加し、教授法や教育力の向上に努めた。投稿をはじめ学会発表などを行ってきた。取り組みは今後も継続する。

【教育施設のレベルアップのための対策】

- ・文科省、厚労省の補助金情報を収集し、採択される可能性の高いものがあれば積極的に応募する。

<取り組み状況と次年度への課題>

科研費は 2 研究にて受けているが、当該教員 1 名が退職したため現状では 1 研究のみである。取り組みは今後も継続する。

【就職率アップへの対策】

- ・キャリアサポートセンターとの連携をとり、募集のため来学された施設には出来る限り対応する。

<取り組み状況と次年度への課題>

取り組みは今後も継続する。

【学生生活サポート対策】

- ・悩みのある学生に対するカウンセリングの仕組みを充実させる。（保健室等の利用）
- ・予防接種や自分自身の体の変調に気づくように、心身の病、感染症についての啓発活動を行う。

<取り組み状況と次年度への課題>

学生のメンタルサポートは複数回のチューター面接などで取り組んでいる。しかし、メンヘル系や発達系の問題を抱えた学生が増えており、これに対して教育現場で対応する限界を感じている。

【学生指導力の向上】

- ・個人面談の際にチューター以外の教員も参加し、面談過程および面談結果を共有し学生指導力の共有を図る。<取り組み状況と次年度への課題>

学生の問題や問題解決については、月二回の学科会議等で情報を共有している。取り組みは今後も継続する。

【社会人としてのマナー対策】CP(4)

- ・1 年次より各科目にて対人関係の第一歩である挨拶の大切さを教え、教員自ら学生への積極的な挨拶運動を実施する。

- ・学外実習を契機として実習に出る前に、前社会人（1 年生）、社会人（2 年生）、前医療人（3 年生）、医療人（4 年生）としての倫理およびマナーを段階的に学ばせる。

<取り組み状況と次年度への課題>

取り組みの成果は各学年での臨床実習で成果を出していると考え。取り組みは今後も継続する。

【学科の魅力発信】AP

- ・日頃の広報活動のほか、オープンキャンパス時、大学祭時など外部の人たちと触れ合う機会を有効に活用し、作業療法の魅力を伝える。

- ・卒業生の動向（海外青年協力隊で活躍している卒業生や地域、病院で活躍している卒業生現状報告など）を高校への学校説明会、出前講義時に学生や進路指導の先生に伝える。

- ・教員は社会貢献（地域）や研究などで外部に作業療法の魅力を啓発できる機会が多い。そのような機会に意識をもって作業療法の魅力を啓発する。

<取り組み状況と次年度への課題>

募集停止のため、作業療法啓発以外は実施していない。

募集力	
研究力	<p>【学科教員の研究力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学術論文 各教員が論文を少なくとも1篇以上投稿する。 ・ 学会発表 各教員が少なくとも1報以上発表する。 <p><取り組み状況と次年度への課題> 目標は達成できていない。取り組みは今後も継続する。</p> <p>【研究施設のレベルアップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な研究者やスタッフとの協働によるチーム型研究体制を図る。 ・ 博士号取得を推進する。 <p><取り組み状況と次年度への課題> チーム型研究体制の構築は、部分的にしか達成できていない。博士号取得については、3名の教員について進行中である。取り組みは今後も継続する。</p> <p>【外部研究資金獲得のための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 科学研究費等の競争的資金の申請を毎年行う。 <p><取り組み状況と次年度への課題> 1名の教員が科研費を取得している。取り組みは今後も継続する。</p>
地域連携力	<p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康増進のための作業療法的提案を地域社会に発信する。 ・ 授業の一環として地域の障害児を招き、学生との交流を通して活動性や対人関係能力の育成の一助となる。 <p><取り組み状況と次年度への課題> 作業療法啓発や市民大学などの活動をしている。障害児の育成についても活動している。取り組みは作業療法啓発については今後も継続するが、障害児関連については未定である。</p>
総合力	<ul style="list-style-type: none"> ・ ディプロマポリシーである「有能な作業療法士として社会に貢献できる実践力と、作業療法の発展に寄与できる研究能力を修得する」ことを目的に、カリキュラムポリシーに法って教育を展開する。
3つのポリシーからの総評	<p>DP: 各年次に実施される学外実習にてルーブリック評価表を使用して、実習遂行結果を学生に提示し、臨床コミュニケーション、共感、作業療法の実践、チーム医療などの涵養に努め、それら実践力および研究力を身につけた者に対して学位を与えようとしている。</p> <p>CP: 基礎科目では資質の基盤となるコミュニケーション能力を、専門基礎科目では作業療法の基盤となる一般臨床医学を、専門科目では作業療法学と演習および学外臨床実習により段階的かつ構造的に教育を実践している。</p> <p>AP: 募集停止により該当せず。</p>
次年度への展望(まとめ)	<p>これまでどおり有能な作業療法士として社会に貢献できる実践力と、作業療法の発展に寄与できる研究能力を育成してゆく。また、厚労省が推奨する臨床参加型実習(CCS)への移行を受けて対応する。</p>

九州保健福祉大学 保健科学部 言語聴覚療法学科

2019年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

ビジョン (教育目標)	九保大だから学べる「コミュニケーションする幸せ」と「口から食べる幸せ」をプロデュースできる能力を身につけた人材を輩出する。
学科からの メッセージ	言語聴覚療法学科の教育目標は、言語聴覚士国家試験合格のもと先にあります。現在、脳梗塞などでコミュニケーションが取れない、食事ができない高齢者や、コミュニケーション上のやり取りが不得手なお子さんが増えています。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、「コミュニケーションができる」「口から食べられる」など、言語聴覚士として幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を涵養します。
教育力 (ブランド) 「学修成果の可視化」の観点を含む	<p>(2019)</p> <p>【学生自ら考える力のアップへの対策】DP（6、7）、CP1（6）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科会議で卒業研究のルーブリックと成績評価について検討する。 ・学科会議で卒業研究の取組状況を確認し合い、全員の卒業論文完成を目指す。 ・卒業論文提出後、副査による査読や論文発表会を実施し、考える力、発表する力の向上を図る。 ・全学年の学生が実習指導者会議等の行事の運営に参加し、実習指導者への対応などについて自ら考え行動する力を養う。 <p>＜取組状況と次年度への課題＞</p> <p>学科会議で卒業研究の取組状況を確認し合い、4年生への指導に結びつけた結果、全員が卒業論文を提出し、副査による査読後、論文発表会を実施した。全学年の学生が、実習指導者会議やオープンキャンパスの運営に参加し、説明の仕方や、実習指導者、来学者への対応などについて、自ら考える力を養うことができた。次年度は、今年度に引き続き卒業研究の位置づけや成績評価について検討する。また、実習指導者会議の内容を評価し改善を加える。</p> <p>【基礎国語力増進への対策】CP（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学前教育で国語力向上のためのプログラムを実施し、基礎国語力の増強を図る。 ・必修科目である基礎ゼミの講義内で e-learning を積極的に活用する。実施前後に試験を実施し、有用性を検討する。 <p>＜取組状況と次年度への課題＞</p> <p>入学前教育で国語力向上のためのプログラムを実施した。また、基礎ゼミで「すらら」を実施し、一定の効果が得られた。</p> <p>【国語以外のリメディアル教育への対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学前教育で国語に加えて生物を導入し、専門科目との連携を強化する。 <p>＜取組状況と次年度への課題＞</p> <p>入学前教育で国語に加えて生物を導入し、専門科目との連携を強化した。</p> <p>【国家試験合格率アップへの対策】CP2（9）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策部門で効果的な対策方法を検討・実施し、学科会議でその効果を検証する。 ・e-learning による国家試験対策ソフトを学生に提供し、問題解答の機会を増やす。 ・国家試験部門を中心に、模試の成績不良学生を中心に特別プログラムや個別指導を行う。 ・学科会議で各学生の成績を提示し情報を共有する。 <p>＜取組状況と次年度への課題＞</p> <p>国家試験部門を中心に、効果的な対策方法を検討、実施した。模試の成績不良学生を中心に全教員が特別プログラムや個別指導を行った。学科会議で各学生の成績を提示し情報を共有するとともに、危機感を持って学生に対応した。国家試験対策ソフトを学生に提供した。次年度も引き続き、全ての教員が創意工夫して国家試験対策にあたり、合格率 100%を目指す。</p> <p>【学科教員の教育力アップの対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科会議等を通じ、基礎系科目と臨床系科目の内容を確認し教育目標を共有する。基礎系・臨床系教員の連携を強化する。 ・国家試験対策での補講等の取組内容を学科会議等で確認・共有し、各教員の教育力をアップする。 <p>＜取組状況と次年度への課題＞</p> <p>学科会議で各科目に関わる情報を提供するとともに、国家試験対策での補講等の情報を学科会議で共</p>

有した。次年度も、学科会議で講義に関わる情報の共有を図り教育力アップにつなげる。また、基礎系・臨床系教員の会議を定期的実施し連携を強化する。

【教育施設のレベルアップのための対策】

- ・社会生活コミュニケーション室、家庭生活コミュニケーション室等の設備やビデオ記録・配信システムを学内臨床実習等で活用する。
- ・文科省・厚労省の補助金情報を収集し、採択される可能性の高いものがあれば積極的に応募し、学科内施設の整備に利用する。

<取組状況と次年度への課題>

社会生活コミュニケーション室、家庭生活コミュニケーション室等の設備やビデオ記録・配信システムを学内臨床実習等で活用した。補助金情報を収集したが応募には至らなかった。次年度も、積極的に補助金情報を収集・応募し学科内施設の整備を行う。

【就職率アップへの対策】DP

- ・履歴書作成指導や模擬面接等を通して、全ての学生が希望する施設へ就職できるよう、キャリアサポートセンターと連携を取りながら、きめ細かい指導を行う。
- ・「即戦力の九保大生」「印象の良い九保大生」を求人側施設にアピールできるよう、学生の臨床教育を行う。
- ・低学年からインターンシップを導入し、キャリアイメージを早期から形成できるよう支援し、就職率アップにつなげる。

<取組状況と次年度への課題>

キャリアサポートセンターと連携して、就職部門教員を中心に履歴書作成指導や模擬面接を通してきめ細かい指導を行った。次年度も、臨床教育に創意工夫をこらし、「即戦力の九保大生」「印象の良い九保大生」の育成を図る。就職率 100%を達成する。

【学生生活サポート対策】CP 2 (1 1)

- ・定期的なチューター面談を実施し、学生の情報を学科会議で報告して教員間で共有する。
- ・学生の学力の把握を常時行い、必要に応じてチューターからの指導を実施する。
- ・学生の適性やモチベーションに応じた指導を行う。
- ・学生の意見を教育内容や方法に反映させ満足度の向上を図る。

【退学者防止対策】

- ・学生がかかえる問題を早期に発見し、健康管理センターと連携して適切に対応する。
- ・発達障害や精神疾患に対する知識や対応方法を向上するための研修を、学科内 FD 研修として行う。
- ・障害学生支援部門で発達障害等への支援システムを検討し、学科会議で支援方法を提案する。

<取組状況と次年度への課題>

定期的なチューター面談を実施し、各学生の問題点を学科会議で共有して、解決に向けて対応した。障害学生支援部門で、発達障害等への支援システムの検討を開始した。他大学での取り組み事例などを学科会議で紹介し教員間で共有した。次年度も、定期的なチューター面談、学生情報の学科教員内での共有を行うとともに、学生の意見を教育内容や方法に反映させ満足度の向上を図る。

【学生指導力の向上】

- ・入学前教育、「すらら」、基礎ゼミ等を通して、基礎学力を向上させ学力不足を解消する。
- ・1、2 年次に見学実習を導入し、早期から言語聴覚士の魅力を知るための手段を構築する。
- ・基礎ゼミ、学内臨床実習等でポートフォリオを導入し学習成果の可視化を図る。
- ・国家試験対策で各教員による個別指導を積極的に取り入れ、模擬試験の平均点アップにつなげる。
- ・経済的な問題がある学生には各種奨学金を勧める。

<取組状況と次年度への課題>

入学前教育、「すらら」等を通して、基礎学力向上の取組はできたが、学力の底上げが十分にはできなかった。国家試験対策で各教員による個別指導を積極的に取り入れ、模擬試験の平均点アップにつながった。1、2 年次に見学実習を導入した。次年度も、学生の学力の把握を常時行い、必要に応じてチューターからの指導を実施するとともに、引き続き学生の適性に応じた指導を行う。

【社会人としてのマナー対策】DP 1、CP 1 (2)

- ・学内臨床実習を通して、臨床に必要な基本的態度、患者への関わり方について具体的指導を行う。
- ・学内実習の一環として、一般企業への見学実習、高齢者施設、小児施設での見学実習を行い、社会人としてのマナーを身につけさせる。

<取組状況と次年度への課題>

学内臨床実習を通して、臨床に必要な基本的態度、患者への関わり方について具体的指導を行った。

	延岡市内の高齢者施設、小児施設での見学実習を実施した。次年度も、学内臨床実習を通して、臨床に必要な基本的態度や患者への関わり方について具体的指導を行う。また、各種見学実習を通して、社会人としてのマナーを身につけさせる。
募集力	<p>【学科の魅力発信】AP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高生の学科見学、高校や病院からの模擬講義、出張講義に積極的に対応する。 ・9月1日の「言語聴覚の日」イベントの運営、言語聴覚障害者相談システム「ハロー」における支援を通じ、地域への発信を積極的に行う。 ・学科新聞の発行、ブログの更新、「言語聴覚の日」のイベント等を通して学科の魅力を発信する。 ・社会で活躍している卒業生の情報を収集し、オープンキャンパスなどで紹介する。 <p><取組状況と次年度への課題></p> <p>臨床心理学科言語聴覚コースの開設準備として、入試広報室と連携して広報活動に取り組んだ。中高生の学科見学、出張講義に積極的に対応した。ブログ、フェイスブックの更新、オープンキャンパス、「言語聴覚の日」イベント等を通して言語聴覚士の魅力を発信した。</p>
研究力	<p>【学科教員の研究力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学会への参加等、研究活動に必要な研修の機会を保障する。 ・学会発表、論文発表等、研究活動を積極的に推進する。 <p>【研究施設のレベルアップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語聴覚障害児者相談システム「ハロー」等、学内の施設を活用するとともに、医療、保健、福祉、教育機関との連携を強化し、研究フィールドの充実・拡大を図る。 <p>【外部研究資金獲得のための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科研費の獲得率の向上を図る。 ・その他の委託研究費の獲得率の向上を図る。 <p><取組状況と次年度への課題></p> <p>学会への参加等、研究活動に必要な研修の機会を保障し、各教員が学会発表、論文発表等、研究活動を積極的に推進した。言語聴覚障害児者相談システム「ハロー」を活用するとともに、医療、保健、福祉、教育機関との連携を強化した。科研費、及び委託研究費の獲得率が向上した。</p>
地域連携力	<p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国や地方公共団体の各種委員会の委員として、発達支援、就学支援、地域包括支援等に貢献する。 ・地方公共団体からの委託費による研究を通して地域連携力の向上を図る。 ・学会等、関連団体の役員として、地域・社会貢献を行う。 <p><取組状況と次年度への課題></p> <p>各種委員会の委員として、発達支援、就学支援、地域包括支援等に貢献した。委託費による研究を通して地域連携力の向上を図った。学会等、関連団体の役員として、地域・社会貢献を行った。</p>
総合力	<p>建学の理念およびディプロマポリシー（DP）に掲げた目標を達成するために、カリキュラムポリシー（CP）の教育内容 1～6 と教育方法 7～11 を取り入れた授業を実施し教育評価 12～13 を行う。本学科の特徴である基礎系教員と臨床系教員の連携を活かして、教員の教育力や学生の満足度の向上を図る。効果的な臨床教育プログラムについて学科会議等で検討・実施し、その成果を検証する。「コミュニケーションする幸せ」と「口から食べる幸せ」をプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を育成するため、中期目標・中期計画の達成・実現に向けて、学科教員一丸となって取り組む。</p>
3つのポリシーからの総評	<p>建学の理念およびディプロマポリシー（DP）に掲げた目標を達成するために、カリキュラムポリシー（CP）の教育内容 1～6 と教育方法 7～11 を取り入れた授業を実施し教育評価 12～13 を行った。基礎系教員と臨床系教員の連携を強化したことにより、教員の教育力アップにつながった。また、1年次、2年次に見学実習を導入し、学生の満足度が向上した。学内臨床実習、学外臨床実習の見直しを行い、連続性が向上した。新設予定の臨床心理学科のポリシーを作成して、開設準備に取り組んだ。</p>
次年度への展望（まとめ）	<p>「コミュニケーションする幸せ」と「口から食べる幸せ」をプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を育成するため、中期目標・中期計画の達成・実現に向けて、学科教員一丸となって取り組んだ。本学科の特徴である基礎系教員と臨床系教員の連携を活かして、教員の教育力や学生の満足度の向上を図った。入学者確保が厳しくなっている現状を危機意識を持って受け止め、新たに開設される臨床心理学科と連携して、効果的な臨床教育プログラムについて検討・実施し、その成果を検証していきたい。</p>

九州保健福祉大学 保健科学部 視機能療法学科

2019年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>九保大だから学べる 「みる・みえる幸せ」をプロデュースできる能力を身につけた人材を輩出する。</p>
<p>学科からの メッセージ</p>	<p>視機能療法学科の教育目標は、視能訓練士国家試験合格のもと先にあります。現在、高齢化社会が進み視力障害や眼疾患で悩む患者さんが多くなっています。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、高度な眼科医療を支える専門知識に加えて、患者さんの「みる」「みえる」幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を涵養します。</p>
<p>教育力 (ブランドカ) 「学修成果の可視化」の観 点を含む</p>	<p>教育力の可視化 【学生自ら考える力のアップへの対策】 DP (2) (5) CP (4) (5) (8) (10) ・学科ディプロマ・ポリシーまたカリキュラム・ポリシーの学生への周知徹底を図り、両ポリシーを踏まえた教育力の可視化に取り組む。具体的には、学生が視能訓練士となる学びの段階を意識して学習を進めることができるように、アセスメントポリシーを明確化して全学生に周知する。 ・シラバスの記載内容が学生の主体的な学びをサポートしているか、ディプロマ・ポリシーまたカリキュラム・ポリシーとの関係性から検証する。 ・卒業研究を充実させるために、指導マニュアルを教員間で共有すると共に客観的評価ができるよう28年度に作成した卒業研究のルーブリック表の改定版を完成させる。 ・実習講義（臨床実習事前指導）において学生が独自に検査マニュアルを作成することを目標にアクティブラーニング（①個別での文献調査 ②グループ内でのプレゼンテーションとディスカッション ③意見集約 ④全体へのプレゼンテーション ⑤検査マニュアルの作成と配布）を実施する。 <取り組み状況と次年度への課題> ・各学年のオリエンテーションで、学科ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの学生への周知徹底を図っている。シラバスの検証は学期開始前に学科全体で検証している。さらに、卒業研究評価のためにルーブリック表を作成し、学生の卒論評価に使用している。 ・授業等でアクティブラーニングを導入しているが、学生のモチベーションが高くないことが課題である。 【基礎国語力増進への対策】 CP (1) ・専門ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲにおいてゼミ単位の文献抄読会を実施する。卒業論文を作成するためには、関連分野の論文を正確に解釈および批評する力が必要である。この力を増進することは、土台となる基礎国語力の増進にもつながると考えられる。 <取り組み状況と次年度への課題> ・1年生がいらないため「すらら」は実施していないが、高学年にはゼミを利用した基礎国語教育に取り組んでいる。 ・国語力が低い学生には、高学年であっても「すらら」を使用したいが、経費のこともあり利用できないことが課題である。 【国語以外のリメディアル教育への対策】 CP(1) (2) ・3～4年時生では、ゼミ単位の個別指導を実施する。 ・2～3年次生では、到達度の低い学生には、目標設定の再検討および、到達度クラス別の補講を実施し、効果測定を行う。 <取り組み状況と次年度への課題> ・基礎学力は高学年であっても必要なため、ゼミ等を利用して基礎学力向上を心がけた。 ・高学年になると、専門性が高くなり基礎学力向上への取り組み時間が短縮することが課題である。</p>

【国家試験合格率アップへの対策】 CP (4) (11)

- ・H30 年度の国家試験を解くために必要な知識の整理から、本学科教務委員会とリンクし、国家試験出題基準対応表に漏れない教育の実施確認を行う。
- ・3 年次生に対する早期国家試験対策の取り組みの効果測定により早期教育の検証と修正を行う。
- ・国家試験対策マニュアルとロードマップを作成する。
- ・模擬試験問題の水準を国家試験合格に合わせるために、過去に使用した模擬試験問題の内容の再検討を行い、より近年の出題傾向に即した模擬試験を実施する。

<取り組み状況と次年度への課題>

- ・本学科の国家試験合格率は高く、基本的に従来戦略・戦術を踏襲している。
- ・将来、視能訓練士国家試験の内容が、視機能矯正から屈折矯正に重きが移ると噂されている。本学科では、新しく変化するとされる国家試験内容に対応できていないことが課題である。

【学科教員の教育力アップの対策】

- ・教員が教育の技法を高めるとともに、授業への取り組みを再考する機会となるように、講義、演習、実習およびグループワークなど様々な形態の授業について、教員相互の見学・参加を推進する。
- ・講義内容や試験問題を相互に確認することで互いに高め合う。
- ・教員間の専門知識を相互に提供しあうことで、教員の教育内容のレベルを向上させる。また、学会などで知れた最新の情報なども併せて情報交換を行い、教育レベルを向上させる。

<取り組み状況と次年度への課題>

- ・模擬試験の問題作成では、難易度の調整等について全教員が協力して取り組んでおり、教員交互のレベルアップに繋がっている。
- ・視機能には別科があり、講義や出張が多くなり教員相互の授業参観ができていないことが課題である。

【教育施設のレベルアップのための対策】 CP (4)

- ・教育設備を中心に拡充を図るために、文部科学省をはじめとして利用可能な補助金等があれば積極的な応募に向けて具体的に検討する。
- ・新たな検査機器については、可能な限りメーカーのデモ機器を借り受け、学生に最新機器の取り扱いについて修得させる機会を増やす。

<取り組み状況と次年度への課題>

- ・最新機器については、デモ機を借り受けており、学生に最新機器の取り扱いについて修得させる機会を増やしている。
- ・学科は学生募集が停止していることから機器の新規購入が困難であり、デモ機借り受けをさらに増加させていくことが課題である。

【就職率アップへの対策】 DP (4) CP (4) (11)

- ・計画の基本的な考えとして、キャリアサポート室を積極的に有効活用することを主体とし、戦略的に行われている各種の就職面談会や就職懇談会に積極的に参加する。
- ・高い国家試験合格率を維持する。

<取り組み状況と次年度への課題>

- ・キャリアサポートとの緊密な連携と教員の学生との頻繁な面談により、学生の就職は良好である。
- ・学力の低い学生が、大学病院など希望するが就職できないことがある。低学年から将来の就職先を考えて、勉強に対するモチベーションを上げさせるなど長期的な指導が課題となっている。

【学生生活サポート対策】 CP (9)

- ・学生の相談内容に応じて、学内各部署（学生課、教務課等）への的確に誘導し、当該部署への連絡及び相談の連携を行う。
- ・学生の授業への欠席状況を教員間で共有・把握し、早期にチューター面談及び保護者への連絡を実施し、学生の長期間無断欠席の回避を図る。

	<ul style="list-style-type: none"> ・個別学習スペース（電気生理実習室等）を充実させ、いつでも勉強できる環境を整備する。 ・学生との対話を重視し、気楽に話せる環境を整備する。 ・学生から寄せられた情報はガルーンを活用し情報共有を行い、どの教員も対応できるような体制を整える。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生生活サポートのために、学生と緊密に連絡が取られており、場合によっては保護者との連絡も密にしている。特に、教員間での学生情報の共有に取り組んでいる。 ・教員は、土日祭日にも学生対応にあたる場合もあり、働き方改革の観点から課題となっている。また、学生の個別学習スペース（電気生理実習室等）の使用において利用規則が守られておらず課題となっている。 <p>【中途退学者防止対策】 CP (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中途退学者の多くが、学力不足による単位不認定がきっかけとなることが多いため、基礎学力を向上させ専門教育へのスムーズな移行を図ることにより退学者減少につなげる。 ・定期的実施できる学習相談窓口を設置する。 ・適切な進路相談により、退学希望者に対して転学部、転学科を勧めることができるようにする。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上のため学習相談窓口を設置しており、学力不足での中途退学を防止を図っている。 ・学生の早い時期での学習意欲消失を認知出来ない場合があり課題となっている。 <p>【学生指導力の向上】 CP (9)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の価値観、気質、能力を配慮した指導や対応を行うことを目指す。 ・講義や実習、チューター面談を通して、学生個別の適性およびモチベーションを見極め、学生生活における問題の早期発見に努める。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生面談の頻度を増加させるなど、教員の学生指導力の向上を図っている。 ・やはり学生と教員の相性の問題があり、チューターの変更等が課題となっている。 <p>【社会人としてのマナー対策】 DP (1) CP (4) (5) (10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員側から積極的に挨拶を行う。 ・誤った言葉の遣いがあった際はその都度注意する。 ・検査実習などにおいて丁寧な言葉遣いがあった際は良かった点を褒める。 ・実習室使用ルールおよび実習生としてのマナーの指導を低学年より実施する。 ・臨床実習前指導では医療従事者における接遇マナーの専門書を用い事例を交えた指導を実施する。 ・ボランティア活動の意義を学生へ説明し参加を促す。 ・学期毎に学生に対し身だしなみ、マナー、言葉遣いにおける目標を列挙させる。 ・身だしなみ、マナー、言葉遣いにおけるチェックリストを作成し、学生の自己評価表として活用する。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人としてのマナー対策で、教員が気がつけば学生にその都度、注意している。 ・学生に対する注意が過ぎると、教員との人間関係が難しくなることが課題である。 <p>【学科の魅力発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科教員の積極的な学会・講習会における発表にて九保大をアピールする。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科の魅力は、フェイスブックで発信している。
募集力	
研究力	<p>【学科教員の研究力アップのための対策】 研究活動の促進</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・学会や講習会への積極的参加 ・学術論文が学科から毎年少なくとも1報は発表する。 ・学会発表が学科から毎年少なくとも2報は発表する。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科の学術論文数および学会発表数は、目標を達成した。 ・教員の講義や出張が多く、十分な研究時間が取れないことが課題となっている。 <p>【臨床技術の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院での継続的な研修および臨床業務への参加。 ・臨床経験を積む場、研究の場の1つとして、3歳児眼科健診などに積極的に参加する。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮崎県内4市町村（延岡市、美郷町、諸塚村、椎葉村）の三歳児健康診査における視機能検査業務、宮崎大学医学部附属病院および済生会日向病院における眼科検査業務、しろやま支援学校における視覚支援業務、延岡市民大学院における市民向け講座、のべおか子どもセンターにおける「子育て講話」など地域連携を進めているが、そのことが、学科教員の臨床技術の向上に繋がっている。 ・時間が取れば臨床での研鑽に励みたいが、学生教育が最重要であることから、教育とのバランスが課題となっている。
地域連携力	<p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮崎県内4市町村（延岡市、美郷町、諸塚村、椎葉村）の三歳児健康診査における視機能検査業務、宮崎大学医学部附属病院および済生会日向病院における眼科検査業務、しろやま支援学校における視覚支援業務、延岡市民大学院における市民向け講座、のべおか子どもセンターにおける「子育て講話」など、地域市民の視覚の保健、医療、情報発信に寄与することで地域連携力アップを図る。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携については、学科として十分に貢献できていると考えている。 ・時間が取れば地域貢献に協力したいが、学生教育が最重要であることから、教育とのバランスが課題となっている。
総合力	<ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマポリシー（DP）の実現を念頭に、アセスメントポリシーを充実してカリキュラムポリシー（CP）の実践に取り組み、卒業まで一貫した統合教育を行う中で100%進級を目指すと共に、100%の国家試験合格率をキープする。 ・学科内の研究力の充実を目指し、研究成果を学外に発信し各種研究費の獲得や地域連携強化を図る。 <p><取り組み状況と次年度への課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科教員が一丸となって全員国家試験合格を目指して努力しており、高い国家試験合格率をキープしている。しかし、本年度は学力が低く授業についてこれない学生も散見される。 ・教員の本学での業務に加え別科での出張業務があり、学生指導ならびに学生教育に十分な時間が確保できていないことが課題となっている。
3つのポリシーからの総評	<p>学科ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの学生への周知徹底を図り、両ポリシーを踏まえた教育力の可視化に取り組んでいる。シラバスは教員間でチェックし合い、教科間での整合性についても検討しており、学生が有効に活用し学力を向上させることに繋がっている。また、卒業研究を充実させるために、指導マニュアルを教員間で共有すると共に客観的評価ができるよう卒業研究のルーブリック表の改定版を完成させている。「ヒトは自分の何が評価されるのか知ることにより変化する」と言われるが、本学科は学生にディプロマ・ポリシーを明確に意識させることによって教育効果向上に取り組んでいる。しかし、教員の本学での業務に加え別科での出張業務があり、学生指導ならびに学生教育に十分な時間が確保できていないことが課題となっている。</p>

次年度への展望 (まとめ)	学科の募集停止により、次年度は3年生と4年生のみとなる。患者さんの「みる」「みえる」幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を涵養するために、特に専門教育に力を注ぎ留年者・退学者を出さないよう学科教員が一丸となって取り組んでいく。さらに、本学科は国家試験合格率100%を続けており、次年度も全員合格を目指す。
------------------	--

九州保健福祉大学 保健科学部 臨床工学科
2019年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>九保大だから学べる「高度なチーム医療」を支え患者さんの幸せをプロデュースできる能力を身につけた社会に有為な人材を輩出する。</p>
<p>学科からの メッセージ</p>	<p>臨床工学科の教育目標は、臨床工学技士国家試験合格のもと先にある。医療の高度化が進み、多くの医療機器が臨床で使用されており、いまや医療現場には工学知識を持つ臨床工学技士がますます重要になっている。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、チーム医療の一員として医師の指示のもとで生命維持管理装置の操作や、自らの判断で医療機器の保守・管理を行うなど、高度なチーム医療を支えるのみならず、患者さんの幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につけることを目標としている。また本学は、タイを中心とした ASEAN 諸国の大学ならびに病院との交流があり、毎年、臨床工学科の施設を中心とした研修を受け入れている。そのため海外の方との交流を通じ、グローバルな視点も養うことができる。</p>
<p>教育力 (ブランド力)</p> <p>「学修成果の可視化」の観点を含む</p>	<p>【学生自ら考える力をアップする対策】 従来の卒業研究指導法に加え、卒業研究指導時ならびに卒業研究発表会で使用するルーブリック表を作成し運用する。学科教員全員でルーブリック表の内容とその運用について検証を行い、必要があれば改訂を行う。また、卒業研究で優秀なものについては、研究成果を積極的に国内外での学術大会において発表させる。 アクティブラーニングについては、従来から PBL (project/problem based learning) 型、学生によるプレゼンテーション型の講義などを取り入れているが、これらの教科に加え、他の教科においても導入可能であるかを学科教員で協議する。 タイの2つの大学と教育提携をおこなっている。これらの大学より研修生を受け入れており、外国の学生との積極的な交流を通して価値観の多様性に触れることで、自ら考える力をアップさせる。 ■ 卒業研究指導に用いるルーブリック評価表の内容および運用方法について適時見直しをする。随時見直しを行ってきた。 ■ 卒業研究については学術大会へ参加できるよう指導を行う。 九州臨床工学技士会への学生全員がスタッフとして参加したため本年度は発表ができなかった。 ■ アクティブラーニングについては、導入科目を学科で新たに検討する。 各教員が担当科目において検討してきた。 ■ 教育提携校より研修生を受け入れる。 ■ タマサー大学よりのダブルデグリーの申し入れを学園本部の指示に従い検討する。 昨年5月にキンモンクード工科大学の学生15名と引率教員1名を2週間受け入れた。また、8月から9月にかけてタマサー大学3年生1名を1か月間受け入れた。さらに、3月にキンモンクード工科大学より4年生15名を2週間受け入れる予定で準備を進めていたが、新型コロナウイルスによる感染症のためタイ政府より日本への渡航が制限され延期となった。 〈次年度〉 本年度達成できなかった課題を実施すべく引き続き努力する。</p> <p>【基礎国語力増進への対策】 教員監督のもとにスララを学習させる。一方、基礎数学である計算力向上のため従来どおり補講をおこなう。 ■ スララを活用して国語力のアップを図る。 ① 毎週木曜日の2限目にスララの e-learning を教員監督のもとに実施する。 週一回集合学習を実施した。前期は比較の出席率が高かったものの、後期はモチベーションの低下がみられ、出席率が低下した。達成率の向上のためにも、一定の強制力は必要かもしれない。 ■ 臨床工学科では工学系科目が7～8割を占めており計算力は必須であるので、計算力の低い学生についてトレーニングを実施する。 ① 毎週夕方の時間を利用して計算力向上のための演習を実施する。 ② 計算力の評価のために毎月評価試験を実施し、結果を学生へフィードバックする。 毎週月曜日に実施しており計算力は向上している。</p> <p>【単位認定試験】 単位認定試験については、主に前期・後期の15コマの講義終了後実施するが、大半の学生は15コマ終了時点での試験に臨む学習が不足している。したがって、15コマを前半と後半に分けて評価試験を実施し、その結果を学生へフィードバックし、重要項目の再学習を促し、学生の未習得科目の減少を目指す。 ■ 15コマの前半（約半数が終了した時点）と後半に分けて評価試験を実施する。</p>

実施し結果を学生へフィードバックし、復習の重要性を促した。

■再試験等において所定の点数を獲得できない場合はレポートによる評価も実施する。

実施しており、これによる単位認定も行ってきた。

〈次年度〉

次年度も上記項目達成すべく課題に取り組む。

【国家試験合格率アップへの対策】

国家試験過去問題の活用方法の検討が重要であり学科内での国家試験データベースのバージョンアップを実施する。従来から4年生に対して実施している国家試験対策模試において、前期で各自の弱点科目を見つけさせ、前期終了後にこれを学習させる。後期の国家試験対策模試で学習状況、達成度を分析し、12月からの集中対策に活かす。

■昨年度（平成31年度）の国家試験結果が100%であり、昨年の試験対策方法を踏襲する。

①4～6月にかけて国家試験過去問をベースとした模擬試験を毎日50問実施と共に評価試験を毎月1回実施する。

②毎回の擬試験終了後に出題問題の見直し（とくに不正解であった問題）を行わせることで、不得意科目の克服を図る。

③2～3人を1組のグループとしてのグループ学習を実施する。

④11月からの国家試験集中対策の受講とともに、毎年11～2月に3回実施される全国統一模擬試験（日本臨床工学技士教育施設協議会実施）を受験させ、学習状況の把握と達成度の分析を行う。

⑤3年次学生においても、全国統一模擬試験を実施し、国家試験対策への認識を深める。

国家試験対策については従来通り実施してきたが、全く成績が伸びない学生もいる。

〈次年度〉

国家試験対策は最も重要事項であり本年度は目標を達成できていることから次年度にむけても全員合格できるよう指導する。

【卒業判定】

4年次の最終卒業判定については4年次前期までの必要単位数の取得とともに、卒業研究および全国で3回実施される全国統一模擬試験（日本臨床工学技士教育施設協議会編）を受験し、少なくとも1回以上60%ラインを超えていること。これを満たさない場合は、学科内における再試験を実施し判定をおこなう。

■全国統一模擬試験で少なくとも60%を超えることは国家試験合格の可能性の目安となるので、国家試験対策を踏襲する。

3回の全国統一模擬試験を実施したが、4名ほど規定の点数を満たさなかったため、第4回模擬試験として再試験を実施した結果、最低ラインを超えた。

【学科教員の教育力アップの対策】

最新医療の知識、技術を習得するため、関連学会や各種セミナーへ学科教員が参加できるような体制を構築する。また、他校や臨床現場より教員を招聘し、相互に講義手法についての意見交換を行う。さらに、タイの大学との教員交流により多角的な教育力アップを図る。

■学科教員に対して、講義や学事に配慮しつつ、積極的な関連学会や各種セミナーへの参加を促す。

1名の教員が担当科目の講義改良を志向して、有料セミナー（医療統計学）を受講した。

■他校および臨床現場の教員との意見交換を積極的に実施する。

①交流を深めるために講義終了後に意見交換を行う機会を設ける。

他校の教員を非常勤講師として招いているので、積極的に意見交換をおこなってきた。

【学生生活サポート対策】

毎年8月に開催されるオープンキャンパスの前日に、学科で保護者懇談会を開催している。本懇談会では保護者と教員が直接問題点を話し合っており、これを通じて、保護者と教員が連携し、学生生活のサポートに活かす。近年、心身面に不調を来した学生が多いことから、学内の健康管理センターを積極的に利用する。

■保護者面談・懇親会への更なる参加を求める。

①成績不良学生の保護者の参加が悪く、また学生が保護者に大学生生活の現状を都合の良いように報告しており、教員と保護者の思惑に相違が見られる。そのため、特に成績不良学生の保護者に対し保護者面談の積極的な参加を促す。

毎年8月の学科懇談会を中心に保護者との連絡を積極的に実施してきた。

■心身面に不調を来した学生は、教員へ相談しにくいと思われる。そこで、健康管理センターの使用を促すような案内（掲示物）を作成し、学科内の掲示板に掲示することを検討する。

各学年1～2名の学生が心身面に不調を来し授業への出席が滞ることがあったが、保護者への連絡を密にして対策を行ってきたり改善し、退学を防ぐことができた。

〈次年度〉

学生を退学させることなく全員卒業が達成できるように指導する。

【学生指導力の向上】

基礎学力を上げ、学生の適正に応じた指導を実施し学力不足を解消する。成績不振の学生に対して、個別に学習指導、アドバイスを行えるような体制を構築しており、さらなる充実を図る。

成績不振の要因の一つに授業中のノート整理ができないことがあげられる。この対策として学科内で使用しているコーネルノート（コーネル大学開発）によるノート整理について個別指導を実施する。

全学年へコーネルノートを必要に応じて配布しており、学生が学科ノートして使用しているが、教員が随時指導しているの関わらず授業中にノートに記載できない学生が存在する。

〈次年度〉

コーネルノートを学科ノートして学生全員が使用できる環境が整ったので、ノートの記載方法を各教員で具体的に指導し、国家試験対策においても授業ノートの重要性を理解させる。

【社会人としてのマナー対策】

教員から学生への積極的な挨拶運動を実施することに学科の学生は全員挨拶ができるようになっていく。特に授業開始および終了後の挨拶は重要視している。また、当学科では3年生に対して、ソーシャルマナーインストラクタの資格（JAL 国際線キャビンアテンダント）を有する外部講師を招聘して、ソーシャルマナー講座を受講させている。

■マナーに関する講義の受講後マナーが顕著に向上することにより、引き続きソーシャルマナー講座を開講する。

① 3年生に対し初回の病院実習前にマナー講座を受講させる。

②各学年を通じて段階的にマナーを身に着けさせることを目的として1年次、2年次にも取り入れる方向で調整する。

例年通り、講師（JAL 国際線 CA）を招いて実施した。

〈次年度〉

例年、本講師による指導は好評であるので次年度も引き続き実施する。

<p>募集力</p>	<p>【学科入学定員確保のための対策】 学科の特徴を高校生および保護者へ直接アピールできる方策が重要であり、これらの機会があれば教員と在校生とで対応することが必須である。</p> <p>【学科の魅力発信】 4年前より入学者が減少の一途をたどっている。九州圏内の臨床工学養成校が増加しことに原因があるが、宮崎県内の高等学校学生、特に近隣の高校からの受験者が少ないので入試広報と連携して高校訪問、「見学は何時でも OK」の見学会を積極的におこなう。 ①近隣の高校へ学科の魅力を発信するため、高校ごとに大学（施設）見学会を立案する。 ②宮崎県臨床工学技士会と連携協力し、職能団体として臨床工学技士の啓発活動を行う。</p> <p>【学科教育力の評価および広報活動への工夫の提案】 ■教員相互の授業評価をおこない学科教育力の確認を実施する。 ■従来、臨床工学科ブログにおいて学生（2 学年～4 学年）が中心にブログを書いており、保護者、卒業生、高校生が閲覧しており継続して学生による学科教育内容を発信する。 ■学生による学科紹介のInstagram を立ち上げており継続して学科内の様子を発信していく。</p> <p>【社会で活躍している卒業生の情報を収集】 現時点で 9 期生が卒業しており卒業生との連絡体制、また、臨床工学関連の博士課程前期生の卒業生（70 数名）との連絡体制（同窓会）を構築し、学生募集への協力を依頼する。 ■卒業生が同窓会の発会を試みており、同窓生を通して本学科の情報発信をおこなう。 ■九州臨床工学技士会および宮崎県臨床工学技士会を通じ、高校・各種関連団体に臨床工学技士の職場体験プログラムを構築し臨床工学技士養成の重要性を啓発し学生確保に努める。 従来、上記の内容を実施してきたが、来年度より生命科学科でのコースとなることから、臨床工学科単独での募集活動は取りやめた。 〈次年度〉 生命医科学科のコースの 1 つとなるので、生命医科学科としての学科広報を実施する。</p> <p>【将来の展望】 学生募集に影響することは、①国家試験合格率、②就職先・就職率、③学生による学科の評価が重要であることより、①、②に関しては従来の方法を踏襲し、③については、可能な限り学生に対して丁寧に接していく。また、海外からの留学生獲得も重要となってくることよりタイの教育提携校よりの留学生獲得を目指し収容定員の確保を目指す。 ■留学生獲得のための布石として研修生を受け入れる。 タイの 2 つの教育提携大学より研修生を迎える門戸は開いている。</p> <p>【将来展望に関する情報および既存の情報紹介】 学生募集のための高校訪問は重要ではあるが、直接的に高校生と接することができず高校生および保護者に対しては情報が伝わっておらず、①業者説明会や②インターネットを中心とした媒体での情報提供となることはやむを得ない。①、②を通じて作成している資料を配付していく。 ■依頼がある業者説明会に全て参加し高校生へ学科を紹介する。 入試広報室の依頼を受けて、1 回説明会に参加して直接高校生に学科の紹介を行った。 ■学科紹介パンフレット（日本語、英語、中国語、タイ語）を修正し関連施設へ配布する。 学科募集停止により臨床工学科としての紹介はできなかったが臨床工学についての説明は実施してきた。 〈次年度〉 生命医科学科として将来展望の①～③を目指す。</p>
<p>研究力</p>	<p>【学科教員の研究力アップのための対策】</p> <p>【学会発表・学術論文】 ■各教員の専門性にもとづき所属する学会にて年間 1 ～ 2 演題の研究成果を発表する。 ■専任教員については、学会発表にて成果が上っているものを学術論文とし年間 1 編の投稿を目指す。 ■通信制大学院の学生を指導している教員については、大学院生を指導するとともに共同著者として学術論文に投稿する。 <学会発表> 2名の教員がそれぞれ国際学会で研究成果を発表した（於：国際血液浄化学会（ISBP）；ハイデラバード/欧州毒性学会（EuroTox）；ヘルシンキ）。 <招聘講演> 教員 1名が招聘講演者として発表した（於：Clinical Issues and Practical Approach in CKD & HD patients ;大邱）。 <学術論文> 学科教員同士の共同研究成果を国際誌に発表した（Tange Y, Watanabe W, et al.</p>

	<p>Data in Brief 28 (2020))。他 1 名の教員が国際誌 (Toxicol. Rep. 6 (2019)) に研究成果を発表した。</p> <p>【研究施設のレベルアップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 研究設備については、すでに老朽化がはじまったおり経済的に学内でのレベルアップは困難であることより、外部資金が調達できた段階で検討する。 <p>学科募集停止にともない機器の更新は停止となった。</p> <p>【外部研究資金獲得のための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 科学研究費申請にあたっては、複数の採択者の申請書をシェアして申請書作成の参考にし、採択されるようにする。 <p>獲得率向上のために、教員同士でディスカッションを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 企業との共同研究を積極的におこない研究費の供給を受ける。 <p>本年度は研究費としての外部資金調達はなし。</p> <p>〈次年度〉</p> <p>本年度達成できなかった課題を実施すべく引き続き努力する。</p>
<p>地域連携力</p>	<p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <p>臨床工学科は内閣府の地域活性化総合特区である「東九州メディカルバレープロジェクト」の人材育成を担当しており、タイを中心とした海外の医療従事者を日本の医療機器でトレーニング、日本製品が海外に普及しやすい土壌を宮崎県庁と作りつつある。また、本プロジェクトの一環として県内の医療機器企業と共同で新しい医療機器の開発も行っており、数億円規模の国家予算も獲得した。すでに開発は最終段階に来ており、今後本学科を中心とした地元企業とのさらなる連携が行われる。単に研究や教育のみではなく、実用化や医療の質向上に直結する貢献を行っているのが特徴である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ タイの大学から留学生受け入れ・本学科および地元地域連携で実習実施する（地元企業が医療機器 ■ タイを含む ASEAN 各国から留学生受け入れ・本学科および地元地域連携で実習を実施する（地元企業との新規医療機器開発を拡大）。 <p>〈次年度〉</p> <p>タイからの研修生が来日した際にメーカー見学を実施するとともに、近隣高校に情報を流して高校生も一緒に英語で研修を受けられるようにする。</p>

<p>総合力</p>	<p>教育力、募集力、研究力、地域連携力により、大学院教育も含めて教育連携システムの構築を目指し活動をおこなっている（下図）。学部の卒業生が医療現場へ就職し、本学科生の臨床実習指導などを担うようになってきている。また、通信制大学院を卒業した70数名の臨床工学技士は、医療現場での指導者となっていることより、彼らが本学科出身の技士を指導して社会に有為な人材を育成するとともに、本学科卒業生や医療現場で前向きな臨床工学技士が、通信制大学院へ入学し高度専門教育を受け社会での指導者となり本学出身の技士の教育・技術レベルの高さをアピールしている。一方、臨床工学技士は本邦のみの医療職種制度であり、国策にしたがい ASEAN 地区で最も医療が進歩しているタイ国を中心に臨床工学技士制度を輸出する。その第1歩としてタマサー大学、キンモクード工科大学での実習施設構築への協力および研修生の受け入れをおこなってきた。次段会として両大学卒業生を本学科への留学するよう促しており、これが実現すると日本の臨床工学技士免許を持ったタイ人技士が本国で指導者となって行くことは明白であり、彼らとともに ASEAN 地区で本学のブランド力を構築することを目指す。</p> <p>〈次年度〉</p> <p>引き続き上記内容を生命医科学科臨床検査コースの協力を得て本年度達成できなかった課題を達成すべく引き続き努力する。また、海外からの学生研修時に地元の高校生参加も募り、地域連携力を強化するとともに大学の魅力を感じてもらおう新たな試みによる入学者増も行う。</p>
<p>3つのポリシーからの総評</p>	<p>教育力、募集力、研究力、地域連携力により、大学院教育も含めて教育連携システムの構築を目指し活動をおこなってきた。教育力、地域連携力については一定の実績が評価できるが、募集力においては、各コース（学部生、別科生、大学院生）において、すべて定員以下となっている。また、研究力に関しては、少しずつではあるが学科内のコラボレーションも進み研究成果も上がりつつある。各々原因は上げられるが、学科単独では今後の見通しがたない状態であった。</p>
<p>次年度への展望（まとめ）</p>	<p>本年度をもって募集停止となるが、在校生（1～3年生）を退学させることなく、全員が国家試験を合格すべく教員一丸となって教育を実施する。また、次年度より生命科学部生命医科学科の臨床工学コースとして臨床工学技士の育成をおこなっていくことになる。コース制となるが、医療現場での職能の多様性を鑑み学生の希望に応じた医療従事者育成に努めたい。</p>

九州保健福祉大学 薬学部 薬学科
2019年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>九保大だから学べる「適正で安全な薬物療法」を支え患者さんの幸せをプロデュースできる能力を身につけた人材を輩出する。</p>
<p>学科からの メッセージ</p>	<p>薬学科の教育目標は、薬剤師国家試験合格のもっと先にあります。現在、薬物療法の高度化により、チーム医療の中で「薬の専門家」としての薬剤師の重要性がますます高まっています。また、現在の薬剤師は患者さんのフィジカルアセスメント（実際に患者さんの身体に触れながら、薬の効果や副作用の早期発見を行うこと）などを実施して最良の薬物療法を医師に提案することが求められています。本学では、入学後の基礎科目から5,6年次の卒業研究までを通して、広い視野で自ら考え、適正で安全な薬物療法を支え患者さんの幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を涵養します。</p>
<p>教育力 (ブランド力) 「学修成果の可視化」の観点を含む</p>	<p>教育力の可視化 【学生の主体的な学びの対策】 DP (5)、CP1 (9) ・ 学生がゴールに向かう段階を意識し学習を進めることができるように、アセスメント・ポリシーを明確化して全学生に周知する。 ・ ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーおよびアセスメント・ポリシーとの整合性を検証し、必要に応じポリシーを改訂する。 ・ シラバスの記載内容が学生の主体的な学びをサポートしているか、各ポリシーとの関係性から検証する。 ・ 現行の卒業研究（特別研究Ⅰ、Ⅱ）ルーブリック評価について、観点・基準の妥当性および学生側の活用状況を検証する。</p> <p><取り組み状況と次年度への課題> 新年度の薬学科入学前ガイダンスおよび在学生オリエンテーションにて、資料「薬学部薬学科履修系統図」「薬学部薬学科ディプロマ・ポリシー（DP）とアセスメント・ポリシー」を配布し、その主旨と学習過程における重要性を説明した。周知・理解の程度を高めるため、次年度からも全学年を対象に毎年継続する。 ポリシー間の整合性は、アセスメント・ポリシー作成時および本学 web ページへのアップロード時に検証済であるが、今後の薬剤師に対するニーズの変化に対応して検証・改訂することとする。 シラバスの記載内容については、学科でチェックする担当の教員を決め、確認を行なった。ポリシーとの整合性には特に問題はなかったが、自主学習の内容と評価方法に関しては、より具体的な記載が求められる。 特別研究Ⅰ・Ⅱに対するルーブリック評価の観点は、シラバス記載の学習目標に基づき、ディプロマ・ポリシーとの整合性が確認されている。現在までに問題点は指摘されていないが、学生の活用状況については検証しておらず、その方法を含めて今後の課題である。</p> <p>【基礎国語力増進への対策】 CP1 (1) ・ 国語力が必要な必修科目（理科系作文法Ⅰ・Ⅱ）の講義で e-learning を積極的に活用し、有用性の高い運用方法を検討する。 ・ e-learning による国語の学習成果を可視化し、成績評価の一部として反映する。 ・ 統一試験での個々の学生の成績に合わせた効果的な学習項目を吟味する。</p> <p><取り組み状況と次年度への課題> 今年度も第1回および第2回統一試験（国語）の成績に従ってクラス分けを行い、理科系作文法Ⅰ・Ⅱの講義内で e-learning による国語の学習を行った。クラス毎に学生の学力に合った学習項目を設定し、約2週間毎に小テストを行って、その成績も単位認定の一部とした。また、全クラスを対象に理科系文章の特徴やレポート等の構成、作文指導等を行った。その結果、学年末の第3回統一試験（国語）において、成績が大きく向上（平均点；第1回 64.1点→第3回 77.1点）し、80点以上の学生の79%を下位クラスが占めるなど、特に下位クラスの学生の成績向上が目覚ましかった。 次年度は、今年度の成果の定着を図るとともに、e-learning 教材の学習項目の見直しや、理科系作文法のテキストの見直し等により、高校入試およびセンター試験レベルの学力が向上するようにさらに改善していく予定である。</p>

【国語以外のリメディアル教育への対策】CP1 (2)

- ・既存のリメディアル科目の科目構成および担当者の見直しを行う。
- ・学習者の能力に合わせた効果的な学習項目と運用方法を吟味する。
- ・リメディアル科目の効果的な学習方法を、学生が自ら見出すことができるように授業内容を検討する。

<取り組み状況と次年度への課題>

本年度も1年次必修科目「薬学数学」を前期と後期に計2回開講するとともに、クラス毎の学習課題と下位クラスの学習期間の見直しを行い、2週間毎に小テストを課して理解力の向上を図った。また、1年次後期「外書講読Ⅰ」の授業にe-learningを導入し、1週間単位でクラス毎の課題を課し、その学習状況を単位認定の一部とした。

薬学数学の下位クラスについては、昨年まで半期で学習していた内容を1年間に延長したが、最下位クラスについては期待通りの成果は得られなかった。このため、課題の内容や学習方法について再検討し効果的な運用を目指す。また、英語についても学習効果を高めるために、クラス毎の課題内容を再検討するとともに小テストの導入を図る予定である。

【国家試験合格率アップへの対策】 CP2 (14)

- ・薬学総合演習試験の結果をもとに、弱点科目・項目などについて分析し、その科目・項目克服の方策を練る。
- ・単位認定(卒業判定を含む)の厳格な基準を明示する。
- ・出席管理の厳格化な運用を目指す。
- ・6年生の各学習レベルに合わせた指導内容を検討する。

<取り組み状況と次年度への課題>

6年前期に薬学総合演習とは別に物理、分析および薬剤学を中心とした計算対策講座を2回実施した。また、昨年度に引き続き6年前期および後期では5年生時の基礎薬学実力試験結果および第1~4回までの薬学総合演習試験結果をもとに上位層、中位層、下位層と3段階に学生を分割した。中位層では学習内容確認票と学習項目一覧表の週1回によるチューターからの指導と下位層では毎日の指導を行った。さらに、後期では中位層のレベルアップ特別集中講義を3日間実施し、底上げを目指した。この結果、昨年度に比べて卒業率が上昇した。しかしながら、下位層の成績上昇はいまだ困難を極めている。次年度は、早期からの国試対策として苦手科目である物理・化学・生物の特別集中講義の計画や、これまでの計算対策講座の前倒しと回数を増やす予定である。

【学科教員の教育力アップの対策】 CP

- ・教員が教育の技法を高めるとともに、授業への取り組みを再考する機会となるように、講義、演習、実習およびグループワークなど様々な形態の授業について、教員相互の見学・参加を推進する。
- ・教員を期限付きで国内外を含め適切な医療施設・機関にて研修させ、最新の業務内容等を大学にフィードバックする。
- ・大学院生の学位取得率を改善させるため、各研究室のさらなる研究力アップを図る。

<取り組み状況と次年度への課題>

中核センターが主導する授業の相互見学を行ってきた。今年度のデータは集計中であるが、例年、見学を実施した教員は薬学科全教員の半数に満たない。見学の人数・回数を増やすために教員への周知を徹底させる。複数の教員が担当する総合学習Ⅰ・Ⅱは、学生とともに学習のあり方を考える機会となっている。担当以外の教員にもオブザーバー参加を推奨する。

教員の研修については、具体的に行われていない。今後、学科ぐるみで研修システムの構築を行っていく必要がある。

今年度の大学院生の学位取得率は50%であった。大学院生の主担当講座・研究室での研究力強化については、学科全体で研究力アップの流れの中で、大学院生やその所属教員の自覚を促したい。

【教育施設のレベルアップのための対策】

- ・文科省・厚労省等の補助金情報を収集し、積極的に応募を促す体制を構築する。

<取り組み状況と次年度への課題>

講義室、実習室のプロジェクター等の映像・音響システム老朽化に伴う更新が徐々に必要となっている。このため、薬学科として各教員からの情報を収集できる体制を構築する必要がある。その上で今後、補助金情報を収集し、積極的に応募を促す体制を構築する。

【就職率アップへの対策】 DP

- ・キャリアサポートセンターを積極的に活用する仕組みを構築する。
- ・社会人マナーやコミュニケーション能力の向上を目指した企画を模索する。
- ・早期からキャリア教育を推進する。

<取り組み状況と次年度への課題>

就職面談会、企業の個々の説明会やインターンシップ等の日程がユニバーサルサポートを通じてキャリアサポートセンターから学生へ配信されているため、学生が積極的にキャリアサポートセンターを活用できる機会を増やしている。イベントとしては、薬学科5年生を対象にした就職面談会、薬学科3年生を対象とした仕事説明会を実施した。また、専門の講師による就職活動前の学生を対象とした「インターンシップガイダンス」「就職情報サイト登録説明会」「自己分析講座」「SPI対策講座」「合同企業説明会回り方講座」など、昨年よりもさらに充実させたイベントを計9回実施した。その他、公務員試験対策講座(全3回)も開催した。さらに、全学年全学科を対象に「WorkGafeのべおか」(全2回)や「ひなた就活女子会」など、現場で活躍する宮崎出身の若手職員と気軽に話のできる場を提供し、職業理解やキャリア意識醸成を支援してきた。

次年度は、さらに各教員が学生に就職手続きの詳細説明や面接対応を行っているキャリアサポートセンターの積極的な利用を喚起するとともに、成績不振学生への就職活動の推進と通じて「卒業したい意識」を高めて、キャリアサポートセンター利用につなげるよう努力する予定である。

【学生生活サポート対策】

- ・学生の相談内容に応じた学内各部署(学生課、教務課、保健センター等)との連携体制を構築し可視化する。

<取り組み状況と次年度への課題>

学生の体調に関する情報が、チューターと各部署間で共有され、並行してチューターから学科教員へメールで提供され、科目担当教員には有益な情報となった。特に心身に関する相談事例ではプライバシーへの配慮が必要であり、連携対応については検討が必要である。

ハラスメント関連の事項については、学科ハラスメント委員会から学科長への迅速な連絡体制を構築して、学科長が予防的な対応も含めてその対応に当たることとした。

【退学者防止対策】

- ・学生の長期間無断欠席の回避を図るための学科内対策を構築する。
- ・学生課やキャリアサポートセンターと協力・連携して学生へ奨学金等の推薦を通じた経済的支援体制を構築する。
- ・縦断的な学生同士の繋がりを強化する体制を築く。

<取り組み状況と次年度への課題>

長期無断欠席となる学生は、学力や精神面に問題を抱えていることが多い。そのような学生についてはチューターが個別に対応している。学科として対策を構築するには至っていない。

医療機関や企業からの奨学金の情報をキャリアサポートセンターへ集約し、学生に提示してきた。今後も継続して学生支援に活用する。

薬学科では毎年、チューター学生単位でチームを編成するスポーツ大会を開催し、また新入生の合宿研修には上級生がボランティアとして参加してきた。学生間の縦の繋がりはかかるこれらのイベントを今後も継続する。グループ学習など学習面での繋がりは、時間割との関係上実施が困難であると考えられる。

【学生指導力の向上】

- ・学生の価値観、気質、能力を配慮したきめの細かい指導や対応を行うことを目指す。

	<ul style="list-style-type: none"> ・講義や実習、チューター面談を通して、学生個別の適性およびモチベーションを見極め、学生生活における問題の早期発見に努める。 <p><取り組み状況と次年度への課題> 学生のメールや来室による成績・進路相談への対応や、チューター、科目担当教員による能動的な学生指導や面談の事例が多数あった。取り組み状況は良好と思われるが、学生指導に当たる教員の資質は個々に異なり、指導力向上を見極めるには何らかの指標化が必要と考える。</p> <p>実習科目のみならず、講義科目においてもグループでの討議・課題作成を通して、学生の主体性、協調性を把握できる科目がいくつか設けられている。しかし前項の退学者防止対策と同様、対応はチューターや科目担当教員に留まっている。全教員で学生個々の問題点を共有し検討する機会が必要となる。</p> <p>【社会人としてのマナー対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生へ積極的な挨拶を促し、学生間における挨拶・礼節の実行も含めて、各教科・実習の態度にその評価結果を反映させる。 ・ハラスメント委員を増員してチューター教員との関係を密にして、初期の問題行動を共有してハラスメント委員や学科長から即時個別指導を行う体制を構築する。 <p><取り組み状況と次年度への課題> 教員から学生に対して積極的に挨拶を実施することを申し合わせるとともに、学生にも挨拶の励行を指導した。実施状況はおおむね良好と思われるので、今後も継続する。各教科・実習の態度への評価の反映については、教員各自に委ねており、今後も継続して実施していく。</p> <p>今年度は、大きな学生の問題行動は見られなかった。細かい問題行動については、ハラスメント委員間とチューター教員または学科長を中心に適切な指導を行った。</p>
募集力	<p>【学科入学定員確保のための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、薬学科のアピールポイントをまとめ、高校訪問、土日見学会、オープンキャンパス等で活用する。 <p><取り組み状況と次年度への課題> 下の項目に示した各種の入試広報用資料を適宜活用している。 オープンキャンパスや土日見学会の来場者からは好感触が得られているが、来場者数は減少傾向にある。そこで今後はそれらのイベントに足を運んでもらうことを第一義とした広報活動を行う。</p> <p>【学科の魅力発信】 AP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬学科志願者を増やすために、薬剤師の魅力ややりがい、将来の展望などに関する情報を積極的に収集し、中高生を中心に広く発信する（ニーズの拡大）。 ・学科教育力の高さを客観的に示すために、これまでの卒業生の成績や合格実績などのデータを整理し、数値化・可視化する（本学科のアピール）。 ・効果的な情報発信を行うために、入試広報用コンテンツを統一するとともに、学科のアピールポイントやFAQ等を学科教員間で共有する。 <p><取り組み状況と次年度への課題> 活字媒体として、学科パンフレット（出前講義やオープンキャンパス等で配布）、合格者へのメッセージ（合格者向けの書類に同封）を作成した。合格実績や教育力を示すためのデータを解析し、前述の資料にわかりやすく記載した。出前講義等で使用するための学科共通スライドを作成した。</p> <p>作成した資料はそれぞれ適宜活用している。今後は、より訴求力のある資料を作成し、それを適切に活用することにより、一人でも多くの来学者・受験者・入学者の確保につなげたい。</p> <p>薬学部への志願者の増加を目指して、宮崎県薬剤師会と共に中学生あるいは低学年高校生と保護者向けの薬学や薬剤師に関する説明会を企画している。</p>
研究力	<p>【学科教員の研究力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学術論文：筆頭著者あるいは責任著者が各講座・研究室教員である英語論文を、各講座・研究室単位で少なくとも毎年2報発表する。 ・学会発表：筆頭著者あるいは責任著者が各講座・研究室教員である学会発表を、各講座・

研究室単位で少なくとも毎年4報発表する。

- ・研究発表会：研究促進委員会を設立し、年3回、薬学棟各階の講座・研究室単位で学生を交えて研究発表会を行い、各講座・研究室の研究成果の進展度を可視化する。
- ・可視化した研究力に基づいて、薬学科の研究費配分に反映するシステムを構築する。
- ・薬学科講座・研究室間、あるいは、学科間での共同研究活動を推進する。

<取り組み状況と次年度への課題>

今年度の取り組みとして、研究成果発表（学術論文および学会発表）に関しては、目標に到達できていない。研究発表会に関しては、計画通り実施している。研究促進委員会が設立され、委員会主導で研究発表会「宮崎県北サイエンスフォーラム」が実施された。この発表会は、各講座・研究室の研究成果の進展度を相互に把握する好機となった。なお本研究発表会は、下記のビジョン「地域連携力」に後述するように、地域連携力アップにもつなげる目的で、市民や企業にも公開された。薬学科の研究費配分に関しては、今年度は計画通りに実施できていない。講座・研究室間、学科間での共同研究活動に関しては、数件行われ、一部の成果が学術論文として発表された。

次年度への課題として、研究成果発表に関しては、学科教員個人が、教育・研究職として就任しているという自負を改めて持ち、教育や社会貢献等の用務が多い日々においても就業時間を有効に活用してより一層懸命に研究を進め、発表していくことが求められる。研究発表会に関しては、次年度も今年度と同様に実施していく。研究費配分に関しては、可視化された各講座・研究室の研究力（学術論文、学会発表、外部資金獲得状況、上記研究発表会での進捗報告等のエビデンス）に基づいて、計画通り傾斜配分を実施する。共同研究活動の推進に関しては、次年度も今年度と同様に研究発表会等を通じて各講座・研究室の研究成果を学科内や他学科と共有し、互いに連携を図りながら実施していく。

【研究施設のレベルアップのための対策】

- ・学科内で共通機器や実習機器等の更新機器に優先順序を付けて、計画的に機器更新を図る体制を構築する。
- ・大学内での高額共同研究機器の獲得やその共同使用・維持システムを構築する。
- ・学科内の共通機器や実習機器等の管理者を明確にし、定期メンテナンス報告や研究成果を上げる効果的な使用方法等についての情報を共有する。
- ・学科内の共通機器室の掃除を定期的実施し、研究機器の不具合を確認するとともに実験室の環境美化保持に努める。
- ・製造業者や代理店が企画する公開セミナーやWebセミナーに積極的に参加し、学会内に設置してある研究機器の活用例や関連最新機器の情報を広く収集する。

<取り組み状況と次年度への課題>

4月に薬学科研究環境整備委員会で共通機器や実習機器等の更新機器に優先順序を付け、計画的に機器更新を図る体制を構築した。今年度は、長年の更新要望が出ており、かつ学科予算内で実行可能な機器を最優先した。具体的には、6月に凍結乾燥機、9月に超純水製造装置、1月に高速冷却遠心機を更新した。更新できなかった機器は次年度の更新を検討する。

大学内での高額共同研究機器について、共同使用・維持システムを構築するために、4月の学科会議やオリエンテーション時にて、共通機器の使用ルールや廃溶媒、医療廃棄物の区分について薬学科教員、大学院生、5,6年生に資料を配布、説明した。高額共同研究機器の獲得については、研究助成金情報を全教員で精力的に情報獲得、発信、応募していく必要がある。

4月の学科会議で共通機器管理講座一覧を配信することで、学科内の共通機器や実習機器等の管理者を明確にした。また、定期メンテナンス報告、修理点検の案内を管理講座からグループメールにより随時配信された。研究成果を上げる効果的な使用方法等については、グループファイル管理にてマニュアル等の更新により情報共有がなされた。

8月、3月に全講座協力体制のもと、学科内の共通機器室の掃除を実施し、研究機器の不具合を確認するとともに実験室の環境美化保持に努めた。

本年度は一部の教員が、公開セミナーやWebセミナーへ積極的に参加したようであったが、より活発な情報交換をしていく必要がある。また、全教員がより精力的な研究活動を行い、学会等で研究機器の活用例や関連最新機器の情報を広く収集する必要がある。

【外部研究資金獲得のための対策】

- ・科学研究費等の競争的資金や寄付・委任経理金等：これらの資金獲得のために、各講座、あるいは、研究室単位で毎年申請を行う。

	<p><取り組み状況と次年度への課題> 薬学科の今年度科研費採択数は9件、受託事業は1件、共同研究は1件、受託研究は7件、特別寄付は9件であった。科研費以外の競争的資金情報の連絡については回覧している。しかし、まだ研究費の応募さえしていない講座・研究室があるので、その促進を図りたい。</p>
地域連携力	<p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬学科の研究力を定期的に地域に開示・発信する。 ・開示した研究力を基盤とした地域連携産官学プロジェクトの構築を行う。 <p><取り組み状況と次年度への課題> 地域連携力をアップするために大学と地域とが接触する機会を増やす必要があると考えられた。具体的な対策として、薬草園では今年度、これまで年2回だった薬草園講演会を年3回に回数を増やし、大学で次年度への対策としては、より広報活動を充実させ、参加者人数を増やしていく努力が必要である。</p> <p>のべおか6次産業化農商工連携推進会議を通じ、延岡市内の薬草栽培生産者に対してサフランおよびムラサキの栽培研究結果を発信した（2019年7月18日）。今後は生産者が抱えている栽培時の課題や問題点を抽出し、研究をすすめるとともに、他の需要がある品目についても研究をすすめていく必要がある。</p> <p>のべおか市民大学院にて地域住民に対して薬草栽培に関する研究成果を発表した。地域住民からは薬草栽培のはじめの研究内容の発表や薬用植物を活用したアイテムづくり等を通じて薬学の情報を発信した。方に関する質問があった。この講演をきっかけに薬草栽培に取り組む人も出るなど、実際の連携につながった事例であった。</p> <p>延岡市都市計画課と連携し、延岡市花と緑のまちづくり推進協議会に対して薬草栽培に関する講演を行った（2019年7月29日）。参加者からは延岡市内の景観保持のため、観賞用の植物を植えるだけでなく、薬用植物についても検討しようという意見が得られた。</p> <p>延岡市工業振興課と連携し、東九州ものづくり交流展にて薬用作物栽培に関する展示・説明を行った。県内外から集まった多くの来場者に対して薬用作物栽培の研究結果を発信するとともに、延岡市近郊から集まった出展企業に対し、本学の研究内容をアピールし、共同研究への可能性を模索した。</p> <p>「宮崎県北サイエンスフォーラム」を2回企画して、学科の研究成果を高校生や県北企業へ発信した。</p>
総合力	<ul style="list-style-type: none"> ・アドミッションポリシー（AP）に掲げている「信頼される有能な薬剤師」としての豊かな人間性と医療人としての高い潜在能力を有する専門職育成を目指して、精力的に学生募集を行い、定員充足を目指す。 ・ディプロマポリシー（DP）の実現を念頭に、アセスメントポリシーを充実してカリキュラムポリシー（CP）の実践に取り組み、卒業まで一貫した統合薬学教育を行う中で100%進級を目指す。 ・学科内の研究力の充実を目指し、研究成果を学外に発信し各種研究費の獲得や地域連携強化を図る。
3つのポリシーからの総評	<ul style="list-style-type: none"> ・アドミッションポリシー（AP）に掲げている豊かな人間性と医療人としての高い潜在能力を有する専門職育成を目指して、精力的に学生募集を行い、定員充足を目指したが、本年度の学生募集状況が良くない。今後は学科一丸となって九保薬学の特徴を創出して、それを広範に発信する方策を具体的に検討する必要がある。 ・アセスメントポリシーの充実により、ディプロマポリシー（DP）とカリキュラムポリシー（CP）の関連がより明確になり、卒業まで一貫した統合薬学教育を行える体制の基礎が構築できた。今後は、この体制を学生・教員に周知・浸透されることにより、100%進級を目指した教育を行う。 ・「宮崎県北サイエンスフォーラム」や薬草園事業等で地域連携力のアップを図り、また、共通機器更新を含めて学科内の研究力の充実に努めた。まだ成果は十分に得られておらず、今後も研究成果を学外に発信し各種研究費の獲得や地域連携強化を図る必要がある。
次年度への展望（まとめ）	<p>学生募集対策、留年生対策（退学者対策）、研究力の充実は本学科の抱えている大きな課題である。これらの課題に対して、教員一人一人が真摯に向き合い、学科一丸となってそれらの解決策を模索する必要がある。このためには教員間の和・信頼が大切であることは言うまでもない。薬学科教員の奮闘あるのみです。</p>

九州保健福祉大学 薬学部 動物生命薬科学科

2019年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

<p>ビジョン (教育目標)</p>	<p>九保大だから学べる 「薬に強い動物・動物性食品の専門家」として人々の幸せをプロデュースできる能力を身につけた人材を輩出する。</p>
<p>学科からの メッセー ジ</p>	<p>動物生命薬科学科の教育目標は、動物看護師統一認定試験（将来の国家試験）合格や実験動物1級技術者認定試験合格のもと先にあります。現在、“地域創生”に至る国策の一つとして、産業動物や食の安全とそれに基づく関連産業の発展が求められています。本学では、入学後の基礎科目から4年次の卒業研究までを通して自ら考える力を高め、動物、医薬品および動物性食品に関連した「薬に強い動物看護師」、「薬に強い実験動物技術者」、「動物・薬・食に詳しい学芸員」、「食品衛生管理者・食品衛生監視員」として活躍できる専門知識を習得すると共に、さらに人々の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を涵養します。</p>
<p>教育力 (ブランド力) 「学修成果の可視化」の観点を含む</p>	<p>(2019) 【学生の主体的な学びの対策】DP CP1〈2〉CP1〈3〉CP1〈4〉CP2〈8〉CP3〈15〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントポリシーを明確化して全学生に周知する。 ・飼育当番、臨床実習及び卒業研究について、問題解決能力を高める指導方法により学生の思考能力を高める。 ・卒業研究レポートのルーブリックを作成、運用する。 ・半期あるいは通年 GPA をチューター面談に活用し、学修成果を確認・指導する。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉 アセスメントポリシーについて検討・吟味した。飼養・管理・疾病対応などを含む動物飼育当番、臨床実習及び卒業研究について、問題解決能力を高める指導方法により学生の思考能力を高めた。卒業研究レポートについては、従来からの評価項目、評価基準にしたがって評価を実施、冊子として学科保管した。GPAは進級判定あるいは資格取得判定の基準など学修評価として活用、それに基づきチューター面談時に学生を指導した。</p> <p>【基礎国語力増進への対策】CP1〈1〉CP2〈10〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・e-learning（すらら-国語）を積極的に活用し、学修成果を可視化、有用性を検討する。担当者は、適応時間数に合わせて学生に学習させる項目を吟味する。 ・科目「文学」により学生の国語力を高める。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉 新入生に対しては「すらら-国語」を実施した。不定期ではあるが、各学生の進捗度を調べ、課題達成率を各学生に周知し、参加を促した。多くの学生の最終試験結果は初回に比べて向上していた。また、新入生に対しては、科目「文学」を活用、国語力を高めた。 次年度も1年生は「すらら-国語」を活用、課題達成率が低い学生に対しては、補講を追加する。2年生は科目「文学」による取り組みを継続する。</p> <p>【国語以外のリメディアル教育への対策】CP1〈6〉CP2〈10〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語は英語村の活用により実施 1～4年生の学年ごとに週1回以上の定期的受講を推奨する。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉 英語は英語村を活用、自主的に学習能力を高めた。1年生に対しては英会話入門コース、また、主に4年生を対象としたTOEFL対策クラスへの定期的な受講・参加を促した。このクラスの一部の学生においては著しい成績向上が認められた。次年度は、全学年において、活用人数のさらなる増加を図る。</p> <p>【資格試験合格率アップへの対策】CP2〈7〉CP2〈12〉CP3〈11〉 認定動物看護師及び実験動物1、2級技術者の資格試験対策について全て対策が記載されている「学修マニュアル」に従って実施する。 動物看護師統一認定試験受験対策については、作成したロードマップに従って実施する。</p>

〈取り組み状況と次年度への課題〉

学修マニュアル並びにロードマップに従って、認定動物看護師においては、自主学習の推進・確認、模擬試験（過去問活用など）の実施にて合格率アップの対策を実施した。

認定動物看護師試験実施日は3月1日（日）。8名受験予定。なお、昨年度の合格率は100%（14/14）と優れていた。

実験動物1級技術者においても学修マニュアルに従って、筆記試験においては学習習熟度の確認試験、実技試験は技能習得度の確認試験を複数回実施し、合格率アップの対策を実施した。本年度の実験動物1級技術者は60%（3/5）であったが、過去3番目に高い合格率であった。次年度も学修マニュアル並びにロードマップに従って、試験対策を引き続き実施する。

【学科教員の教育力アップの対策】CP1 CP2

- ・学科FD（学科教員研修会）を実施する。
- ・授業に関する相互見学を勧奨する。
- ・学位取得、論文作成並びに学会・研修会等への参加を推奨する。

〈取り組み状況と次年度への課題〉

学科FDは未実施。授業に関する相互見学は推進した。学位取得に関しては、助教1名が本学大学院医療薬学研究科医療薬学専攻 博士課程にて博士（医療薬学）を取得した。学会・研修会等への参加、最新の知見を積極的に入手した。

次年度は、学科FD研修の実施、授業の相互見学、学位取得並びに学会・研修会等への参加、論文作成を推奨する。

【教育施設のレベルアップのための対策】

- ・科学研究費などの競争的外部資金に応募する。
- ・認定動物看護師の公的資格化にむけて施設設備の整備を検討する。

〈取り組み状況と次年度への課題〉

科研費等の競争的外部資金には応募をしたが、採用には至らなかった。次年度も競争的外部資金に応募する。

本年度、愛玩動物看護師法が公布（2019年6月28日）され、「愛玩動物看護師」が国家資格となることが決定、今後、遅くとも2023年までに最初の国家試験が行われる。昨年度は回診用X線撮影装置を購入、本年度は超音波診断装置などの調査を継続したが、購入には至らなかった。次年度も施設設備の調査を継続し、さらなる充実を図りたい。

【就職率アップへの対策】DP CP2〈11〉CP2〈12〉

- ・担当教員及びチューターの面談指導等を行う。
- ・キャリアサポートセンターとの連携を密に行う。
- ・インターンシップへの参加を促す。
- ・公務員模擬試験を活用する。

〈取り組み状況と次年度への課題〉

担当教員及びチューター面談指導を行った。また、キャリアサポートセンターと連携を密にして学科内での就職説明会の開催、企業人事担当者との面談等を行った。インターンシップへ積極的に参加する学生が認められた。公務員模擬試験の活用は希望者がなく、できなかった。

次年度も引き続き、チューターを中心とした個別面談、キャリアサポートセンターとの連携を密にして学生の就職先の希望動向、求人情報などを共有する。公務員模擬試験への活用を促す。

【学生生活サポート対策】

- ・一般に、チューターと担当学生が参加する研究室会や個別面談、又はこれに代わる方法により、チューターの学生に対する指導を実施する。
- ・特定の学生には、保護者とのコミュニケーションを取りながら、健康管理センターを活用して学科長及び各チューターが指導する。

	<p>〈取り組み状況と次年度への課題〉 チューターを中心とした個別面談にて学生指導、学生課ならびに健康管理センターとの連携による学生指導を実施した。また、1年生全員を対象に宮崎県消費生活センターによる出前講義を開催した。次年度も引き続き、チューターを中心とした個別面談、学生課ならびに健康管理センターと連携を密にした学生指導を実施する。また、外部講師による講演を実施する。</p> <p>【退学者防止対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務課並びに学生課と協力・連携、早期のチューター面談にて対策する。 ・チューター会は低学年と高学年との合同で開催し、学年間の縦断的交流を図る。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉 教務課からの授業出席状況の情報、学生課からの情報提供に基づき、早期のチューター面談にて対策を行った。また、精神的な問題を抱えている学生に対しては、健康管理センターと連携し、カウンセリングを実施した。チューター会は、全学年との合同で開催し、学年間との縦断的交流を図った。次年度も本取り組みを継続する。</p> <p>【学生指導力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生がもつ諸問題に対して、保護者とのコミュニケーションを取りながら、学生一人ひとりの適正およびモチベーションを見極めた上で、適切な指導を行う。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉 チューター面談並びに講義等を通じ、諸問題をできるだけ早期発見し、指導を行った。次年度も本取り組みを継続する。</p> <p>【社会人としてのマナー対策】 DP3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員から学生への積極的な挨拶運動を実施する。 ・学外実習の事前指導及び飼育実習によりマナー対策を実施する。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉 挨拶運動については教員から積極的に挨拶をするとともに、学生に対しては挨拶の励行を促した。また、動物病院、牧場、農業共済組合あるいは博物館への学外実習の際には、事前指導及び飼育実習によりマナーを指導・実施した。次年度も本取り組みを継続する。</p>
募集力	<p>【学科入学定員確保のための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職、各種資格試験、大学院進学、留学などの実績を広報できるだけの教育を継続する。 ・これら実績を高校訪問、土日見学会、オープンキャンパス、入試広報パンフレットなどで活用する。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉 オープンキャンパス、土日見学会などで、就職、各種資格試験結果、進学などの実績、また、本年度「愛玩動物看護師法」が公布され、動物看護師が国家資格「愛玩動物看護師」となることを強調した広報活動を実施した。支局長による高校訪問に学科教員も同行した。また、静岡県以北の高等学校約2,000校に入試広報室と連携して学科のFAX広告を発信した。次年度は、上記の継続と、新入生に対しては、本学科をどのようにして知ったか、FAX広告の効果を知るなどのアンケート調査を実施する。</p> <p>【学科の魅力発信】 AP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職、資格試験、進学、留学などの実績を整理(数値化)・可視化し、広報活動に活用する。 ・野生動物教育プログラムを広報活動に活用する。 ・動物看護師の公的資格化に関する情報を広報活動に活用する。 ・フィリピン国立大学獣医学部への編入留学制度を広報活動に活用する。 ・社会で活躍している卒業生の情報を収集、広報活動に活用する。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉 学科の学修マニュアル内並びに学科パンフレットなどで学科の実績を整理(数値化)、見学者などへの広報資料とした。学芸員養成課程において延岡市内で開催した企画写真展、また、野生動物教育プログラムを実施、広報活動に活用した。さらに、国家資格となる「愛玩動物看護師」については、今後、遅くとも2023年までに最初の国家試験が行われる等について動物看護師の魅力などを広報活動に活用した。フィリピン国立大学獣医学部への編入制</p>

	<p>度並びに卒業生の情報も学科パンフレット等で広報活動に活用した。次年度も本取り組みを継続する。</p>
研究力	<p>【学科教員の研究力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学術論文発表、学会発表並びに学会・研究会への参加を推奨する。 ・ 学位（博士）取得を推奨する。 ・ 学科内あるいは他学科との共同研究活動を推進する。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉 学会・研究会への参加は多いものの、学術論文発表は少なかった。本年度、助教1名が本学大学院医療薬学研究科医療薬学専攻 博士課程にて博士（医療薬学）取得した。学科内あるいは他学科、あるいは他大学との共同研究は少ないものの実施した。次年度も本取り組みを継続する。</p> <p>【研究施設のレベルアップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業セミナーあるいは学会・研究会等に参加し、最新研究機器の情報を広く収集する。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉 実験動物受託機関では国内トップ企業（一部上場）の見学、企業セミナー、学会・研究会等に参加し、最新研究機器・施設の情報を幅広く収集した。次年度も本取り組みを継続する。</p> <p>【外部研究資金獲得のための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 科学研究費などの競争的外部資金へ応募する。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉 科学研究費の新規採択は無かった。継続の科学研究費1件、共同研究は3件実施中。次年度も本取り組みを継続する。</p>
地域連携力	<p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実施可能な地域連携プロジェクトの調査を行う。 ・ 市民大学講座などで本学科の教育・研究の成果などを発信する。 <p>〈取り組み状況と次年度への課題〉 地域連携プロジェクトの実施は無かった。市民大学講座では2講演を実施、学科の教育・研究成果を発信した。次年度も本取り組みを継続する。</p>
総合力	<ul style="list-style-type: none"> ・ デイプロマポリシー（DP）に掲げている動物及び薬の専門職としての基礎的学力と、臨床、研究等の職業的現場に対応した知識・技能・態度を修得することができた人材育成を目指し、就職率、資格試験合格者を外部に発信できるだけの教育を継続する。 ・ 高い就職率並びに資格試験合格率、動物看護師の国家資格化、さらにフィリピン国立大学獣医学部編入留学制度など、学科の魅力を学外に発信することで、入学定員の充足を目指す。
3つのポリシーからの総評	<p>アドミッションポリシー（AP）には動物と薬に関する専門性の高い職業への就業意欲、基本的な国語力、英語力並びに生物学の知識を修得した学生を掲げているが、その就業意欲並びに知識・能力には学生間で大きな幅がみられる。本学科で取得できる認定動物看護師資格は民間資格であり、また、就職動向を考慮すると必ずしも学科の「柱」なる資格では無く、単に複数取得できる資格の一つであった。しかし、本年度、「愛玩動物看護師法」の公布により動物看護師の国家資格化（呼称は愛玩動物看護師）が明確となったことから、今後は本資格を柱とした学生募集を実施したい。本年度、現行の認定動物看護師（民間資格）受験資格を得るためにカリキュラム変更したが、今後、国家試験受験の指定登録機関にむけて、本学が所属する一般社団法人 日本動物保健看護系大学協会と協働してカリキュラム変更する。これら変更に伴い、3つのポリシーを整合していくことが必要となる。ディプロマポリシーに掲げた人材を育成する基盤として、基礎学力の向上が必要で、現在実施している「すらら」等のリメディアル教育の学生への周知を徹底する必要がある。</p>

<p>次年度への展望 (まとめ)</p>	<p>本年度、「愛玩動物看護師法」が公布、遅くとも令和4年6月27日までに施行され、動物看護師が念願の国家資格となる。九州圏内の大学では唯一、国家資格「愛玩動物看護師」が取得できる学科にふさわしい教育並びに施設設備の充実を図り、この特徴を学生募集に活かしたい。本学科では留年生はほとんどないが、退学者では精神的な面での支援が必要な学生が散見され、その対策としては、早期のチューター面談並びに健康管理センターと連携を密としたカウンセリングを積極的に活用したい。また、将来の目標が定まらない学生に対しては、早期からキャリアサポートセンターと連携して指導、対策をしていくことで、学生一人一人のモチベーションの向上並びに目標設定を明確にさせたい。</p>
--------------------------	---

九州保健福祉大学 生命医科学部 生命医科学科
 2019年度 第2期 中期目標・中期計画 〈3つのポリシーを踏まえて〉

ビジョン (教育目標)	九保大だから学べる「高度な倫理観と専門知識を持った臨床検査のスペシャリスト」として、人々の幸せをプロデュースできる能力を身につけた人材を養成・輩出する。
学科からの メッセージ	生命医科学科では、インターナショナルでグローバルな視野に立った教養と生命医科学の専門性の高い知識および技術を修得し、医療専門職たる細胞検査士、臨床検査技師または生命医科学者として活躍できる実践力を有し、自律的行動力、問題解決能力、かつ自己研鑽力などを身につけた人に対して学位を授与するというディプロマ・ポリシーを掲げている。すなわち、細胞検査士認定試験や臨床検査技師国家試験に合格することはもちろん、その後社会に出て、患者様からも医療従事者からも、あるいは研究者からも信頼され、尊敬されるような人材を育成することを目指す。
教育力 (ブランドカ) 「学修成果の可視化」の観点を含む	教育力の可視化 【学生自ら考える力のアップへの対策】DP(4,5)、CP1(3,5) 卒論評価用ルーブリックの策定し、実施計画を立案する。具体的には、卒論評価用ルーブリックの作成、卒業評価用ルーブリックに基づいた卒業研究指導マニュアルの作成、卒業研究発表会の計画立案などを実施する。現在実施している卒業研究発表においては、内容とともにプレゼンテーション技術の向上も図れるよう計画を立てる。 実習または演習科目で積極的にアクティブラーニングを導入する。現在アクティブラーニングを実施している臨床免疫学実習Ⅰを継続しつつ、アクティブラーニングを採用する科目を積極的に増やす計画を策定する。その一環として系統講義をベースにアクティブラーニングを導入する手順を明確化する。アクティブラーニングを導入した科目は効果的なSGD (small group discussion)を計画し、グループごとに成果発表をさせる。学生が自ら学ぶための様々なアイデアをまとめ、具体的な指針案を策定する。 【基礎国語力増進への対策】CP1(1) 国語力増進を図るために、講義・実習で積極的なレポート作成を課し、提出させる。提出したレポートについては、必ず教員が添削しフィードバックする。 さらに e-learning の「国語」を活用し、中学校から高校までの基礎的な国語を復習させる。 【国語以外のリメディアル教育への対策】CP1(1,2) 「リメディアル教育は、学生への「自立支援」が目的であり、学生の学力レベルに適合した、より身近なリメディアル教育実践の環境作りを行う」とする教育モデルを構築する。入学時から学力レベルの確認を実施しつつ、これに合った、基礎科学、選択科目の段階的受講モデルを学生に提案、推奨する。すなわち、 ① e-learning「数学」: 基礎科目「物理学」において活用する。 ② e-learning「英語」: 基礎科目「英語Ⅰ」において活用する。 ③ 「化学」の基礎知識、基礎計算の学習: 基礎科目「化学」及び「生化学」で積極的に実施する。

④「生物学」の基礎知識の学習:基礎科目「生物学」及び「生化学」で積極的に実施する。

⑤「物理学」の基礎知識の学習:基礎科目「物理学」で積極的に実施する。

必要に応じて、担当教員が個別指導を実施するとともに、上級生から下級生への学生による学習サポート体制を構築する。

【国家試験合格率アップへの対策】CP2(12)

■国家試験対策の指導方針

①国家試験は200問中120点以上(60%)で合格であるが、近年、基礎を問う問題が多く出題される傾向にあり、1年次からの授業の内容が国家試験につながる。よって、新入生に対しても国家試験対策を十分意識させる。

②国家試験勉強では、暗記すべき項目・分野が多岐にわたることから、日々の授業をきちんと聴き、実習にも真面目に取り組む姿勢を徹底させる。

③本格的に国家試験対策の勉強を始めるのは臨床実習が終わってからとなる。出題傾向に若干の変化が見られたとしても、過去問をしっかり研究していれば、合格基準である60%に十分手が届く。そのために、間違った問題に対して、何故そのような経緯に至ったのかについて理解させる。

■合格のための学習指導

①4年生進級時には、卒業研究と並行する形で、国家試験の主要7科目の基礎学力向上のための講義を展開し、合格に必要な基礎学力・学習方法を習得させる。

②国家試験の模擬試験を、学生の学力習熟度をみながら年間10回程度受験させ、チューターを中心にきめ細やかな指導を行う。

【学科教員の教育力アップの対策】CP

教員の教育力は学生の教科に対する理解に大きく影響し、ひいては国家試験や認定試験の合格に直結するのは自明の理である。教員が自身の教育力がどの程度のものであるのかを客観的に知ることは、なかなか難しいものがあるが、すでに当大学でも実施されている2つの項目、すなわち「学生アンケート」、および「他教員の講義の見学」を活用することで、それがある程度達成されるものと考えられる。

学生アンケートでは、個々の教員の講義について「良い点」と「悪い点」が率直に反映されている。個々の教員が、自身の評価だけではなく他の教員の評価も閲覧できる体制を取り、特に学生の評価の高い教員の講義を積極的に参観することを改めて周知徹底する。実際に参観することで、自身の講義の悪い点を虚心坦懐に分析し、他教員の良い部分を反映させ、教育力アップに努める。

ただ、学生の評価が教員の教育力の評価の全てではないことは事実である(厳しい教員には厳しい評価 etc.)。そこで、もう一つの指標として、国家試験や認定試験の「分野別の得点率」が挙

げられる。教育の成功は、学生の満足度以上に、アウトプット(結果)が重要である。例えば、非常に厳しい授業で学生の評価が低い科目であっても、最終のアウトプットである国家試験や認定試験の得点率が高ければ、その講義は成功であると評価できる。この分野別得点率の分析の各教員にフィードバックすることで、教育法の改善につなげていく試みを実施していく。

【教育施設のレベルアップのための対策】

アクティブラーニング(AL)のための教員と学生、あるいは学生同士の活発なコミュニケーションの環境を構築する。グループワークのための適切なメンバー数と距離を持つ空間フレキシビリティを導入し、学生の五感に訴えかけるAL専用のスペースを整備する。具体的には、学習発表をスムーズに行うための大型スクリーンの設置、インタラクティブボードの設置、グループワークと個人学習のどちらにも最適化した勾玉型や台形型のテーブルを設置する。これらの環境整備には、設備投資が必要となる。文科省・厚労省等の補助金情報を収集し、積極的に応募を促す体制を整える。また、豊かな人間性と高度な倫理観・専門知識を持った臨床検査のスペシャリストを養成するためには、教育に必要不可欠な医療機器等の更新、さらには教養図書および専門図書のさらなる充実化を図る。

【就職率アップへの対策】DP

キャリアサポートセンターと綿密な連携関係を構築し、高い就職率を目標とする。宮崎県、九州地区、西日本の医療施設に、九州保健福祉大学生命医科学部生命医科学科の卒業生をアピールする方策を立案し、計画的に実施する。早期実施が可能な項目を洗い出し、できることから実施する。履歴書作製・面接対応などを指導する。特に、地域に関わらず細胞検査士・臨床検査技師が活躍できる医療施設へ積極的に出願するよう入学時より学生に指導する。

【学生生活サポート対策】

生命医科学科の学生生活の指針を策定する。4月の新入生ガイダンスで、入学生に生命医科学科の学生生活の指針を提示し、それを徹底する。学生課、教務課、健康管理センターほかとの連携をはかる。チューターを中心に学科教員全員が個々の学生の動向に注意を払う。特に昨年より実施している、欠席や遅刻の頻度の高い学生の「学科全体」でのフォロー等について継続的に取り組む。また、定期的に学生に対して学科独自のアンケートを実施して、問題点の洗い出しを行い、可能な限り、善処する。

これらの情報は学科全員の教員で共有し、新入生から4年生の全員卒業を目指す。

学生に健康管理センターほかの相談窓口を周知徹底する。4月の新入生ガイダンスで、メンタルヘルス(メンタル症状)を紹介する時間を設ける。学科教員が積極的に生命医科学科の学生に声をかけるようにする。今後はアーリー・エクスポージャーを1年生の内に取り入れ、将来を見据えた具体的な将来像としての臨床検査技師を意識させたい。

【学生指導力の向上】

① エビデンスに基づく「早期支援システム」のPDCAサイクルを強化する。

	<p>② 基礎学力の向上と、学力不足を解消するために、入学前にアドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを基盤にしてロジカル・コミュニケーションや e-ラーニング教育を積極的に導入し、初年次の基礎学力教育に力を入れる。さらに、専門教科との接続をはかる。</p> <p>③ 入学後にコーチング・フォローの徹底化をはかる。</p> <p>④ 専門課程では演習形式の授業を積極的に行い、アクティブラーニング型授業を取り入れ、ステップワイズ的にアセスメント・ポリシーを導入する。</p> <p>⑤ 情報の共有や学部・部門間での連携を強化すると共に、地区別懇談会を積極的に利用して、学生の実情を報告し保護者連携の充実化をはかる。</p> <p>⑥ 「寄り添い型」学生支援の取り組みとして、チューターまたは学科教員は学生からよく話を聞くことを徹底し、保護者と連絡をとり情報・状況を共有した上で、その学生にとって最善の解決方法を模索する。</p> <p>⑦ 退学予備軍をサーチすると共に、退学リスクやパーソナリティー診断を実施する。</p> <p>⑧ 学生一人ひとりの適正およびモチベーションを見極めた上で適切な指導を行う。</p> <p>【社会人としてのマナー対策】</p> <p>① 入学時から社会人、特に医療従事者には挨拶が必須であることを意識するよう指導する。</p> <p>② 目上や教員だけではなく、学生間でも挨拶することの大切さを身に着けさせる。</p> <p>③ 講義、実習だけではなく、生活全般で時間厳守を心がけるよう指導し、自らの責任や協調することの大切さを理解させる。</p> <p>④ 学科の全学生を対象として社会人としてのマナー対策の講習会を開催する。具体的には、基本マナー、挨拶の仕方、敬語の使い方、メールの書き方、お礼状の書き方、呼称、話の聞き方ほか。マナー対策講習会に基づいて、日々の生活の中で、各専任教員が気がついた時に個々の学生に注意する。</p> <p>⑤ その他、社会におけるマナーへの認識を折に触れ教員がフォローし、必要な指導を行う。</p>
募集力	<p>【学科入学定員確保のための対策】</p> <p>本学科の最大の特徴は、本来、大学卒業後、実務経験を積んだ臨床検査技師でなければ取得することのできない細胞検査士資格を臨床検査技師と同時に4年間で取得できることにある。また、細胞検査士資格の取得に関しては、九州の4年制大学では本学科が唯一の存在である。上記のように本学科は既に「キラリと光る！オンリーワン！」の特質を有しており、このユニークな特徴を周知することにより入学定員の確保を果たすことができると考えられる。</p> <p>しかしながら、学科設置から既に4年間の経過したが、本学科の十二分な魅力があると考えられる特質は未だ周知されているとは言い難いのが現状である。</p> <p>本学科の特徴を周知するため学科内はもとより、入試広報をはじめとする事務部門とも十分な連携を図り、様々な機会を利用する。具体的には高等学校、中学などの教育機関、あるいは様々な団体による大学見学。高校訪問、学会や地域のイベントへの積極的な参加などである。また、現代の広報活動で重要な役割を持つホームページの拡充も計画している。</p>

	<p>学科教育力は入学定員確保において非常に重要であることから、学科教育力の向上を図り、学科教育力の高さも積極的に発信していく。</p> <p>【学科の魅力発信】 AP</p> <p>① 学科教育力の評価を行うとともに、広報活動の工夫を提案する。</p> <p>② 臨床検査技師国家試験や細胞検査士認定試験の合格率、合格者数等は学科教育力を評価する尺度として重要であることは言うまでもないが、高等教育機関である大学の教育力として、教育の基盤をなす研究力も重要である。ユニークかつ高度な研究は、学科の魅力でもある。また、これらの研究の一端を学生に触れさせることにより研究、学習意欲の向上が図られるもの多考える。さらには大学院への進学等を志す学生が多数存在することは、学科の魅力を示す一例である。従って、これらの実績を評価し、長所を伸ばし、問題点には改善策を実施しさらなる向上を図る。</p> <p>③ さらに、これらの実績を様々な形で公表することが重要であると考え。また、大学見学、高校訪問、ホームページの充実以外の広報活動についても検討し実施する。</p> <p>④ 社会で活躍している卒業生の情報を収集する。</p> <p>⑤ 将来の展望をまとめる。</p> <p>⑥ それらの情報および既存の情報(現在行っている広報材料)を、西日本を中心に紹介する。</p>
研究力	<p>【学科教員の研究力アップのための対策】</p> <p>・学術論文／学会発表</p> <p>研究活動を進める過程での「学術論文」と「学会発表」は、連続的な成果報告の形として捉えられる。例えば、「学会発表」において経過報告を積み重ね、最終成果報告として「学術論文」を完成させる場合、最終的な「学術論文」までのモチベーション維持の手段として「学会発表」における学習やディスカッションが大きく貢献すると考えられる。また、日常的な研究活動が続く中、「学術論文」や「学会発表」を目標とすることで研究意欲向上や研究力の活性化などにつながると思われる。</p> <p>「学術論文」や「学会発表」という形での成果報告を達成するための方策の積み重ねが教員の研究力アップに結びつくはずで、そうした研究活動を進める上で環境整備は重要で、不可欠である。研究活動に必要な環境としては、資金、人材、そして、システム(プラン)から成り立つと考えられる。</p> <p>資金面では、量的充実や若手支援プランなど科研費改革が徐々に進められ、民間投資の呼び込み等を含めた戦略的基礎研究も設定されつつあるが、それらの研究費獲得が一つの目標となる。当然、獲得のためには適切な申請書作成が必須であるが、その獲得の可能性を高めるべく申請書作成のテクニック(能力)を向上させることが重要で、そのための講習やトレーニングなどが検討されるべきである。</p> <p>次に人材に関しては、特別研究員事業等の研究者支援やシニア職員を含めた流動化促進等の人材育成プランが活用されることは必要である。同時に、重要となるのは、若手研究者の育成だと考えられる。そのために若手研究者の安定研究環境の創出(ポスト振替や卓越研究員制</p>

	<p>度等)や独創的・挑戦的な研究を進めるための設備整備、また、大学院教育に対する協力等を通じた若手研究者育成 等が考えられ、それに見合った適切な対応が求められる。</p> <p>また、更に研究力向上のためのシステム(プラン)としては、新興・融合研究領域への取組の強化、新分野創成や異分野融合の推進などを踏まえた研究計画を検討し、産学官連携による研究開発投資の確保、地方創生への貢献などを実践することが有効である。更に地方大学としては、大学共同利用機関と研究拠点の連携により学術研究基盤を効率的に形成すべく対応を進めていくことが必要と思われる。</p> <p>以上のような研究環境の構成要素を適切に整備することで、「学術論文」作成や「学会発表」準備などがスムーズに行え、効率良く研究力アップにつながっていくのではないかと考える。</p> <p>【研究施設のレベルアップのための対策】</p> <p>研究施設の設備や器具を高級なものに置き換えたとしても、研究者の研究分野によっては使わないかもしれない。導入した設備と多くの研究者の研究分野が一致していないと研究施設のレベルアップとは言えない。そのため、研究者の研究内容を把握する必要がある。</p> <p>まず初めに、既に導入済みの設備や器具を把握する。次に、新しい設備の導入効果を高めるために、研究者から研究内容を調査して不足しているものを洗い出す。予算は潤沢ではないため、導入する設備や器具を選別する。このようにして徐々に設備や器具を導入していき研究施設のレベルアップを図っていく。</p> <p>【外部研究資金獲得のための対策】</p> <p>生命医科学科教員の研究を円滑に遂行するため積極的な外部資金獲得を目指す仕組みを構築する。科研費や民間の研究助成金の募集情報を随時教員に提供し、積極的な応募を促す。教員は毎年科研に応募することを目標にする。また、生命医科学科内および外部研究機関との連携をはかり効率的に研究助成を受けられるよう情報を共有する。</p>
地域連携力	<p>【学科教員の地域連携力アップのための対策】</p> <p>本学は延岡市唯一の大学であり、本学科において様々な研究成果や知見・技術、人的リソースを有している。これらを活かし様々な企画を実行する行動力として、延岡市を始めとした宮崎県内の臨床検査技師会を通じた研究班に参加し学術的な交流による地域の臨床検査技師間の連携を図る。また、就職関連のための地域連携として病院検査担当責任者への挨拶周りによる顔の見える関係の構築により就職斡旋のための地域連携を策定する。さらに、医療分野の講演・イベントにも積極的参加し、他医療職種の方々とも連携を図る。これらの活動を通して、地域の問題解決ならびに活性化に寄与する。</p>
総合力	<p>アドミッション・ポリシーは、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえ、学力の3要素である「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を備えた豊かな人間性を持つ入学者を受け入れる。学科の「魅力と強み」、すなわちダブルライセンス教育・研究能力をアピールポイントにして、どのような学生を「受け入れ」、「学ばせ」、「卒業させるのか」を明確に可視化する。カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシー達成のために、建学の理念に基づき、専門知識・技術・態度を修得することを目的に万全のカリキ</p>

	<p>ュラムを構築する。さらに、「振り返り学習」を基盤に反転授業に力点を置く。入学者の学びたい内容、卒業までに求められる学修成果が可視化できるポリシーをさらに強化する。カリキュラム・ポリシーを通して、臨床検査技師国家試験合格率、細胞検査士認定試験合格率、さらには就職率 100%を保証する仕組みを構築する。ディプロマ・ポリシーは、大学、学部、学科等の教育理念に基づき、教養と専門性の高い知識および技術を有した臨床検査技師、細胞検査士、または生命医科学研究者として活躍できる人に学位を授与する。さらに、アセスメント・ポリシーをステップワイズ的に導入し、「自己評価と外部評価」を同時に実施すると共に、その教育目標達成度を大学レベル、学科レベル、科目レベル、学生レベルで可視化する。</p>
<p>3つのポリシーからの総評</p>	<p>ディプロマポリシー(DP)の実現を念頭に、個々のカリキュラムポリシー(CP)の実践に取り組んだ。卒業研究の評価にルーブリック評価を取り入れ、積極性、理解力、研究能力、プレゼンテーション能力、論文作成能力、そして国家試験合格に向けた知識の習得について、客観性のある評価を実施した。ディプロマポリシー(DP)に掲げている「豊かな人間性を持つと共に、医療行政や地域社会の動向をふまえ、医療・科学に必要とされる倫理観を身につけ、社会や他者のために責任ある行動を取れる。」ことを臨床実習の現場で実践するため、臨床実習前にはキャリアサポートセンターとの協力でマナー講座を実施し、学生自身によるロールプレイを行い、一定の成果が得られた。</p> <p>延岡をはじめ一般の方々へ学科やがん細胞研究所のアピールをすることで、学科を知っていただき、入学定員充足率向上につながると考え、入試広報と連携してホームページへの掲載はもちろん、新聞掲載等を積極的に行った。</p>
<p>次年度への展望(まとめ)</p>	<p>次年度は改組もあり、新しいディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、およびアドミッションポリシーのもと、臨床検査技師および臨床工学技士の国家資格を軸に、細胞検査士や ME1 などの認定資格の取得を「質、量、率」の全てにおいて充実させていかなければならない。</p> <p>また、上述以外の資格取得、例えば BLS、バイオ、健康食品管理士等の認定資格取得も可能であることを、ホームページ等を使ってアピールしていきたい。</p> <p>アドミッションポリシーを掲げ、求める人材を提示しているが、時間の経過と共に入学時のモチベーションが保たれていない学生が増加してくる。入学時には全員が「臨床検査技師(加えて細胞検査士)として社会に貢献したい」という強い意志を持っているはずなので、それを節目節目に思い出させ、初心を忘れずに努力するよう促す必要がある。</p>

授業アンケート結果 報告書

平成 30 年度(2018 年度)まとめ

教育開発・研究推進中核センター教育開発部門

1. はじめに

本学では平成 17 年度より、各教員の授業方法・内容の充実を目指し、実習を含むすべての講義・演習・実習科目について、受講学生に対しアンケート調査を前期・後期に 1 回ずつ実施してきた。平成 22 年度に設問の大幅な見直しを行い、23 年度から集計結果を公開してきた。平成 26 年度に設問を 2 項目追加し、現行の授業アンケートは 15 項目の設問および自由記述から成っている。

授業アンケートの設問は、授業に対する学生自身と教員の取り組み姿勢、授業内容の理解度・達成度および授業の意義という観点から設定されている。その集計結果は、本学の教育理念「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」に相応しい教育が行われているか否かを知る貴重な手掛かりとなる。以下、平成 30 年度(2018 年度)の授業アンケートについて、実施方法と全体および学科単位での集計結果を示す。

2. 授業アンケート実施方法

アンケートの内容と配付・回収：

アンケートの設問は「学生自身の授業の取り組み」に関する 5 問(結果の図中 Q1~Q5)、「学生から見た教員の授業に対する取り組み」に関する 7 問(Q6~Q12)、「授業に対する学生自身の理解度・達成度」に関する 2 問(Q13~Q14)、総合評価として「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」に関する 1 問(Q15)である。回答は「あてはまる」から「あてはまらない」までの 4 段階または時間や回数などを 4 段階に区切った選択肢から 1 つ選ぶ形式とした。

すべての科目について、前期・後期に 1 回ずつ、原則として授業の最終回に授業アンケートの設問用紙と回答のためのマークシート用紙を配布し、授業時間内に回答させて回収している。アンケートは無記名であり、回答内容が教員に分からないように回収する方法を定め、教員が遵守している。設問用紙裏面には自由記述の欄があり、授業への感想や要望等があれば記入することになっている。

アンケート対象学生数と科目数：

平成 30 年度の授業アンケートの対象となった教員数、科目数、学生数を下記※表 1 にまとめた。

※ 表 1

アンケート実施	科目数	専任教員数	非常勤教員数	教員数	アンケート回収数	受講生数
平成 30 年 前期	432	115	30	145	12656	14022
平成 30 年 後期	456	110	35	145	11746	13252

アンケート集計・解析方法とフィードバック：

各学科の学年ごとに、設問に対する 4 段階回答を集計し、学年及び学科単位で回答の割合を図示した。各授業科目については、科目間での比較のために差が顕著に表れるよう 4 段階回答を 8、3、2、0 点として点数化し、また設問項目間での比較のために評価レーダーチャートを作成した。

アンケートの集計・解析結果については、各教員へ担当分の結果を配布するとともに、学科全員分および学科単位での結果を学部長へ配付し、その後学科長が各学科において、アンケート結果をふまえて授業改善につなげられるようにフィードバックを実施している。

なお平成 28 年度より、授業に対する学生の自由記述内容について pdf ファイルによるデータ化を行ない、30 年度は web 上での自由記述を試験的に実施した。

3. 授業アンケート結果

授業アンケート結果については、アンケート内容である「学生自身の授業の取り組み」、「学生から見た教員の授業に対する取り組み」、「授業に対する学生自身の理解度・達成度」、また、総合評価として「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」について、各学科での回答割合を図で示した。全学的な総括は、過去の結果との比較および学科間での相違に着目して行なった。

全学的アンケート結果 (図Ⅱ)

各学科のアンケート結果を基に大学全体での傾向をまとめた。「教員の授業に対する取り組み」は概ね高評価であった。「学生の理解度・達成感」では、前年度の高い値からさらに上昇していた。「学生の授業への取り組み」では、改善の傾向は見られたものの、前年度と同様、大部分の学科で予習・復習時間や準備学習がまだ不十分であった。総合評価としては、本学では全学的に「意義ある授業」が行われているが、学生の自己学習を推進する方策を各学科で検討する必要があると考えられた。

「学生自身の授業の取り組み (Q1～5)」

前期・後期ともに、いずれの学科でも授業を 4 回以上欠席した学生は 10% 以下であった (Q1)。前年度に欠席回数が多かった子ども保育福祉学科においても改善が認められた。予習 (Q2)、復習 (Q3)、準備学習 (Q4) を行なっていた学生は、総じて前年度よりもわずかではあるが増加し、また予習・復習の時間を 1 時間以上と答えた割合も増加していた。しかし未だに約 30% の学生が、また学科により半分近くの学生が、全く授業外に学習していないことが示された。授業外学習の項目は臨床工学科が群を抜いて高い値を示し、学科間での指導の違いが現れていた。一方、授業については全学科において 90% 程度の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」と答え、居眠りや私語など無く意欲的に取り組んでいると考えられた (Q5)。平成 31 年度 (2019 年度) より、全学的に授業外学習の方法手段をシラバスへ具体的に明記することとした。これが学習習慣改善の方策のひとつとして機能することが期待される。

「学生から見た教員の授業に対する取り組み (Q6～12)」

シラバスに沿った授業と目標や習得すべき事項の説明 (Q6, 7)、授業開始時間や授業雰囲気確保に対する教員の努力や学生の授業への参加を促す努力 (Q8, 9, 10)、およびわかりやすい講義資料の作成や説明が行われたか (Q11, 12) について、前期・後期ともに全学科において 90% 以上の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」と答え、大部分の学生は教員の取り組みを認めていると考えられた。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度 (Q13・14)」「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か (Q15)」

学生の理解度 (Q13)、学習意欲の高まり (14) および授業の意義 (Q15) について、前期・後期ともに全体として約 90% の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」と答えていた。これらは授業に対する教員の熱心な取り組みの成果であると思われる。

臨床福祉学科アンケート結果(図Ⅲ)

「学生自身の授業の取り組み」

本学科学生の授業への取り組みについて、【欠席状況】では、3年生以外は3回以下がほとんどであったが、3年生は前期・後期とも80%台である。【予習復習時間】では、昨年度、「1年次ではほとんどしなかったという学生が約60%いる」と報告しているが、今回の結果でその学生(2年次生)が他の学年に比べ予習復習時間が少なく、シラバスに記載されている準備学習も少ないことが明らかになった。また、他学科に比べ、「ほとんどしなかった・30分未満」割合が高く、再度、全教員に1年生のうちから予習復習の学習習慣を身に着けるような指導と2年次学生(現3年次生)に対し再度指導を促していきたい。【授業中の取り組み】を見ると、「Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか」の問いに対して、学年の進級につれて良好になってきている。

「学生から見た教員の授業に対する取り組み」

学生から見た教員の授業の取り組みに関する設問では、「あてはまる・ややあてはまる」が、すべての学年および学期において95%以上と高く、学生からは概ね良好な評価であった。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

授業に対する学生自身の理解度・達成度に関する設問では、他学科に比べると「あてはまる・ややあてはまる」が90%弱と割合が低かった。学年の進級につれ良好になってきているものの、2年次前期では1年次より低下している。1年次では高等学校までの授業方法等の違いが考えられる。2年次前期では大学にも慣れ、やや中だるみが生じているのではないかと考えられる。これは、学生自身の授業の取り組みがほかの学年に比べ2年次前期が低いことと関連している。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

30年度も授業の意義について95%以上の学生が「あてはまる・ややあてはまる」と回答している。しかし、「あまり当てはまらない」と回答した学生数は2年次前期が多く、昨年度と同じような結果となった。2年間同じような2年次前期の特徴が出ているので、この結果を全学科教員と共有し、指導に当たっていく必要性を感じている。

「学生自身の授業の取り組み」

【欠席状況】は、3年生の4~5回欠席が前期で約10%、後期で約13%と増加し、3回以内の欠席でみると、1、2年では90%以上であるが、3年は90%未満である。このように、3年では中弛みの傾向がみられたが、4年では持ち直している。気にかかる点として、1年前期の欠席0回の学生の割合が、2016年度約74%、2017年度約65%、2018年度約52%と、ここ3年間で徐々に減少していることが挙げられる。【予習復習】は学年が上がるにつれ、「ほとんどしなかった」学生の割合は低下する傾向が見られ、予習では1年前期約52%（昨年約57%）から4年後期約24%（昨年14%）、復習では1年前期約47%（昨年51%）から4年後期約22%（昨年約13%）となっていた。ここでも3年前期中弛みが気になる点である。1年の予習を「ほとんどしなかった」割合は、2016年度約60%、2017年度約57%、2018年度約52%と、ここ3年間で徐々に減少している。【学習への意欲的な取り組み】では80%以上の学生が肯定的に回答し、学年とともに上昇している。

昨年までは、学期中に教育実習や就職活動が行われる4年以外では、3回以内の欠席者はほぼ9割であったが、3年後期が約87%と、欠席回数が多くみられる点が気になる。授業出席への意欲を維持させるために、徐々に専門性が高くなる2年、3年での授業の工夫が必要である。予習復習は、「ほとんどしなかった」学生の割合は学年が上がるにつれて低下傾向にあった。昨年は2年後期中弛みのような状況がみられたが、その学年が3年になったことも関連しているかもしれないが、3年に中弛み傾向が認められた。4年次での資格試験に向けて、意識づけを高める対策が必要である。近年、資格試験に対する意識づけを高める指導を行い、ほとんどの資格試験で全国平均を上回る合格率となっているが、学年進行とともに受験をあきらめる学生が増加している。意欲的に資格取得を目指す者とそうでない者との二極化の傾向が続いている。

「学生から見た教員の授業に対する取り組み」

Q6~12のすべての質問において、「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせると全学年においてほぼ9割を超える肯定的な回答を得ており、学生からは概ね良好な評価を得ている。しかし、他の学年に比較して1年の積極的な評価が低い点が気になる。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

学生の理解度・学習意欲の高まりについては、「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせるとすべての学年において90%を超える肯定的な回答を得ている。しかし、他の学年に比較して1年の積極的な評価が低い点が気になる。昨年度は改善されていたのだが、大学へ入学して新たな環境で学習に取り組み始める新入生に対して、より理解しやすく、学習意欲を高めるための授業の工夫・改善を再検討しなければならない。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

授業の意義について、90%以上が「あてはまる」「ややあてはまる」の肯定的な回答をしており、1、2年よりも3、4年で肯定的な評価の割合が高くなる傾向が認められた。「あてはまる」だけに着目すると約70~93%（昨年72~92%）であり、昨年よりやや低下している。特に、1年は前期約70%・後期81%（昨年は前期80%・後期92%）と大きく低下している。本学科への進学に対する満足度を上げるために、新入生の段階から、今の学びが将来につながっていることを学生に授業を通して理解させながら、学習意欲の向上を図る取り組みの見直しを検討しなければならない。

子ども保育福祉学科アンケート結果（図V）

「学生自身の授業の取り組み」

【欠席状況】：本学科は募集停止となり、本年度が最終学年であった。6回以上の欠席はなく、在学生全員がそろって卒業できた。【予習復習】および【準備学習】については、約6割から7割の学生が行っていた。【授業に対する取り組み】：前期より後期の方がその取り組み姿勢にやや改善がみられた。

「学生から見た教員の授業に対する取り組み」

Q6～12のすべての質問において、「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせると95%を超える肯定的な回答を得ており、在学生全員を卒業させようとした教員の取り組みに対して学生からは良好な評価を得ることができた。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

本項目は「Q13. 授業の目標や習得すべき事項を理解できましたか。」および「Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。」の二つの問いから成る。昨年は、「あてはまる」「ややあてはまる」が前期では90%前後であったが、後期では50%前後まで大幅に下がったことから、教員間で共通認識を持ち、最終学年の全員卒業を目指した取り組みを行った。本年度は、ほぼ100%に近い評価であった。教員の取り組みを学生が評価してくれたものであると考えたい。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

「Q15. 授業は意義あるものでしたか。」の質問は、総合的な授業評価を問う最も本質的かつ重要な問いとして位置づけられる。この質問に対しても昨年は、前期では90%を超えていたが、後期では50%以下まで大幅に低下したが、本年度は、ほぼ100%に近い評価であった。このことについても、教員の取り組みを学生が評価してくれたものであると考えたい。

学科最後の卒業生は、全員卒業、全員就職を達成し、子ども保育福祉学科の幕を閉じた。

作業療法学科アンケート結果 (図VI)

「学生自身の授業の取り組み」

出席状況は、欠席3回までを含めると90%程度と概ね良好である。高学年になるにつれて欠席は少なくなる。期末に控える臨床実習を意識しだす結果だと考える。2年次(20期生)は最も欠席の傾向が高いが、前年の1年次から続いており、修学意欲の低いクラスである。

予習復習について、予習は全学年をとおして「ほとんどしなかった」との回答が50%を超え、復習は20期生以外は後期に若干改善する。ただし、4年次(18期生)の前期のほとんどが学外臨床実習であるのに復習が少ないのは理解できない。理由のひとつに学外臨床実習がこのアンケートで問われる「授業」の範疇に入らず、学生がケースノート作成などを復習と捉えていない可能性がある。また、18期生が低学年から学習意欲の低いクラスであったことも理由の一つと考えられる。

私語や居眠りについては90%が「あてはまる(していない)」と回答しており、これは教員からの評価とも一致する。

「学生から見た教員の授業に対する取り組み」

シラバスについて、概ね90%以上がシラバスどおりの授業進行であると回答している。教員の授業内容説明についても同様である。私語等に対する注意も、概ね良好で「ややあてはまる」まで含めると全学年でほぼ100%に近い。教員の授業に対する取り組みも(開始時間も含む)、概ね良好で「ややあてはまる」まで含めると全学年で90%を超えている。ただし、全学年を通して居眠りはままた見られるが、そもそも私語は少ない。授業参加への促しについても、教員の説明のわかりやすさ及び講義資料についても同様である。なお、ほぼすべての項目で1年次(21期生)の評価が高い。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

授業内容の理解、学習意欲について、前期は全ての学年で肯定的意見が80~90%程度だが、後期の1年次だけは全ての項目で肯定的意見がほぼ100%となっている。逆に4年次(18期生)の後期は全ての項目で70%台に落ちている。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

傾向は前項と同じである。1~3年時の80~100%程度が肯定的だったのに対して、4年次(18期生)だけは70%程度に落ちている。18期生が学習意欲の低いクラスであったことが原因かもしれないが、程度の差はあれ、同じことが20期生にも当てはまる。学生による授業意義の有無は学生の成績が反映されているに過ぎないかもしれない。

言語聴覚療法学科アンケート結果(図Ⅶ)

「学生自身の授業の取り組み」

出席状況は、いずれの学年も欠席3回以内の学生が95%以上と良好な結果を示していた。1年生で前期に比し後期の欠席回数がやや多い点については注意喚起が必要である。

予習時間および復習時間は、30分以上学習する学生の割合が20～70%と学年により差がみられたが、いずれも昨年度に比し増加していた。とくに、3・4年生後期で70%と高い割合を示した点が評価できる。シラバスに記載されている準備学習を行っている学生の割合は60～80%であり、3年生後期で30分以上が40%、1時間以上が40%と高い割合を示していた。

学習に意欲的に取り組んだかに対して、あてはまる、または、ややあてはまると回答した学生の割合は、前期は85～95%であったが後期には90～95%と改善がみられた。

「学生から見た教員の授業に対する取り組み」

シラバスにそった授業、授業目標・修得すべき事項の説明、授業への参加の促し、わかりやすい説明や指導、講義資料の適切性、授業の雰囲気については、いずれの学年も95～100%が、あてはまる、または、ややあてはまると回答しており、教員の授業に対する取り組みが高く評価されていた。

授業の開始時間を守っていたかに対しては、全学年で95%以上が、あてはまる、または、ややあてはまると回答しており、昨年度に比し大幅な改善が認められた。

初年度である1年次や、国家試験対策が中心となる4年次には、学生の理解度に配慮し、講義資料や指導方法を適宜、見直す必要がある。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

授業の目標や修得すべき事項を理解できたか、および、授業で学習意欲が高まったかに対しては、いずれの学年も90～100%が、あてはまる、または、ややあてはまると回答しており、授業に対する学生自身の理解度・達成度は高いといえる。

あてはまるだけを見ると、昨年度は、1・4年生の前期が60%前後と低い傾向があったが、今年度は全学年で80～90%と改善がみられている。大学の授業形態への導入時期である1年次と、多数の国家試験科目の総復習を中心とした4年次に、学生の理解度に配慮が必要であることが伺える。

「学生にとって授業が意義のある授業であるか否か」

授業は意義のあるものであったかに対しては、いずれの学年も95%以上が、あてはまる、または、ややあてはまると回答しており高く評価できる。あてはまるだけを見ると、昨年度は、1・4年生の前期が60%程度と低い傾向があったが、今年度は全学年で80～95%と改善がみられている。

学生の満足度を高めるためにも、学科教員間で、各学年の授業の内容や方法について議論を重ねていくことが重要であると考えられる。

視能療法学科アンケート結果(図Ⅷ)

「学生自身の授業の取り組み」

【欠席状況】授業への出席率は高い。後期に関しては、毎年、授業欠席に対する単位への影響等を指導していることから、欠席者数は少なくなっている。また、高学年ほど出席率が高い傾向が見られた。おそらく、国家試験や就職等、社会人としての自覚が芽生えた結果であることが考えられた。

【学習への意欲的な取り組み】これも、高学年ほど予習をする人数および予習時間が多くなっていた。

Q2～Q3の自主学習時間(予習復習)については 前期と後期を比較するとわずかではあるが増加している。

「学生から見た教員の授業に対する取り組み」

Q6～Q12のすべての質問では、1～4年次において「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせると90%以上の回答を得ており、学生からは概ね良好な評価を得ていた。Q9～Q12については、本学科でも高い傾向にあり学生の満足度は高い。1～2年次の基礎科目でも高い満足が観られた。高等学校までとの授業スタイルの違い、たとえば、パソコンおよびプロジェクターを用いて、板書が少ない、あるいは、理系でもこれまで選択していなかった生物学的科目等に対する戸惑いがあるのではないかと心配したが、大きな問題はなかった。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

Q13～Q14のすべての質問における、学生の理解度・学習意欲の高まりについても、3～4年次においては「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせるとほぼ90%の肯定的な回答を得ている。しかし、1年次は前期60%程度であった。その理由として、高等学校までとの授業内容および授業スタイルの違いが考えられた。大学へ入学して新たな環境で学習に取り組み始める新入生に対して、より理解しやすく、学習意欲を高めるための授業の工夫・改善に取り組む必要があるだろう。また、授業が判らない場合や、不服、不満等がある場合に学生が気軽に相談や不服申し立てできるような窓口を当科として設ける等の対策を構築していることから、有効に活用してもらいたい。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

授業の意義について、「あてはまる」「ややあてはまる」の肯定的な回答をした生徒は、全学年の後期では昨年と同様に90%以上となっていた。一方、1、2年次は前期80%程度であったが後期には90%以上となっており、学科教育が有効に機能していると総括される。

当科においては、1～2年次の基礎科目においても国家試験に準じたカリキュラムを行っている授業もあるが、そうでない授業もある。しかし、国家試験合格のみが、社会に有為な人材の育成という本学の建学の理念における最終目標であるとも限らず、多方面での教養や知識が、本学卒業後にも、役立ちうるといった、広い視野をもって学習すべきとも考える。いずれにせよ、低学年においては、国家試験合格の役には立たないかもしれないが、興味の持てる面白い授業を行うことで、生涯を通じて、学習とは楽しいことであるということを悟って身につけていただければ良いと考える。そのためには、楽しく学習でき、いつでも質問、不満などを気軽に相談できる開かれた自由な雰囲気が必要であると考えます。

臨床工学科アンケート結果 (図IX)

「学生自身の授業の取り組み」

授業の欠席回数は、全学年で見ると前期に比して後期が若干増加しているものの大きな差はない。予習の時間に関しては、各学年ともに前期より後期が増加している。1年次においては前期に予習をする学生が非常に少ないが、授業の内容が本格的なもの(専門的)になる後期においては予習していることがわかる。復習についても予習と同様な傾向を示しており、予習・復習をしないと授業についていけないことを理解している。学習時間は前期よりも後期の方が多くなっている。4年次生は予習復習の時間が最も長く、特に後期は国家試験対策に集中していることが分かる。シラバス内容の準備学習も予習復習と同様の傾向であった。「授業中居眠り・私語・遅刻早退なしの学習の意欲的な取り組み」については、後期に増加傾向となった。

「学生から見た教員の授業に対する取り組み」

「シラバスにそっての授業」、「授業目標や修得すべき事項の説明」、「授業の雰囲気」、「学生への授業参加の促し」、「わかりやすい説明や指導」、「講義資料の適切さ」、「修得すべき事項」に関して、全学年ともに95%以上の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」を回答しており、教員の授業に対する評価は高いと推測される。教員全体のミーティングでは前期・後期ともに同様の対応を行ってきた。今後、アクティブラーニング等の取組を増加させ、引き続き、学生個々の能力を伸ばす指導を継続させることが重要である。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

「授業の目標は習得すべき事項の理解」、「授業での学習意欲の高まり」については、1～3学年についてはともに95%以上の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」を回答しており、今までの学習が十分になされていることが伺える。しかし、4年次後期において学習意欲が低下している学生が僅かだがいる。国家試験対策で少し疲弊している可能性がある。この時期の4年次学生は精神的にも不安定であり十分なフォローをする必要がある。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

全学年ともに95%以上の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」を回答しており、授業は意義あるものであったと推測される。シラバスに記載されている授業目標、修得すべき事項を十分理解した上で授業に望んでいたと言える。今後、授業の中に積極的にアクティブラーニングあるいはWeb学習などを取り入れ、一方向型教育の改善が必要であると感じられた。

薬学科アンケート結果 (図 X)

「学生自身の授業の取り組み」

欠席については、いずれの学年においても、欠席3回以下がほとんどであった。しかし、6年後期では、4・5回及び6回以上の欠席が合わせて50%以上あり、昨年度より多かった。6年生後期の欠席状況は毎年悪くなっているようである。

予習・復習については、ほとんどしなかった学生は概ね30-40%程度であった。予習に関しては、6年後期でも予習をしない学生の割合が増加しているようである。復習については、復習をしない学生の割合は予習をしない学生の割合より若干少なくなったが、例年に比べて予習も復習もしない学生の割合が増えているようである。

「学習に意欲的に取り組みましたか」という設問に対しては、いずれの学年においても、「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせるとほぼ90%を超えており良好であった。しかし、シラバス記載の準備学習は、20%程度の学生がほとんど行っていないことが明らかとなった。

「教員の授業に対する取り組み」

教員の授業に対する取り組みに関する設問では、すべての設問について「あてはまる」、「ややあてはまる」が90%を超えており、ほとんどの教員が真摯に授業に取り組んでいることが伺えた。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

授業に対する学生自身の理解度・達成度については、「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせた評価がほぼ90%超であり良好であった。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

意義のある授業であったか否かについては、「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせた評価が、ほぼ90%超あった。

動物生命薬科学科アンケート結果 (図XI)

「学生自身の授業の取り組み」

欠席については、いずれの学年においても、欠席3回以下がほとんどであった。その中で、4年生の前期において0回の欠席が他学年よりも少なく、約40%見られたが、これは就職活動のためと考えられた。

予習・復習時間は少なく、ほとんどの学年および学期において、「30分未満」、「ほとんどしなかった」を合わせると、概ね50~80%を占めていた。シラバスに記載されている準備学習についても少なく、「ほとんどしなかった」、「30分未満」を合わせると、概ね40~70%を占めていた。しかし、「学習に意欲的に取り組みましたか」という設問に対しては、いずれの学年においても「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせると、概ね80%を超えており、学習への意欲的な取り組みは、比較的、良好であった。

「教員の授業に対する取り組み」

教員の授業に関する取り組みに関する設問では、全ての設問に対して、「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせた評価は、全ての学年および学期において概ね80%以上と高く、良好であった。しかし、3年次授業において「あてはまる」の評価は、概ね50~70%程度と他学年次に比べてやや低かった。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

「授業の目標や修得すべき事項の理解」並びに「授業での学習意欲の高まり」の質問に対して、「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせた評価は、ほとんどの学年および学期において、概ね90%以上であったが、1年次前期のみは概ね80%と他に比べてやや低かった。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせた評価は、ほとんどの学年および学期において概ね90%以上であったが、1年次前期のみは概ね80%と他に比べてやや低かった。

生命医科学科アンケート結果（図 XII）

「学生自身の授業の取り組み」

1～3年生においては授業欠席回数0～3回は、前期・後期ともほぼ95%であった。4年生に関しては卒業研究や国試対策授業の回数が非常に多い関係で欠席が多く見えるが、出席率ではそれほど悪くないと考えられる。予習を1時間以上行った学生は前期・後期を通して、2～4年生は概ね20%かそれ以上であったが、1年生は10パーセント未満であった。予習を30分未満～ほとんどしなかった学生は前期・後期を通して、1年生でおよそ80%、2～3年生でおよそ60%であった。4年生後期は国家試験が迫っているため、予習時間が多い学生が増えたが、ほとんどしていない学生も約40%みられた。復習を1時間以上行った学生は1年生では約15%、2～3年生は約25%、4年生は約40%であり、高学年ほど復習時間が多い学生が多かった。復習を30分未満～ほとんどしなかった学生は1年生前期でおよそ40%もいたが、後期では25%に減少した。2年生～4年生ではおおむね20%前後であった。予習復習の両方において1年生の学習時間が短く、今後指導する必要があると考えられる。シラバスに記載されている準備学習についても、上記予習時間と似たような傾向がみられ、1年生で時間数が短かった。「学習に意欲的に取り組んだか」という設問に対しては、「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせると、前期・後期通して概ね90%前後であった。

「学生から見た教員の授業に対する取り組み」

「シラバスにそった講義かどうか」、「授業の開始時刻は守られていたか」、「授業中の静穏な雰囲気は保たれているか」についての設問では、「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせると、前期・後期通して概ね90%以上であった。ほとんどの学科教員の講義は高評価であった。「担当教員はわかりやすい説明や指導を行ったか」についての設問でも、「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせると前期・後期通して90%以上であり、概ね学生の満足度は高いことが伺われた。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

「授業の目標や修得すべき事項を理解できたか」および「授業で学習意欲が高まったか」についての設問では、「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせると1年生前期を除き、90%以上であった。1年生前期のみ約80%にとどまったが、このアンケート全般において1年生は冷めた評価をしていること、後期で90%以上になっていることから、特にほかの学年と差があるわけではないと考えられる。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

「授業は意義あるものだったか」についての設問では、「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせると、前期・後期通して概ね90%以上であった。他の設問と同じように高学年になるにつれて高い評価であった。少数の学生を除いて、大多数の学生は自身の将来の目標を定めたことで、学生自身の理解度・達成度が高くなったことが推察された。

授業アンケート表

図 I

このアンケートは、授業改善を目的として実施するものです。あなたの意見は、今後の授業改善の参考となります。アンケートの回答によりあなたが不利益をこうむることはありませんので、率直な回答をお願いします。

アンケート手順

- * この用紙(授業アンケート表)に科目コード 科目名を書いてください。
- * 各項目順を追って、真剣に答えてください。まずこの用紙に記載してください。
- * Q1～Q15についての回答はこの用紙の①～④を塗りつぶし、記述式の回答についても必ず記入をしてください。
- * この用紙にすべて記入した後に、マークカードに科目コード及学年・学生所属のコードをマークしてください。
- * マークシートにこの用紙に記載した内容を転記してください。(記述式以外)

科目コード	科目名
-------	-----

学年	コード
1年生	1
2年生	2
3年生	3
4年生	4
5年生	5
6年生	6

学科名	コード
臨床福祉学科	13
福祉ビジネス専攻	42
臨床福祉専攻	16
臨床介護コース	17
動物療法専攻	43
臨床心理専攻	41
スポーツ健康福祉学科	14
子ども保育福祉学科	44

学科名	コード
作業療法学科	21
言語聴覚療法学科	22
視機能療法学科	23
臨床工学科	24
薬学科	31
動物生命薬科学科	32
生命医科学科	51

アンケート質問項目・回答項目

<p>Q1 【あなたの授業に対する取組について】 あなたは、この授業を何回欠席しましたか</p> <table border="1"> <tr><td>0回</td><td>①</td></tr> <tr><td>1～3回</td><td>②</td></tr> <tr><td>4～5回</td><td>③</td></tr> <tr><td>6回以上</td><td>④</td></tr> </table>	0回	①	1～3回	②	4～5回	③	6回以上	④	<p>Q8 【教員の授業に対する取組について】 担当教員は、授業の開始時刻をきちんと守っていましたか</p> <table border="1"> <tr><td>あてはまる</td><td>①</td></tr> <tr><td>ややあてはまる</td><td>②</td></tr> <tr><td>あまりあてはまらない</td><td>③</td></tr> <tr><td>あてはまらない</td><td>④</td></tr> </table>	あてはまる	①	ややあてはまる	②	あまりあてはまらない	③	あてはまらない	④	<p>Q13 【授業に対するあなたの理解・達成度】 あなたはこの授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか</p> <table border="1"> <tr><td>あてはまる</td><td>①</td></tr> <tr><td>ややあてはまる</td><td>②</td></tr> <tr><td>あまりあてはまらない</td><td>③</td></tr> <tr><td>あてはまらない</td><td>④</td></tr> </table> <p>※上記設問で④を選んだ人は、具体的に書いてください。</p>	あてはまる	①	ややあてはまる	②	あまりあてはまらない	③	あてはまらない	④
0回	①																									
1～3回	②																									
4～5回	③																									
6回以上	④																									
あてはまる	①																									
ややあてはまる	②																									
あまりあてはまらない	③																									
あてはまらない	④																									
あてはまる	①																									
ややあてはまる	②																									
あまりあてはまらない	③																									
あてはまらない	④																									
<p>Q2 【あなたの授業に対する取組について】 あなたは、1回の授業に対して平均どのくらい予習を行いましたか</p> <table border="1"> <tr><td>1時間以上</td><td>①</td></tr> <tr><td>30分～1時間</td><td>②</td></tr> <tr><td>30分未満</td><td>③</td></tr> <tr><td>ほとんどしなかった</td><td>④</td></tr> </table>	1時間以上	①	30分～1時間	②	30分未満	③	ほとんどしなかった	④	<p>Q9 【教員の授業に対する取組について】 担当教員は、学生の私語などに注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか</p> <table border="1"> <tr><td>あてはまる</td><td>①</td></tr> <tr><td>ややあてはまる</td><td>②</td></tr> <tr><td>あまりあてはまらない</td><td>③</td></tr> <tr><td>あてはまらない</td><td>④</td></tr> </table>	あてはまる	①	ややあてはまる	②	あまりあてはまらない	③	あてはまらない	④	<p>※上記設問で④を選んだ人は、具体的に書いてください。</p>								
1時間以上	①																									
30分～1時間	②																									
30分未満	③																									
ほとんどしなかった	④																									
あてはまる	①																									
ややあてはまる	②																									
あまりあてはまらない	③																									
あてはまらない	④																									
<p>Q3 【あなたの授業に対する取組について】 あなたは、1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか</p> <table border="1"> <tr><td>1時間以上</td><td>①</td></tr> <tr><td>30分～1時間</td><td>②</td></tr> <tr><td>30分未満</td><td>③</td></tr> <tr><td>ほとんどしなかった</td><td>④</td></tr> </table>	1時間以上	①	30分～1時間	②	30分未満	③	ほとんどしなかった	④	<p>Q10 【教員の授業に対する取組について】 担当教員は、学生に授業への参加を促しましたか(質問等)</p> <table border="1"> <tr><td>あてはまる</td><td>①</td></tr> <tr><td>ややあてはまる</td><td>②</td></tr> <tr><td>あまりあてはまらない</td><td>③</td></tr> <tr><td>あてはまらない</td><td>④</td></tr> </table>	あてはまる	①	ややあてはまる	②	あまりあてはまらない	③	あてはまらない	④	<p>Q14 【授業に対するあなたの理解・達成度】 あなたは、この授業で学習意欲が高まりましたか</p> <table border="1"> <tr><td>あてはまる</td><td>①</td></tr> <tr><td>ややあてはまる</td><td>②</td></tr> <tr><td>あまりあてはまらない</td><td>③</td></tr> <tr><td>あてはまらない</td><td>④</td></tr> </table> <p>※上記設問で④を選んだ人は、具体的に書いてください。</p>	あてはまる	①	ややあてはまる	②	あまりあてはまらない	③	あてはまらない	④
1時間以上	①																									
30分～1時間	②																									
30分未満	③																									
ほとんどしなかった	④																									
あてはまる	①																									
ややあてはまる	②																									
あまりあてはまらない	③																									
あてはまらない	④																									
あてはまる	①																									
ややあてはまる	②																									
あまりあてはまらない	③																									
あてはまらない	④																									
<p>Q4 【あなたの授業に対する取組について】 あなたは、シラバスに記載されている、準備学習をどの程度行いましたか</p> <table border="1"> <tr><td>全部やった</td><td>①</td></tr> <tr><td>ほとんどやった</td><td>②</td></tr> <tr><td>あんまりやらなかった</td><td>③</td></tr> <tr><td>全然やらなかった</td><td>④</td></tr> </table>	全部やった	①	ほとんどやった	②	あんまりやらなかった	③	全然やらなかった	④	<p>Q11 【教員の授業に対する取組について】 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか</p> <table border="1"> <tr><td>あてはまる</td><td>①</td></tr> <tr><td>ややあてはまる</td><td>②</td></tr> <tr><td>あまりあてはまらない</td><td>③</td></tr> <tr><td>あてはまらない</td><td>④</td></tr> </table> <p>※上記設問で④を選んだ人は、具体的に書いてください。</p>	あてはまる	①	ややあてはまる	②	あまりあてはまらない	③	あてはまらない	④	<p>※上記設問で④を選んだ人は、具体的に書いてください。</p>								
全部やった	①																									
ほとんどやった	②																									
あんまりやらなかった	③																									
全然やらなかった	④																									
あてはまる	①																									
ややあてはまる	②																									
あまりあてはまらない	③																									
あてはまらない	④																									
<p>Q5 【あなたの授業に対する取組について】 あなたは、この授業で居眠り・私語・遅刻・早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか</p> <table border="1"> <tr><td>あてはまる</td><td>①</td></tr> <tr><td>ややあてはまる</td><td>②</td></tr> <tr><td>あまりあてはまらない</td><td>③</td></tr> <tr><td>あてはまらない</td><td>④</td></tr> </table>	あてはまる	①	ややあてはまる	②	あまりあてはまらない	③	あてはまらない	④	<p>※上記設問で④を選んだ人は、具体的に書いてください。</p>	<p>Q15 【総合評価】 あなたにとって、この授業は意義あるものでしたか</p> <table border="1"> <tr><td>あてはまる</td><td>①</td></tr> <tr><td>ややあてはまる</td><td>②</td></tr> <tr><td>あまりあてはまらない</td><td>③</td></tr> <tr><td>あてはまらない</td><td>④</td></tr> </table> <p>※上記設問で④を選んだ人は、具体的に書いてください。</p>	あてはまる	①	ややあてはまる	②	あまりあてはまらない	③	あてはまらない	④								
あてはまる	①																									
ややあてはまる	②																									
あまりあてはまらない	③																									
あてはまらない	④																									
あてはまる	①																									
ややあてはまる	②																									
あまりあてはまらない	③																									
あてはまらない	④																									
<p>Q6 【教員の授業に対する取組について】 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか</p> <table border="1"> <tr><td>あてはまる</td><td>①</td></tr> <tr><td>ややあてはまる</td><td>②</td></tr> <tr><td>あまりあてはまらない</td><td>③</td></tr> <tr><td>あてはまらない</td><td>④</td></tr> </table>	あてはまる	①	ややあてはまる	②	あまりあてはまらない	③	あてはまらない	④	<p>Q12 【教員の授業に対する取組について】 担当教員の講義資料(教科書を含む)は適切でしたか</p> <table border="1"> <tr><td>あてはまる</td><td>①</td></tr> <tr><td>ややあてはまる</td><td>②</td></tr> <tr><td>あまりあてはまらない</td><td>③</td></tr> <tr><td>あてはまらない</td><td>④</td></tr> </table> <p>※上記設問で④を選んだ人は、具体的に書いてください。</p>	あてはまる	①	ややあてはまる	②	あまりあてはまらない	③	あてはまらない	④	<p>※上記設問で④を選んだ人は、具体的に書いてください。</p>								
あてはまる	①																									
ややあてはまる	②																									
あまりあてはまらない	③																									
あてはまらない	④																									
あてはまる	①																									
ややあてはまる	②																									
あまりあてはまらない	③																									
あてはまらない	④																									
<p>Q7 【教員の授業に対する取組について】 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか</p> <table border="1"> <tr><td>あてはまる</td><td>①</td></tr> <tr><td>ややあてはまる</td><td>②</td></tr> <tr><td>あまりあてはまらない</td><td>③</td></tr> <tr><td>あてはまらない</td><td>④</td></tr> </table>	あてはまる	①	ややあてはまる	②	あまりあてはまらない	③	あてはまらない	④	<p>※上記設問で④を選んだ人は、具体的に書いてください。</p>	<p>※上記設問で④を選んだ人は、具体的に書いてください。</p>																
あてはまる	①																									
ややあてはまる	②																									
あまりあてはまらない	③																									
あてはまらない	④																									

裏面に自由意見欄を設けていますので、この授業に対する意見を自由に書いてください。(裏面に続く)

自由記述

Q16 この授業でよかったと思う点について書いてください。

Q17 この授業で改善した方が良くと思う点について書いてください。

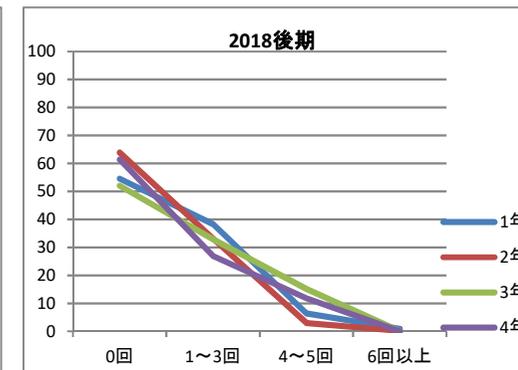
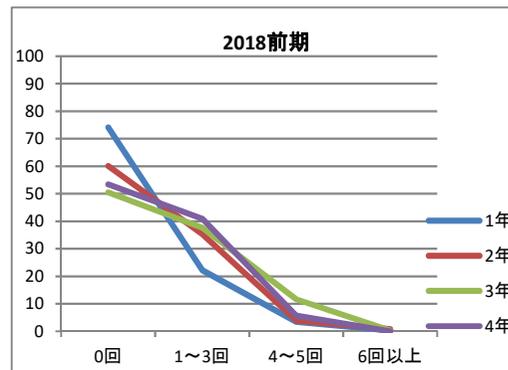
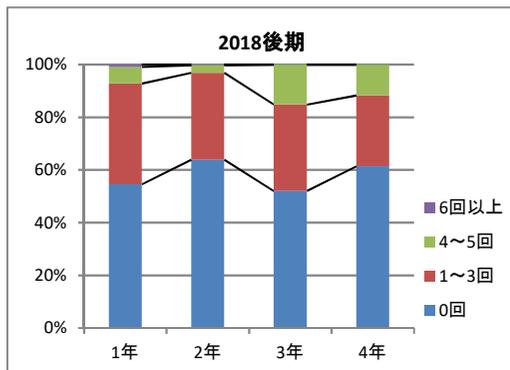
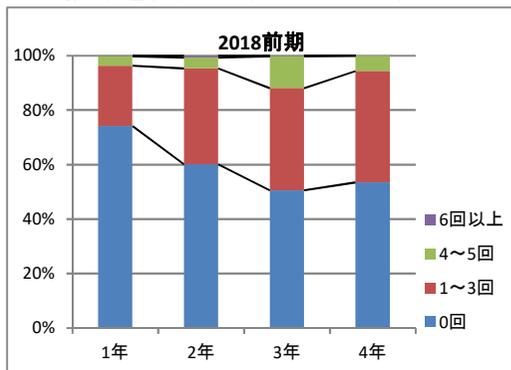
Q18 この授業の感想(自己反省を含む)、また授業担当者へ伝えたいことなどを自由に書いてください

授業アンケート 平成30年度 2018年度

<臨床福祉学科>

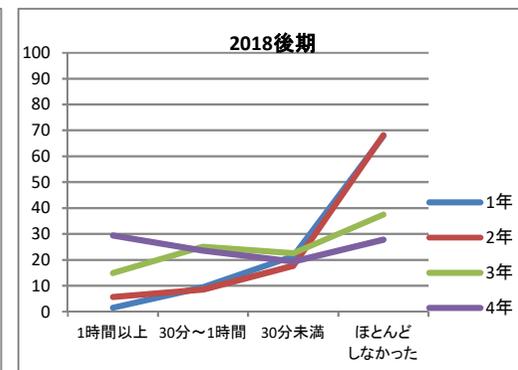
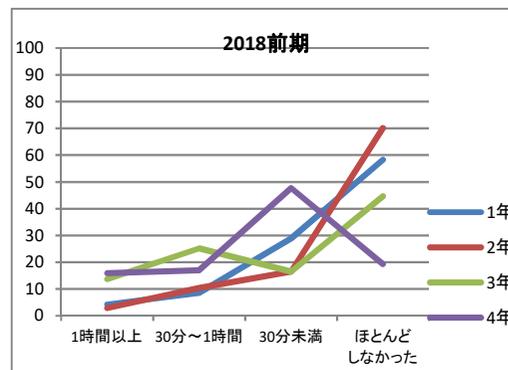
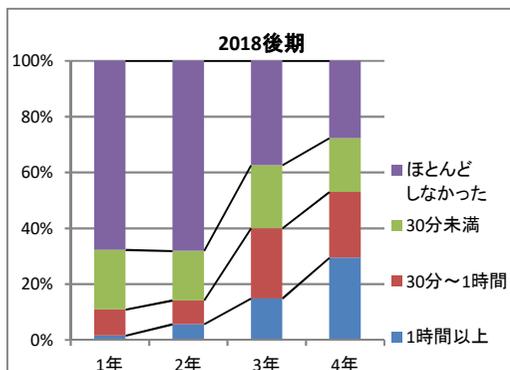
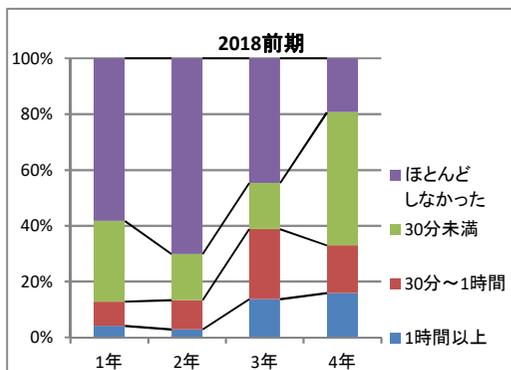
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



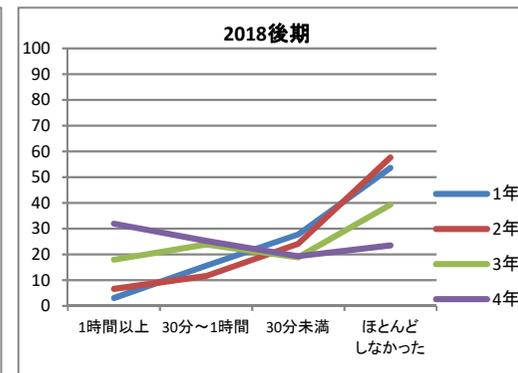
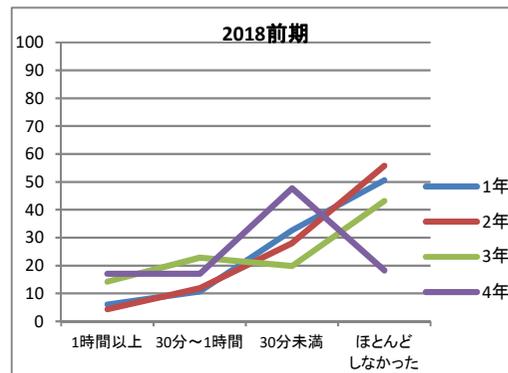
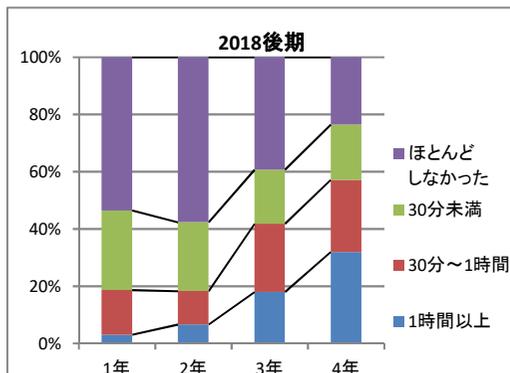
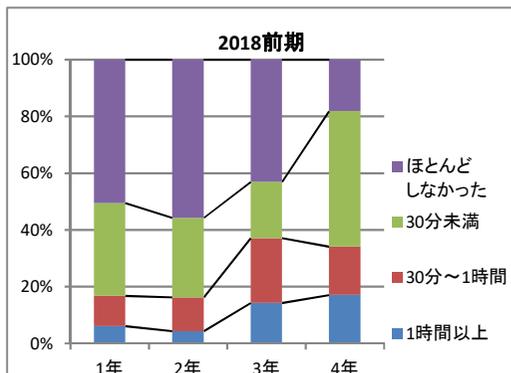
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



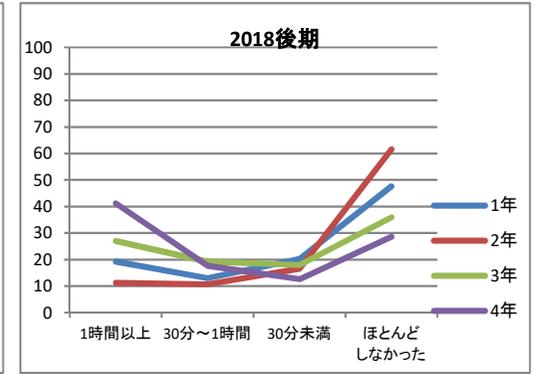
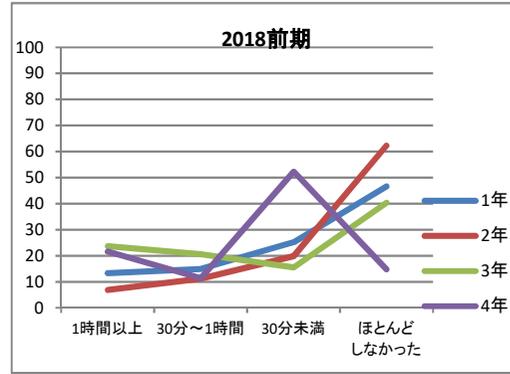
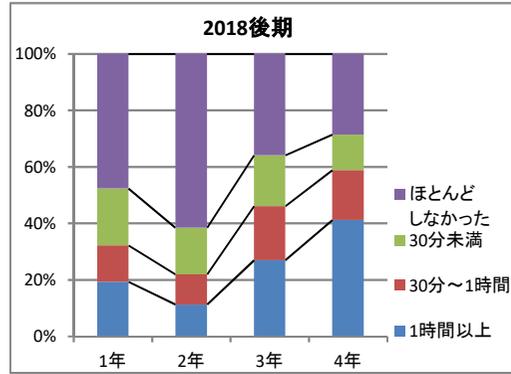
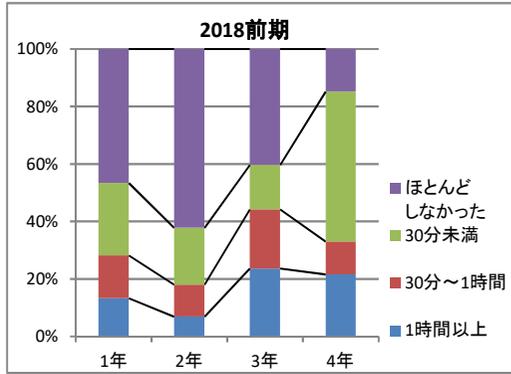
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



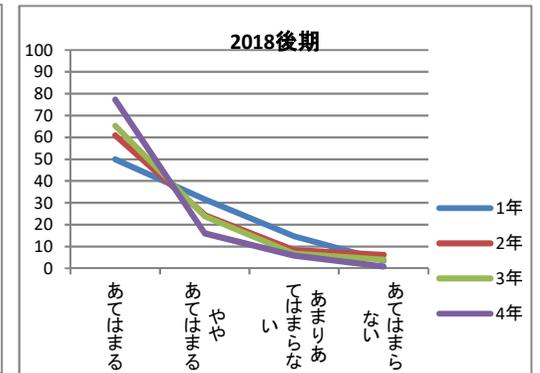
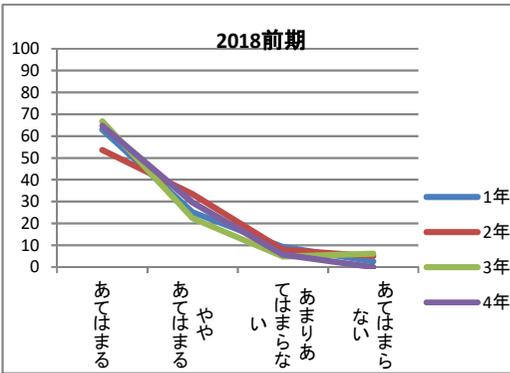
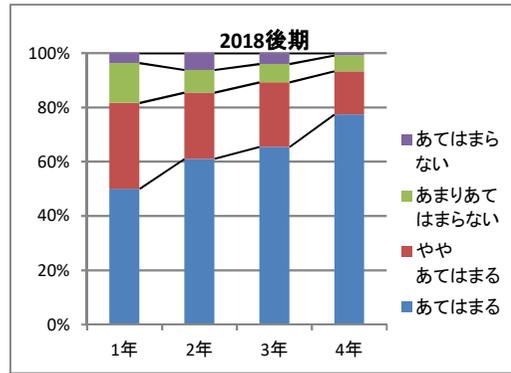
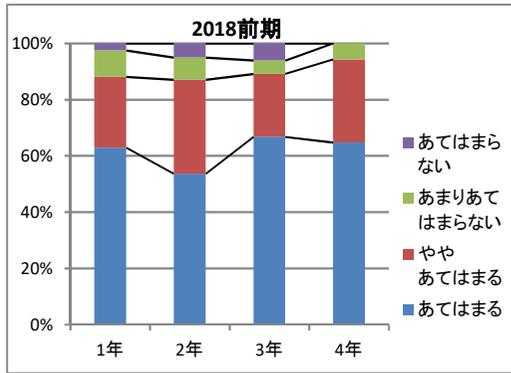
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



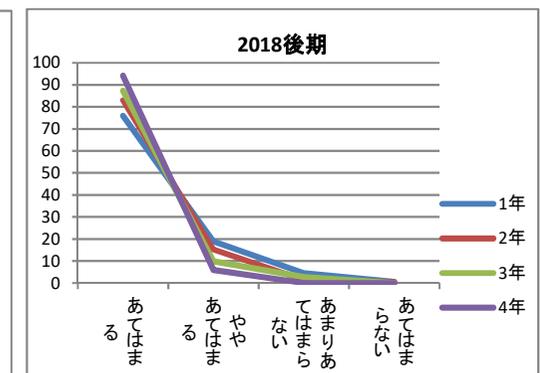
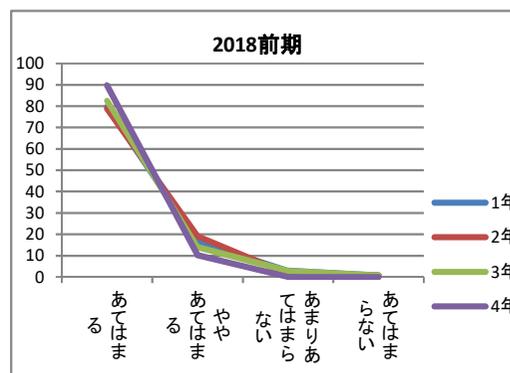
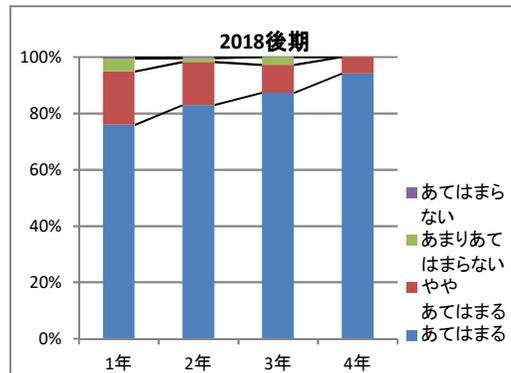
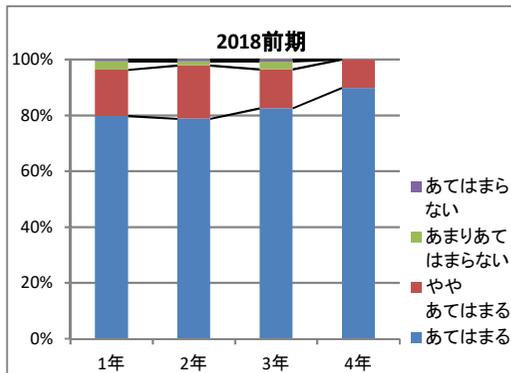
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



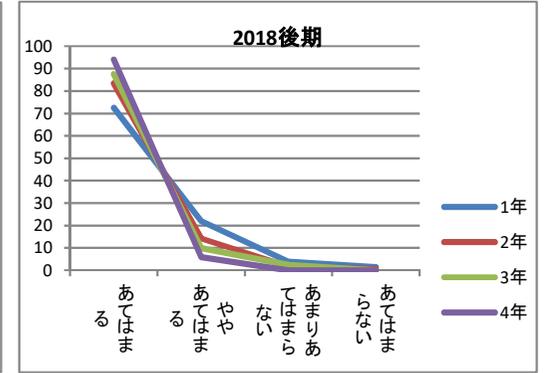
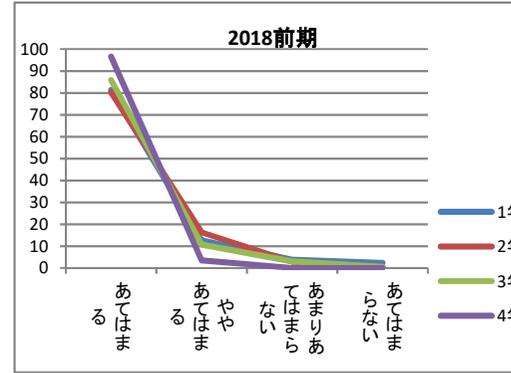
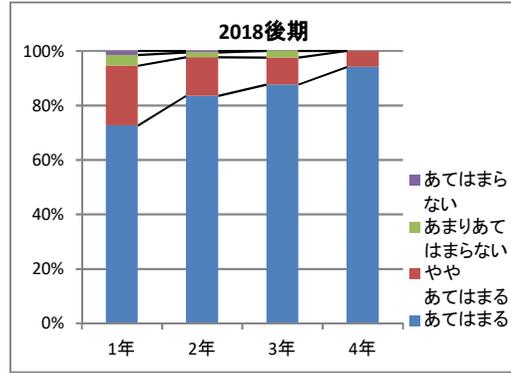
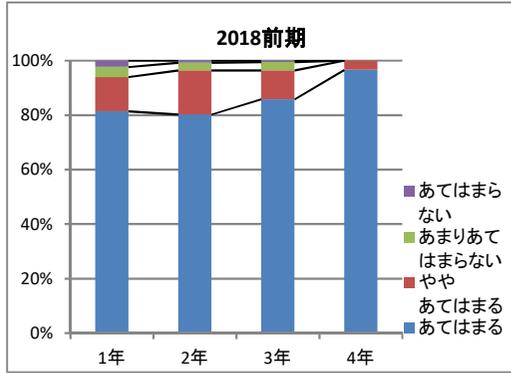
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



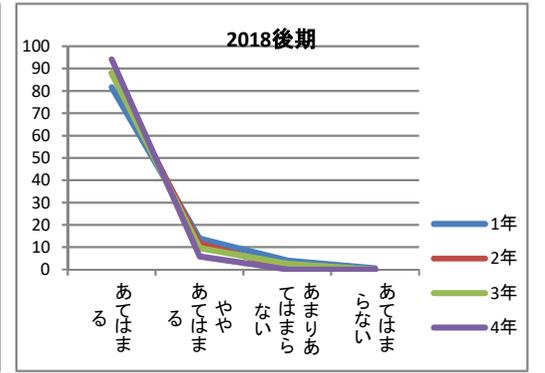
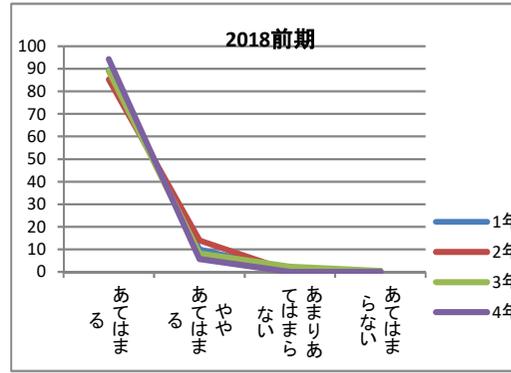
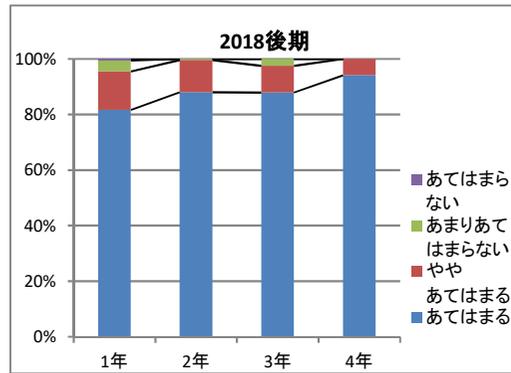
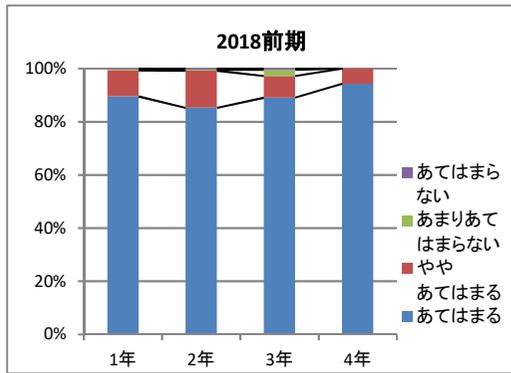
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



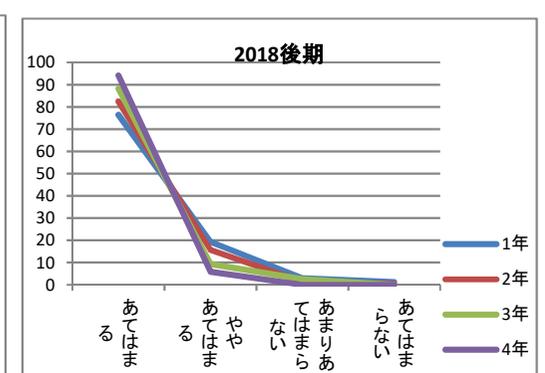
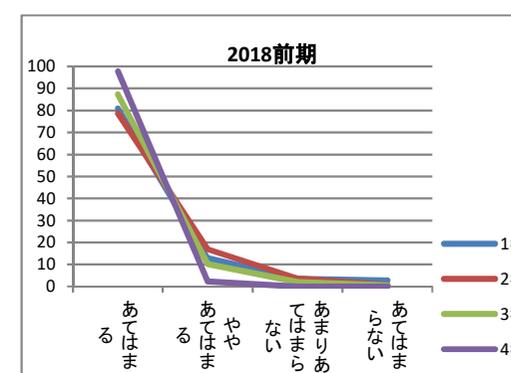
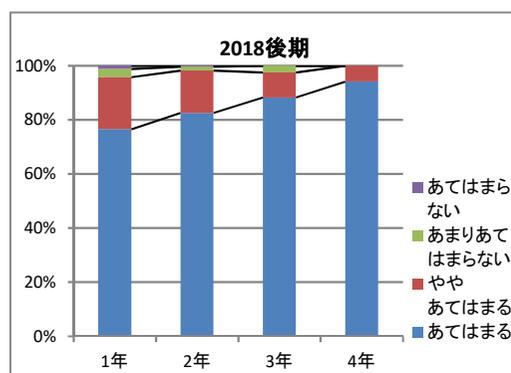
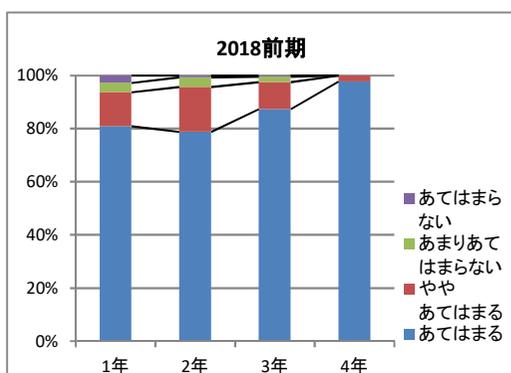
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



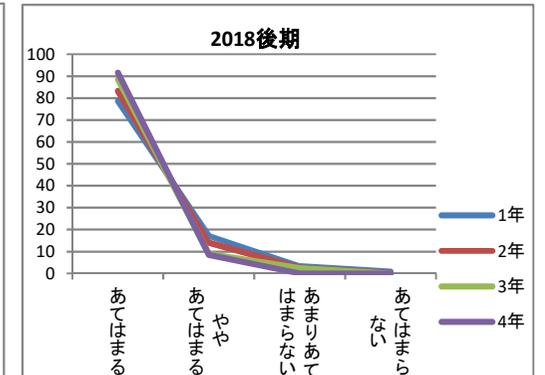
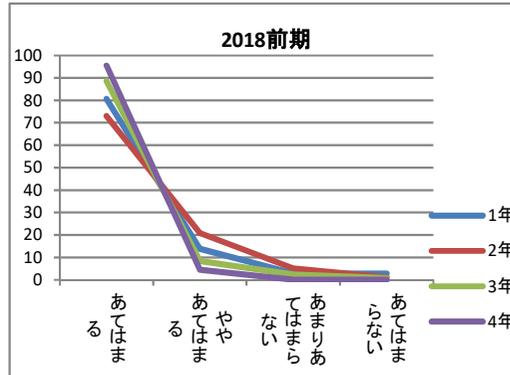
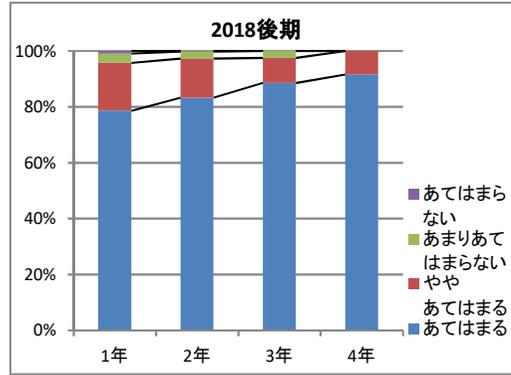
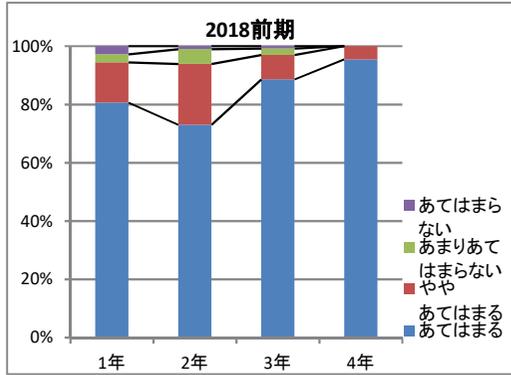
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



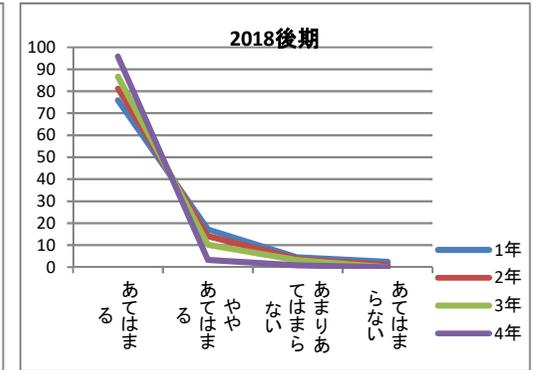
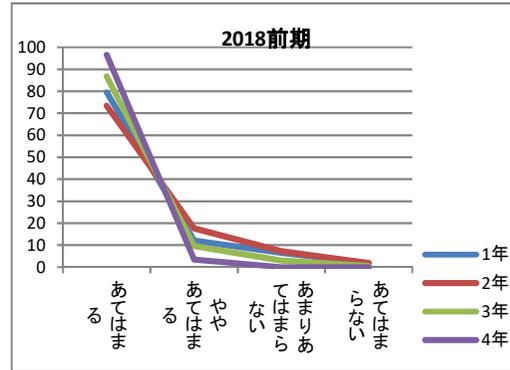
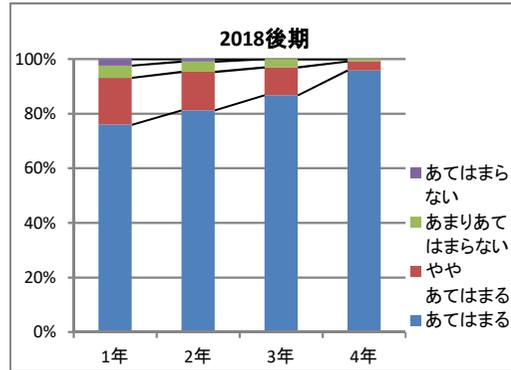
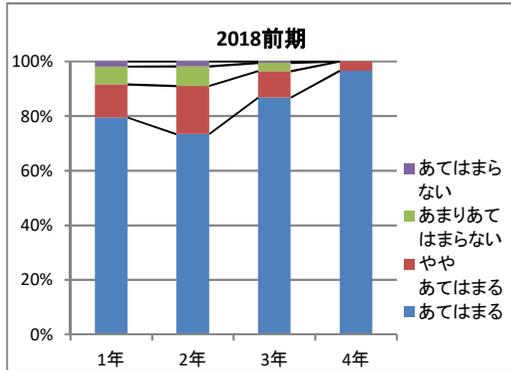
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



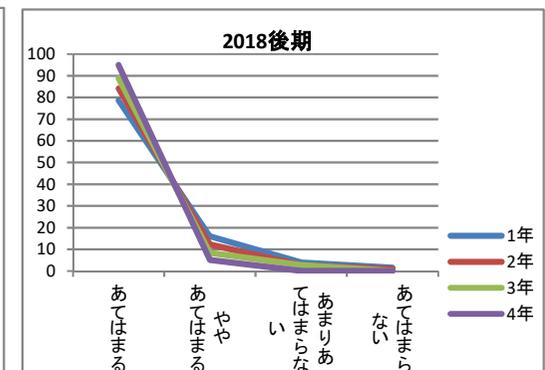
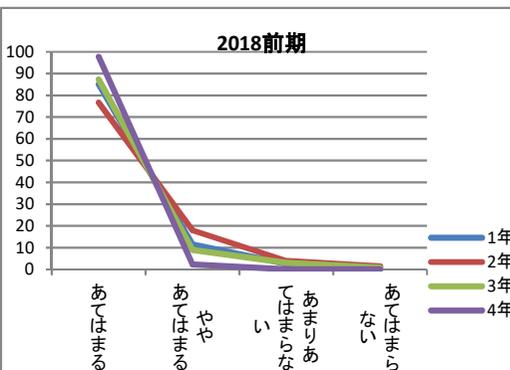
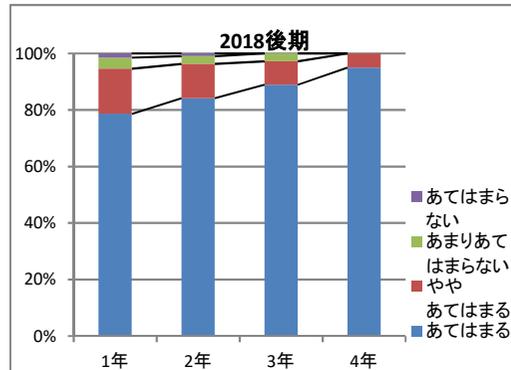
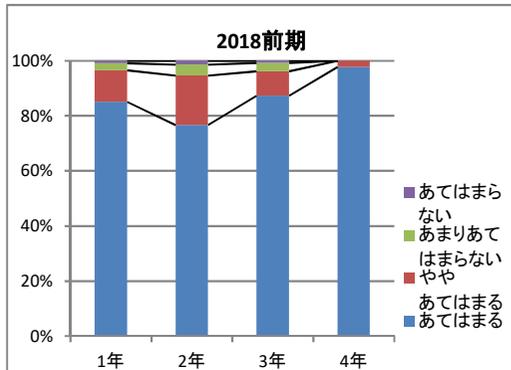
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



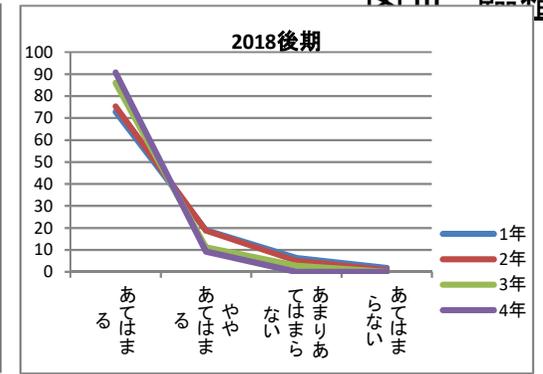
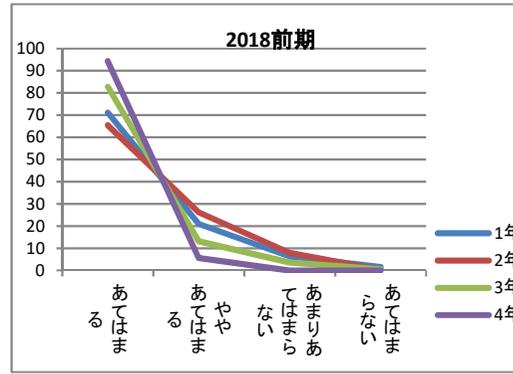
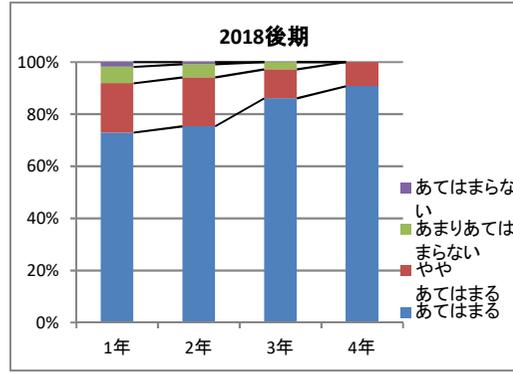
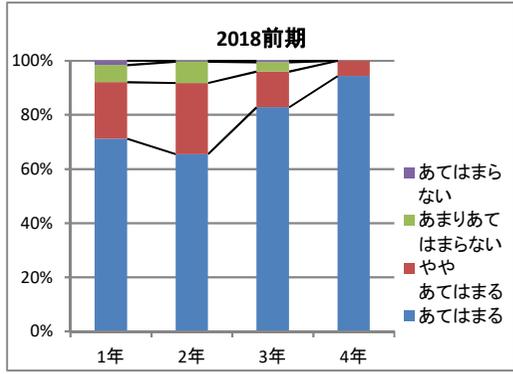
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。

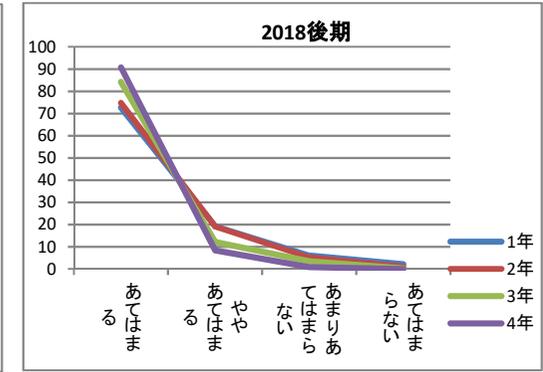
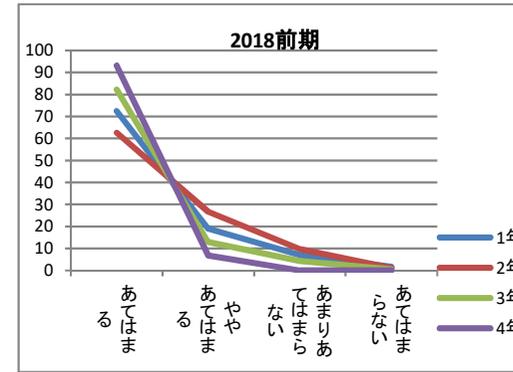
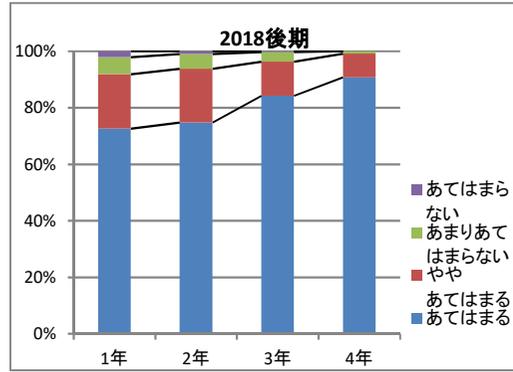
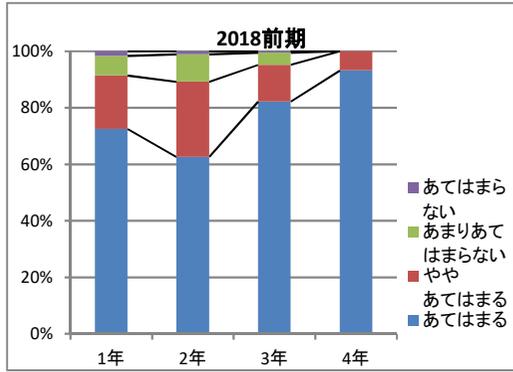


【授業に対するあなたの理解・達成度】

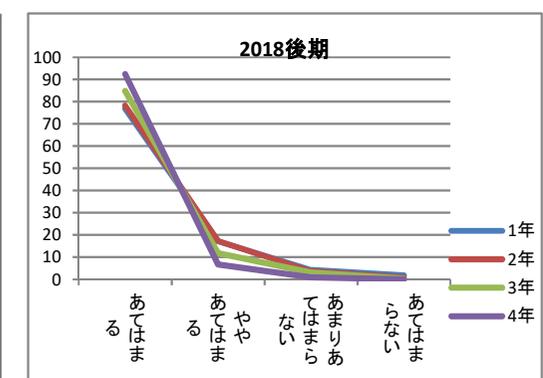
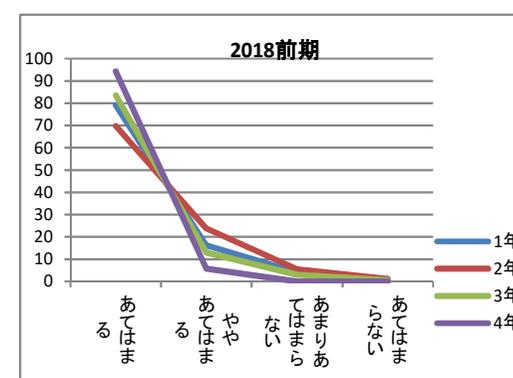
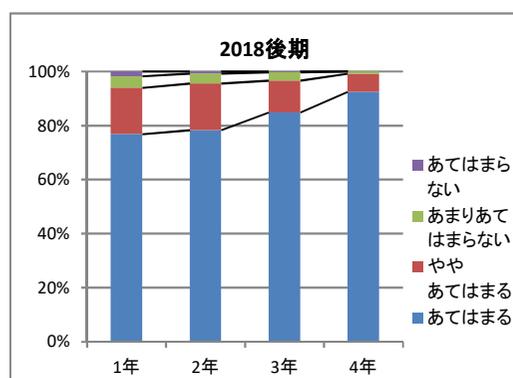
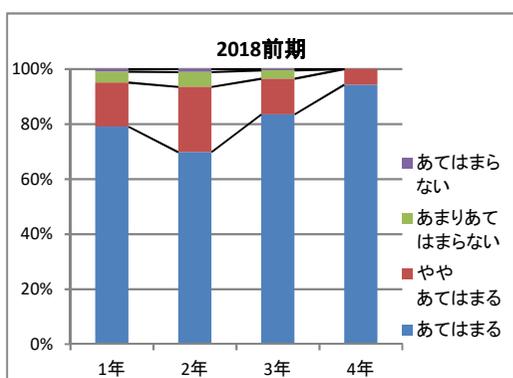
Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



【授業に対するあなたの理解・達成度】
Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】
Q15. 授業は意義あるものでしたか。

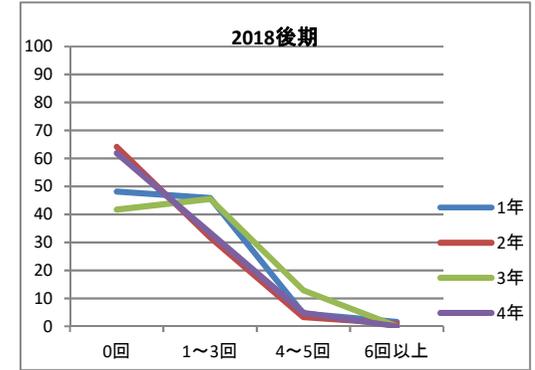
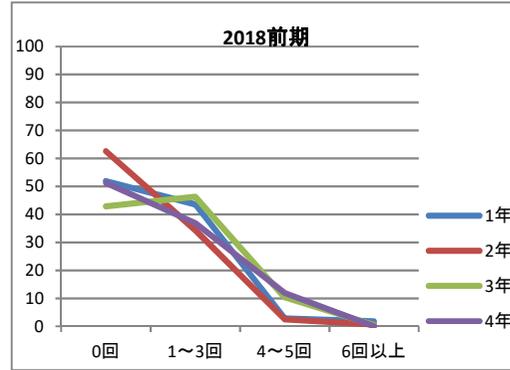
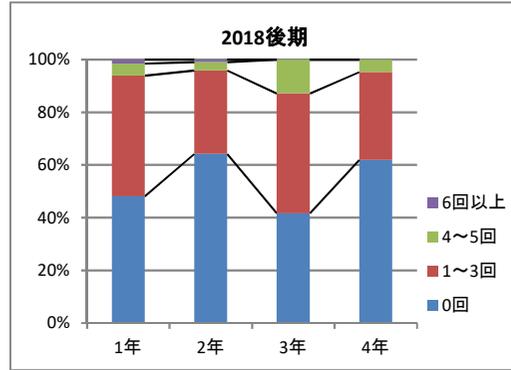
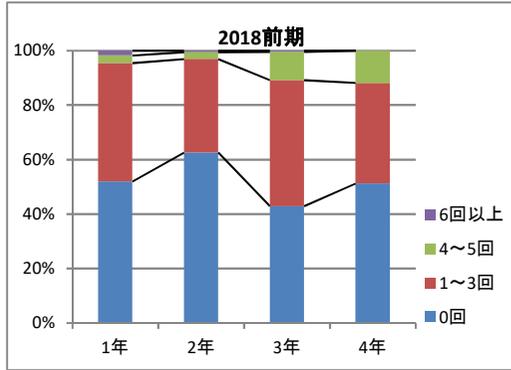


授業アンケート 平成30年度 2018年度

<スポーツ健康福祉学科>

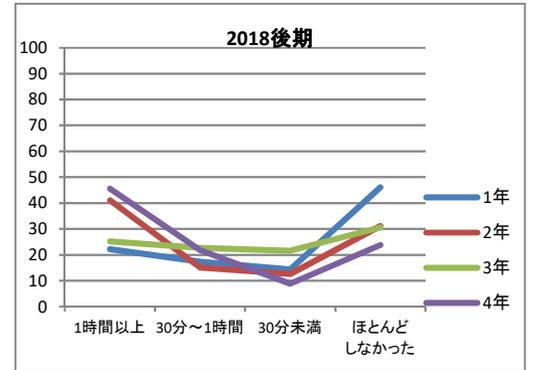
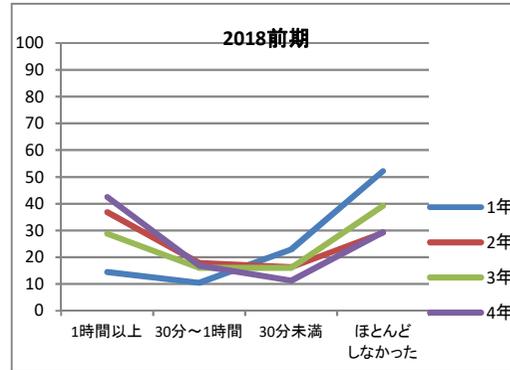
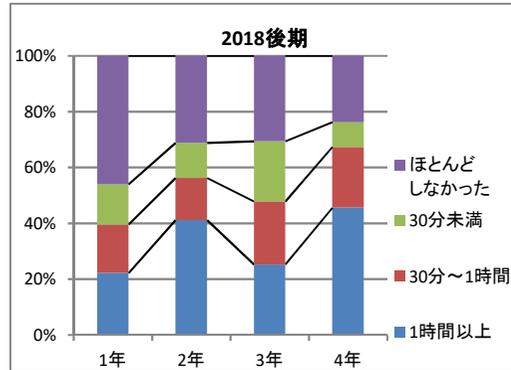
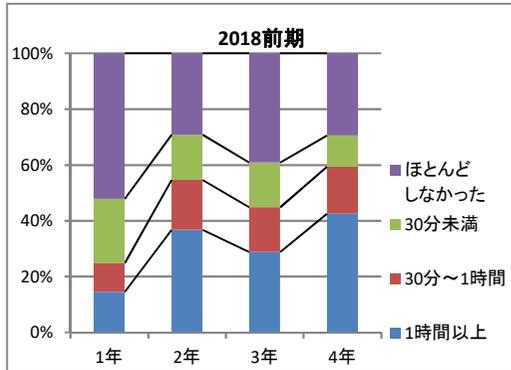
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



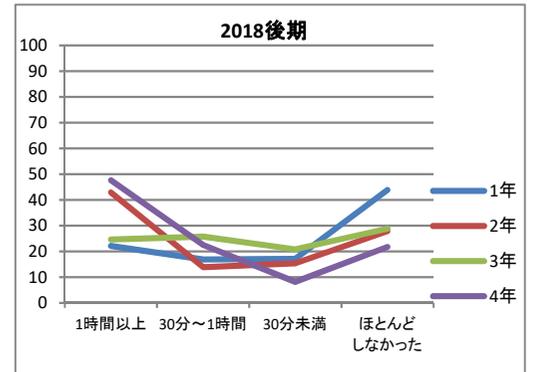
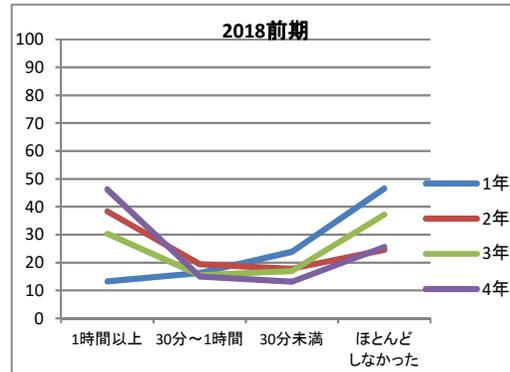
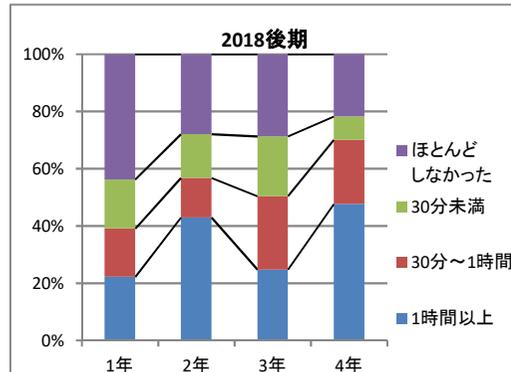
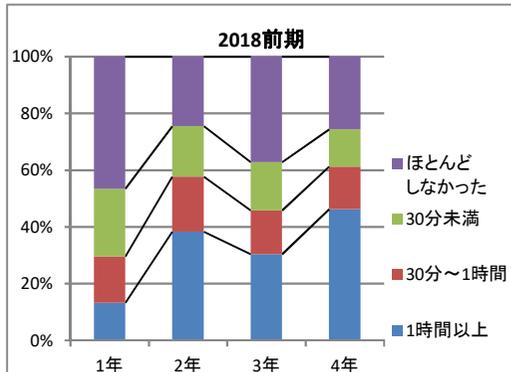
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



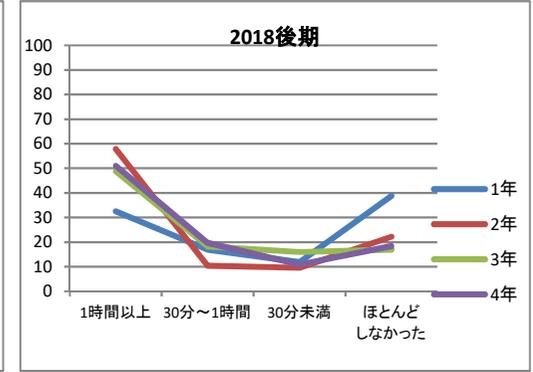
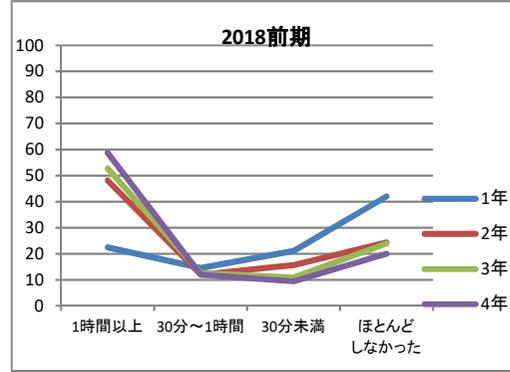
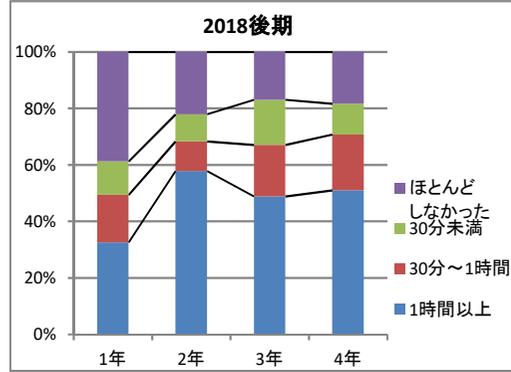
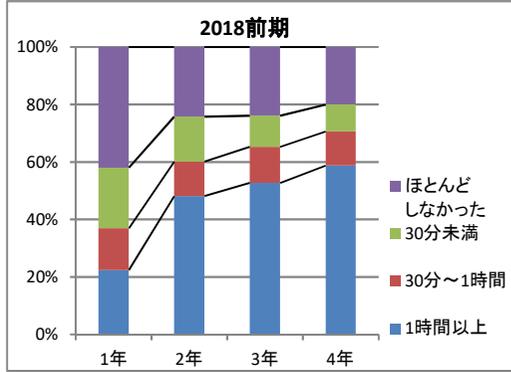
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



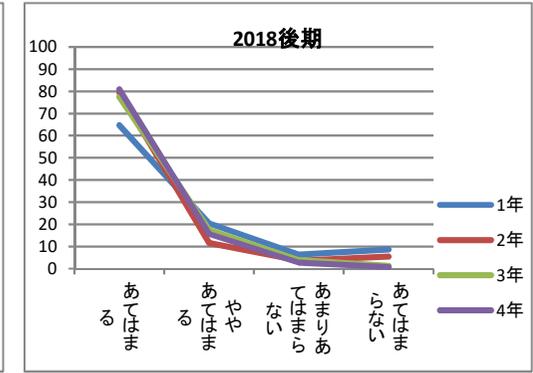
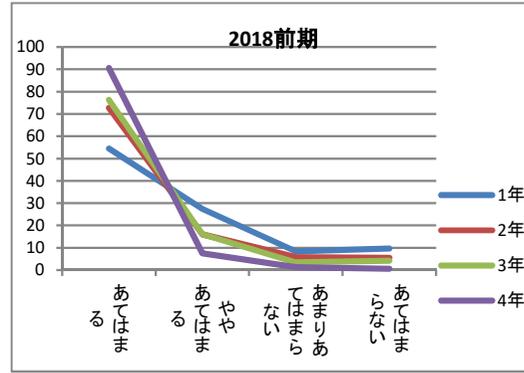
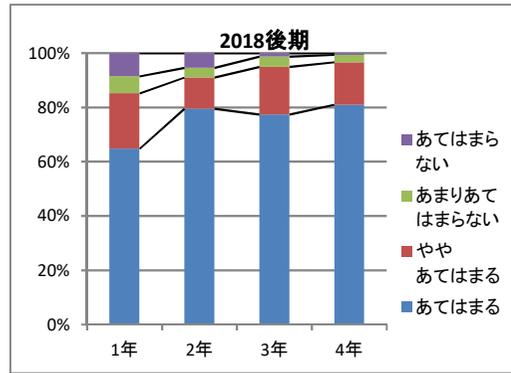
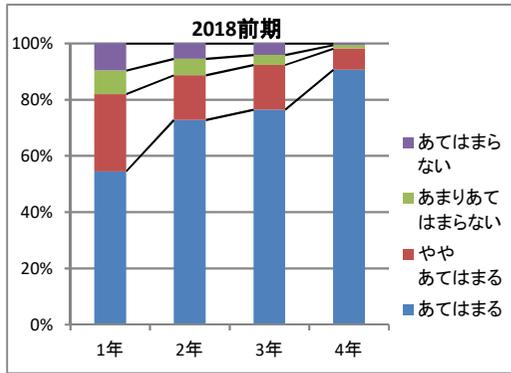
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



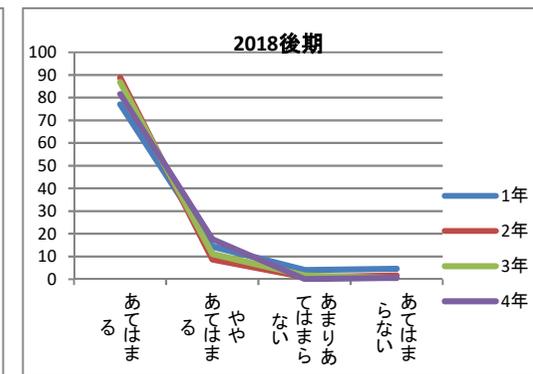
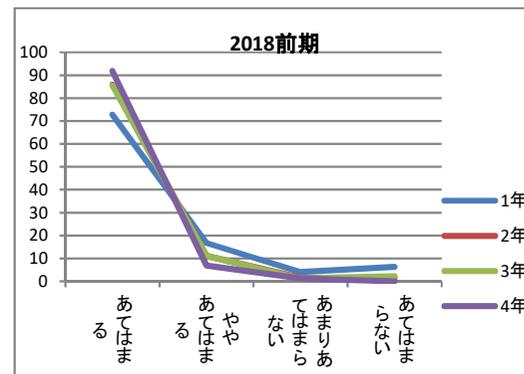
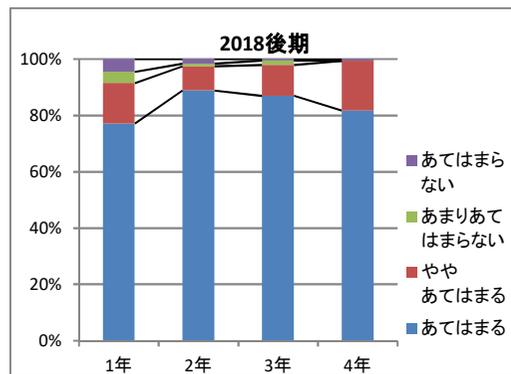
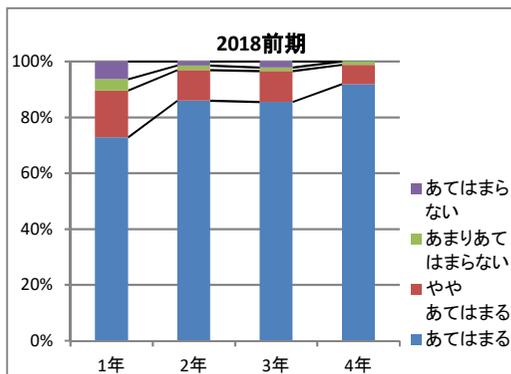
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



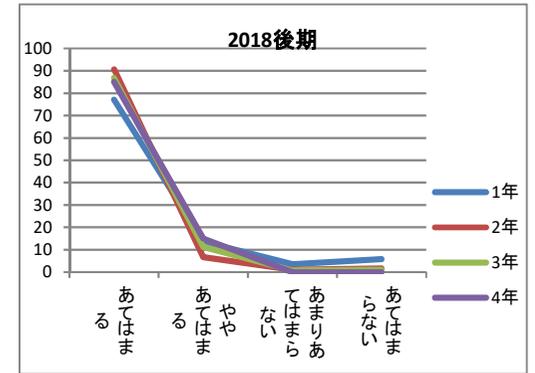
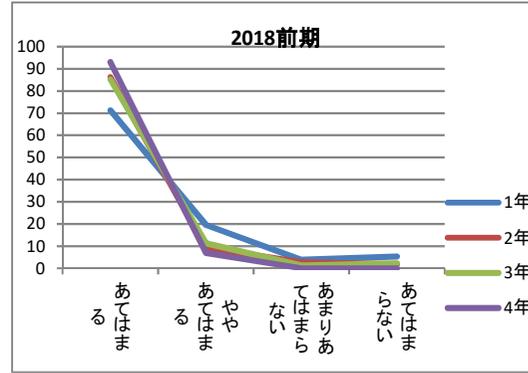
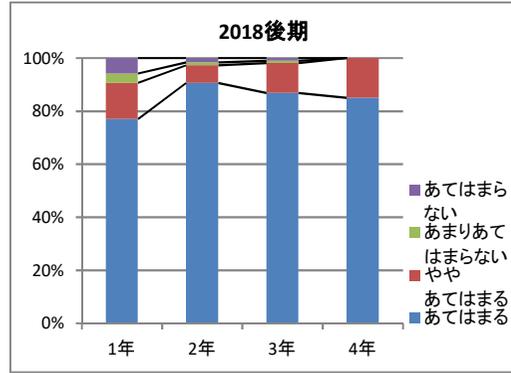
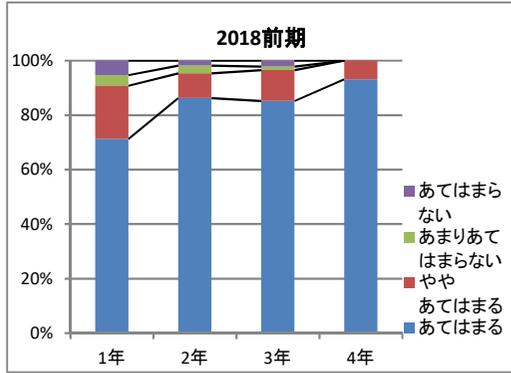
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



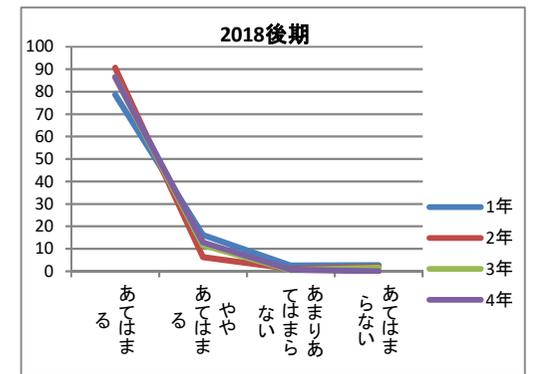
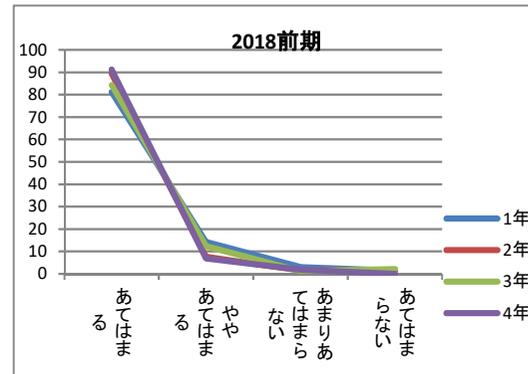
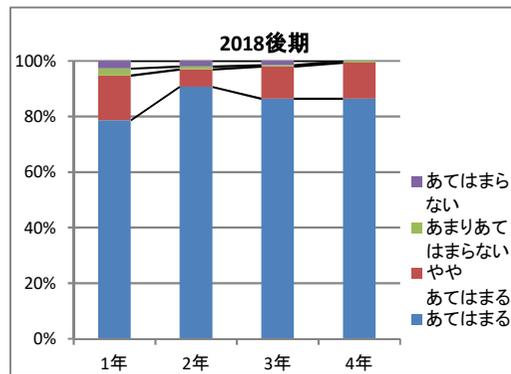
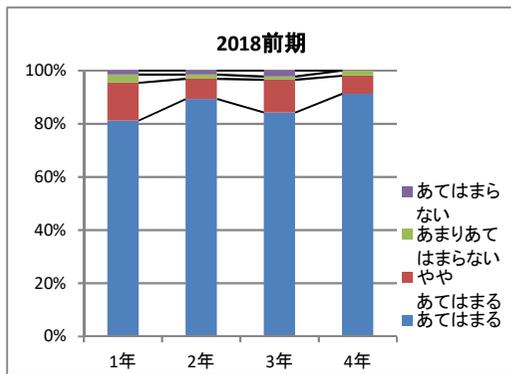
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



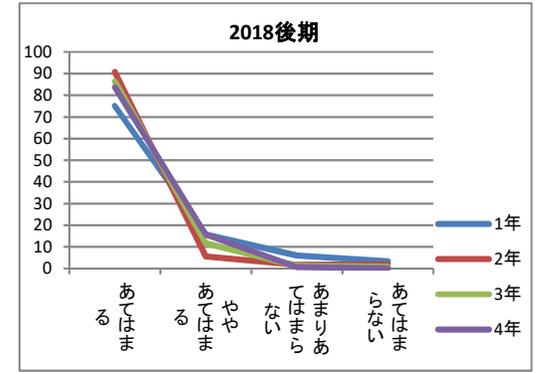
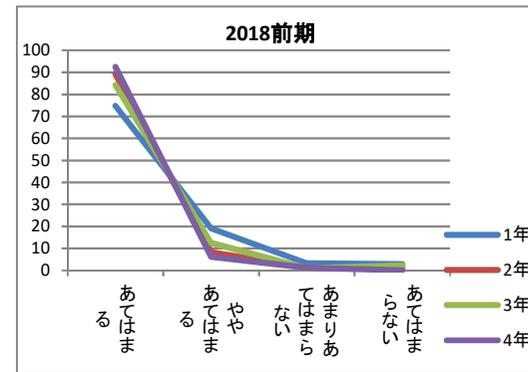
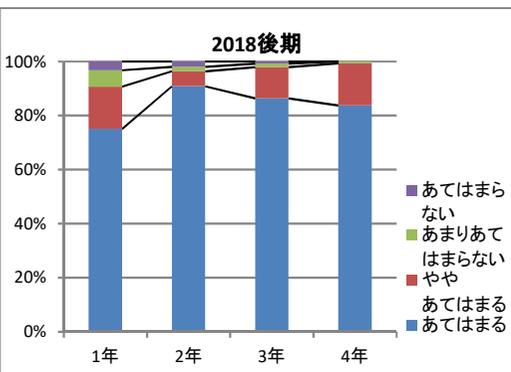
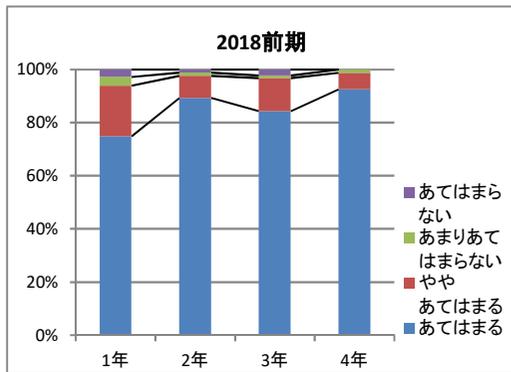
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



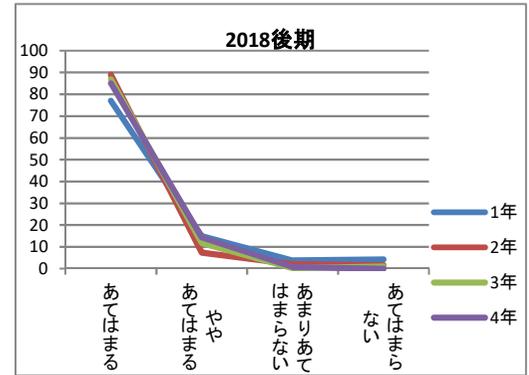
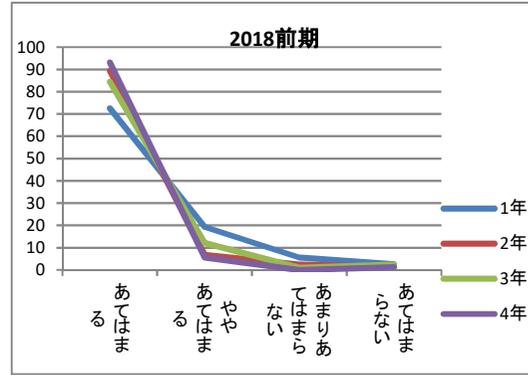
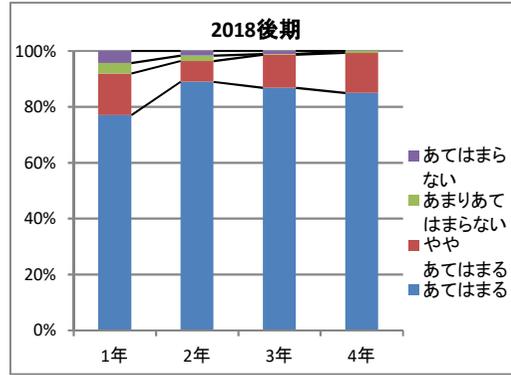
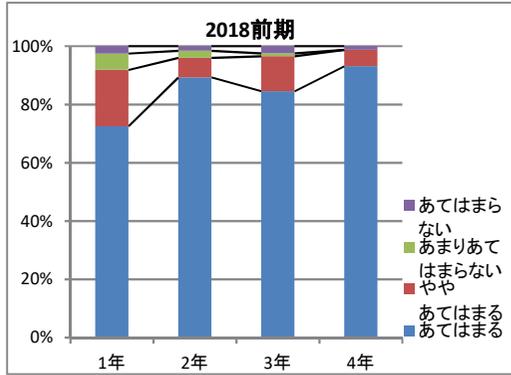
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



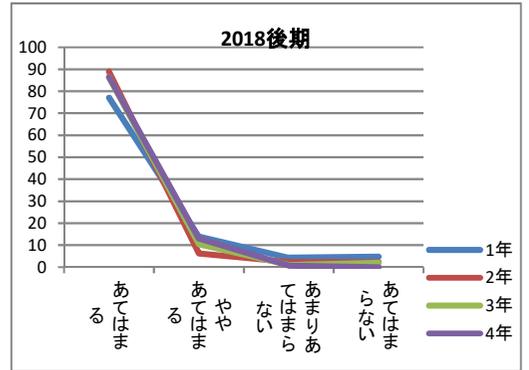
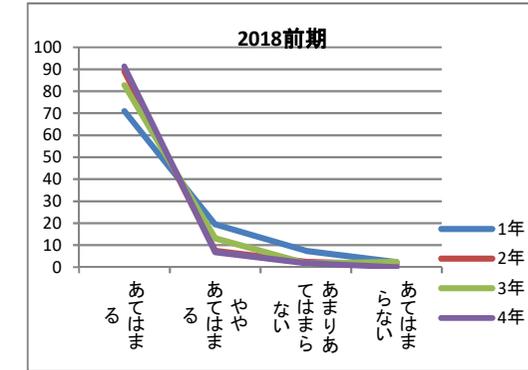
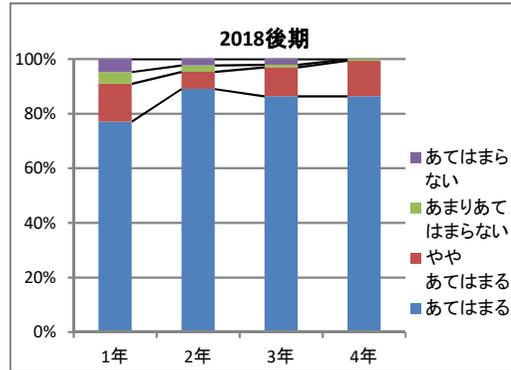
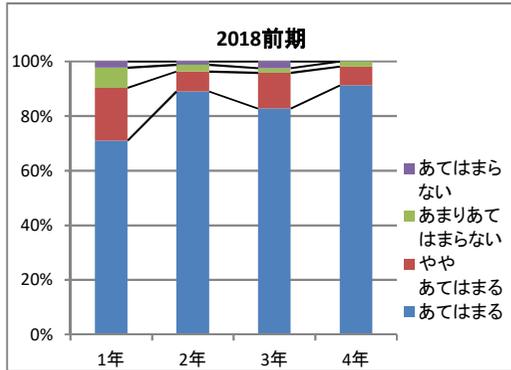
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



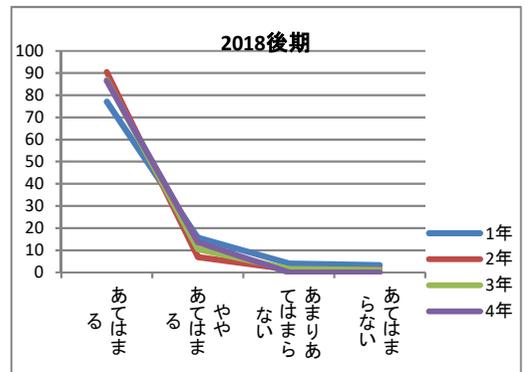
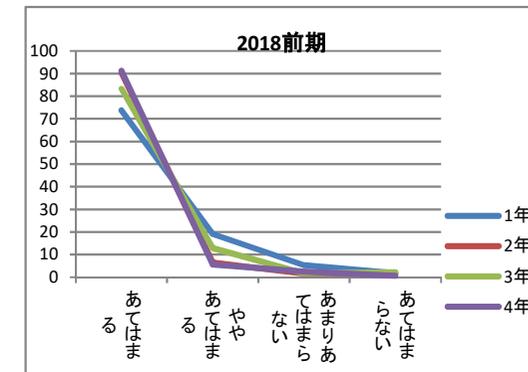
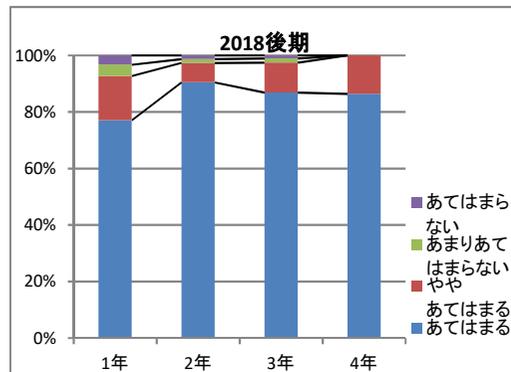
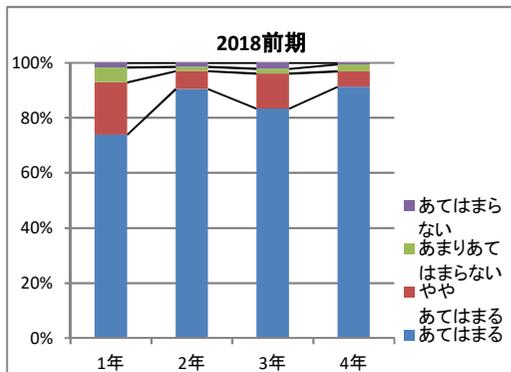
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



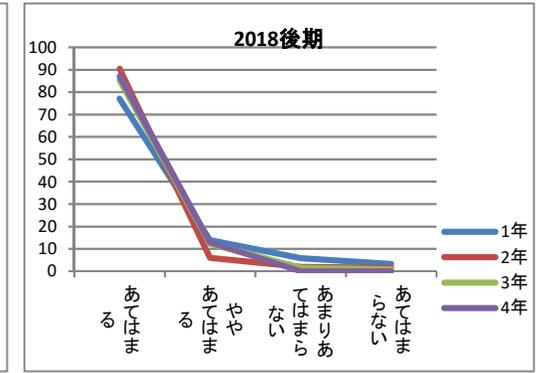
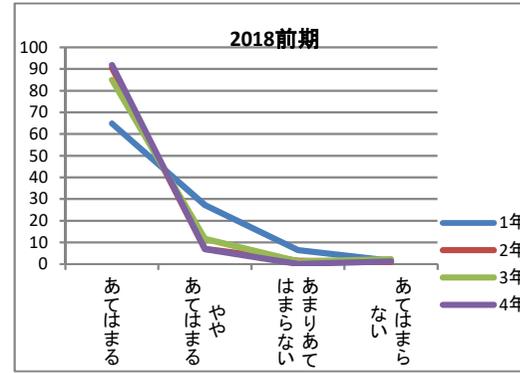
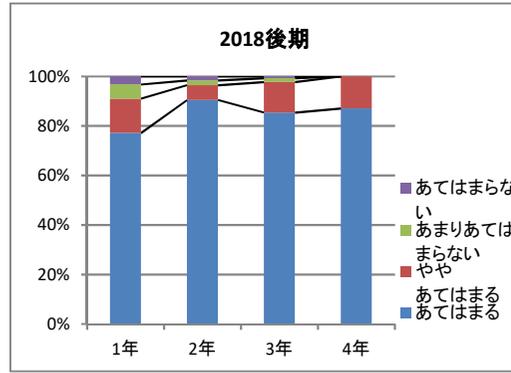
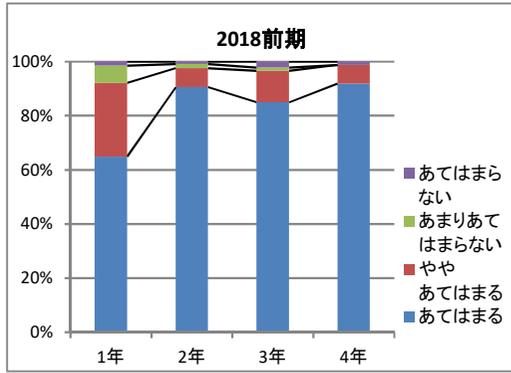
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



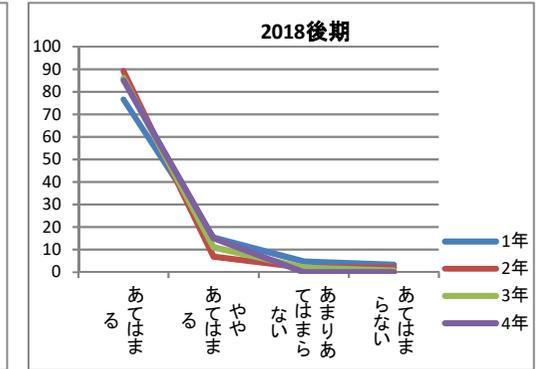
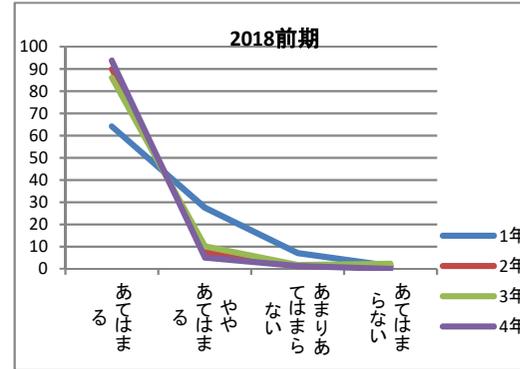
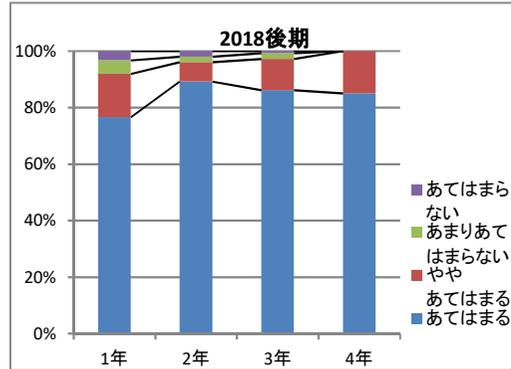
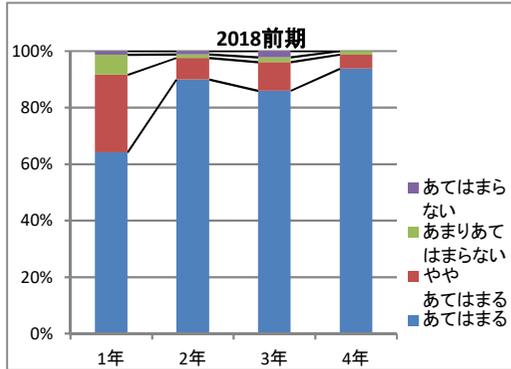
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



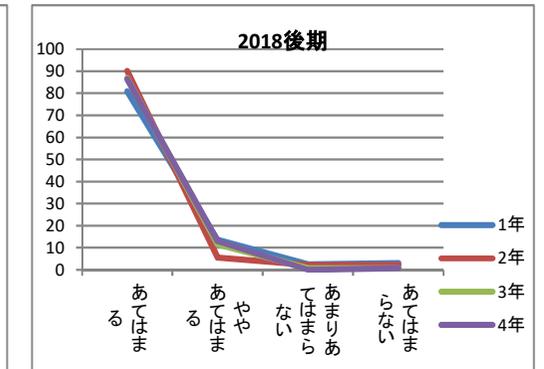
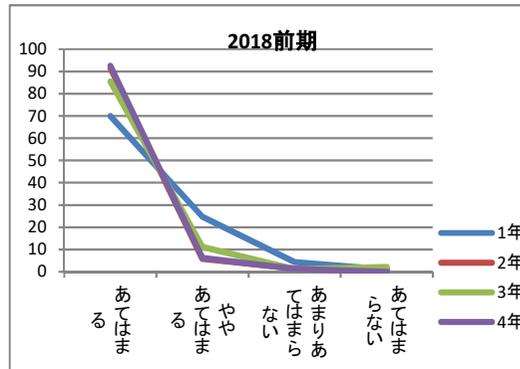
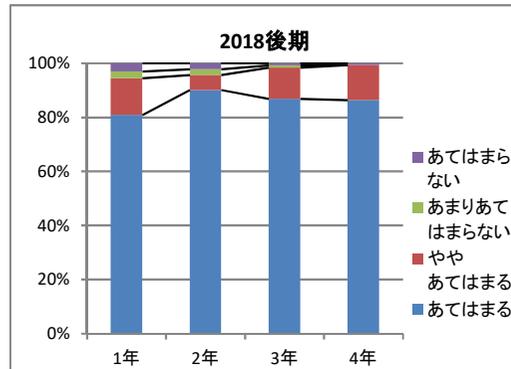
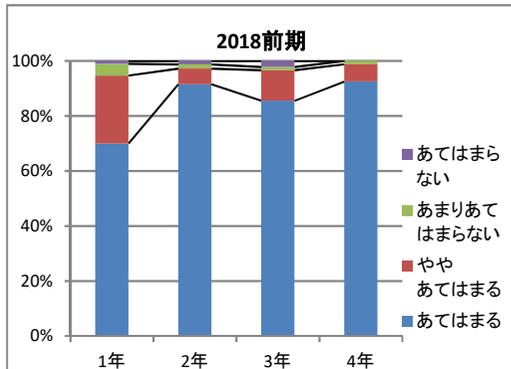
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。

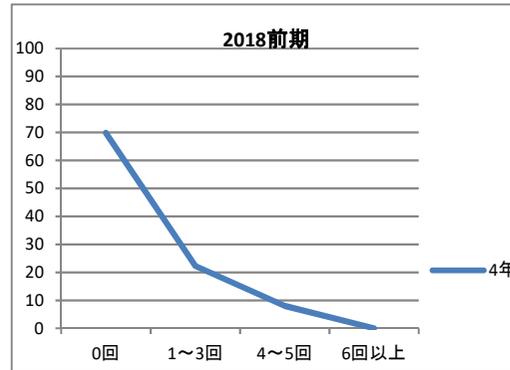
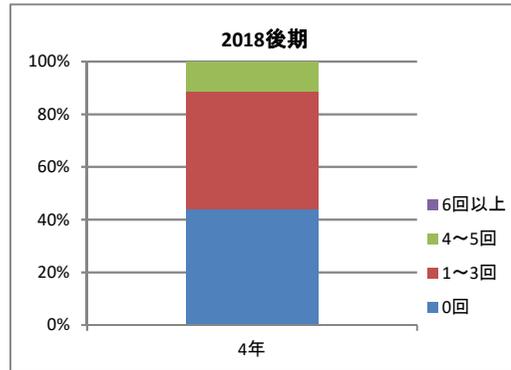
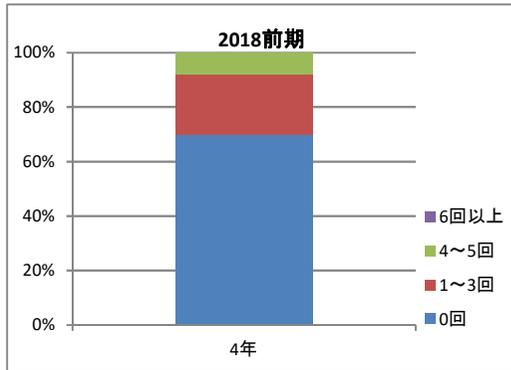


授業アンケート 平成30年度 2018年度

<子ども保育福祉学科>

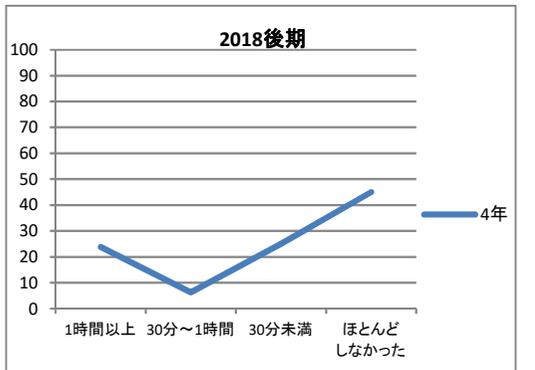
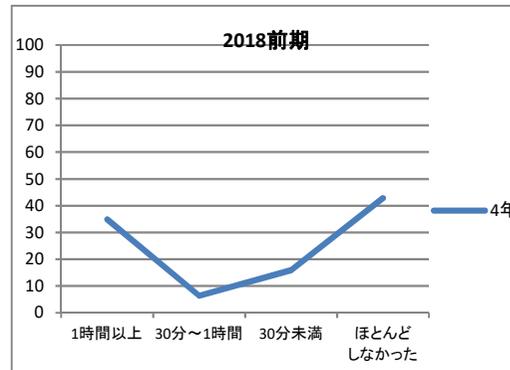
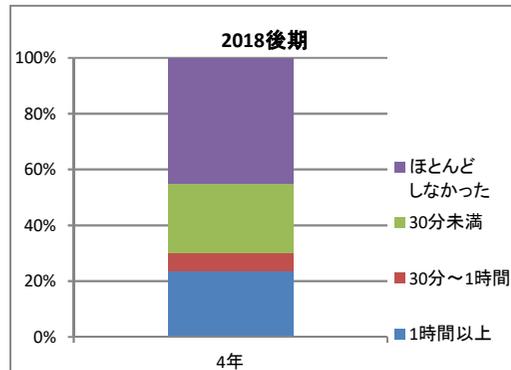
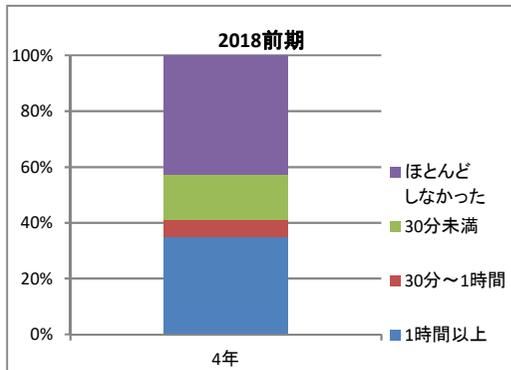
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



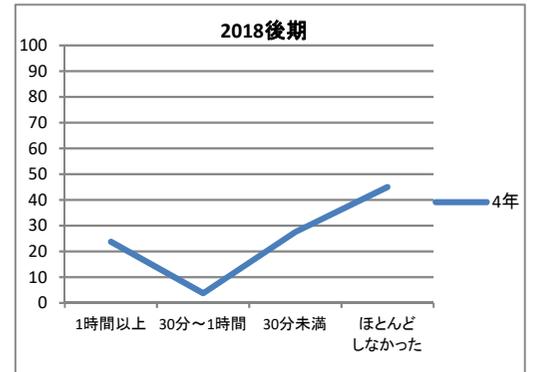
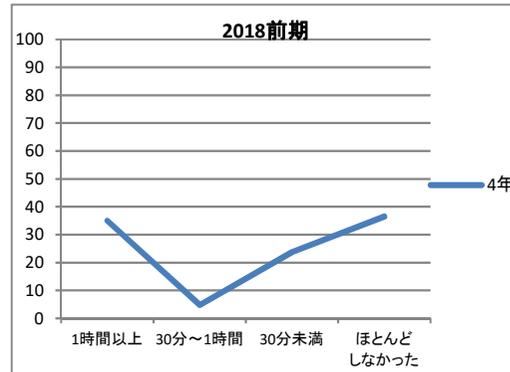
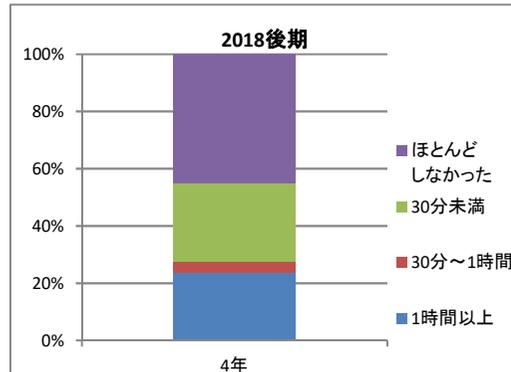
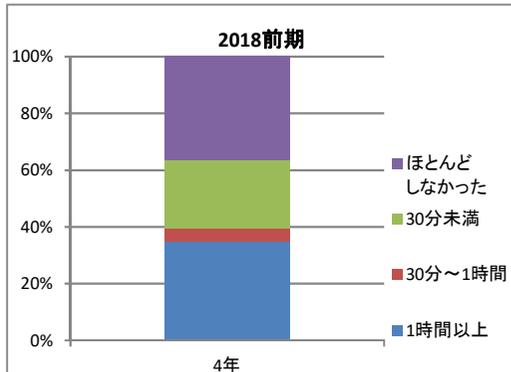
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



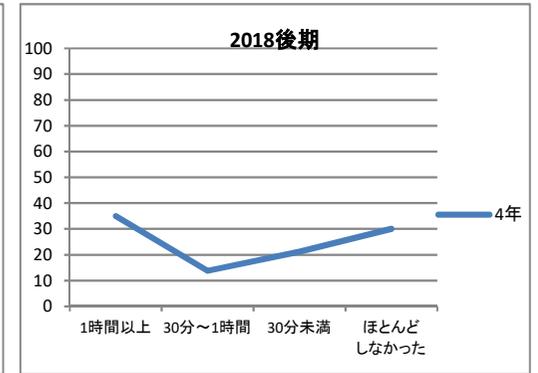
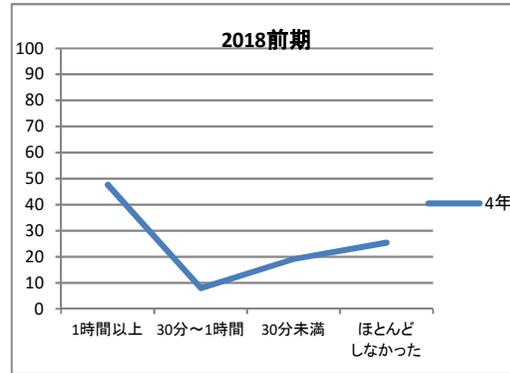
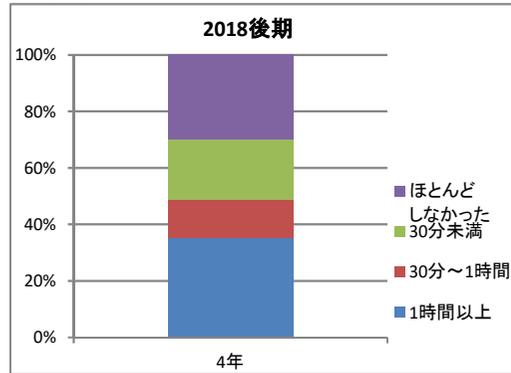
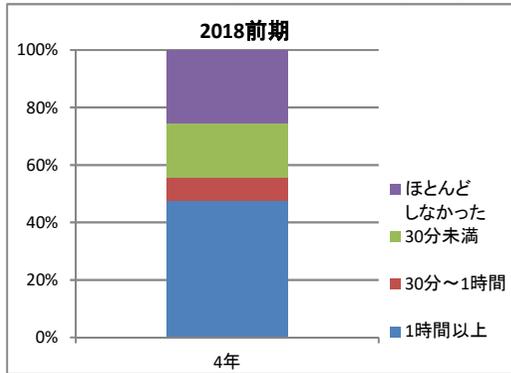
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



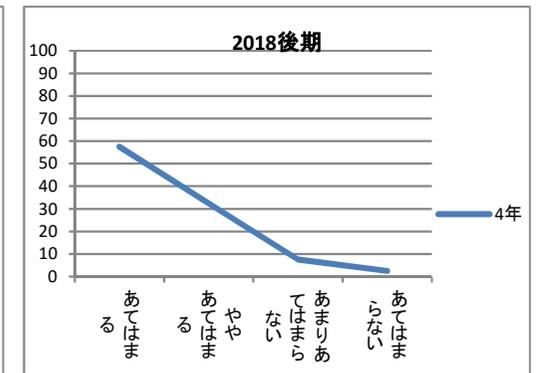
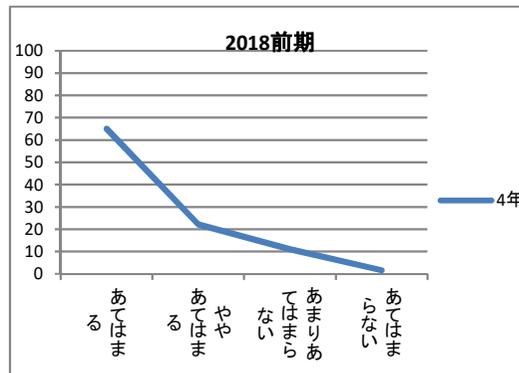
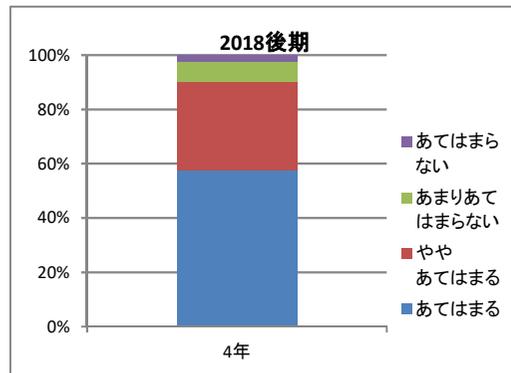
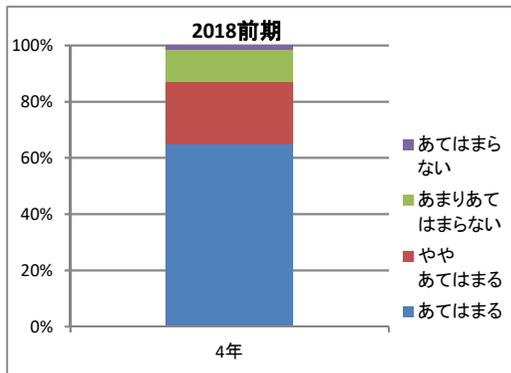
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



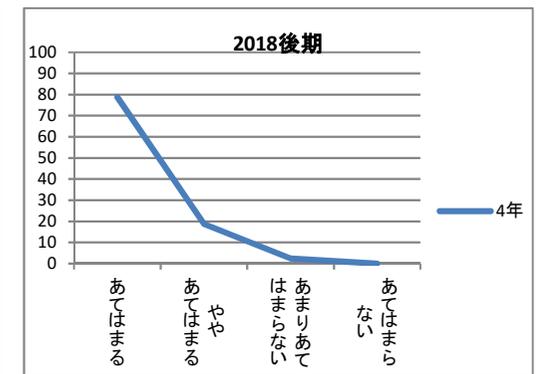
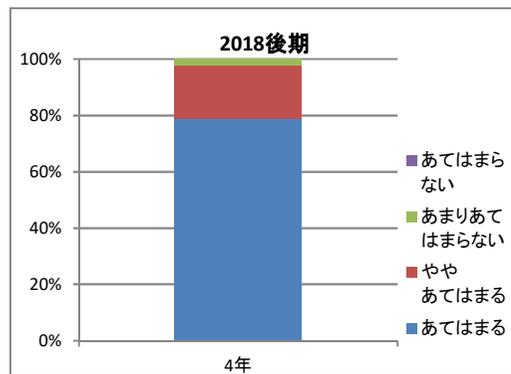
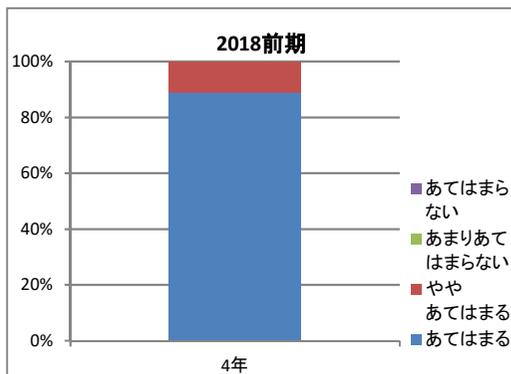
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



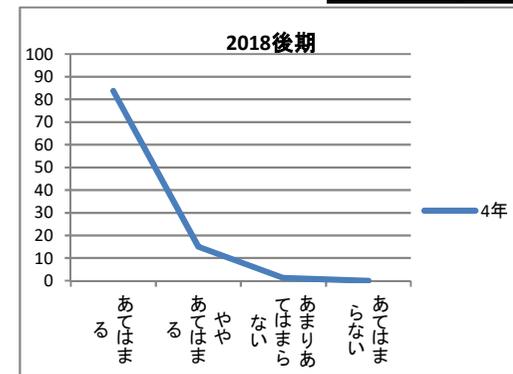
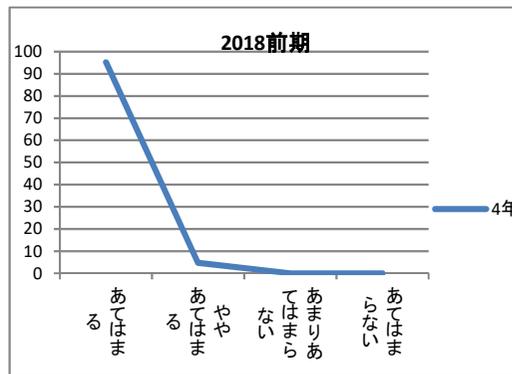
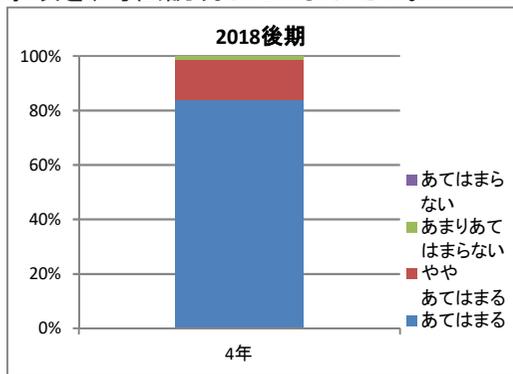
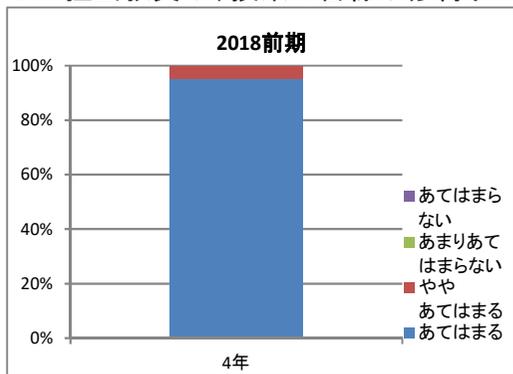
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



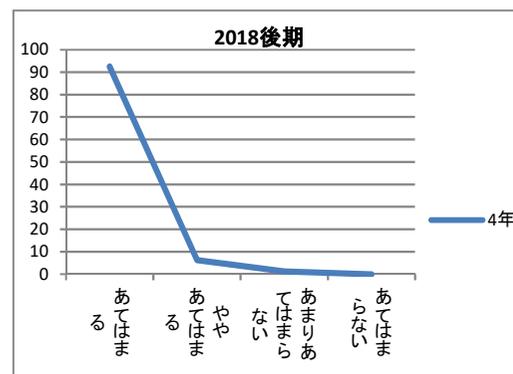
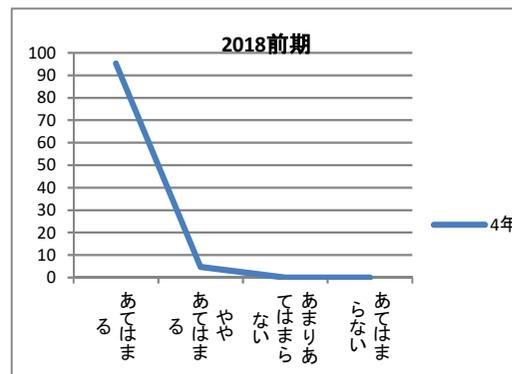
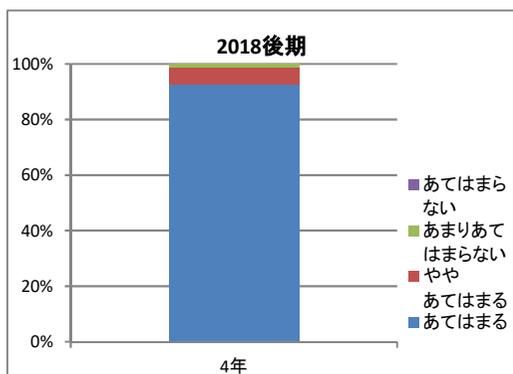
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



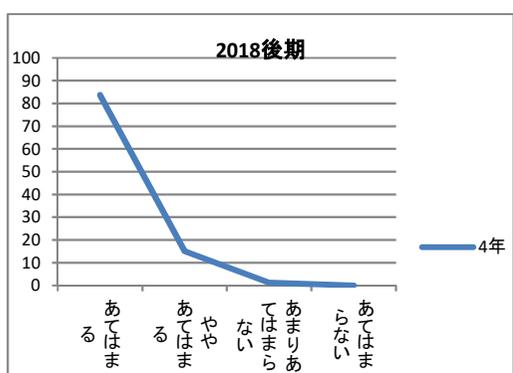
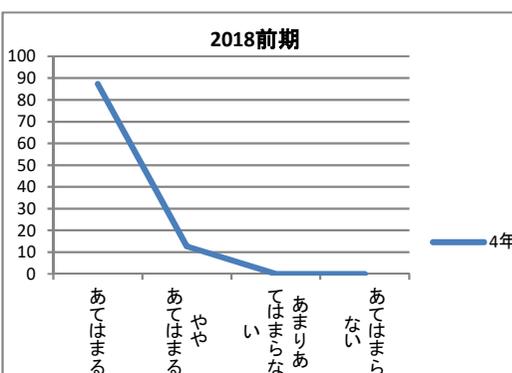
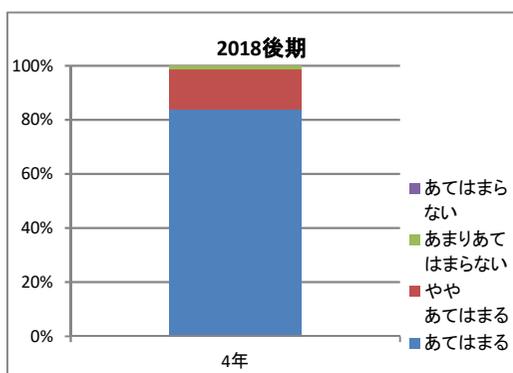
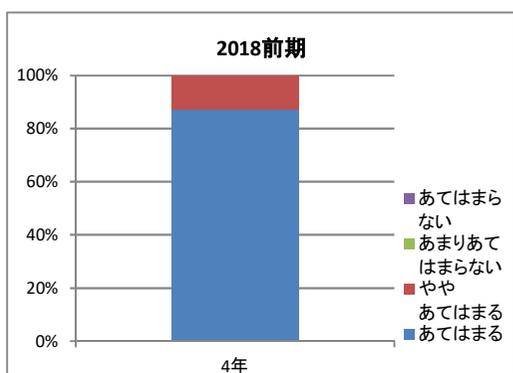
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



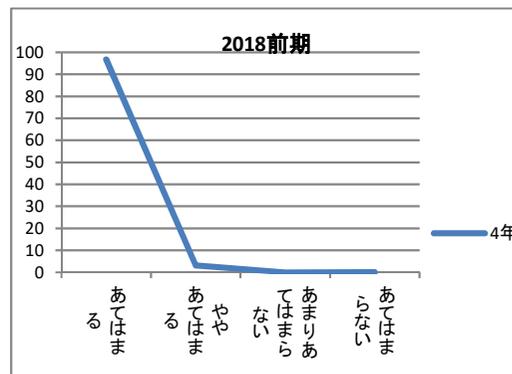
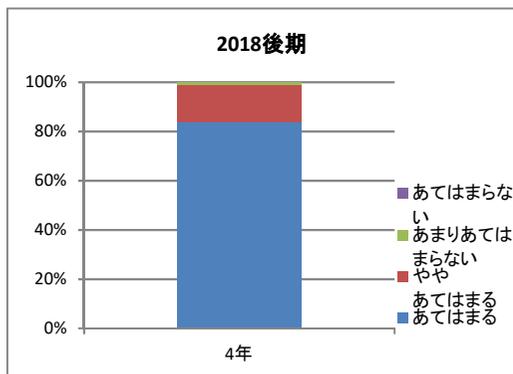
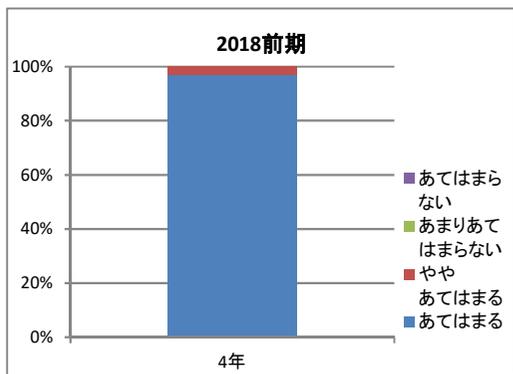
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



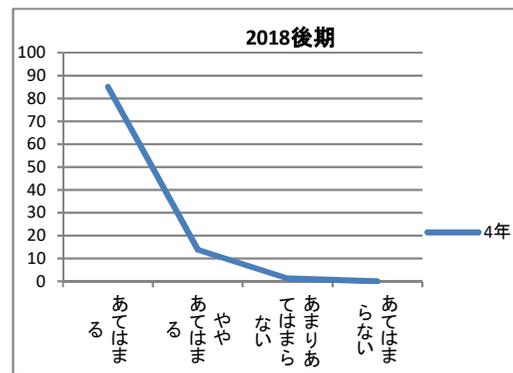
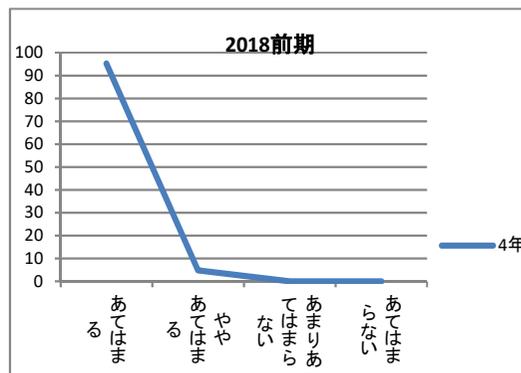
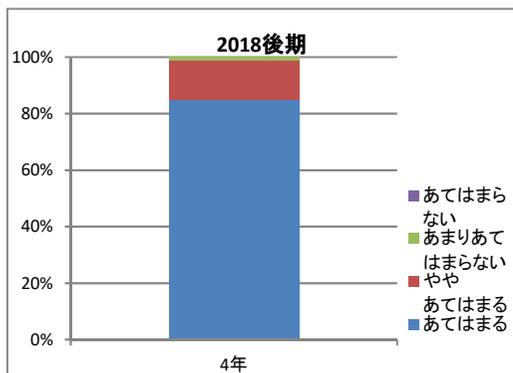
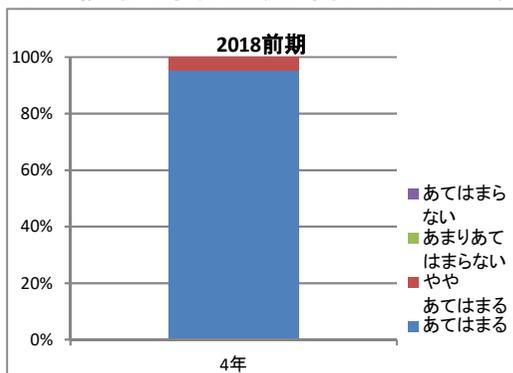
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



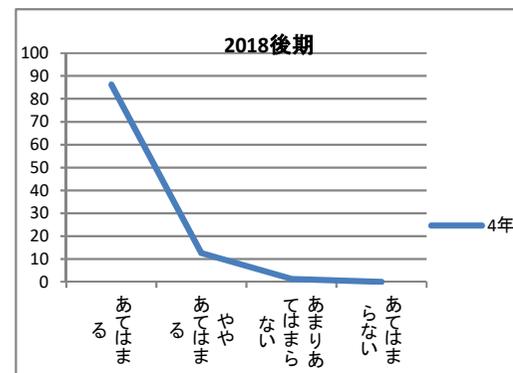
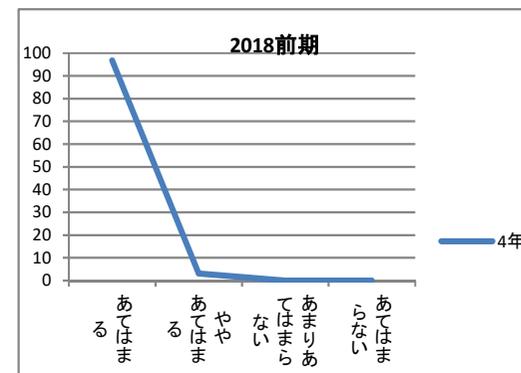
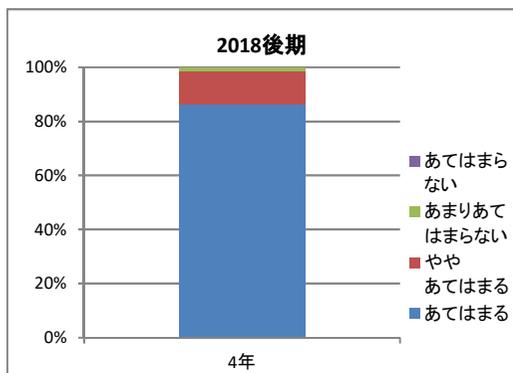
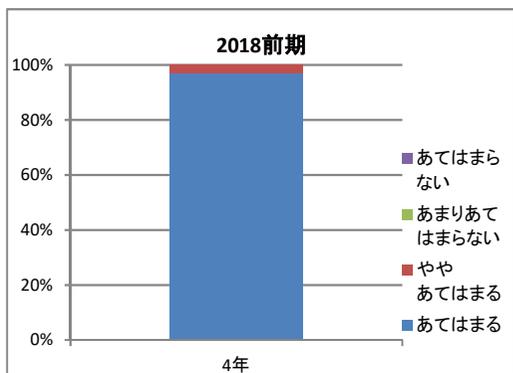
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。

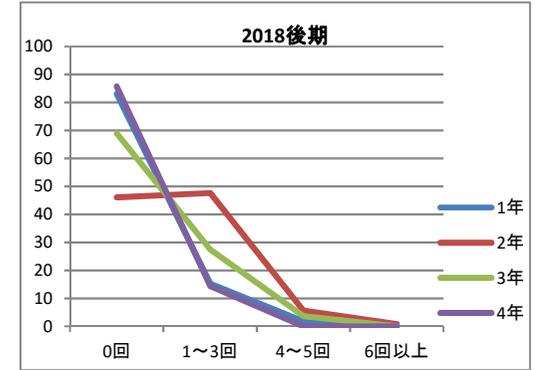
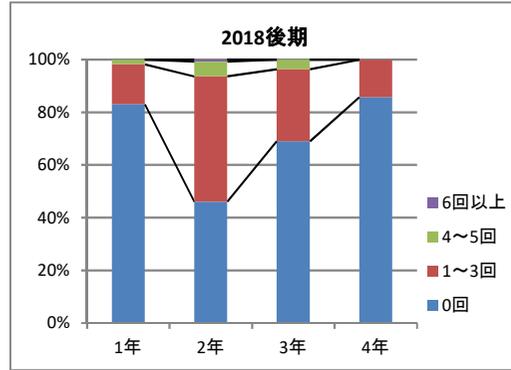
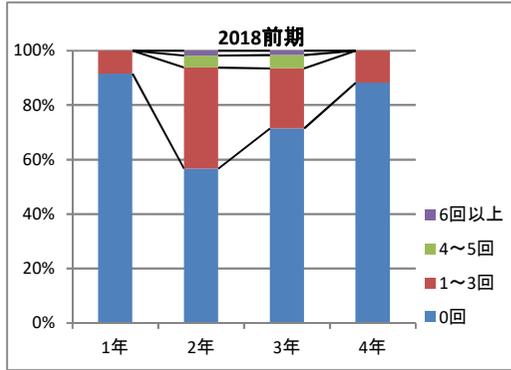


授業アンケート 平成30年度 2018年度

<作業療法学科>

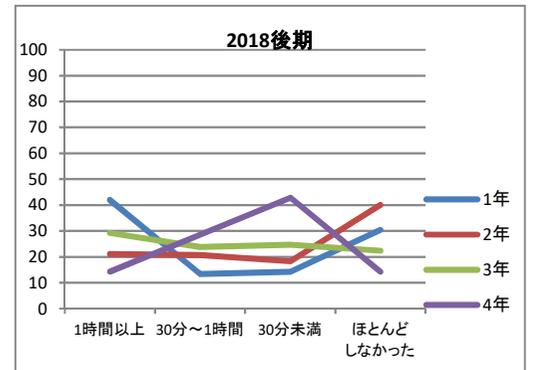
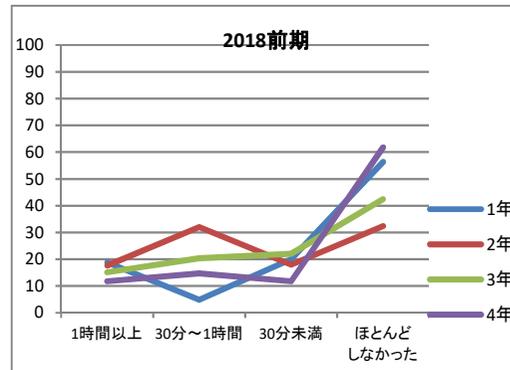
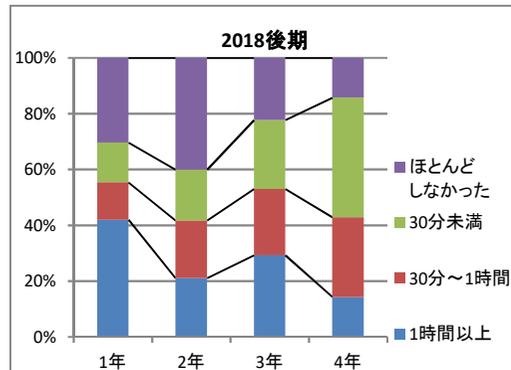
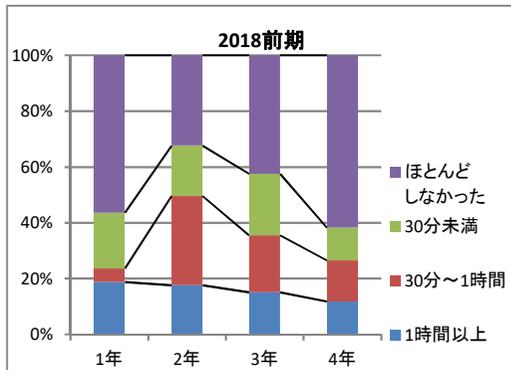
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



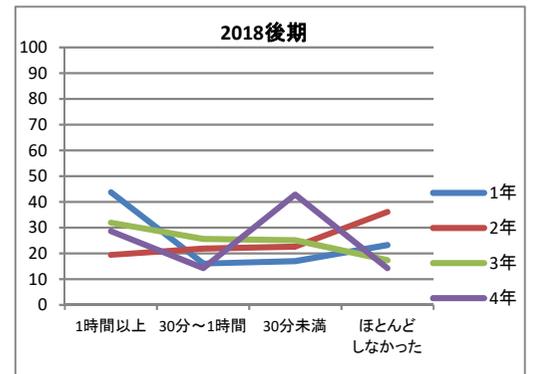
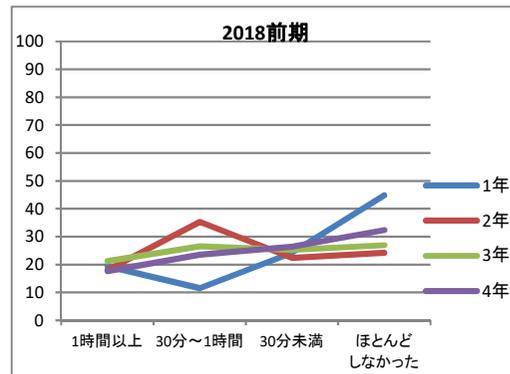
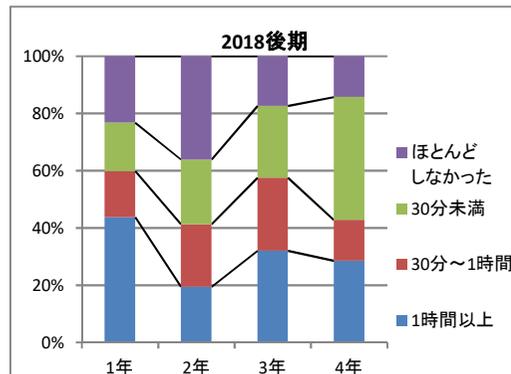
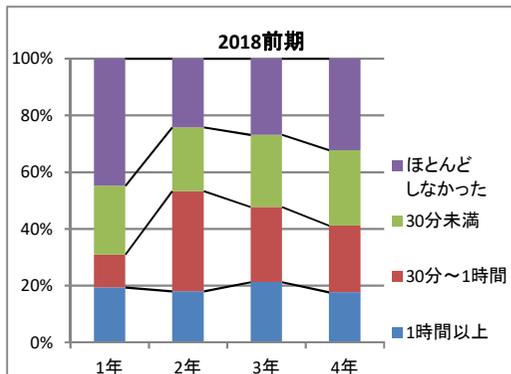
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



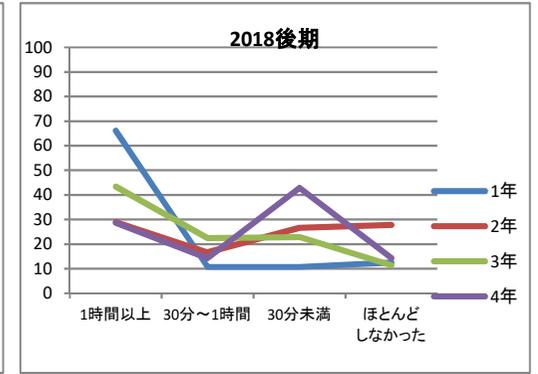
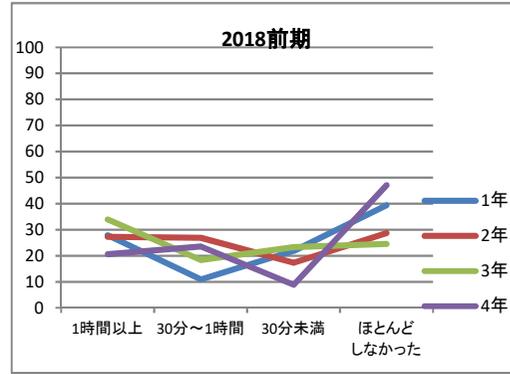
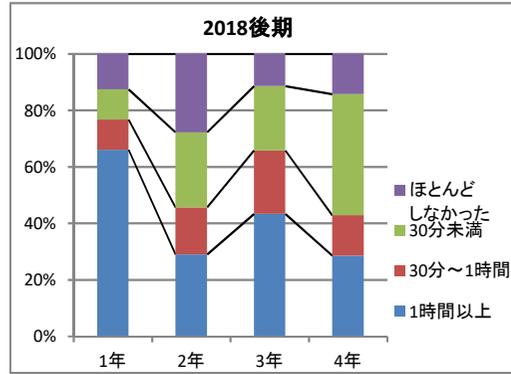
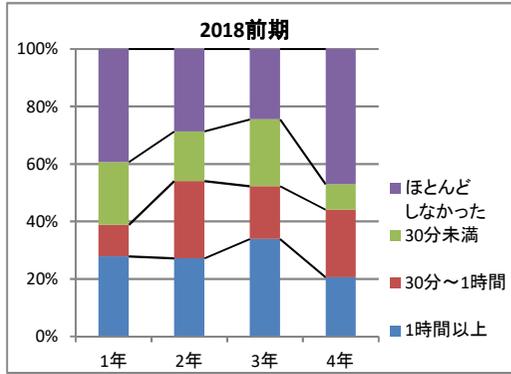
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



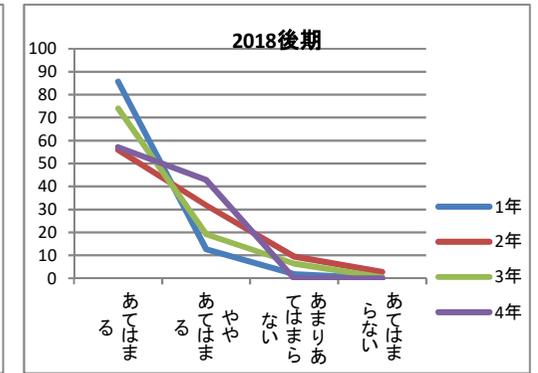
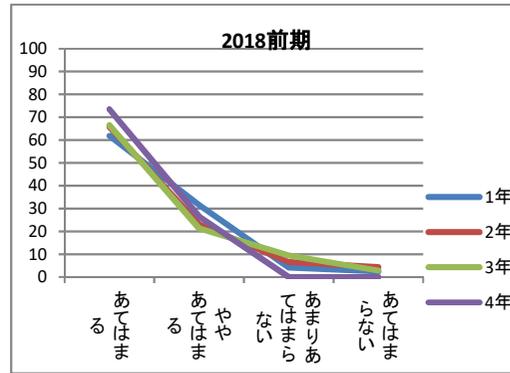
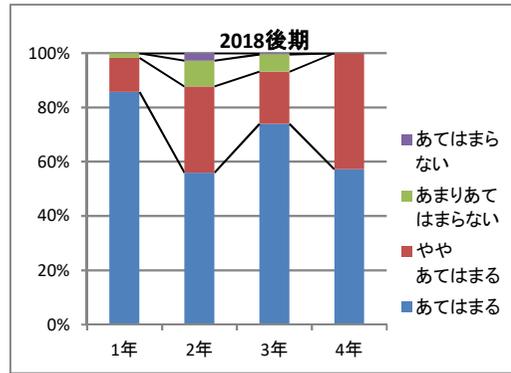
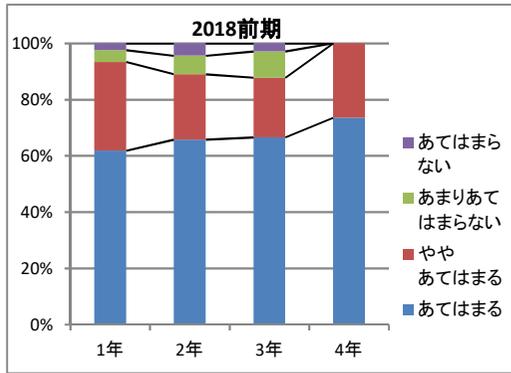
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



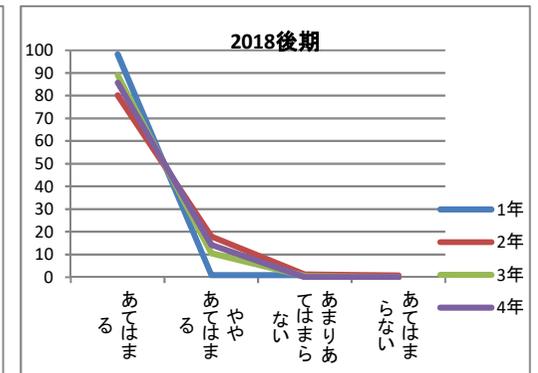
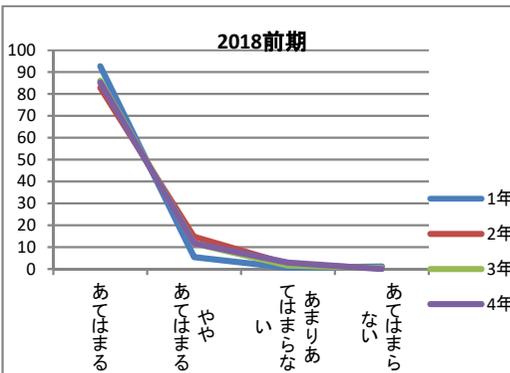
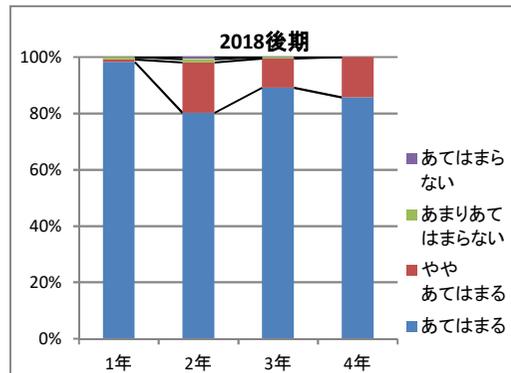
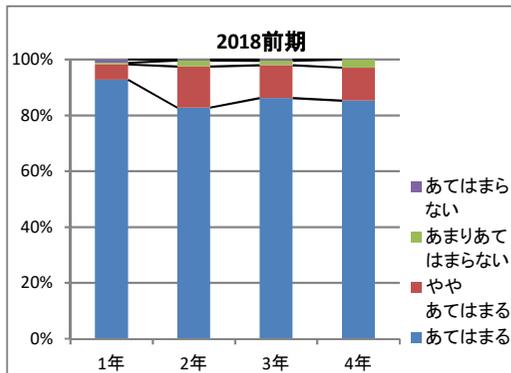
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



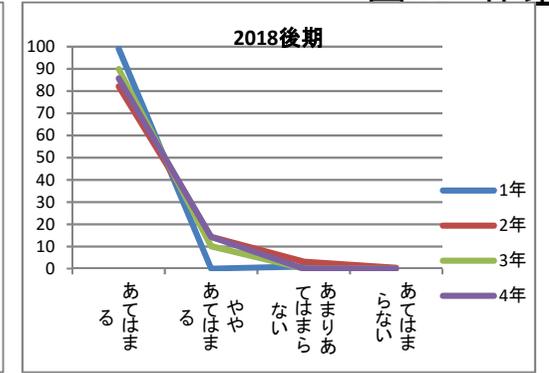
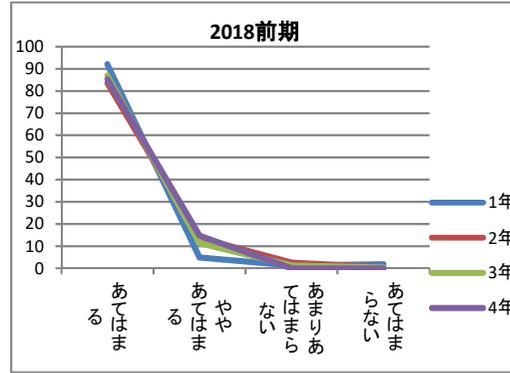
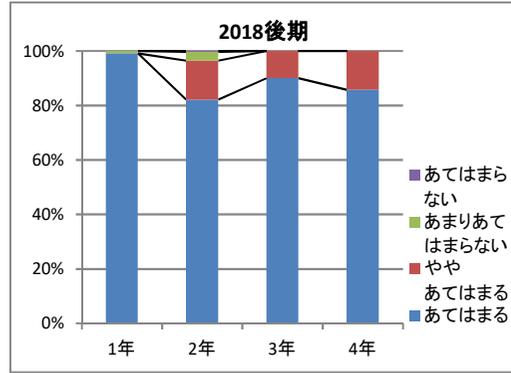
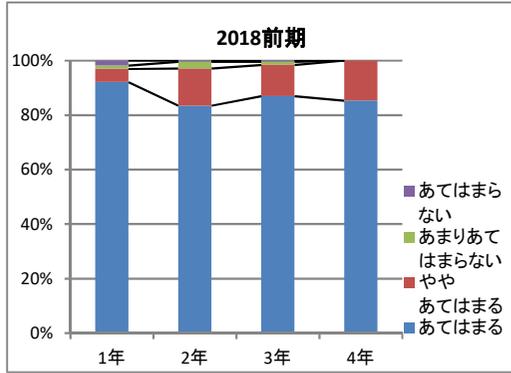
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



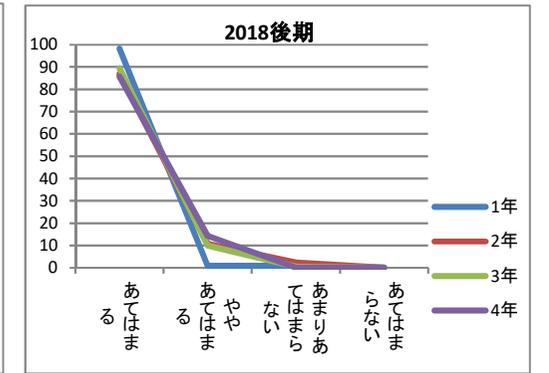
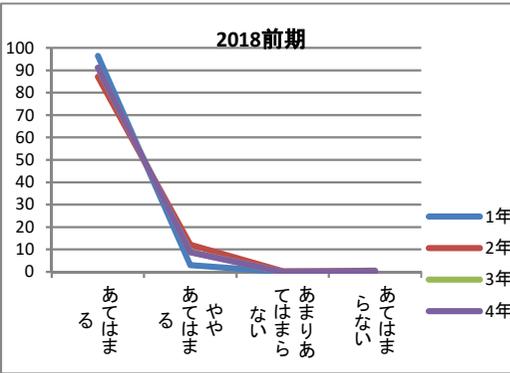
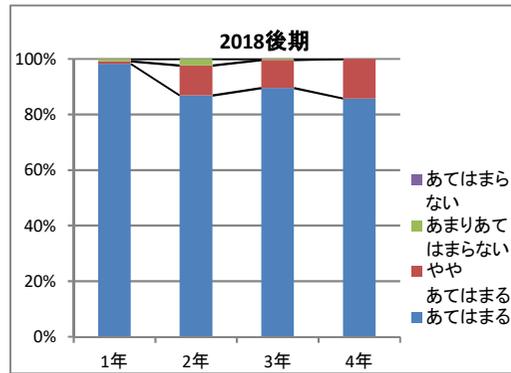
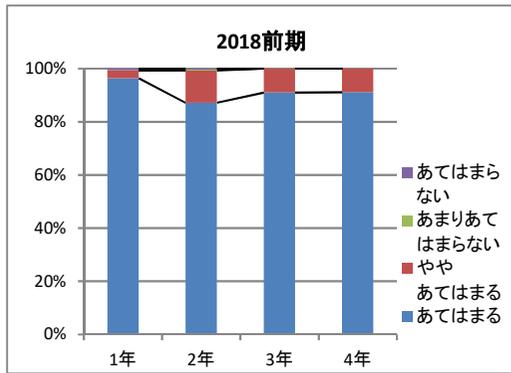
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



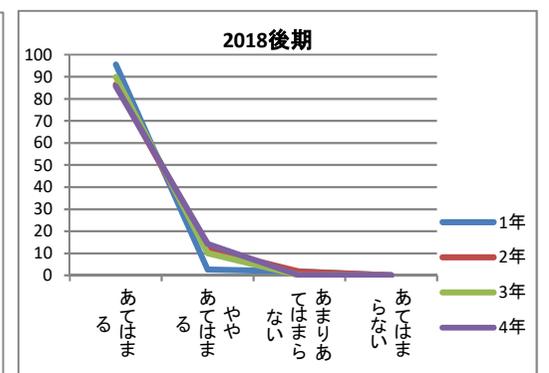
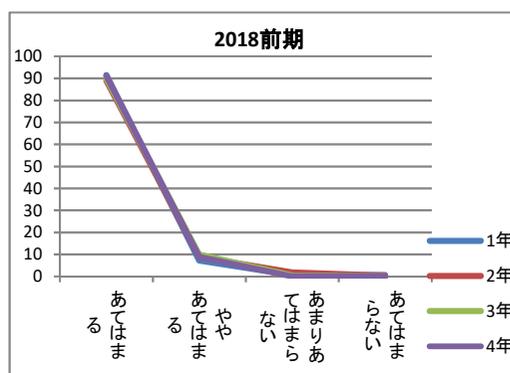
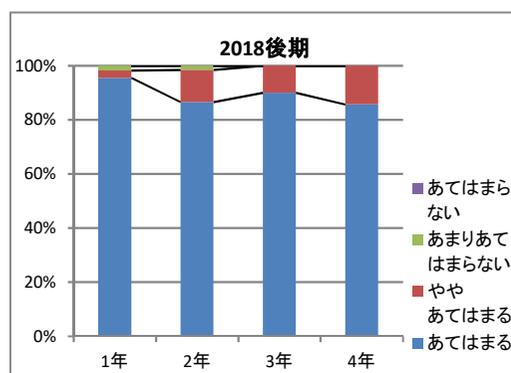
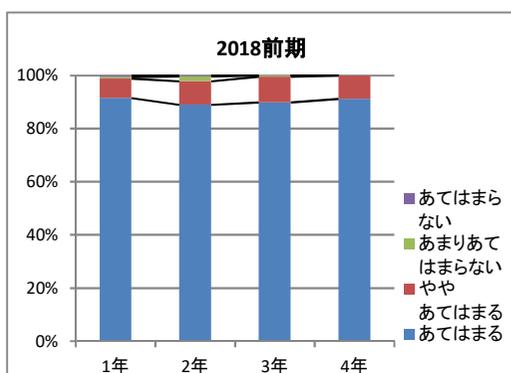
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



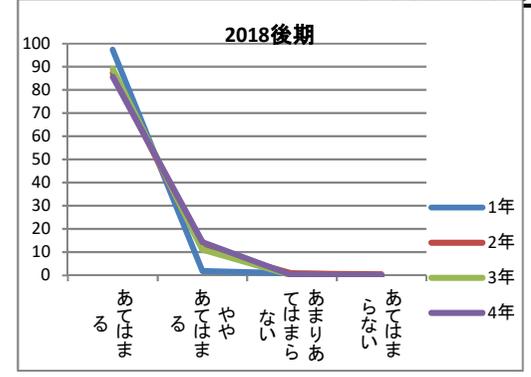
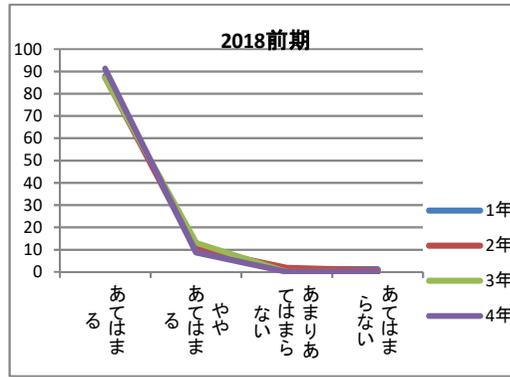
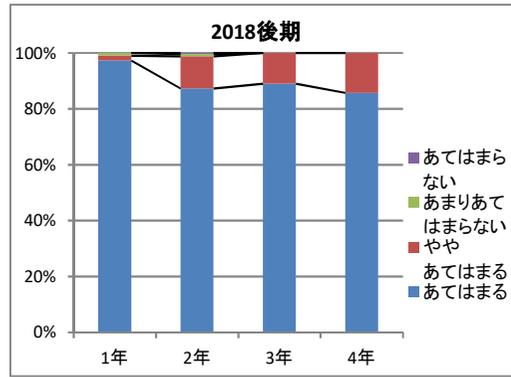
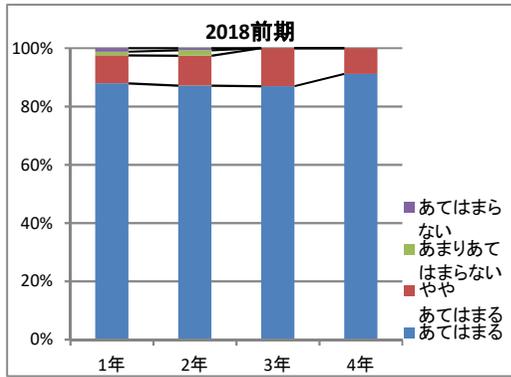
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



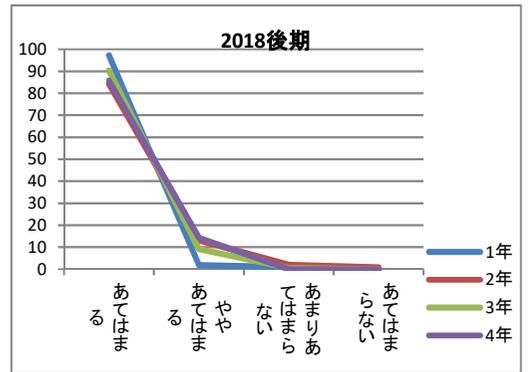
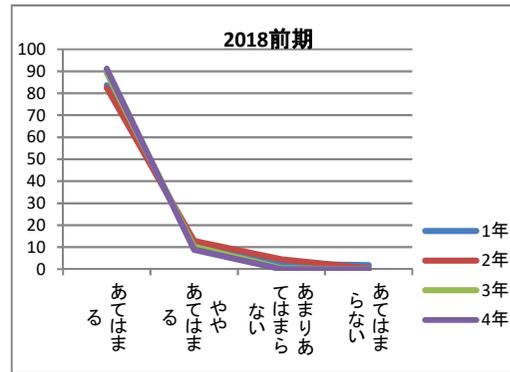
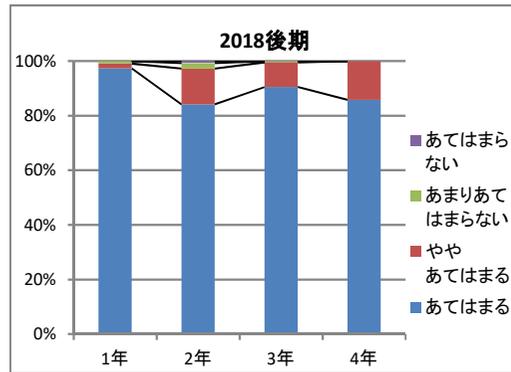
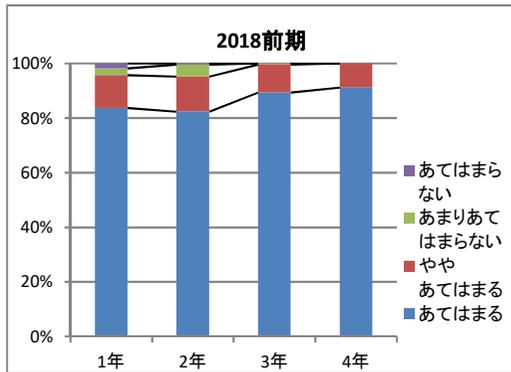
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



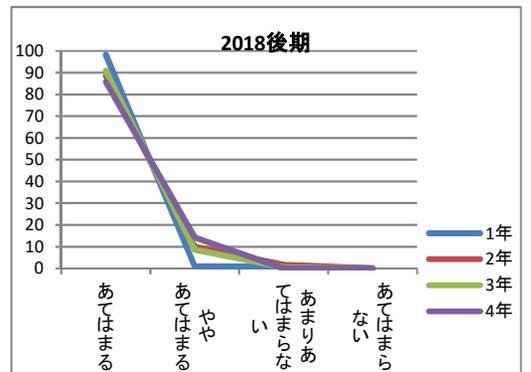
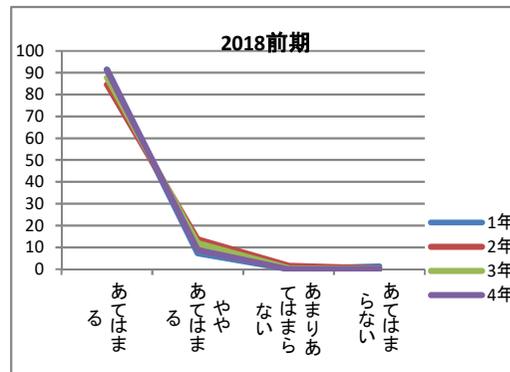
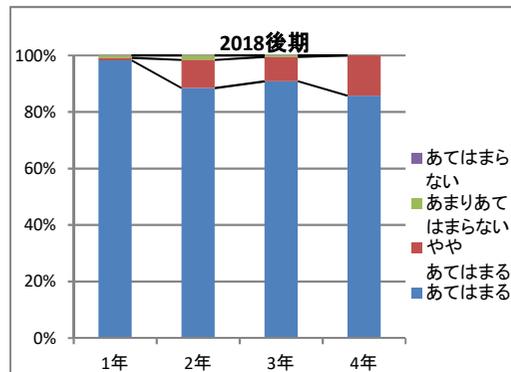
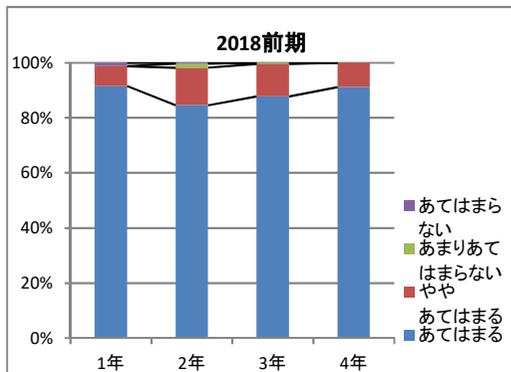
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



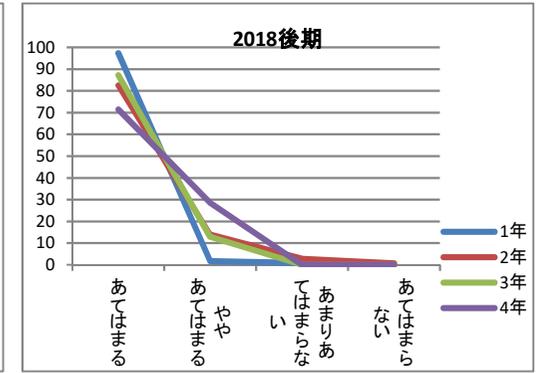
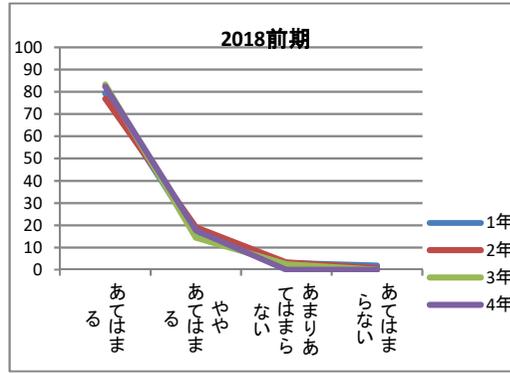
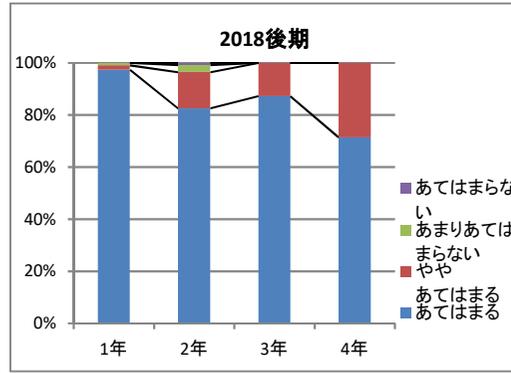
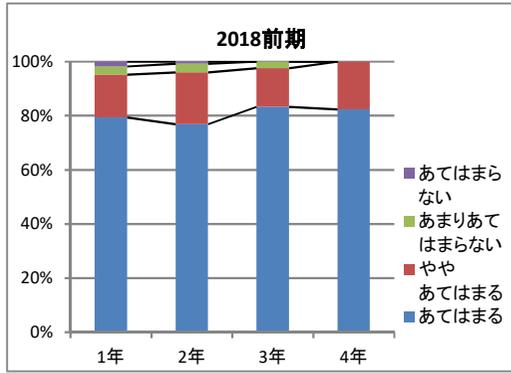
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



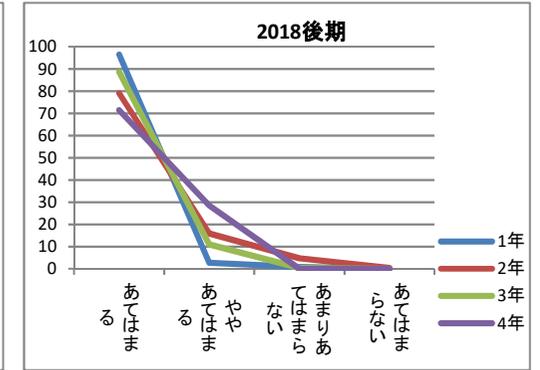
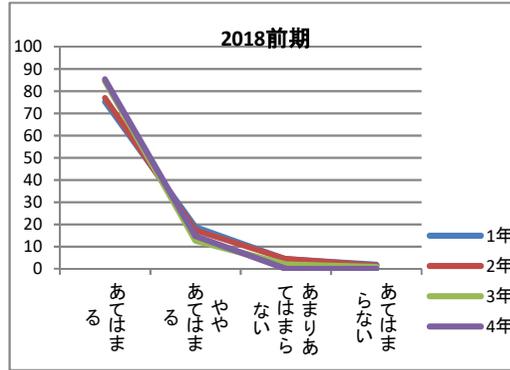
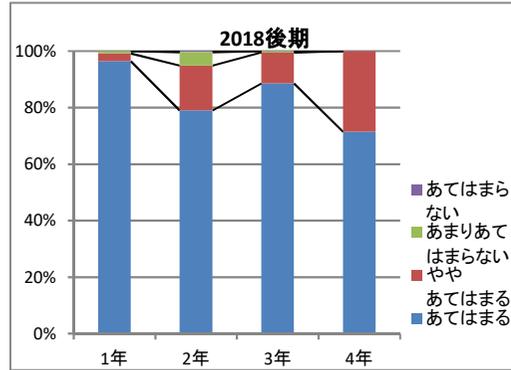
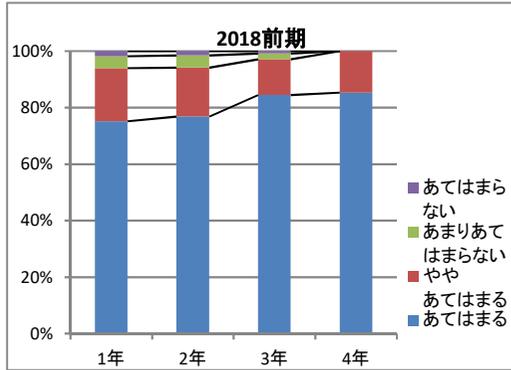
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



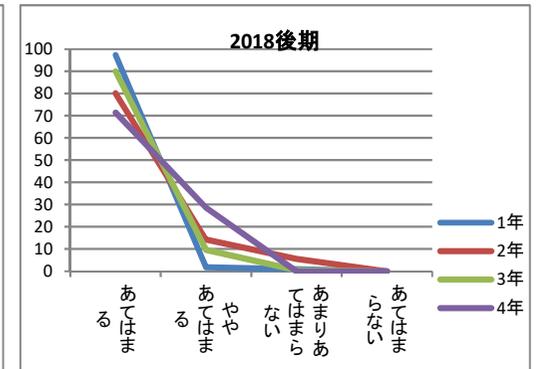
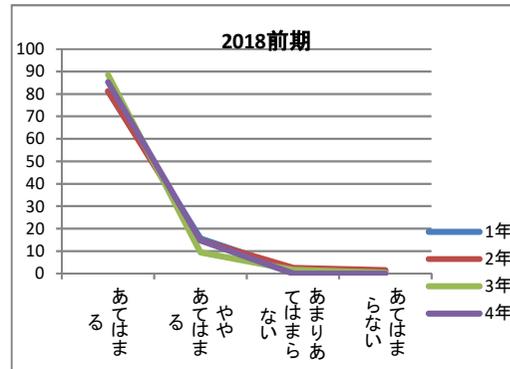
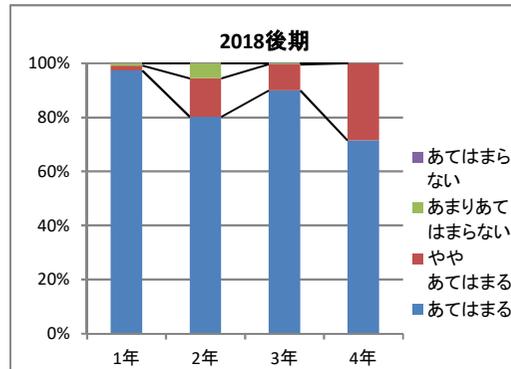
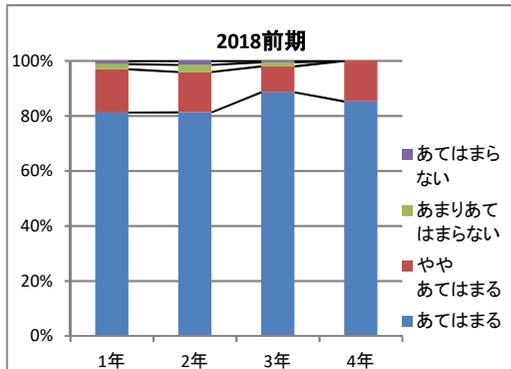
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。

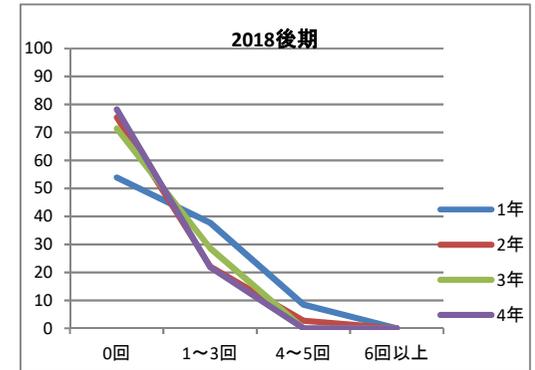
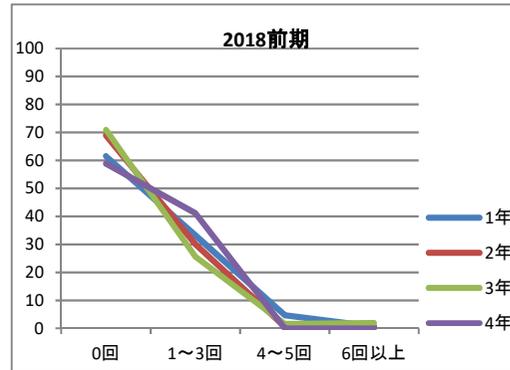
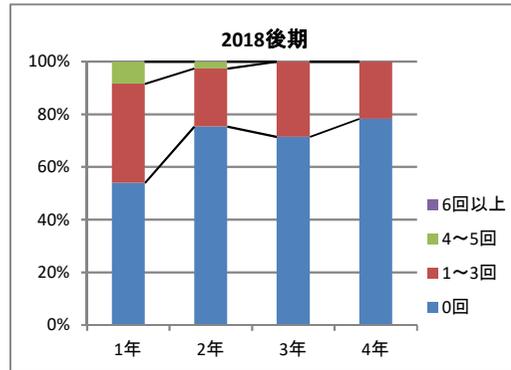
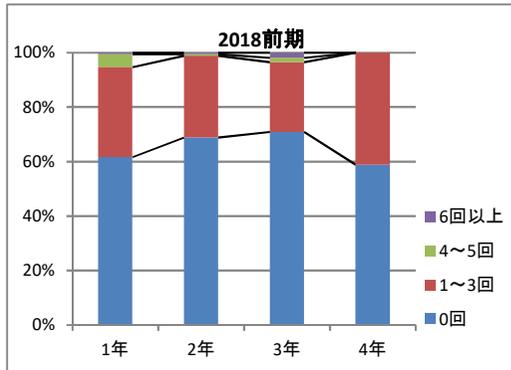


授業アンケート 平成30年度 2018年度

<言語聴覚療法学科>

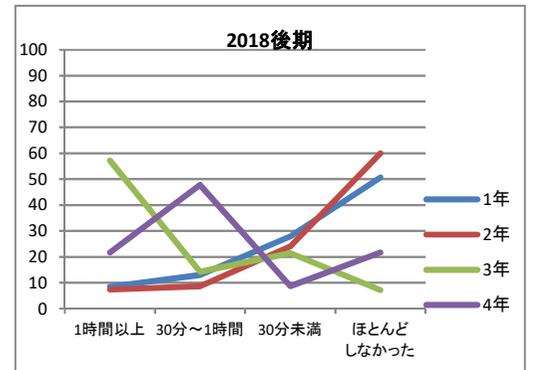
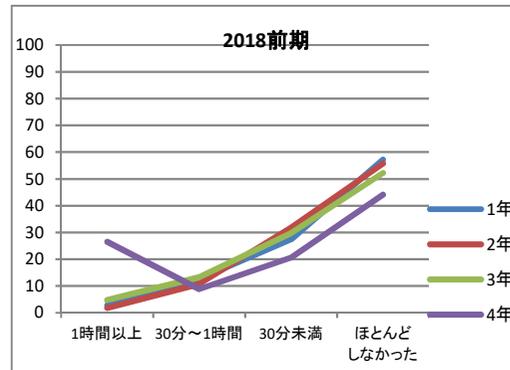
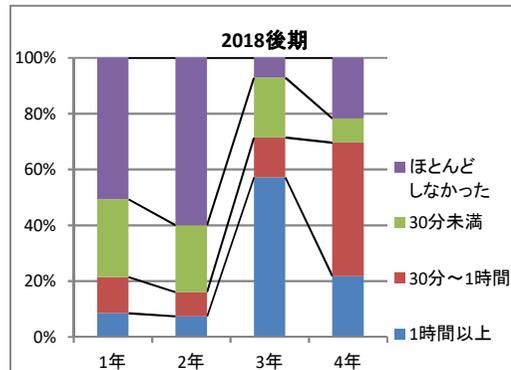
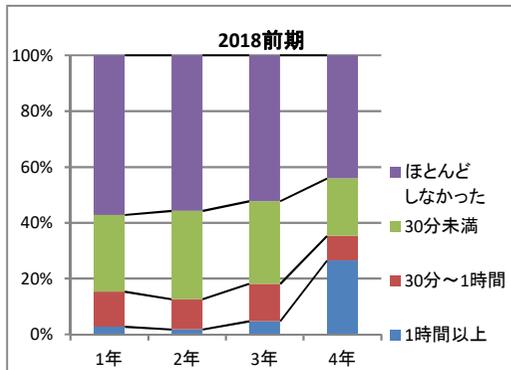
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



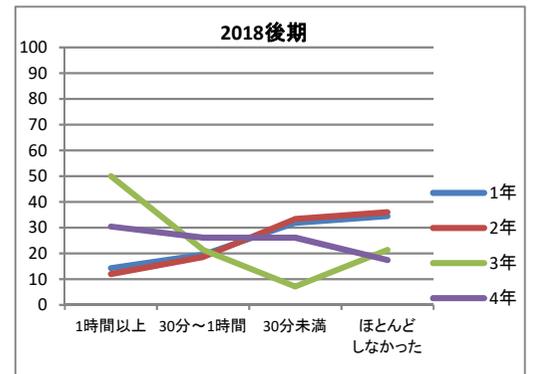
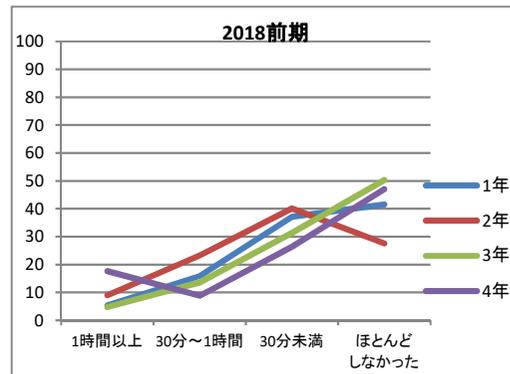
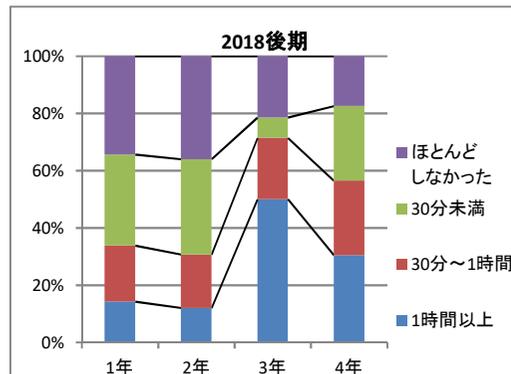
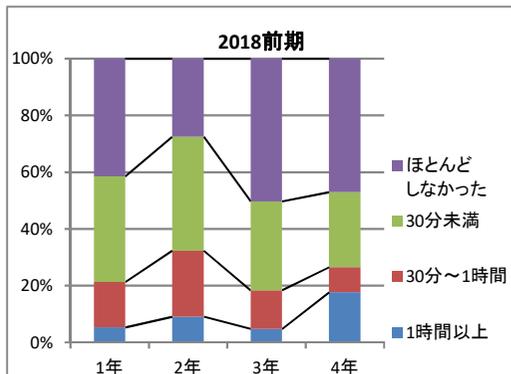
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



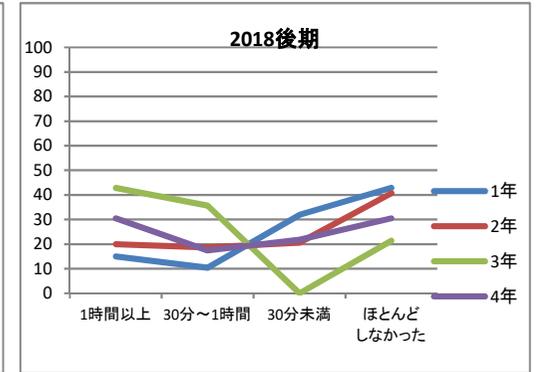
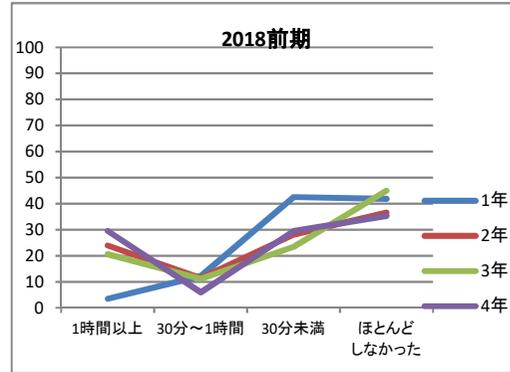
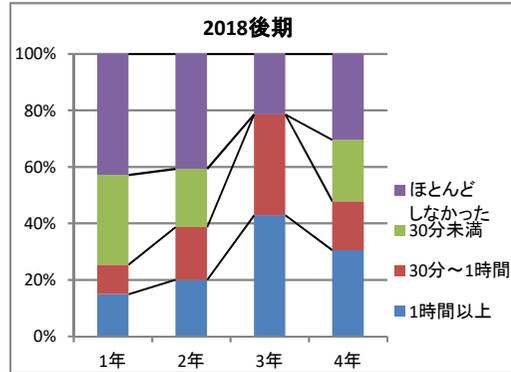
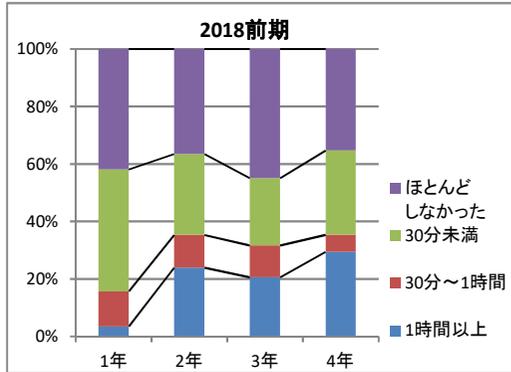
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



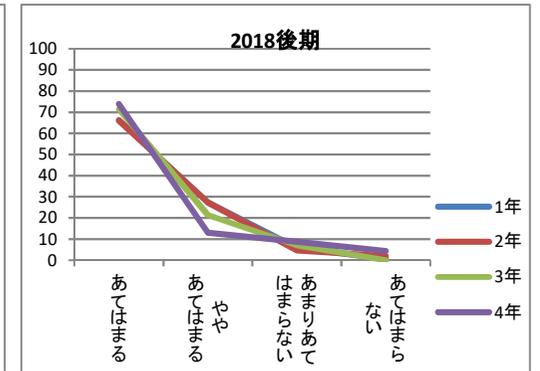
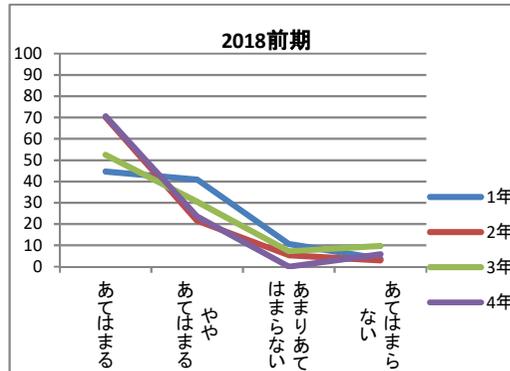
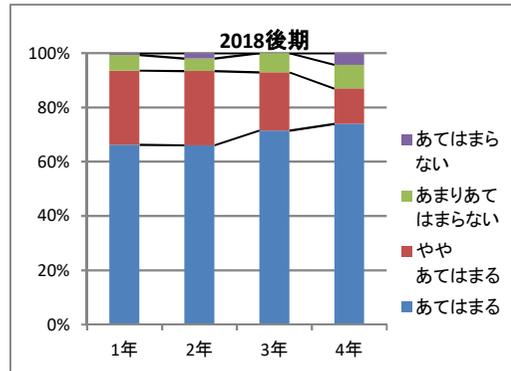
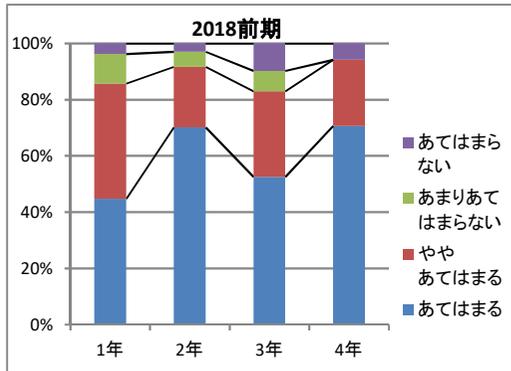
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



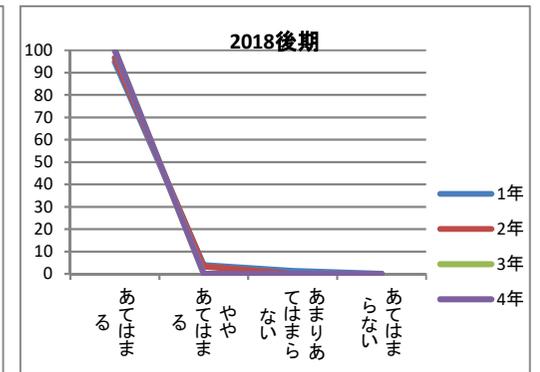
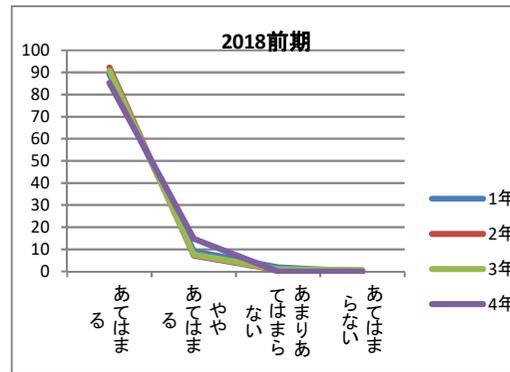
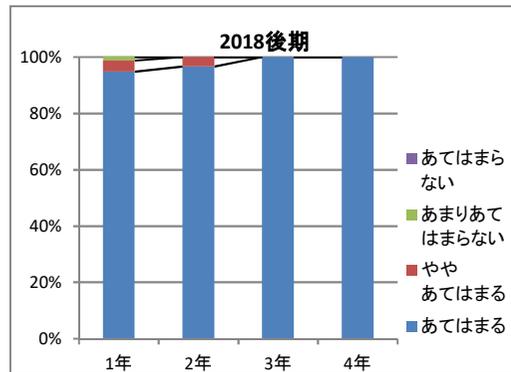
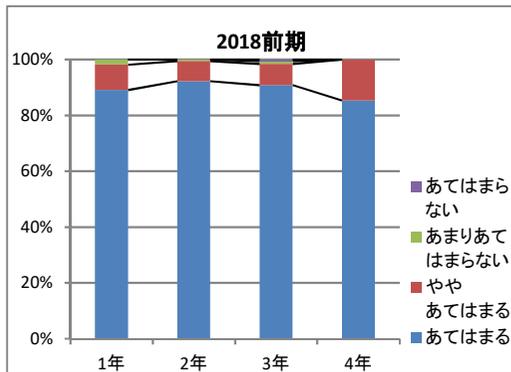
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



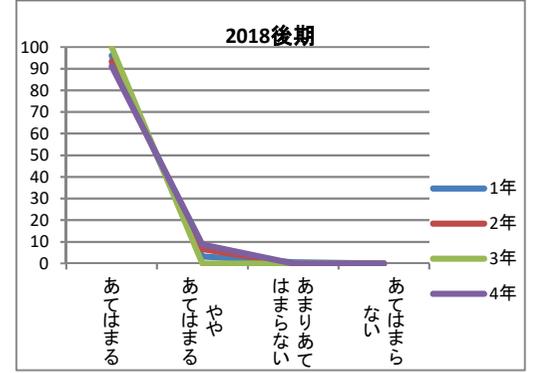
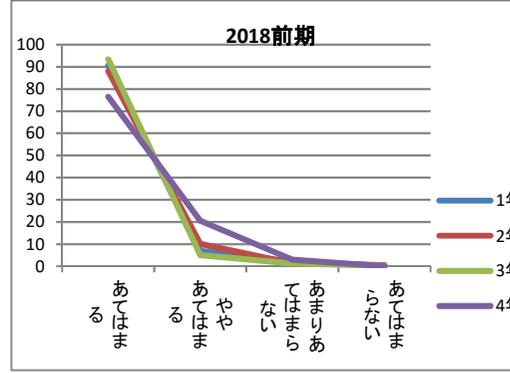
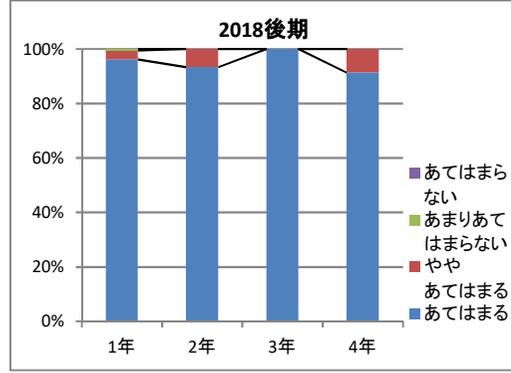
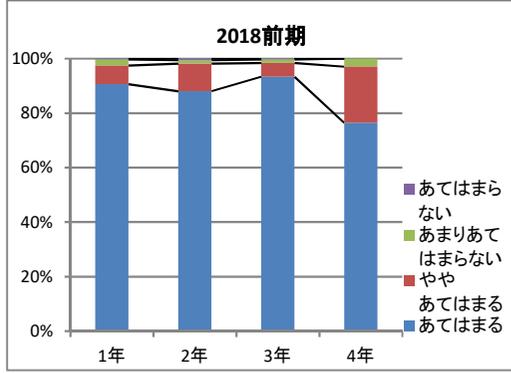
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



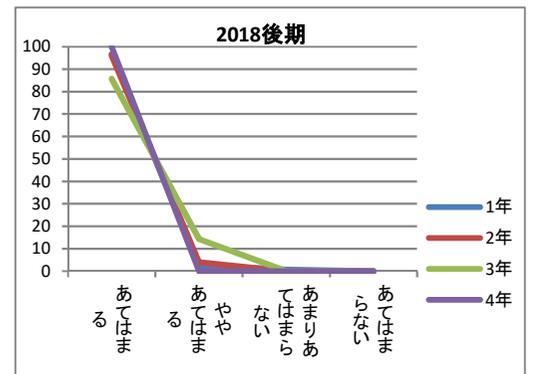
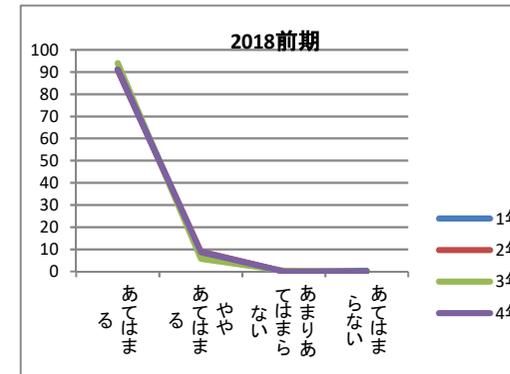
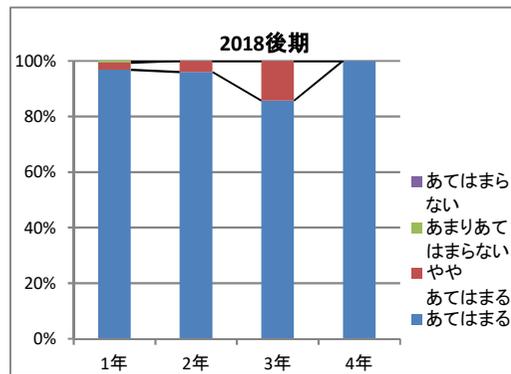
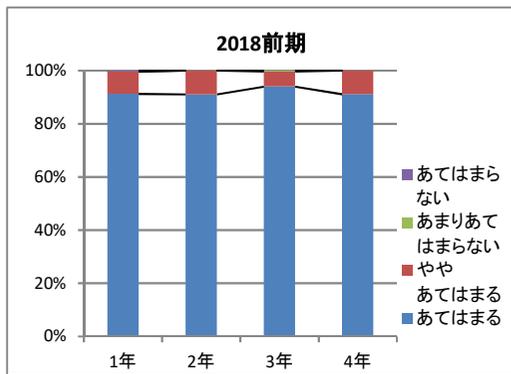
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



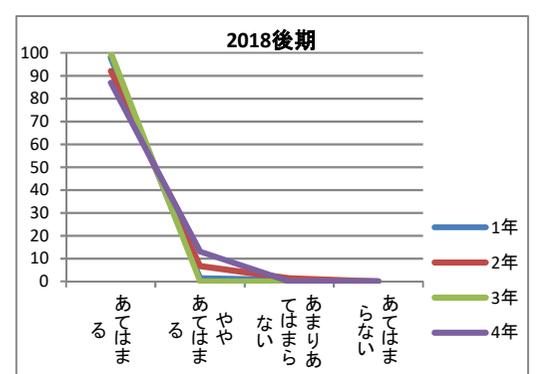
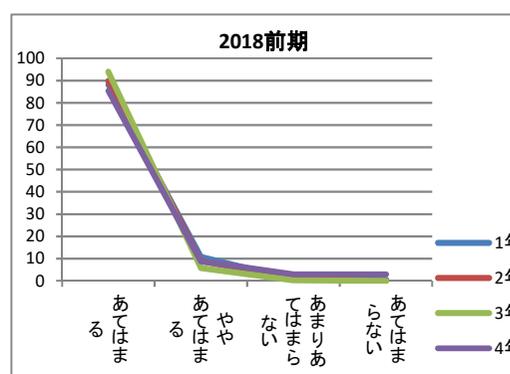
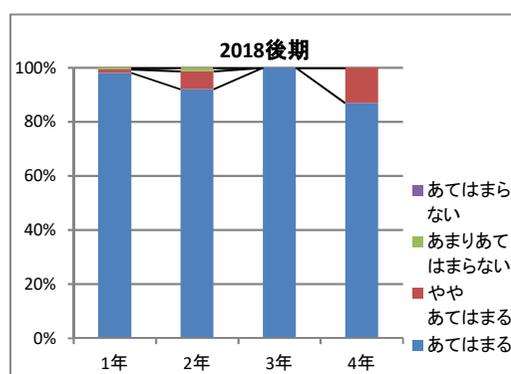
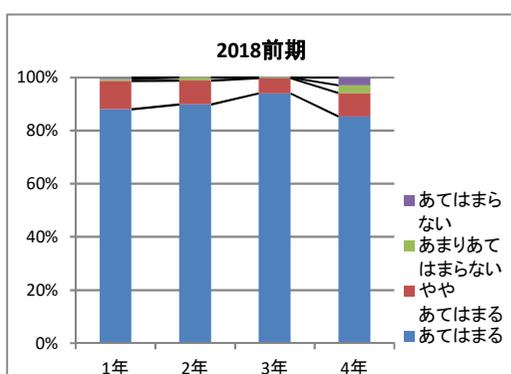
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



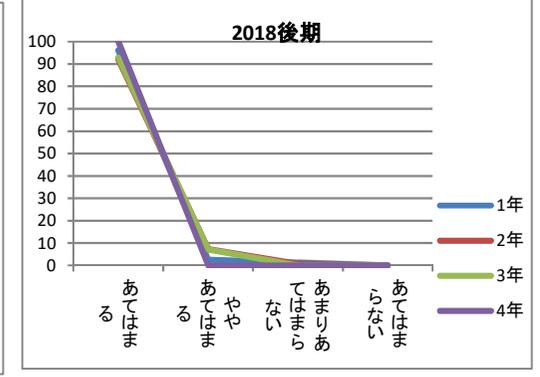
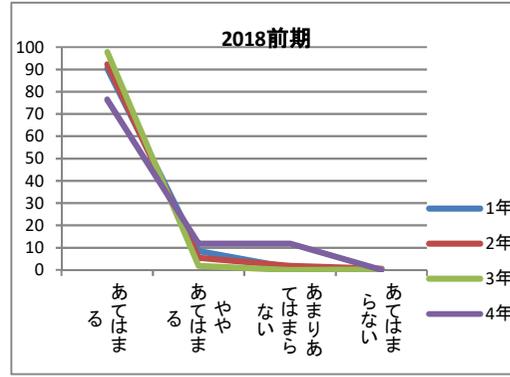
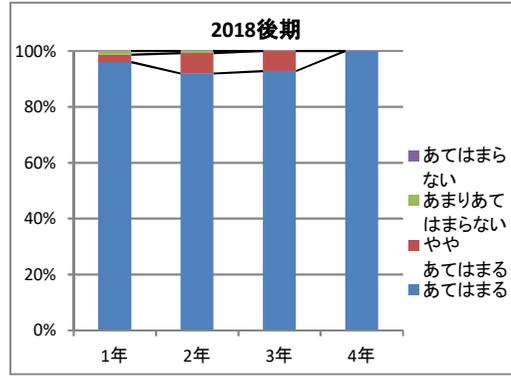
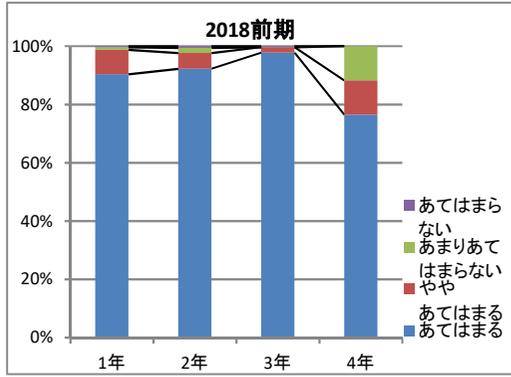
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



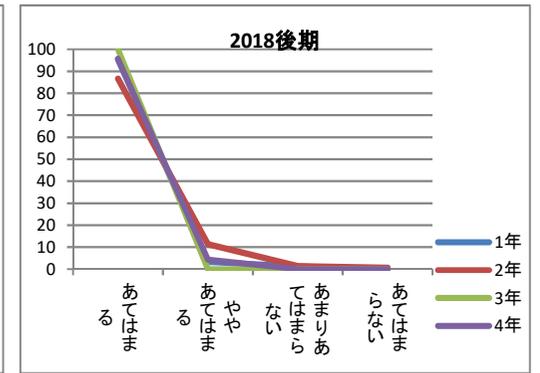
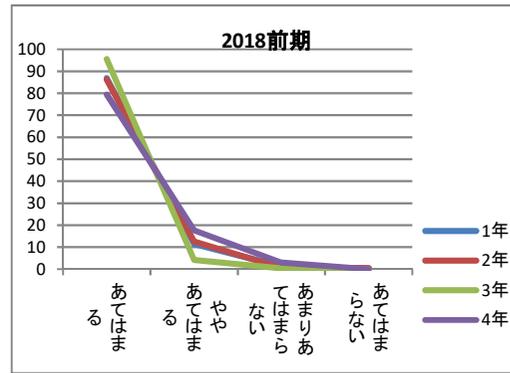
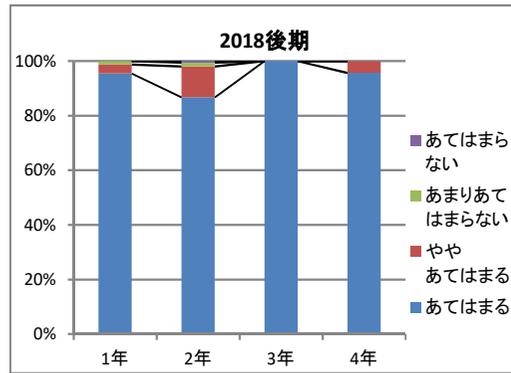
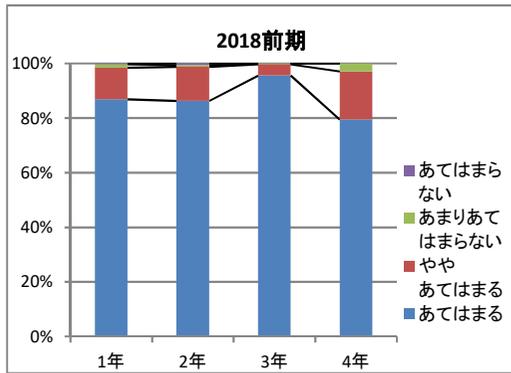
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



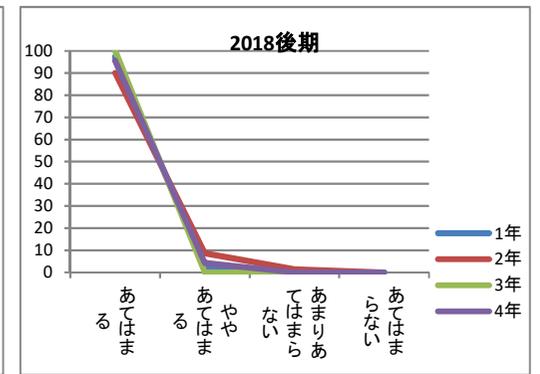
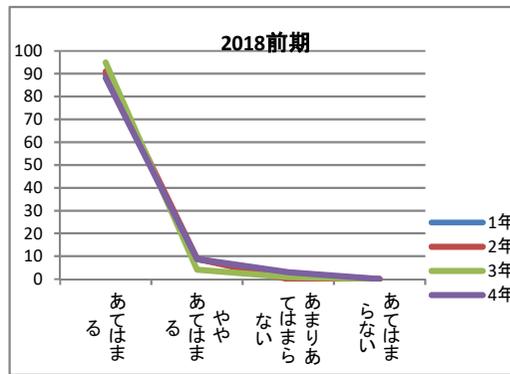
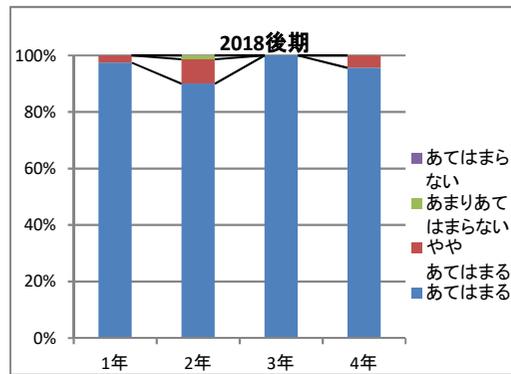
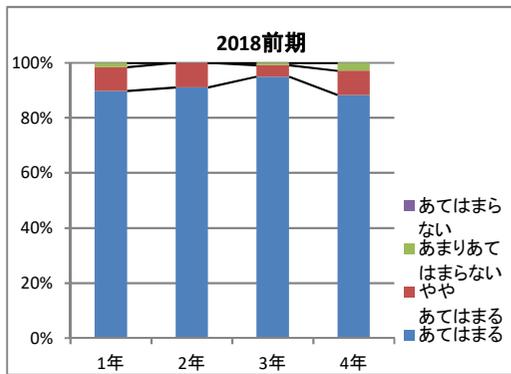
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



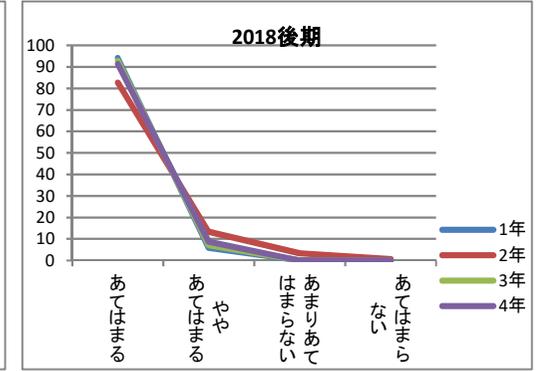
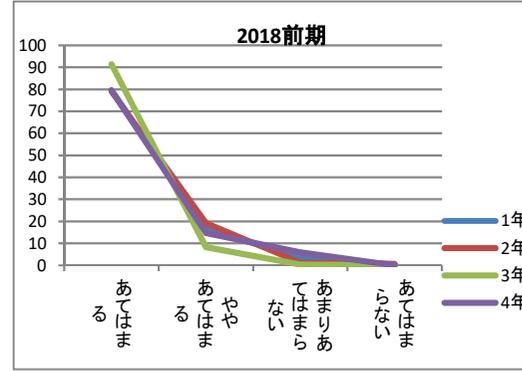
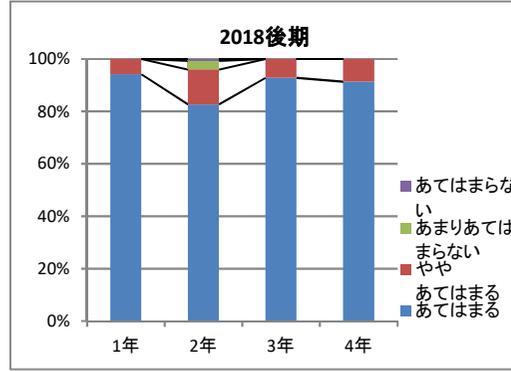
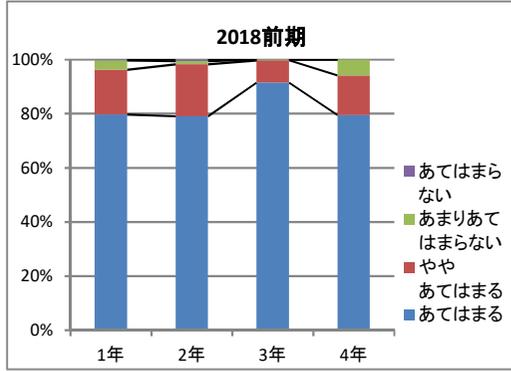
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



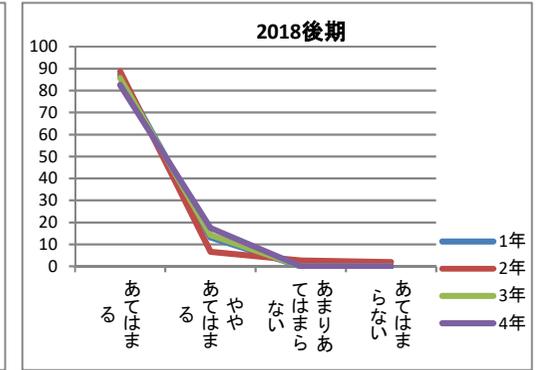
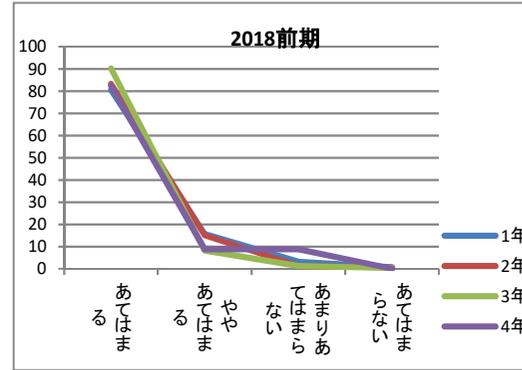
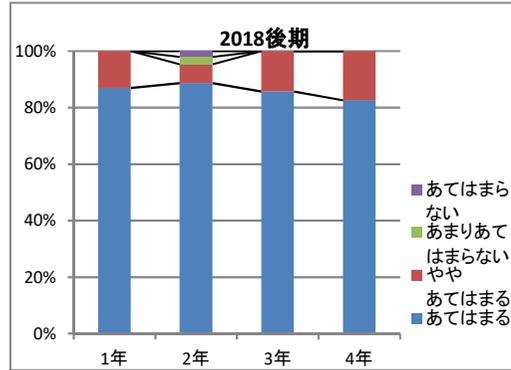
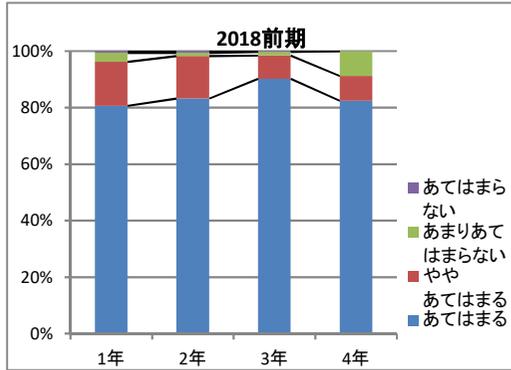
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



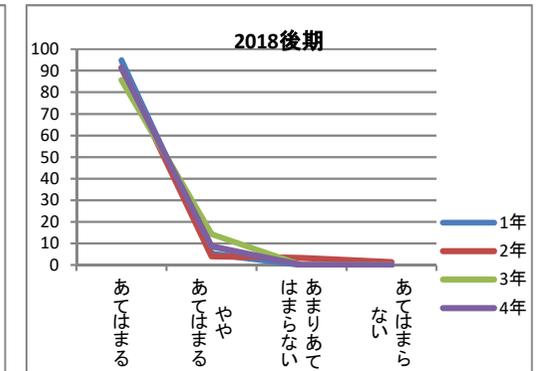
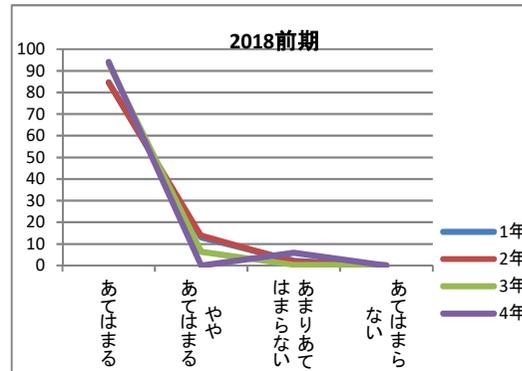
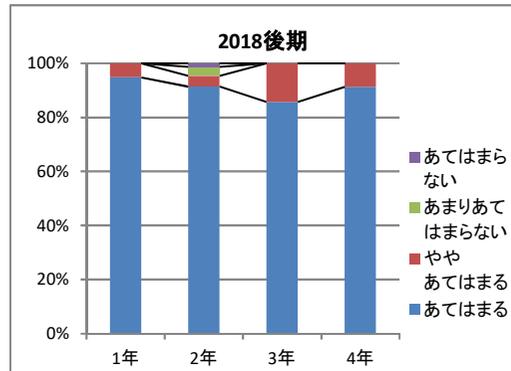
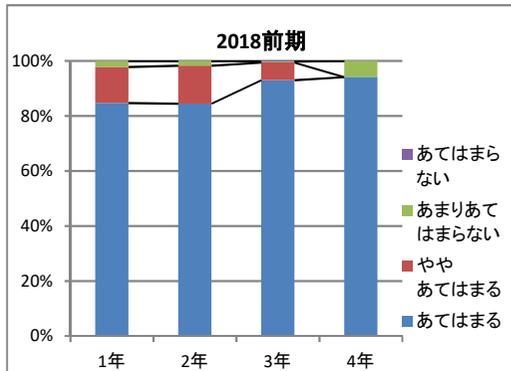
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。

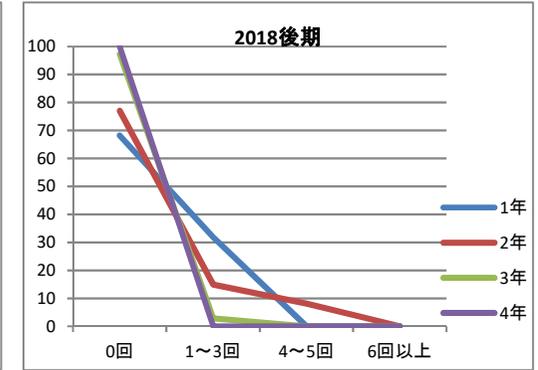
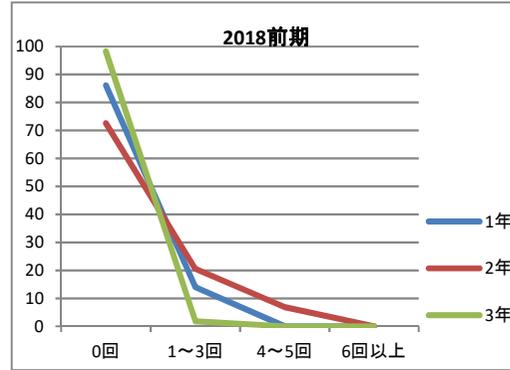
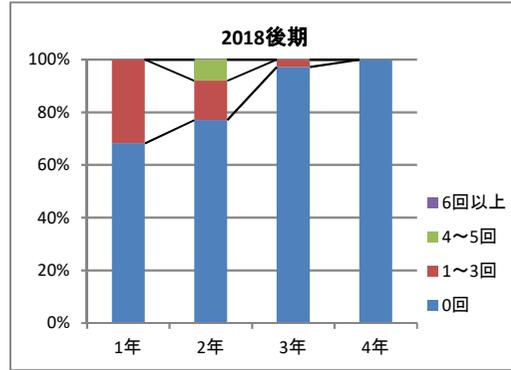
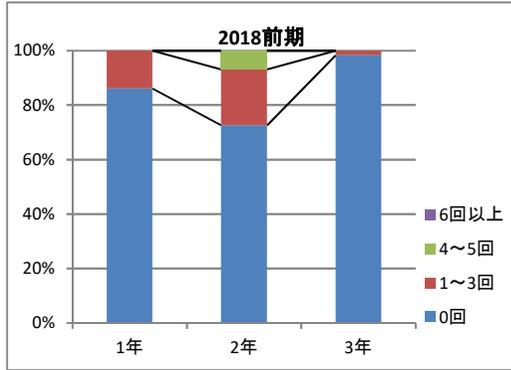


授業アンケート 平成30年度 2018年度

<視機能療法学科>

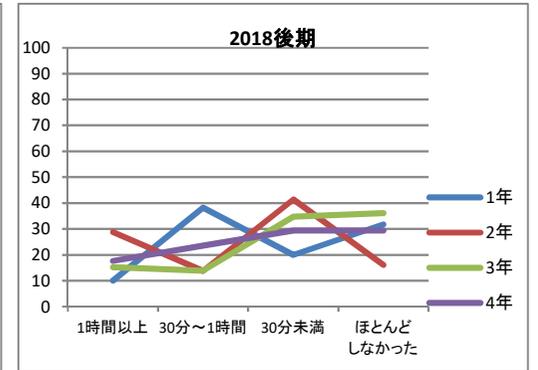
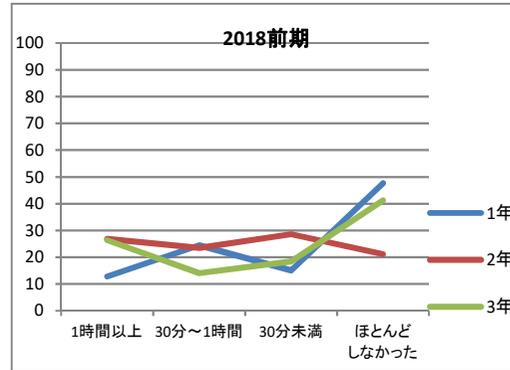
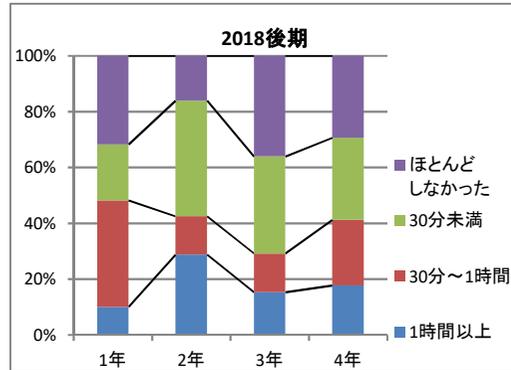
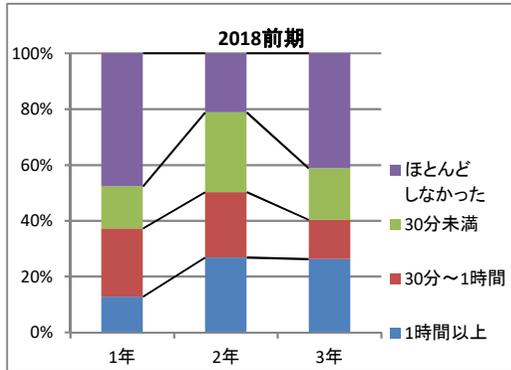
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



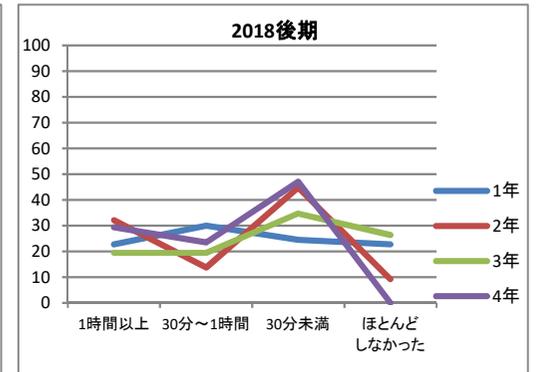
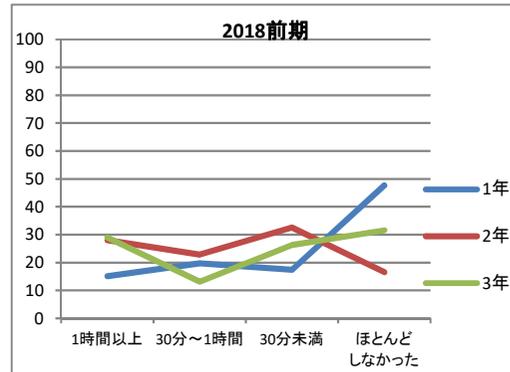
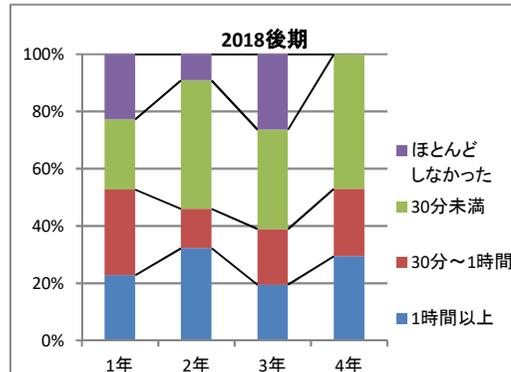
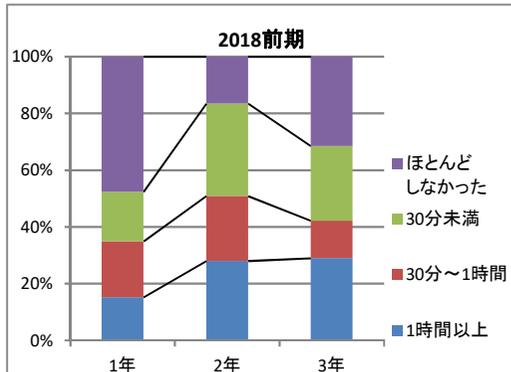
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



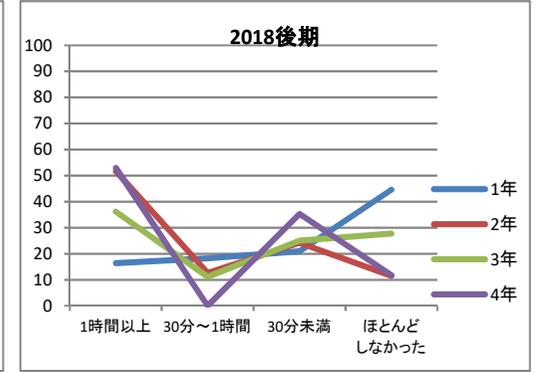
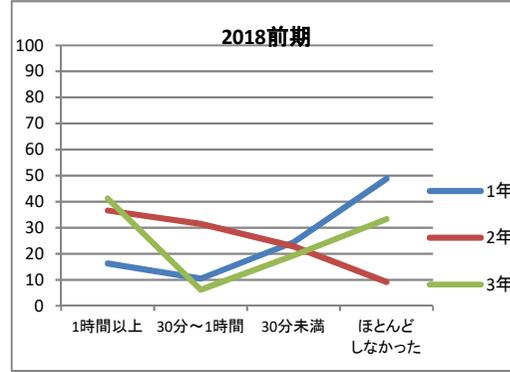
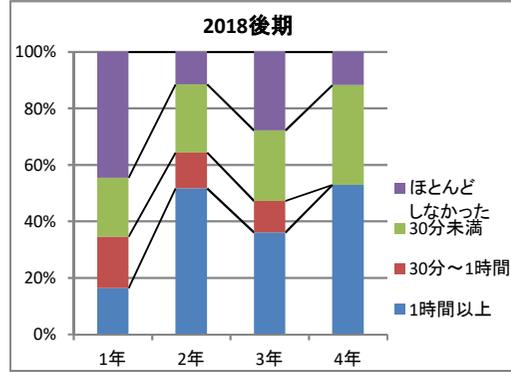
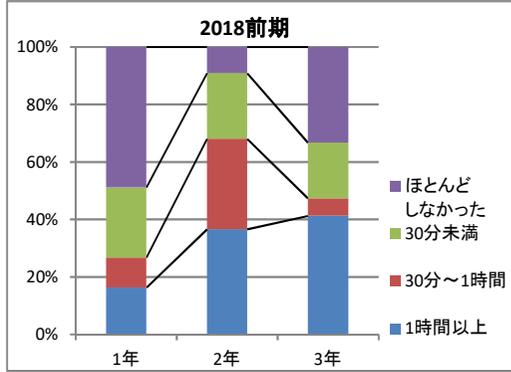
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



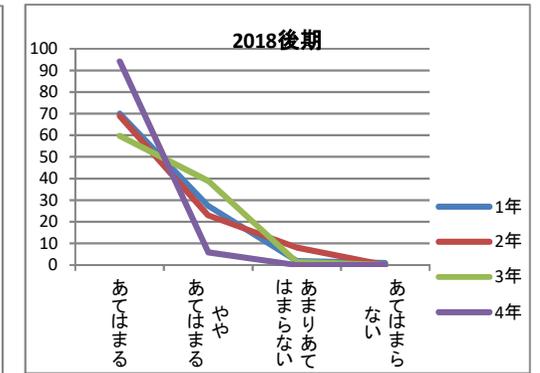
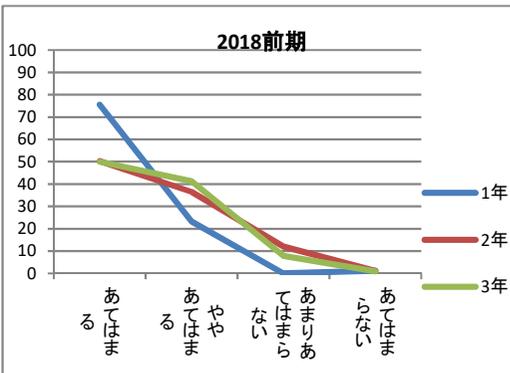
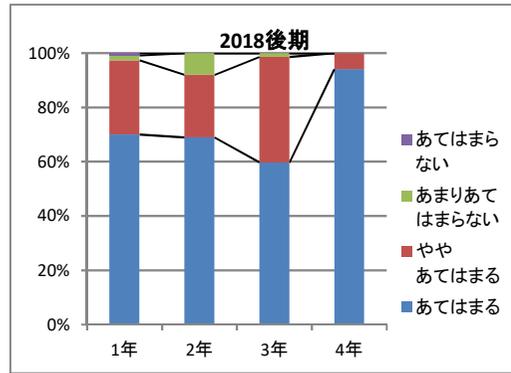
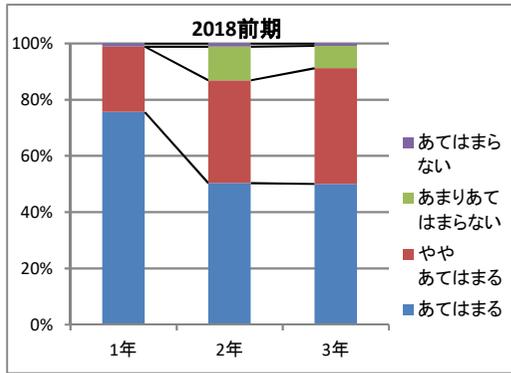
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



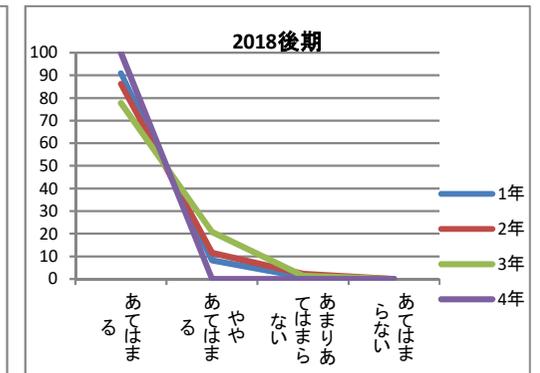
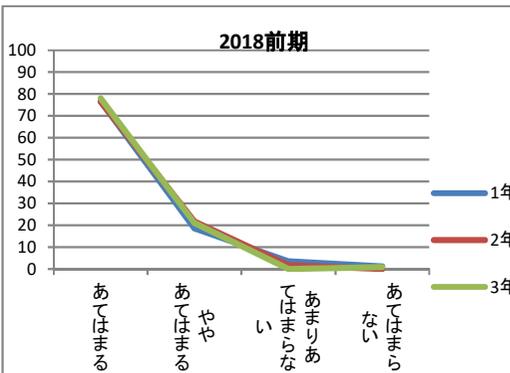
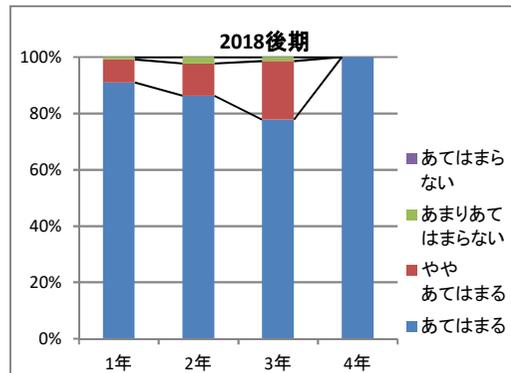
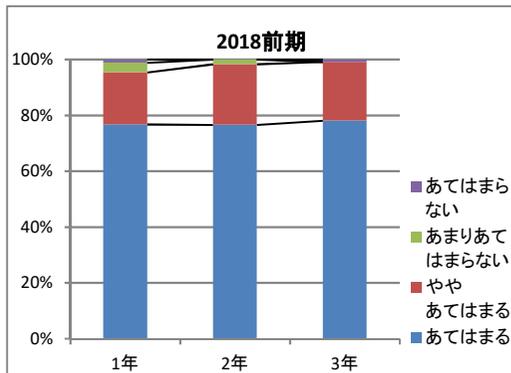
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



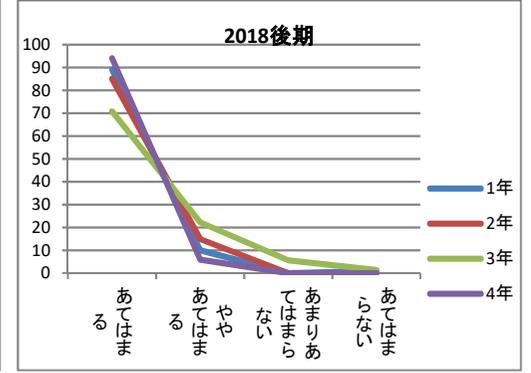
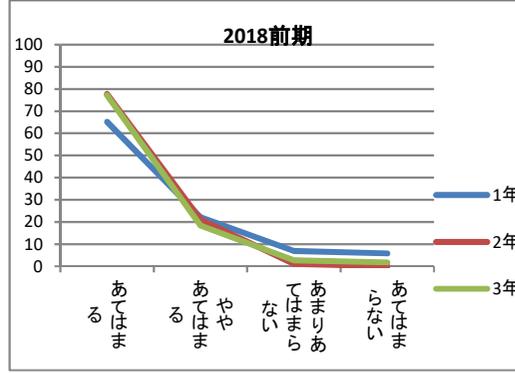
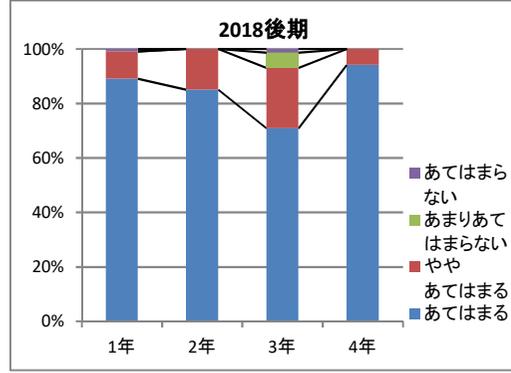
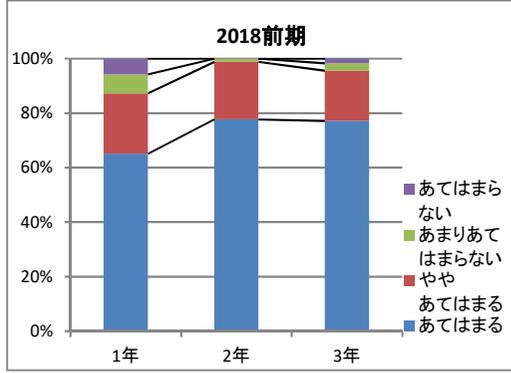
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



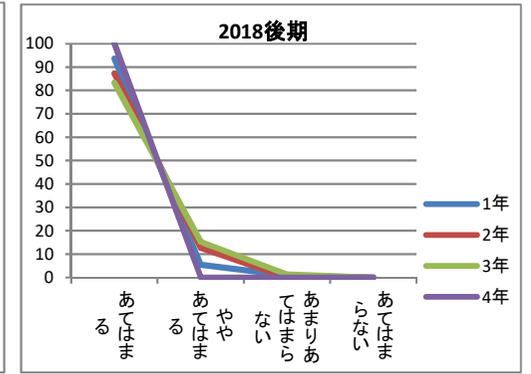
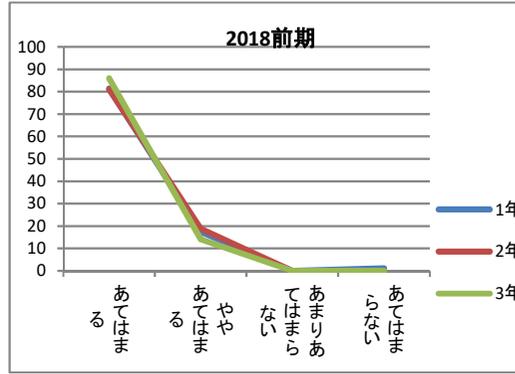
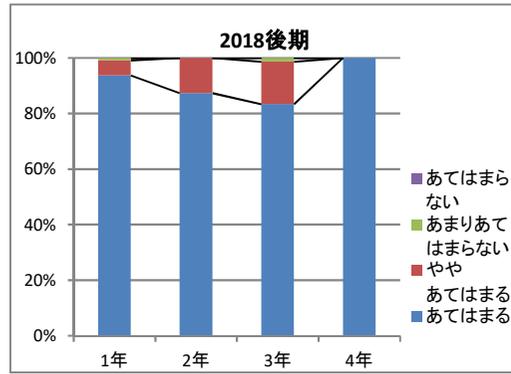
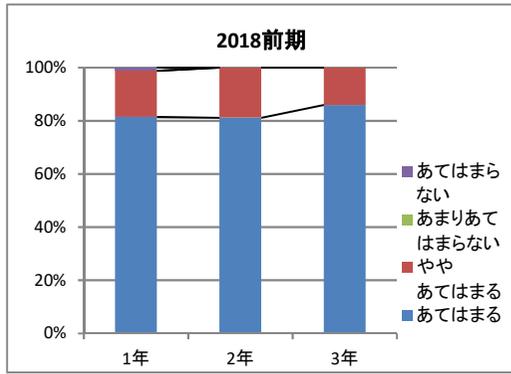
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



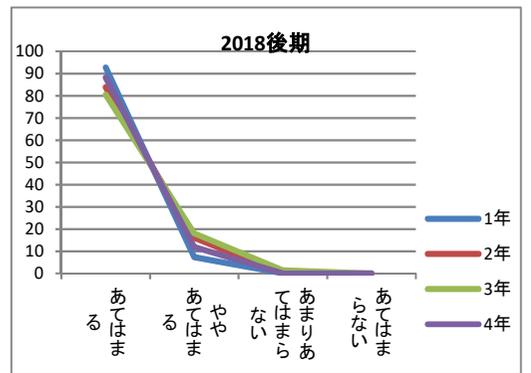
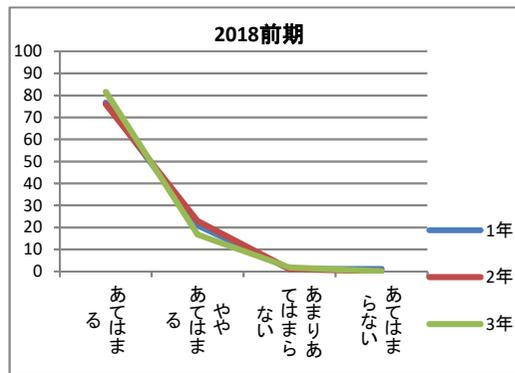
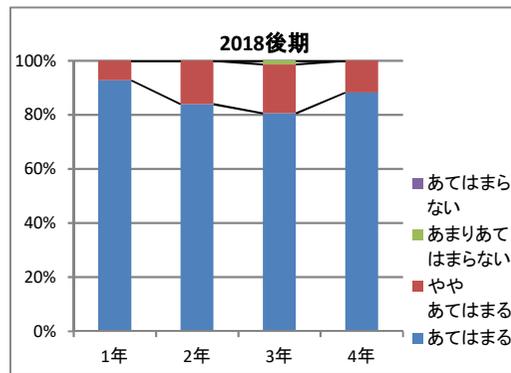
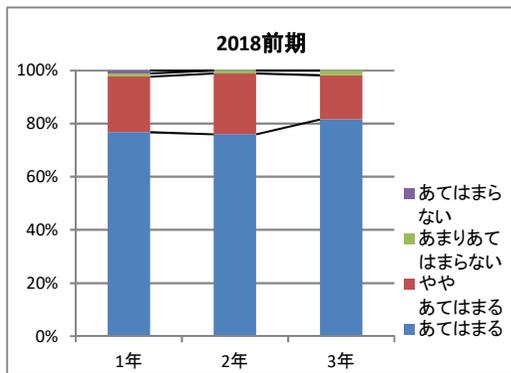
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



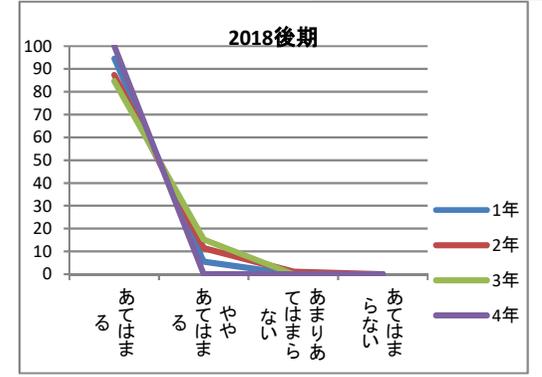
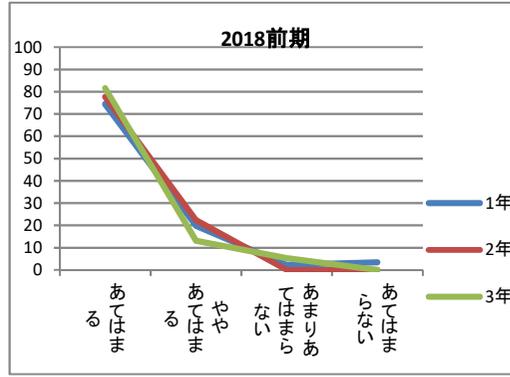
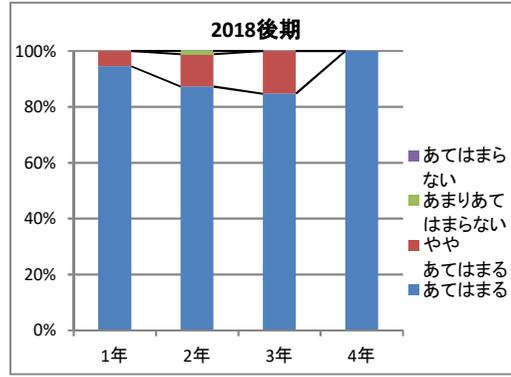
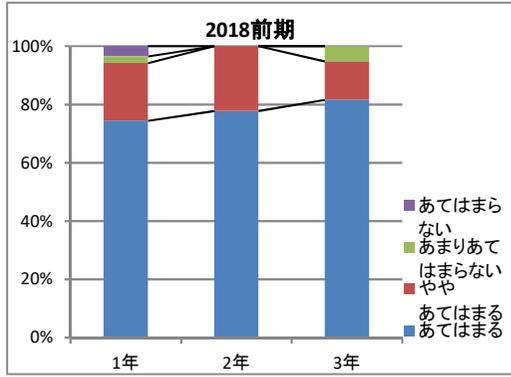
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



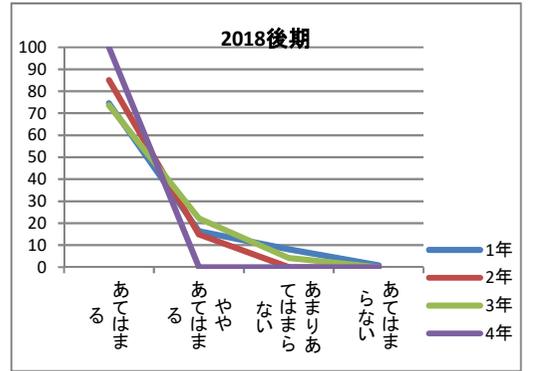
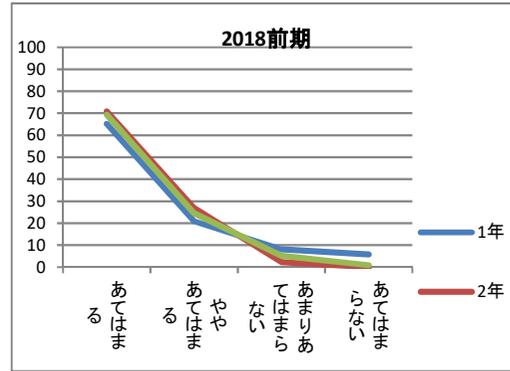
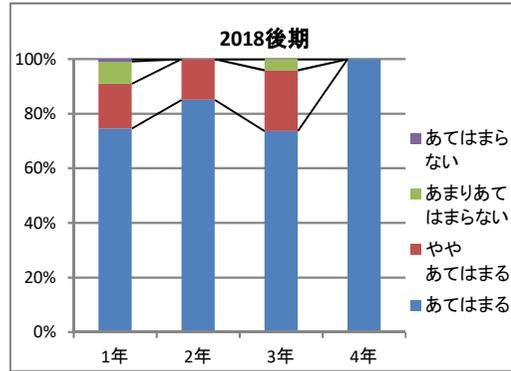
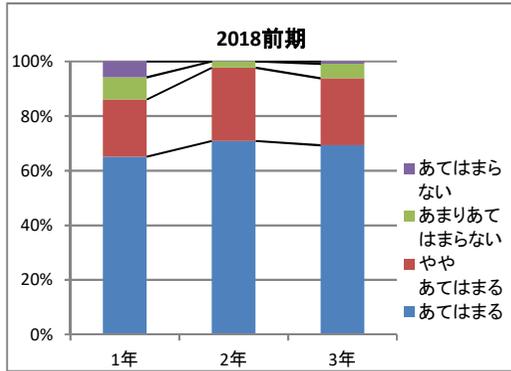
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



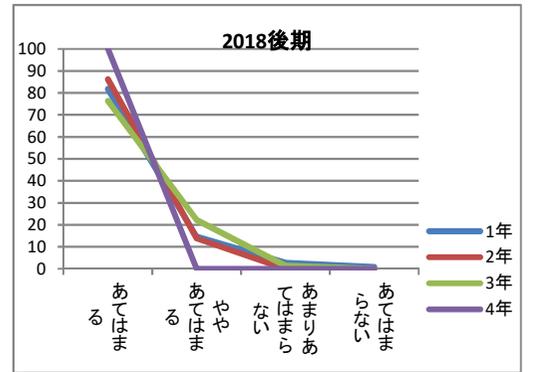
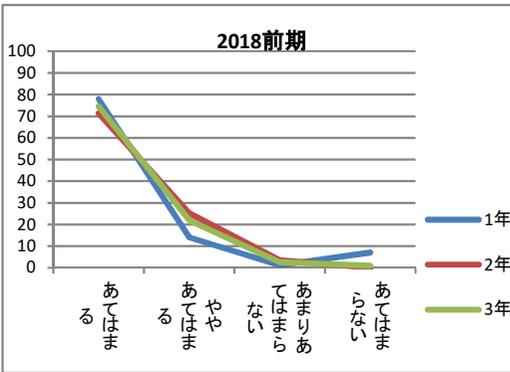
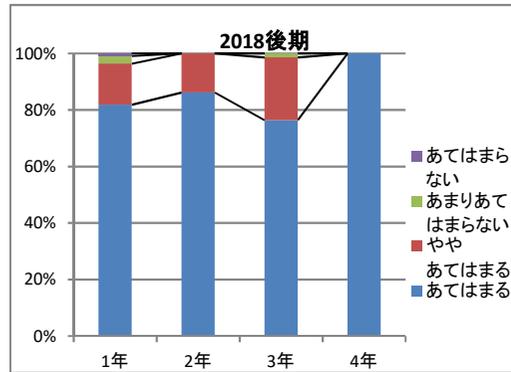
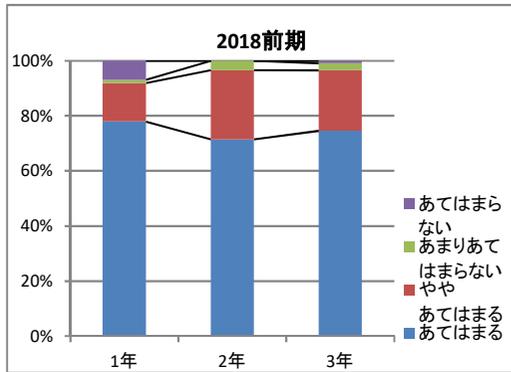
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



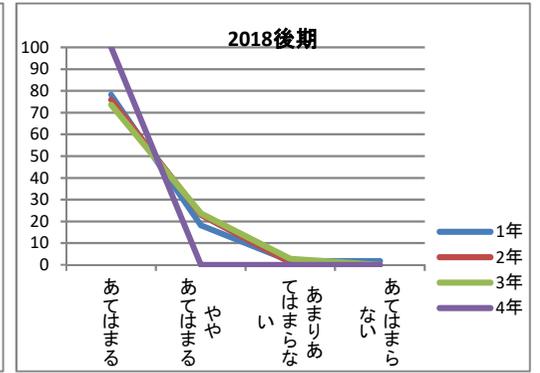
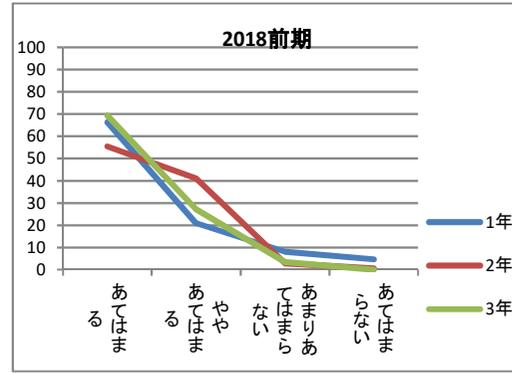
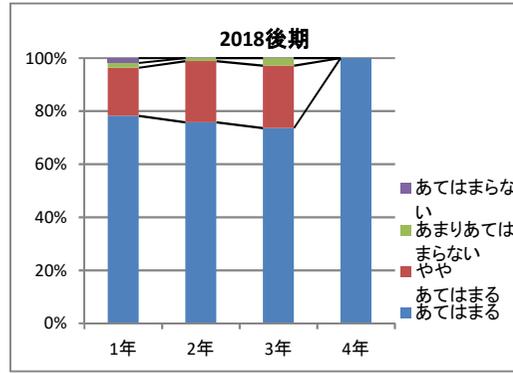
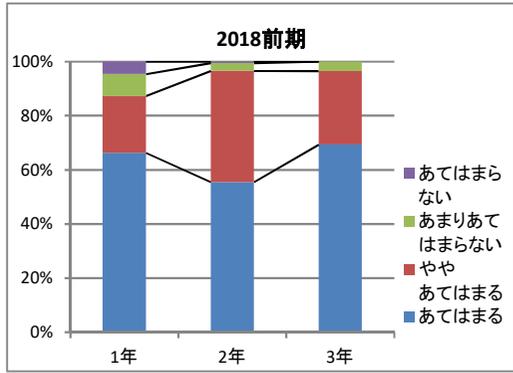
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



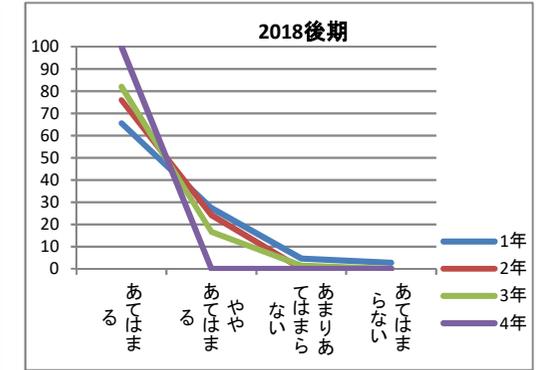
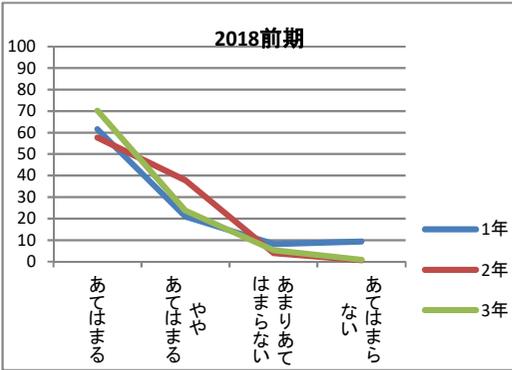
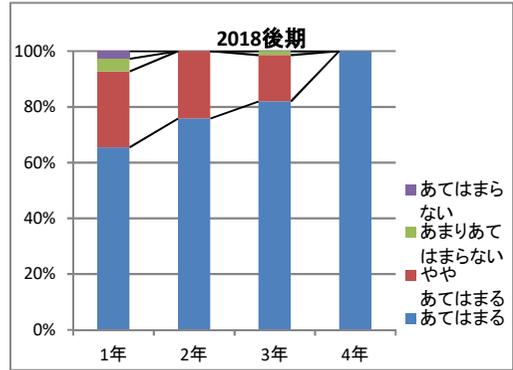
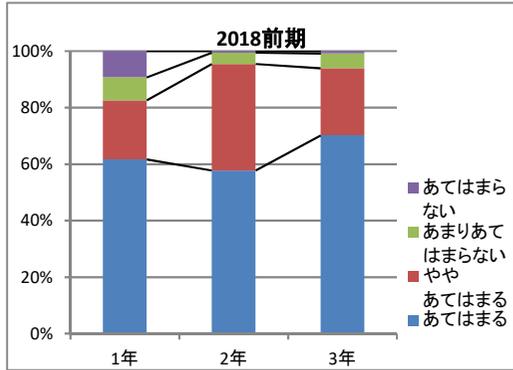
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



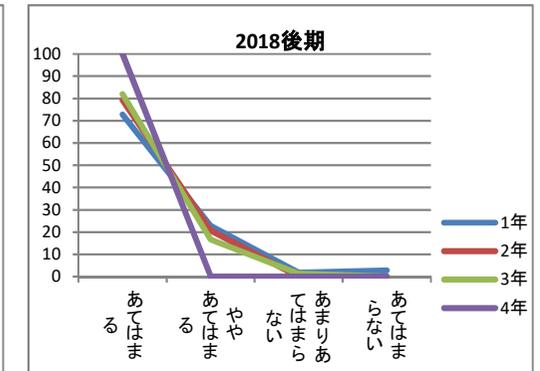
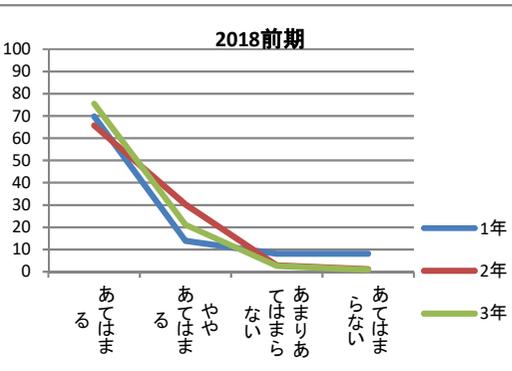
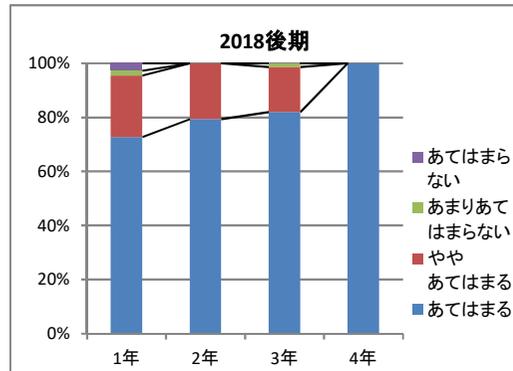
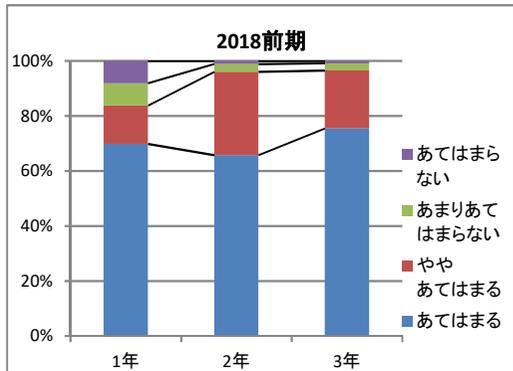
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。

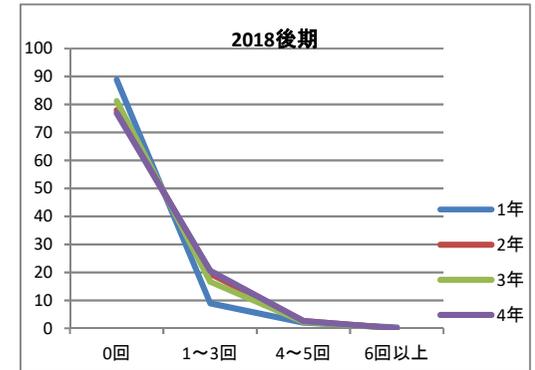
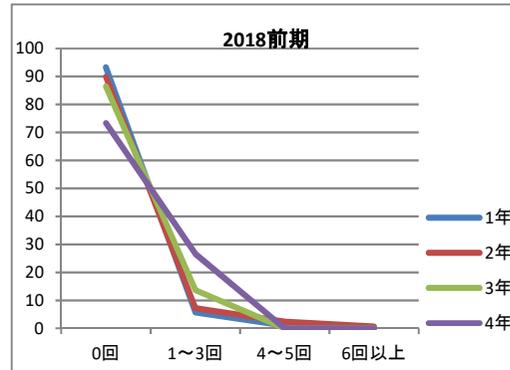
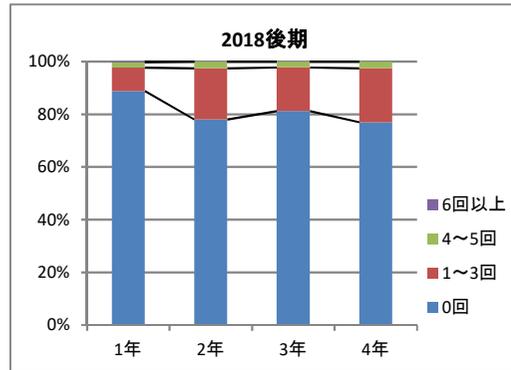
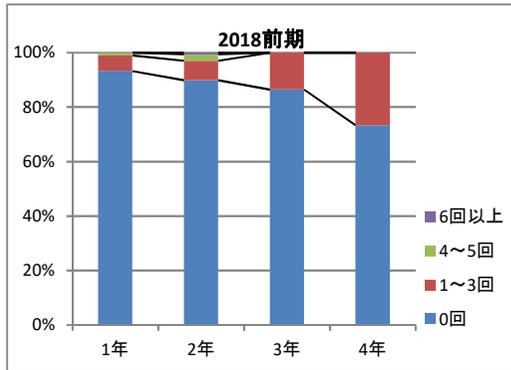


授業アンケート 平成30年度 2018年度

<臨床工学科>

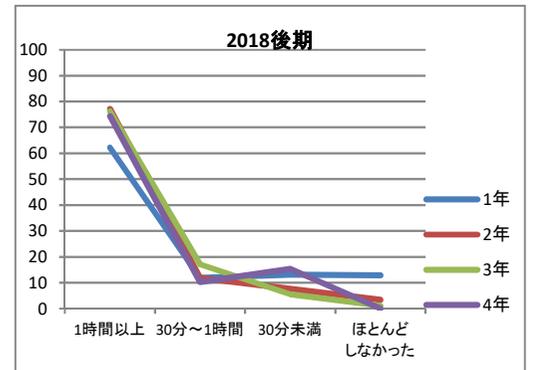
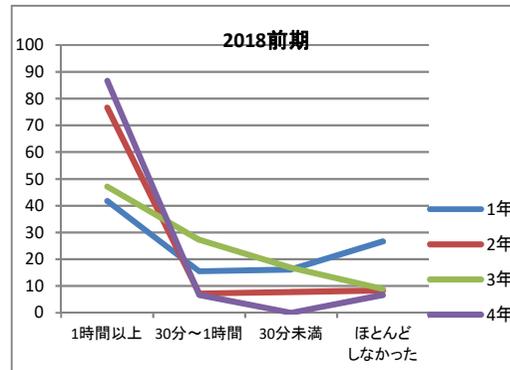
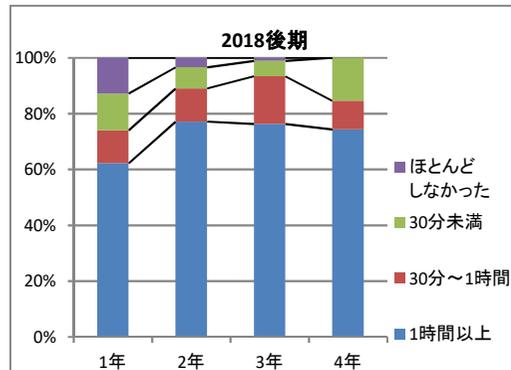
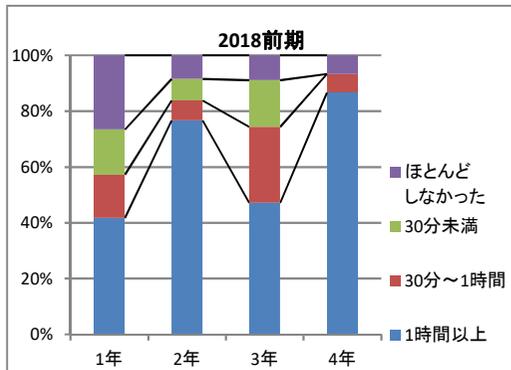
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



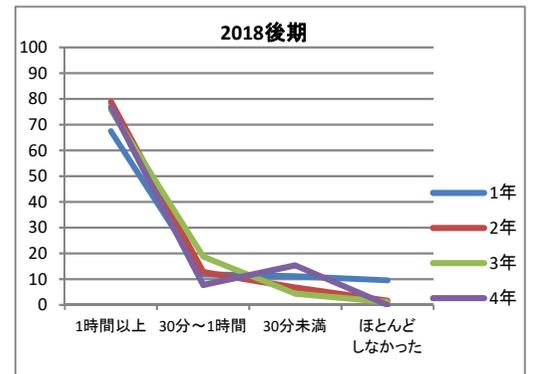
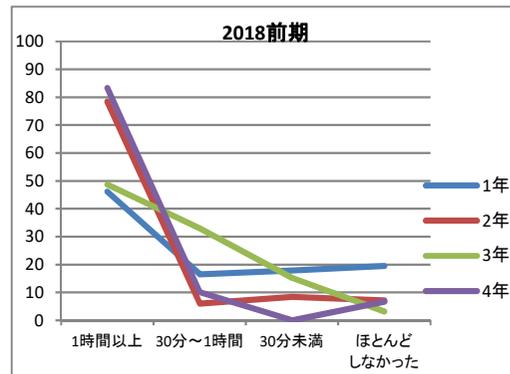
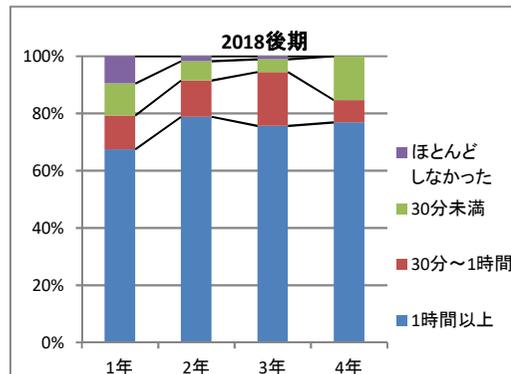
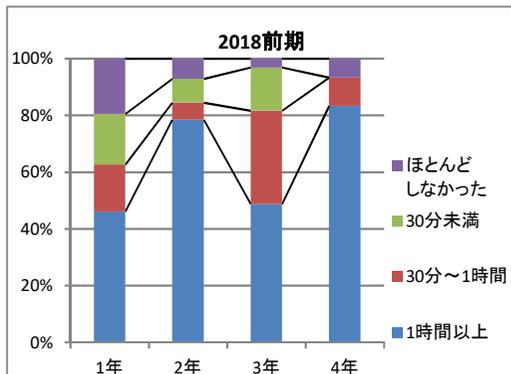
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



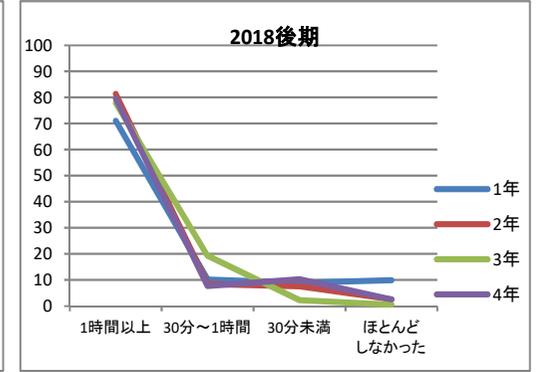
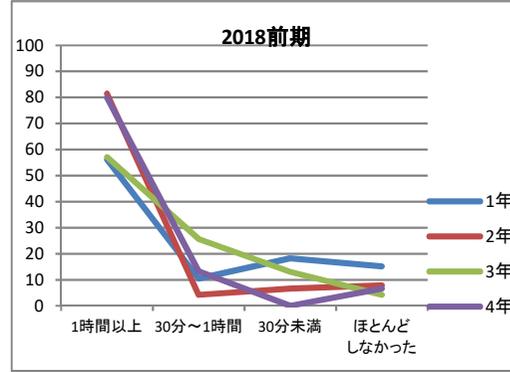
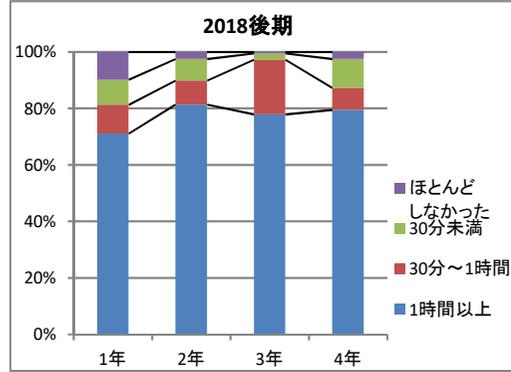
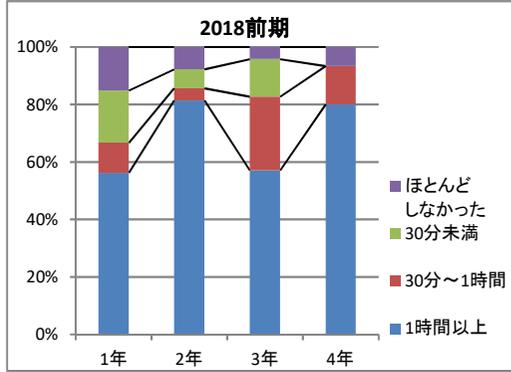
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



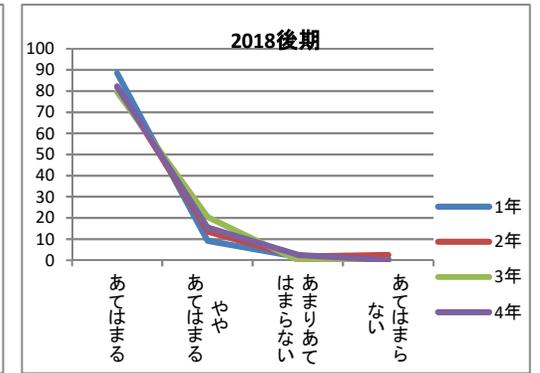
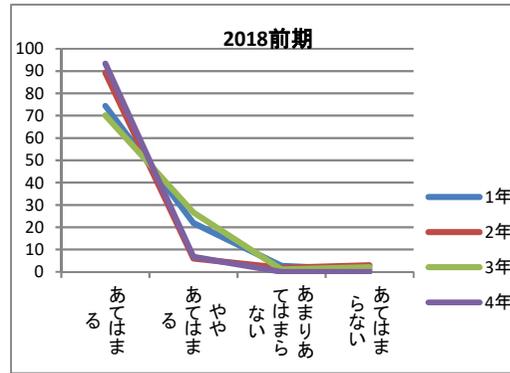
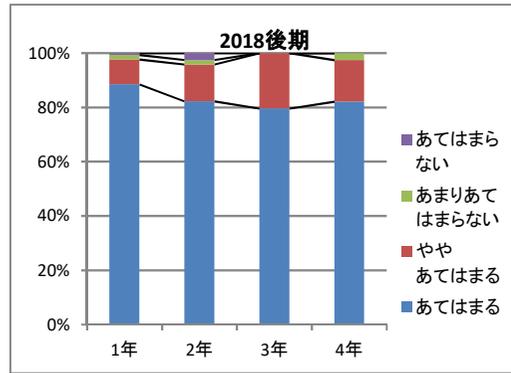
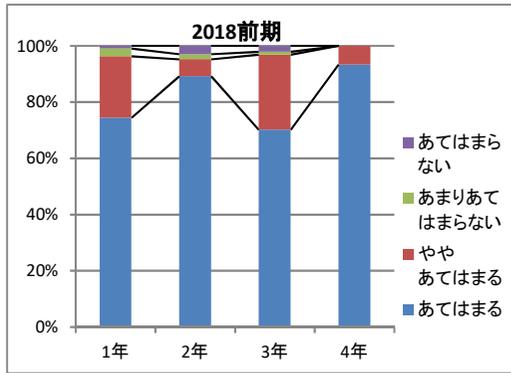
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



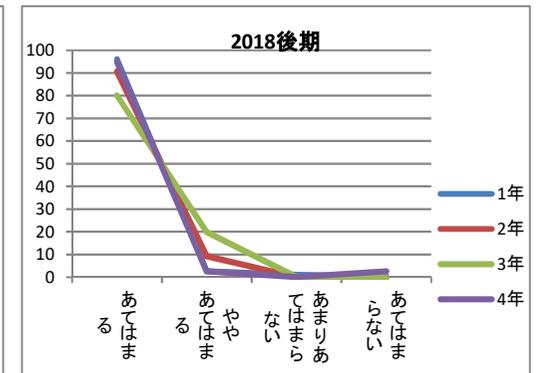
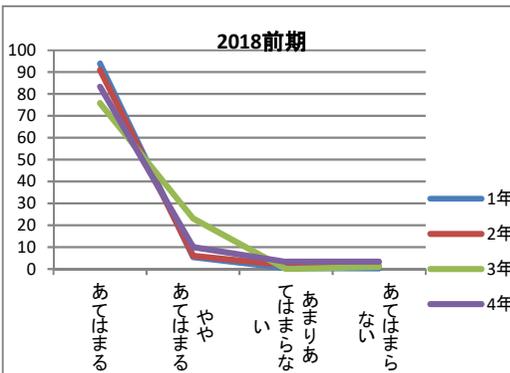
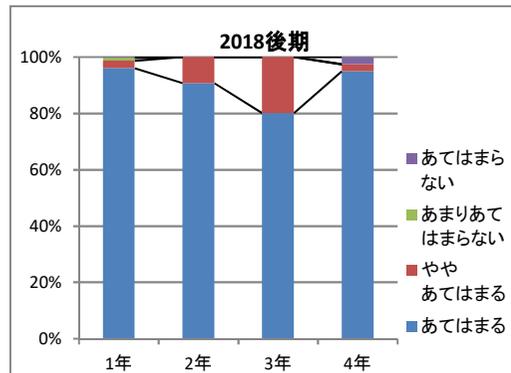
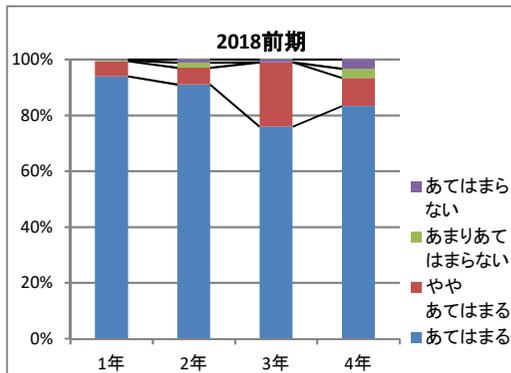
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



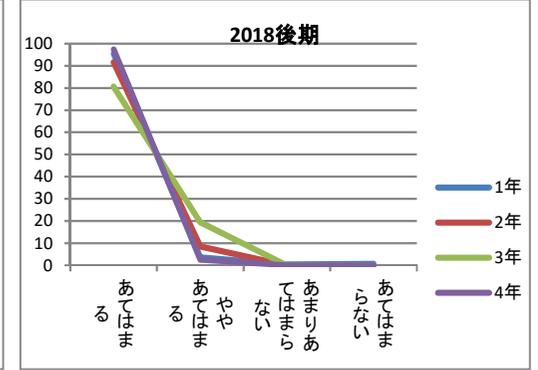
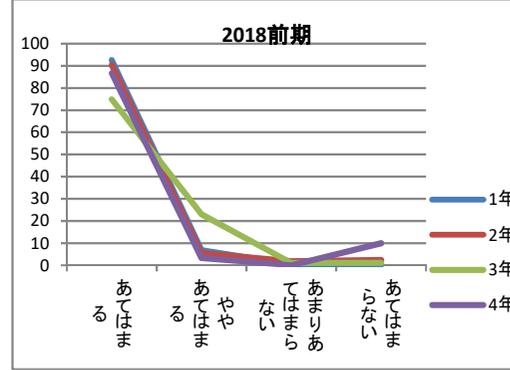
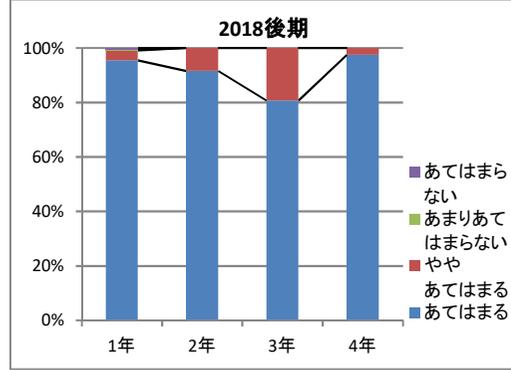
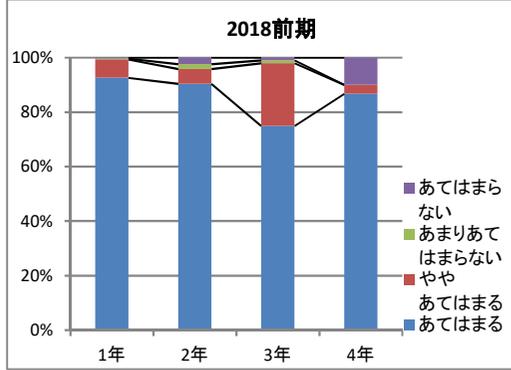
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



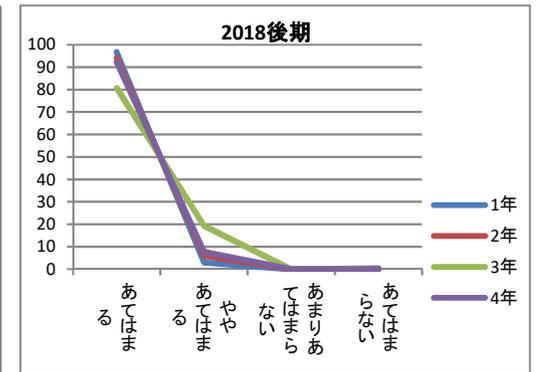
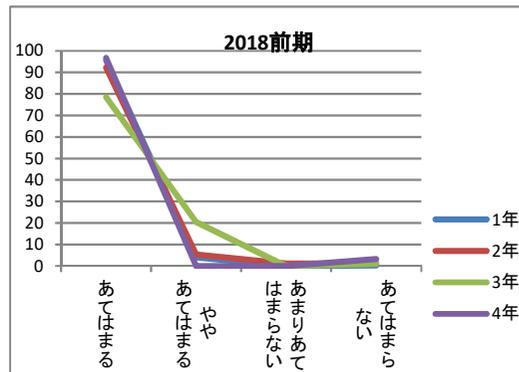
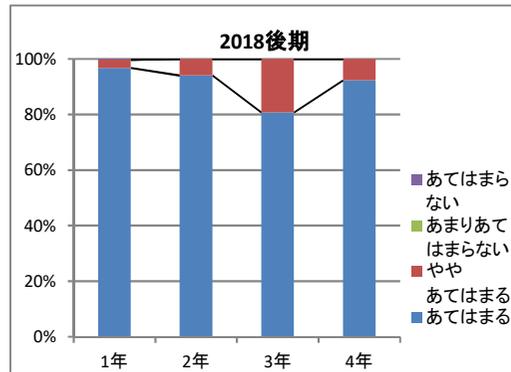
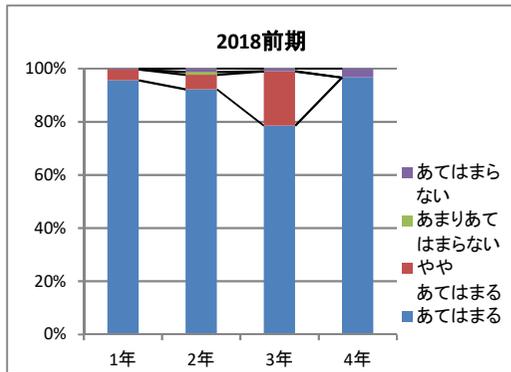
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



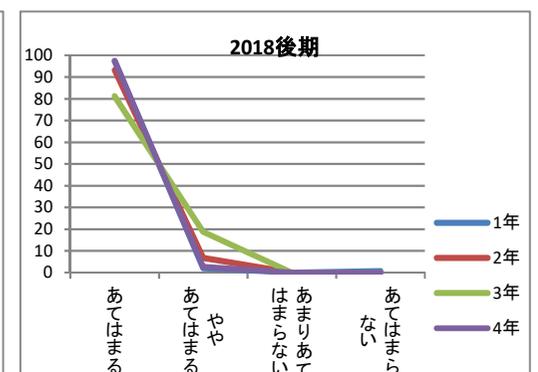
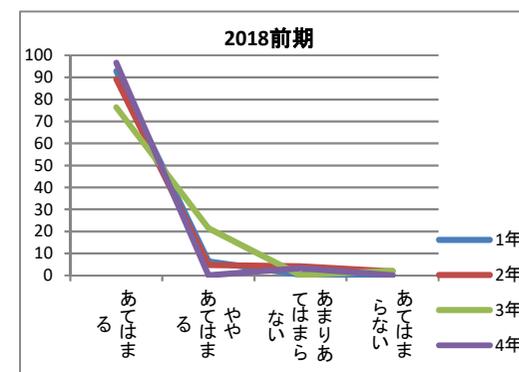
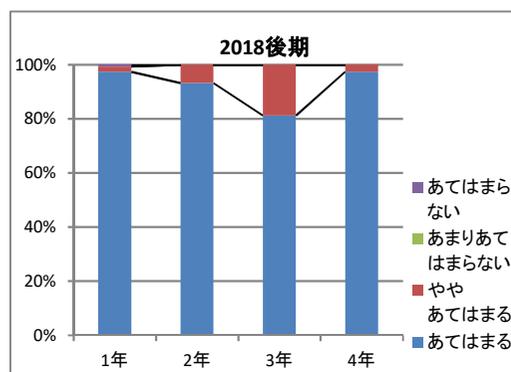
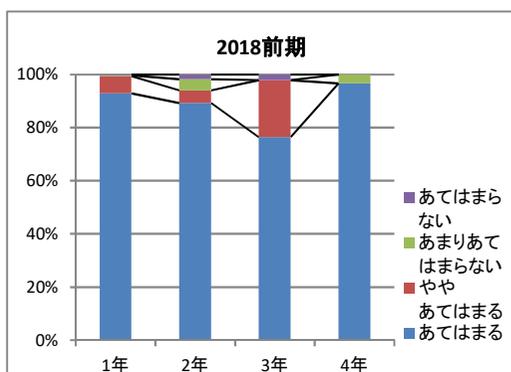
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



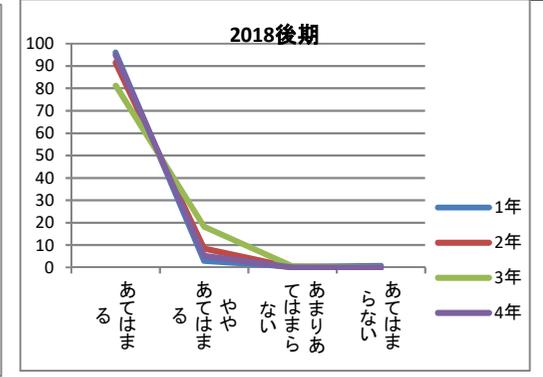
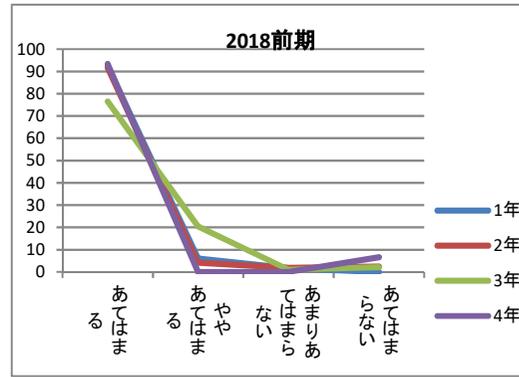
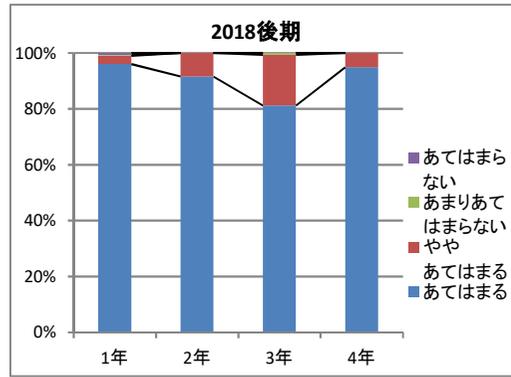
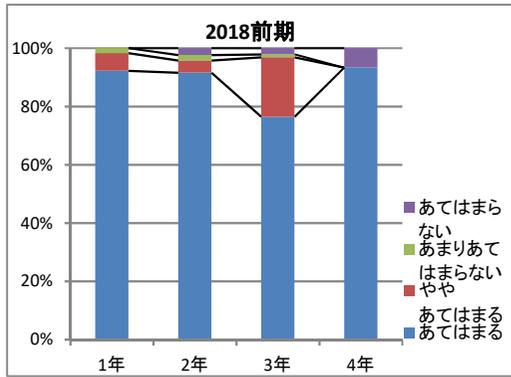
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



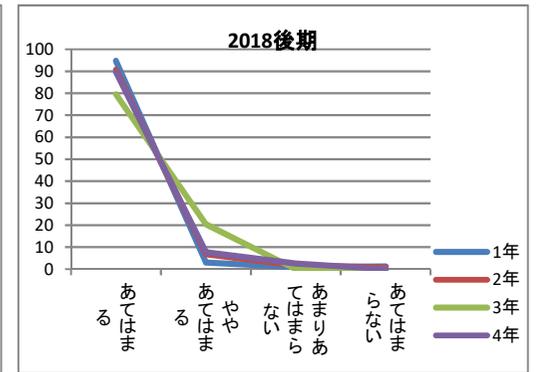
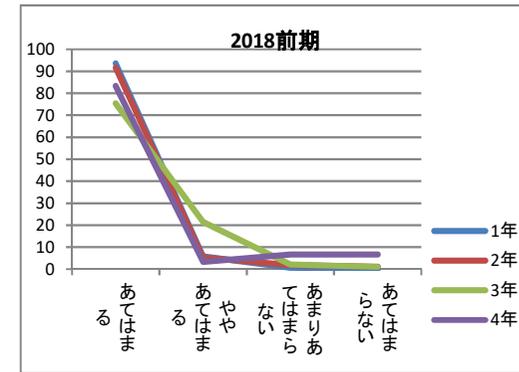
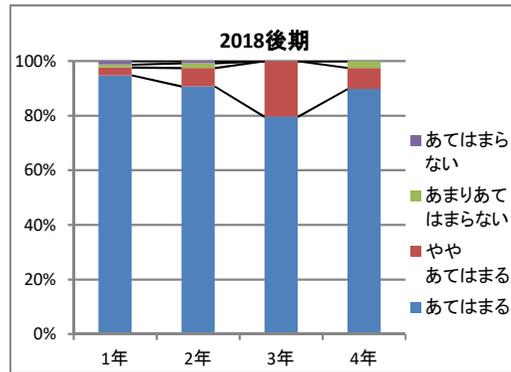
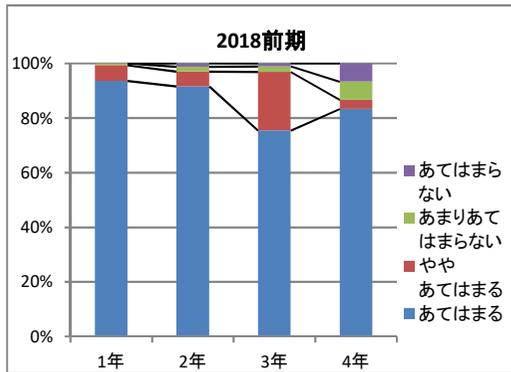
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



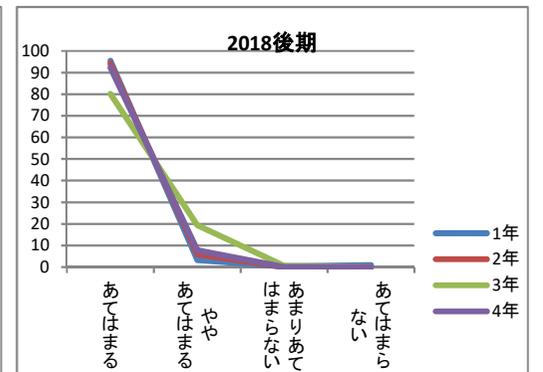
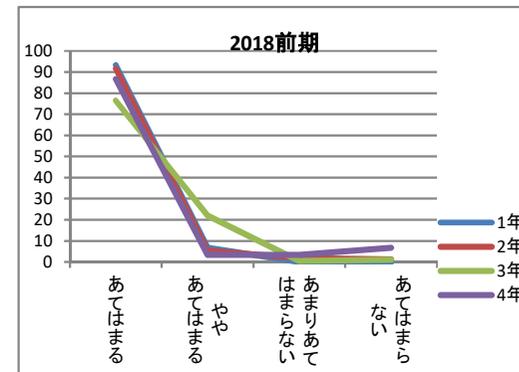
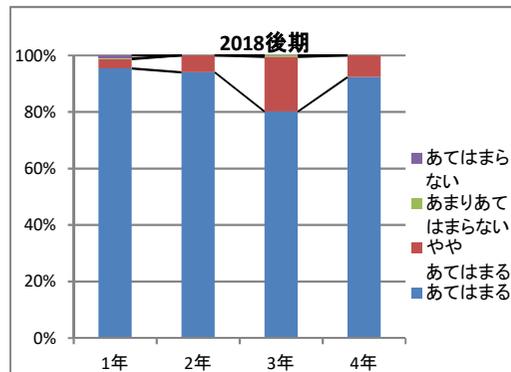
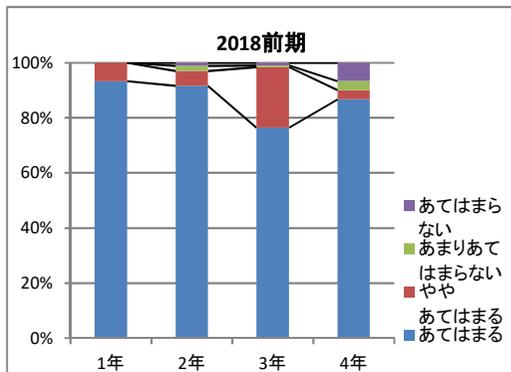
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



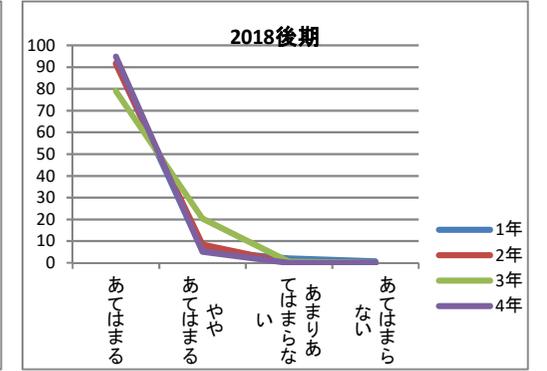
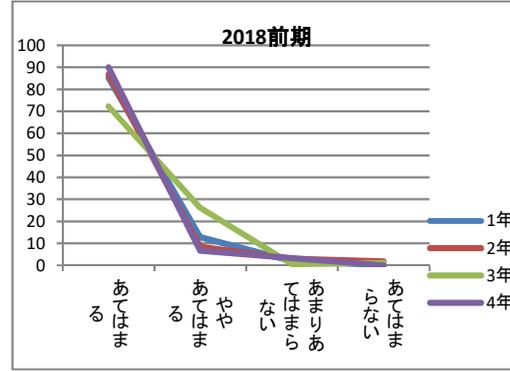
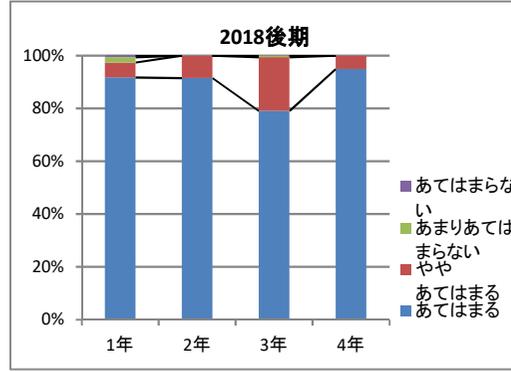
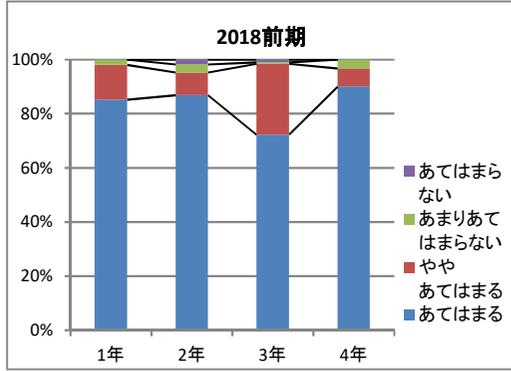
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



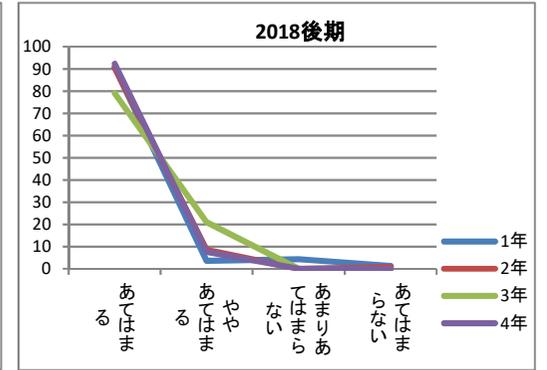
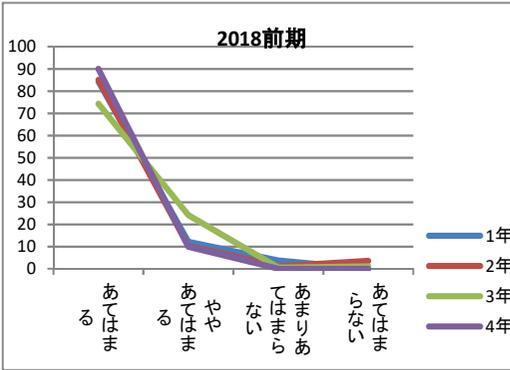
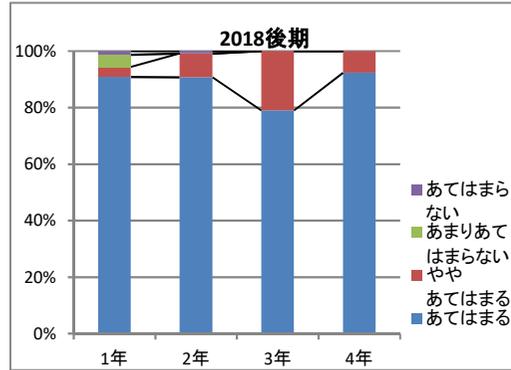
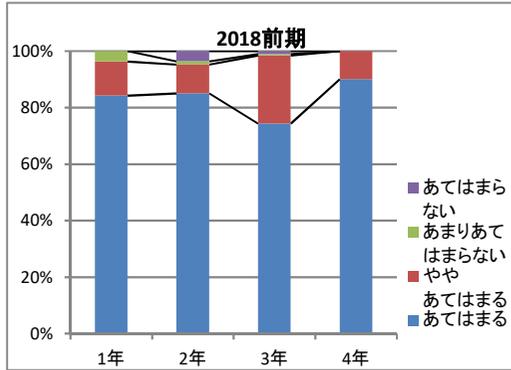
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



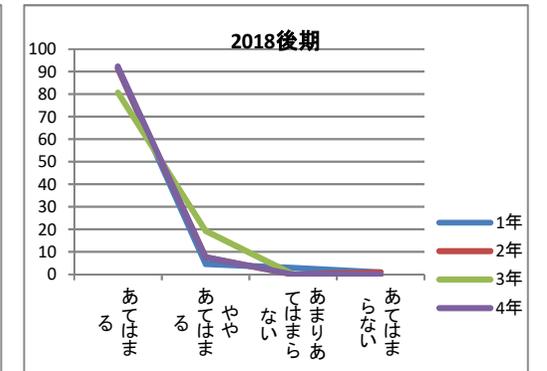
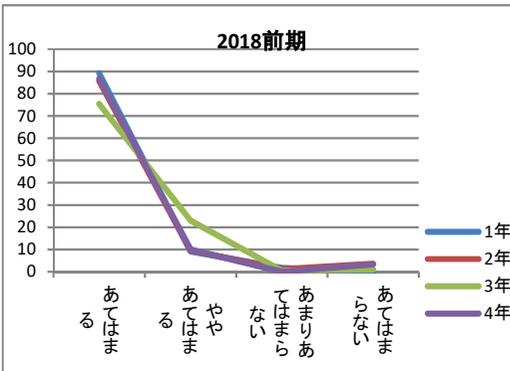
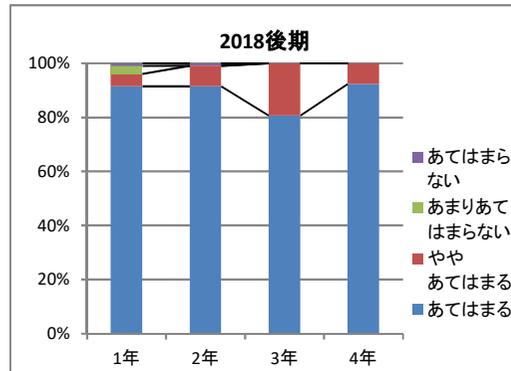
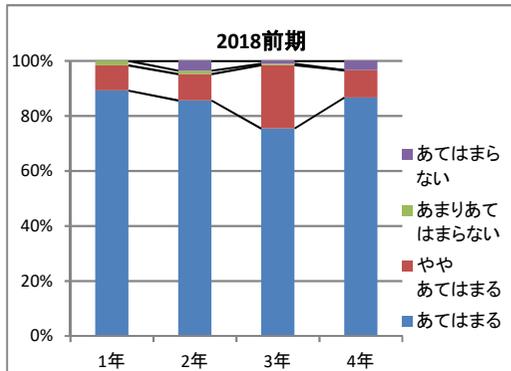
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。

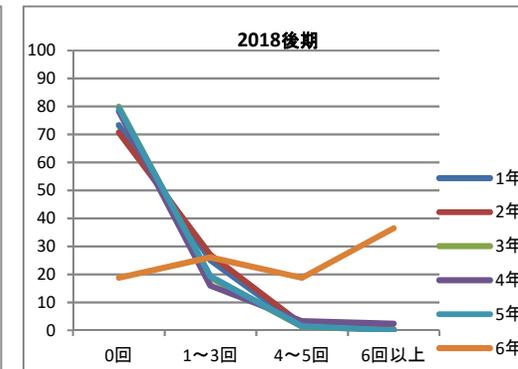
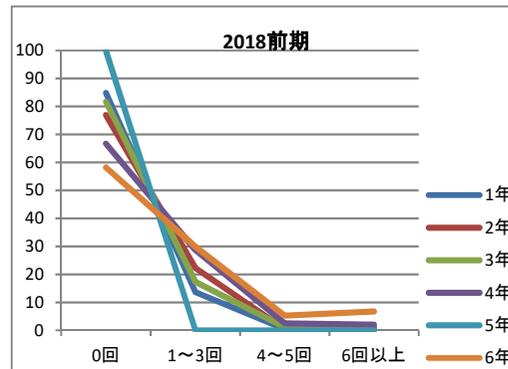
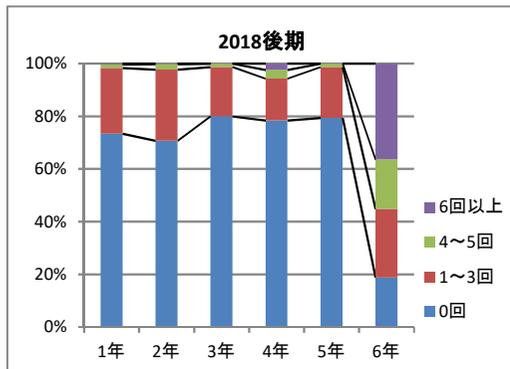
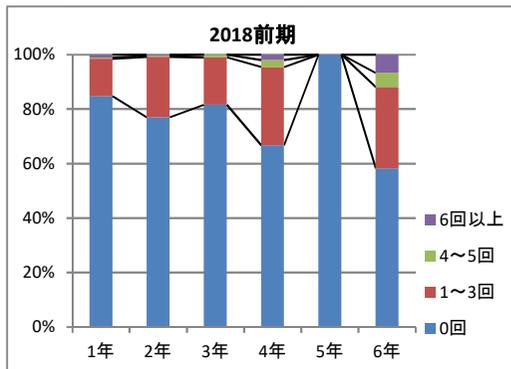


授業アンケート 平成30年度 2018年度

<薬学科>

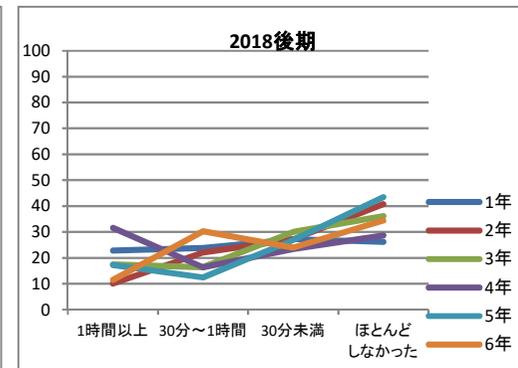
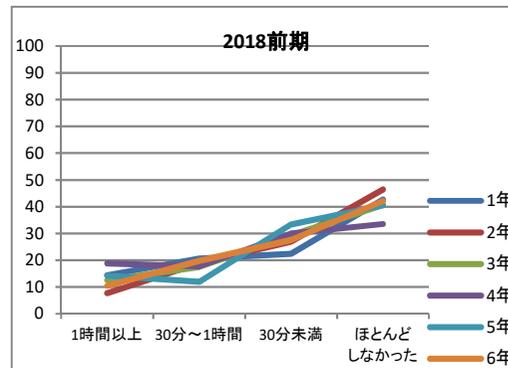
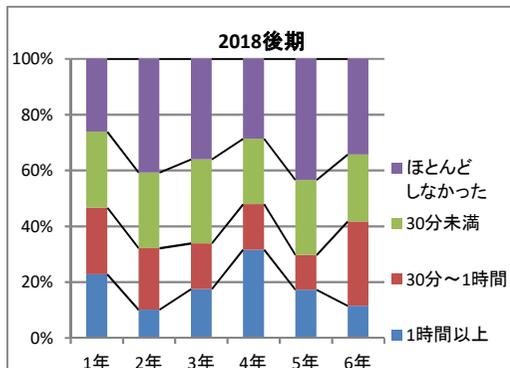
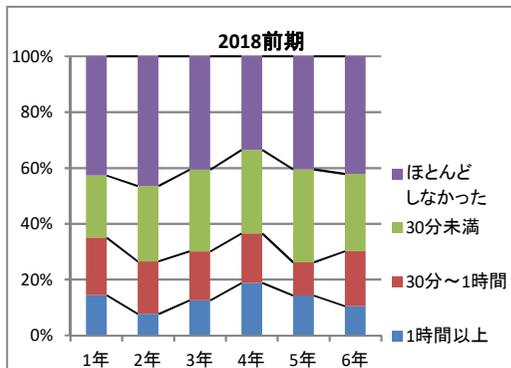
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



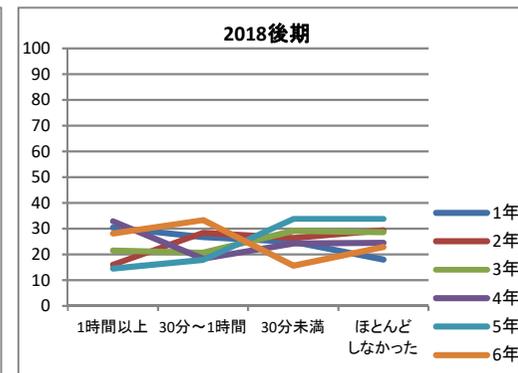
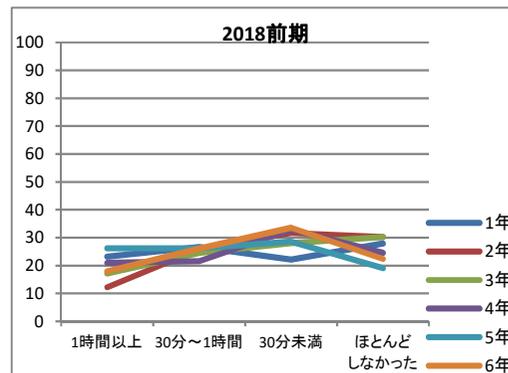
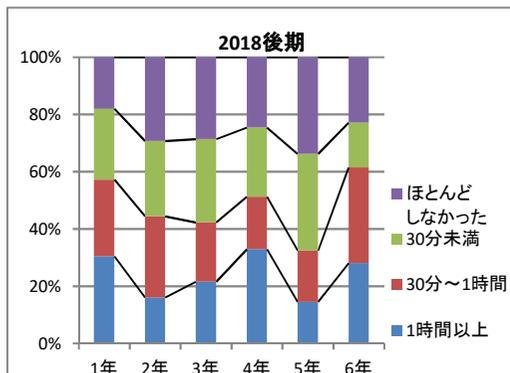
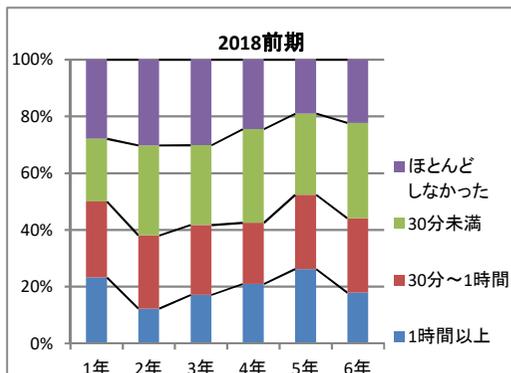
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



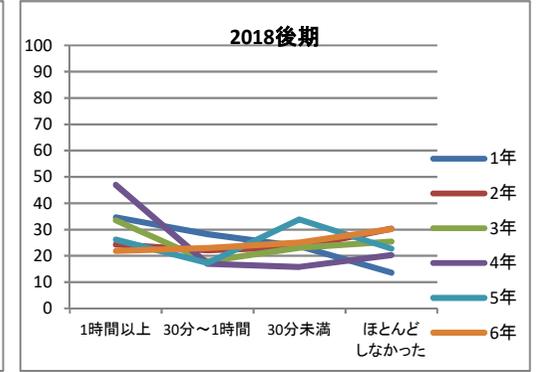
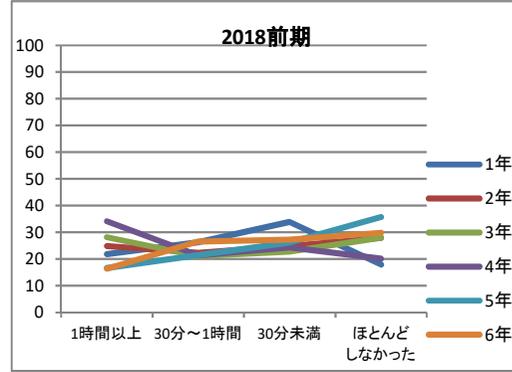
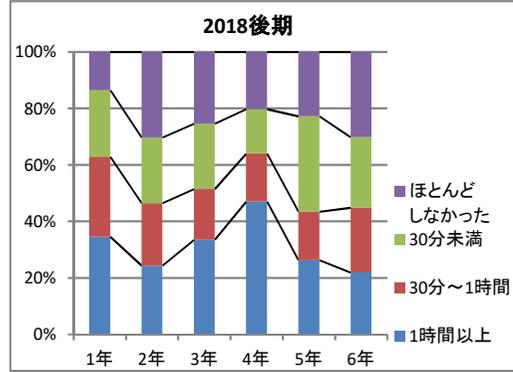
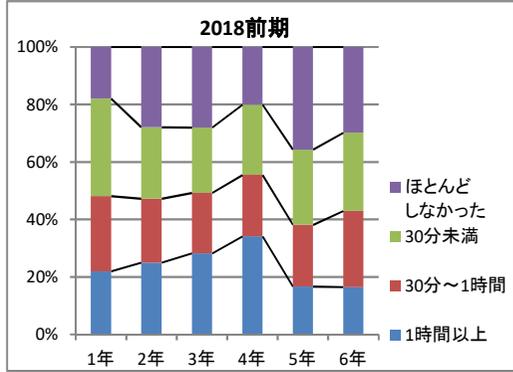
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



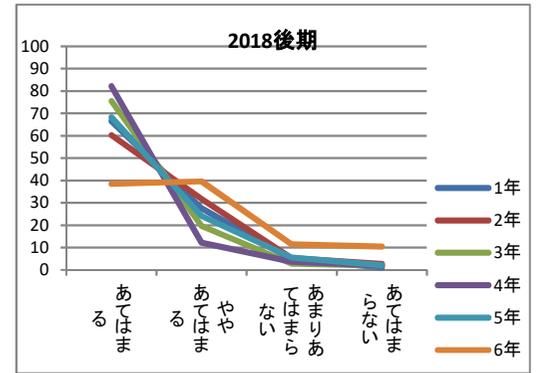
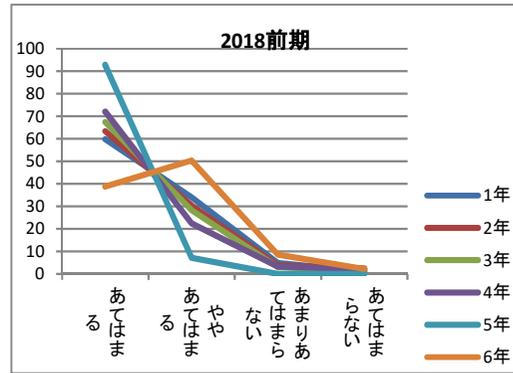
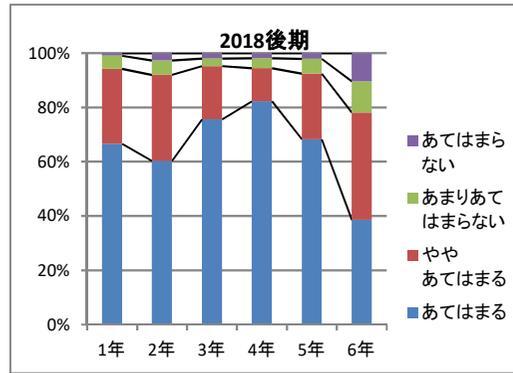
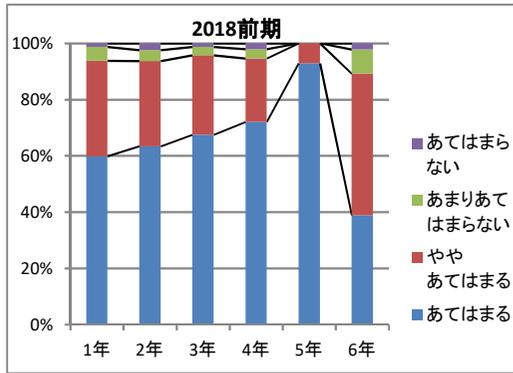
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



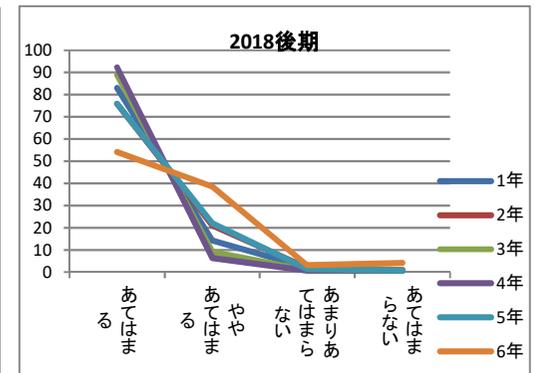
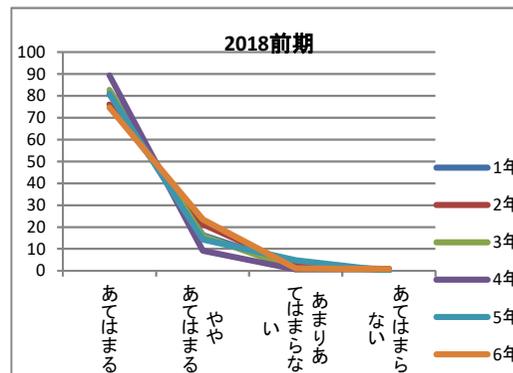
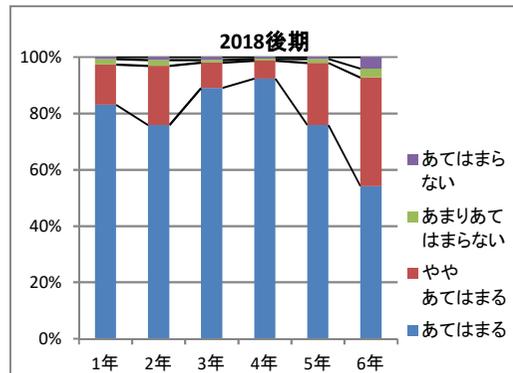
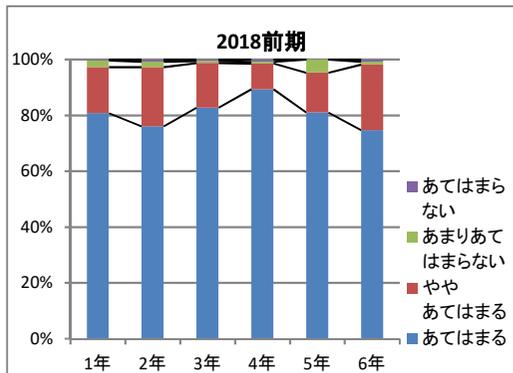
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



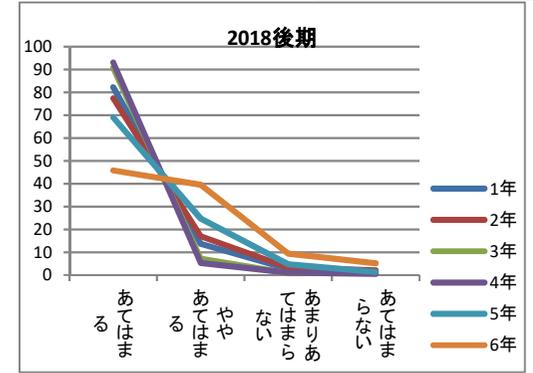
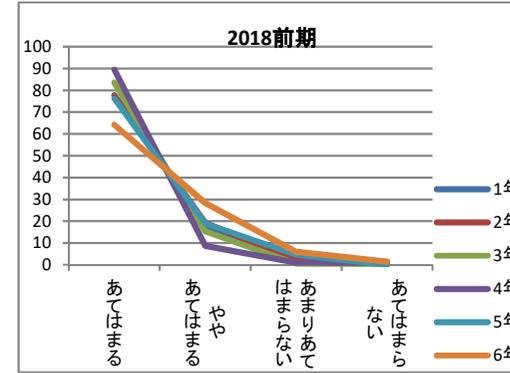
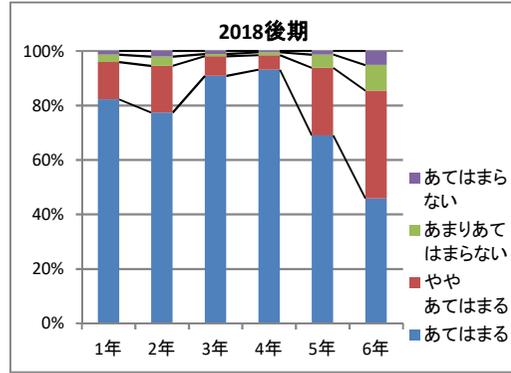
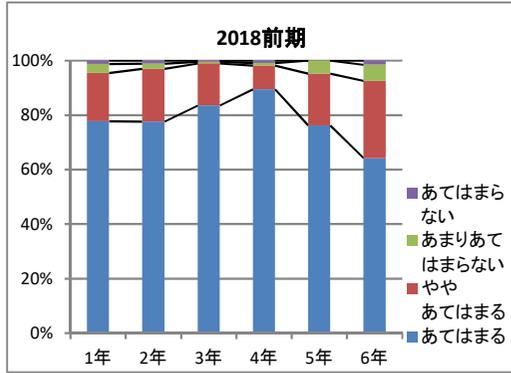
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



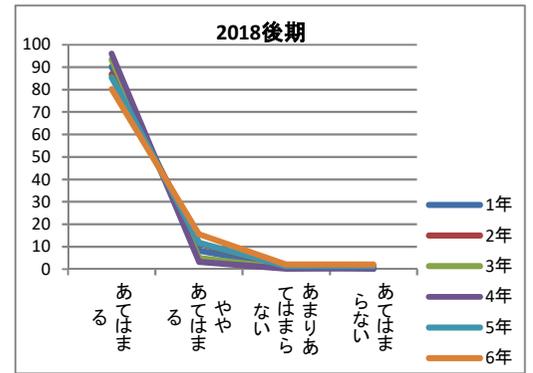
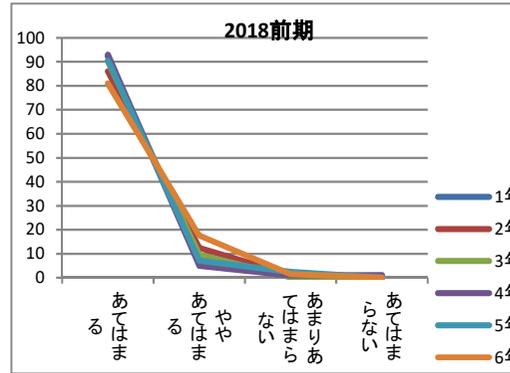
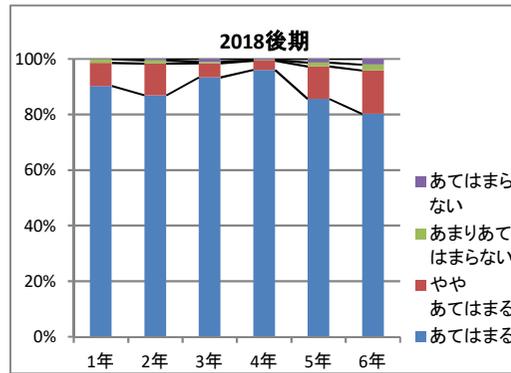
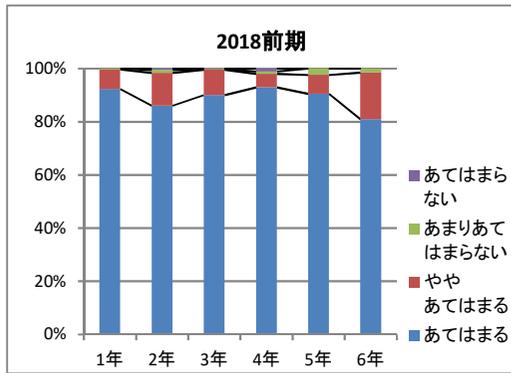
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



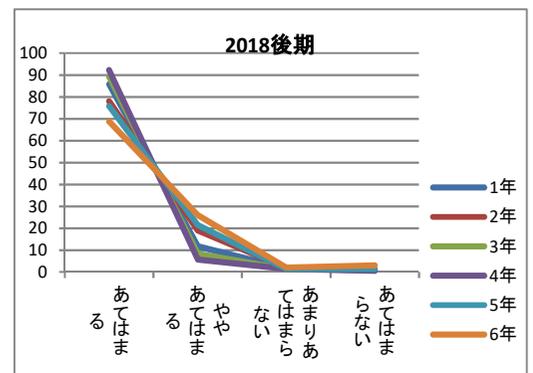
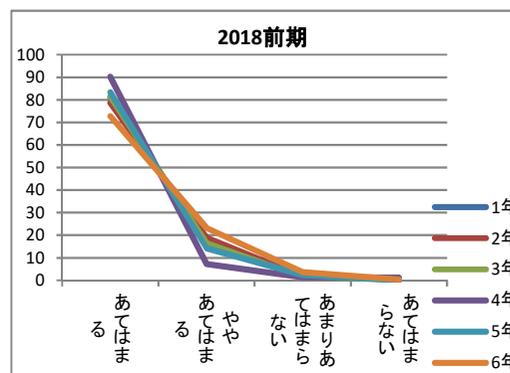
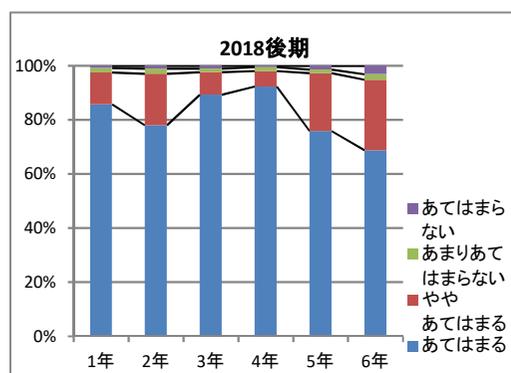
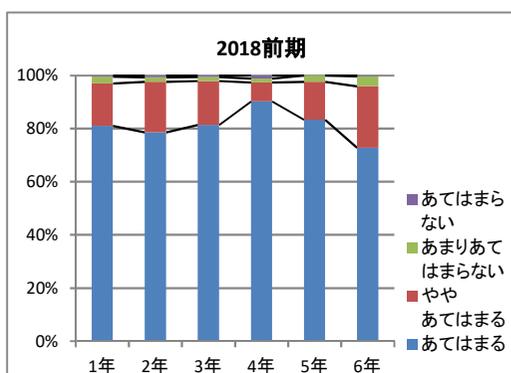
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



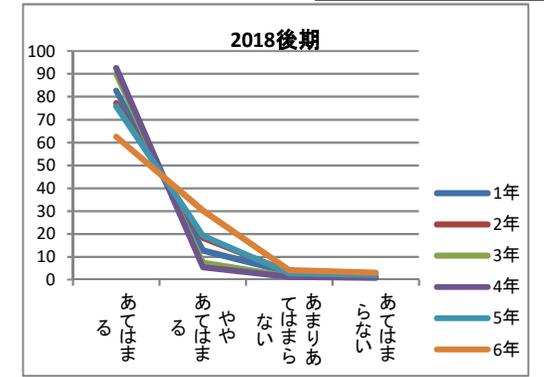
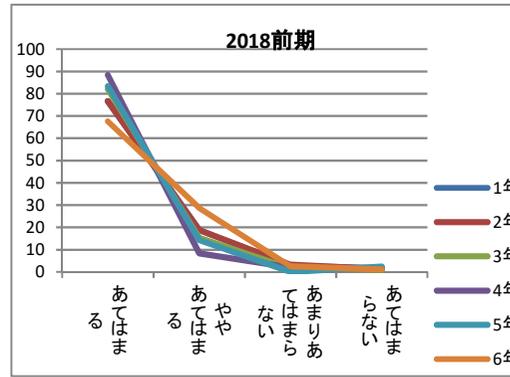
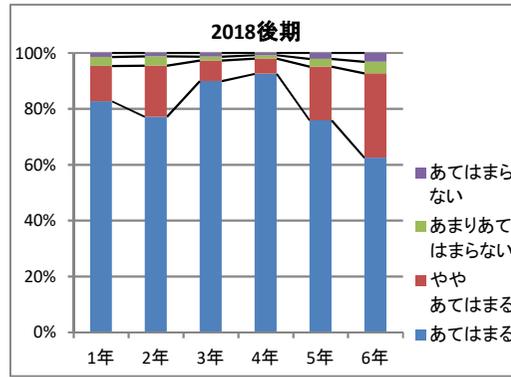
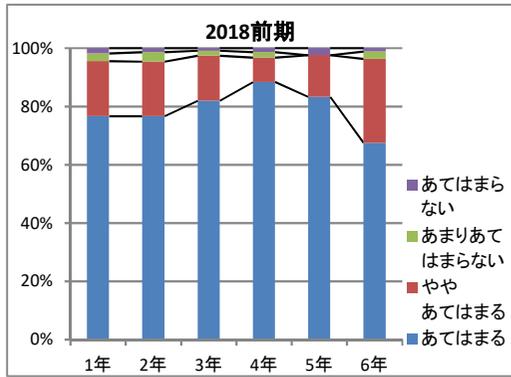
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



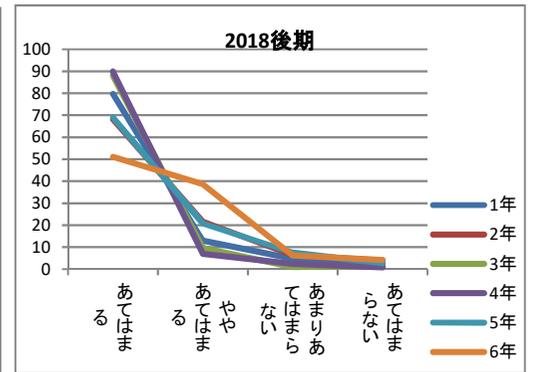
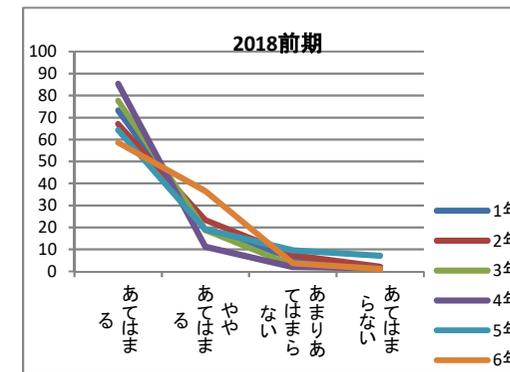
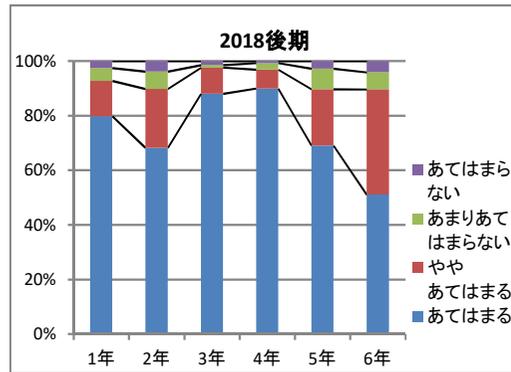
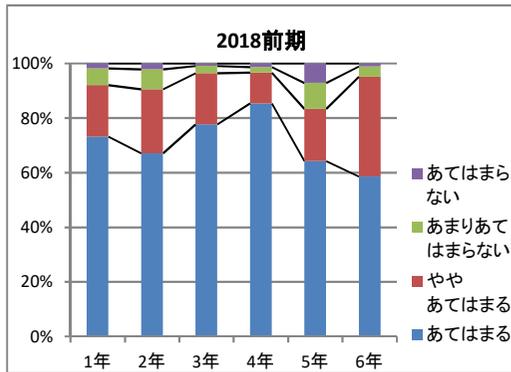
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



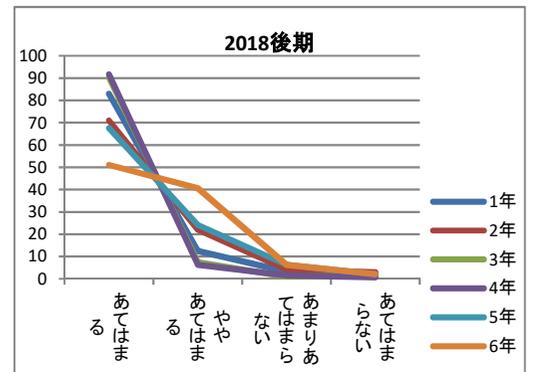
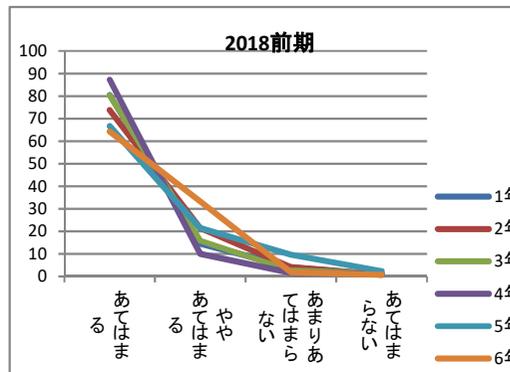
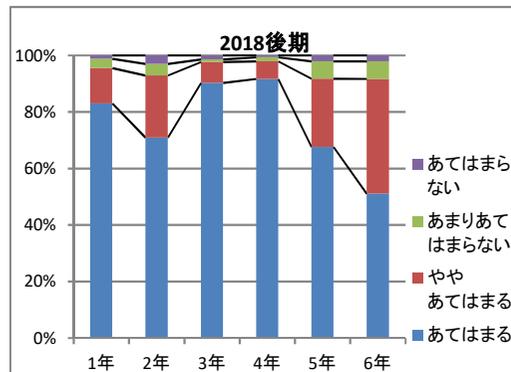
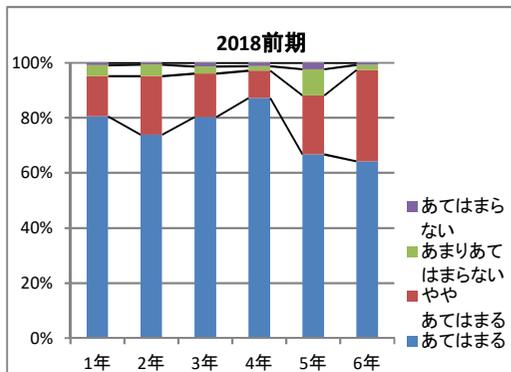
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



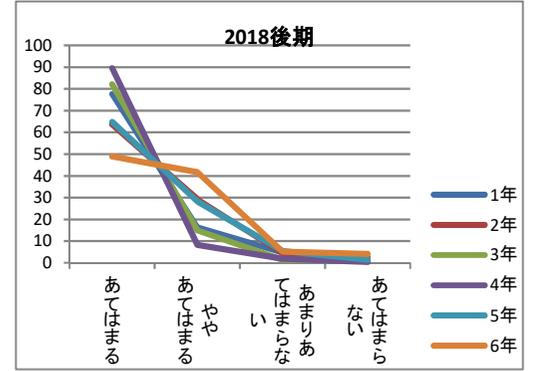
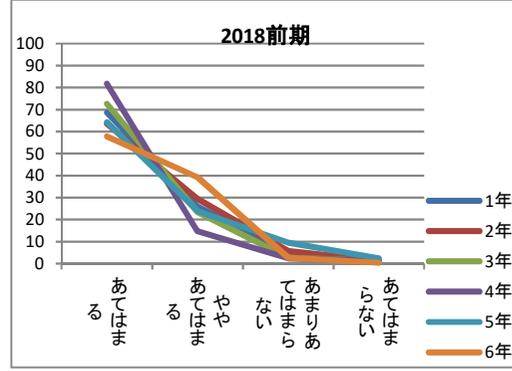
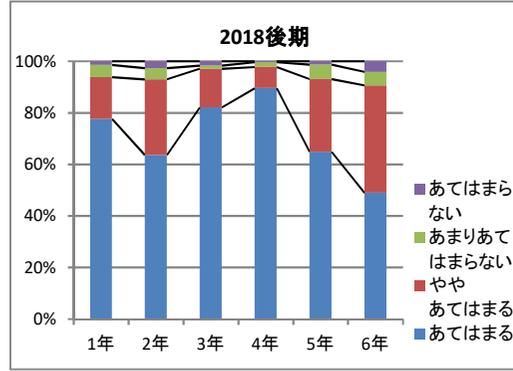
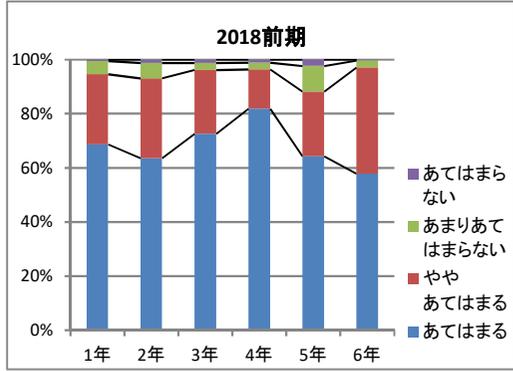
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



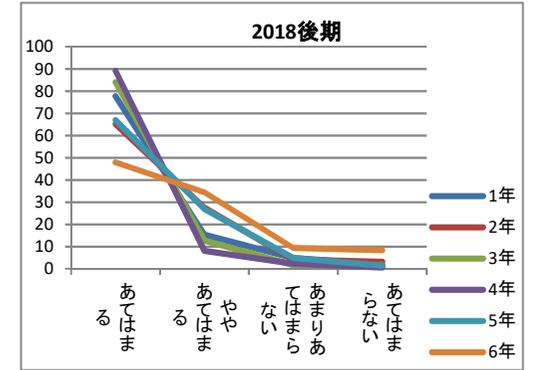
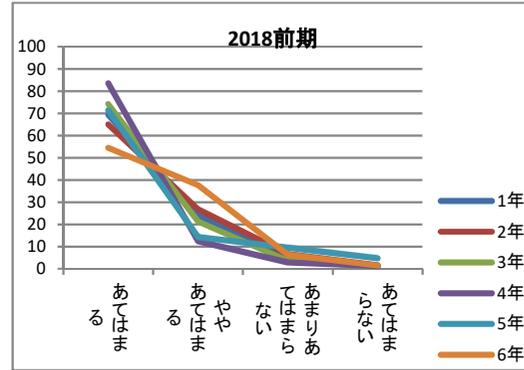
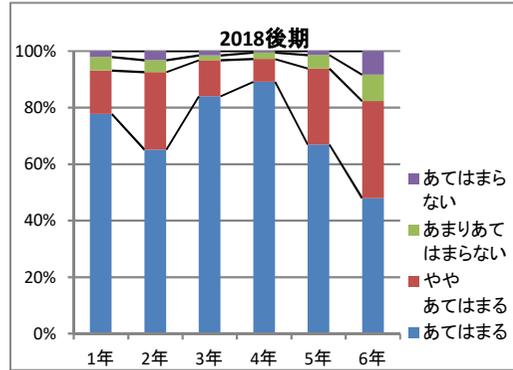
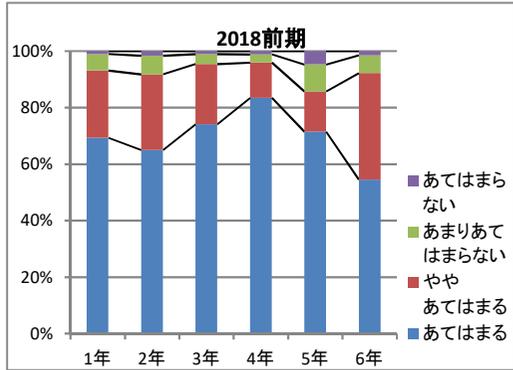
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



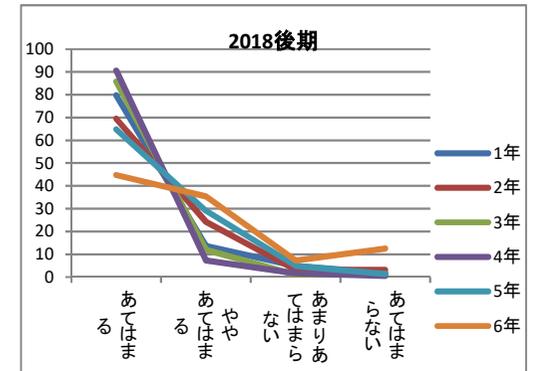
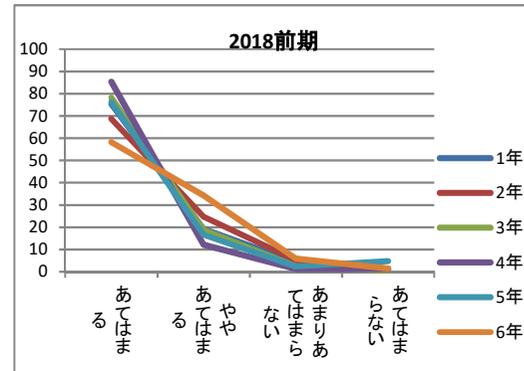
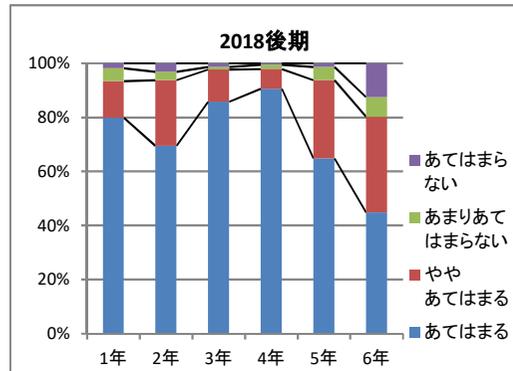
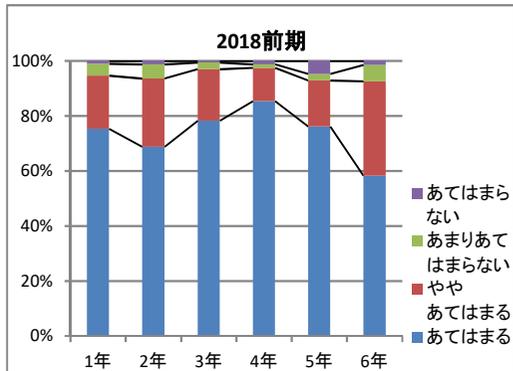
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。

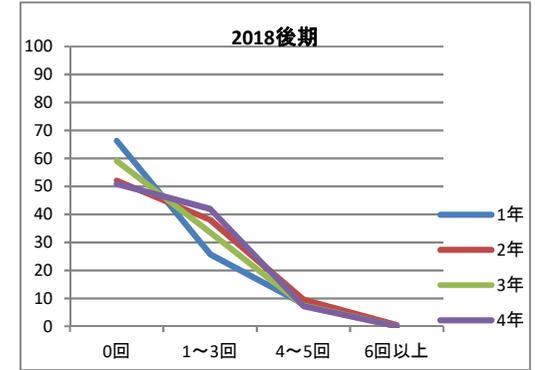
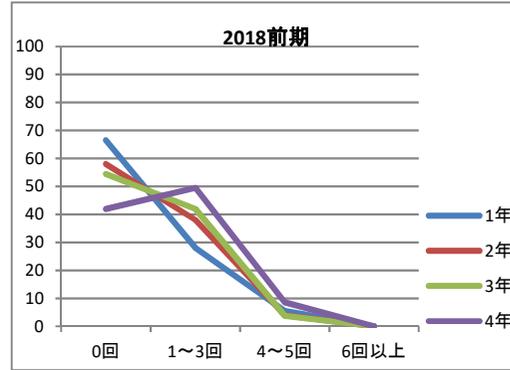
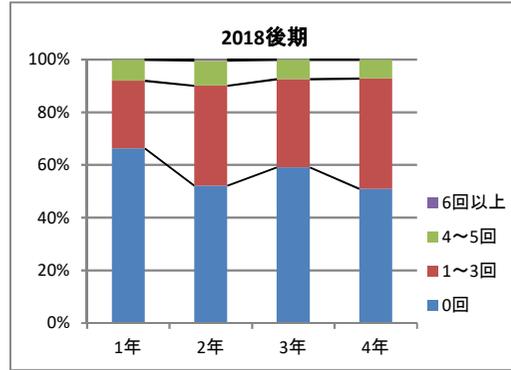
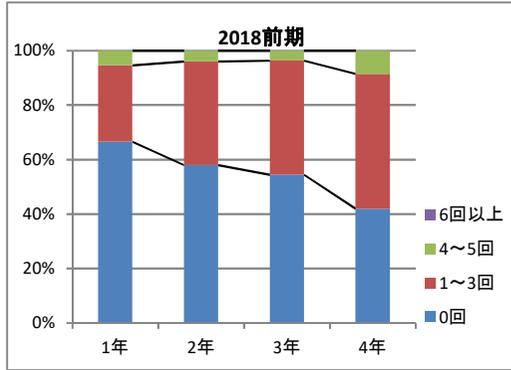


授業アンケート 平成30年度 2018年度

<動物生命薬科学科>

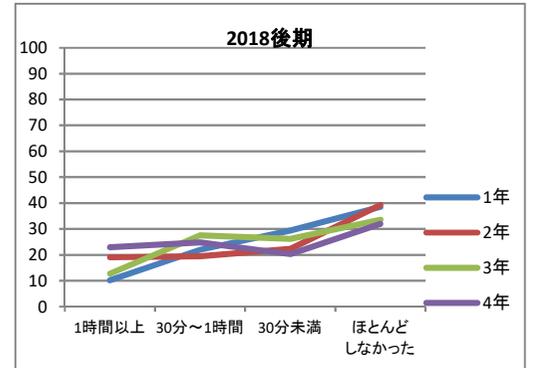
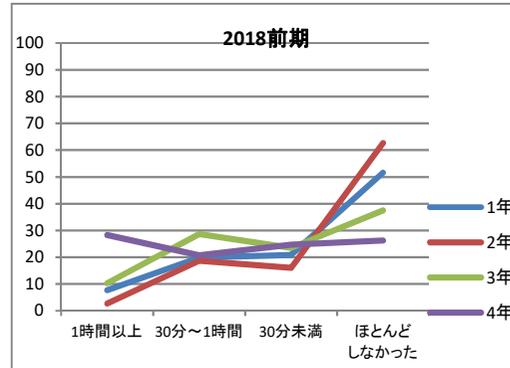
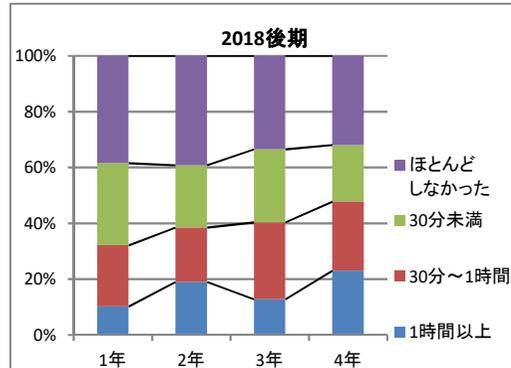
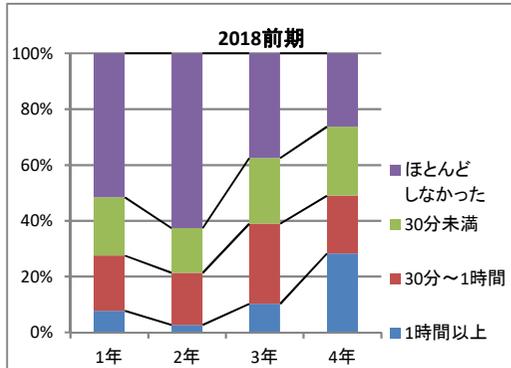
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



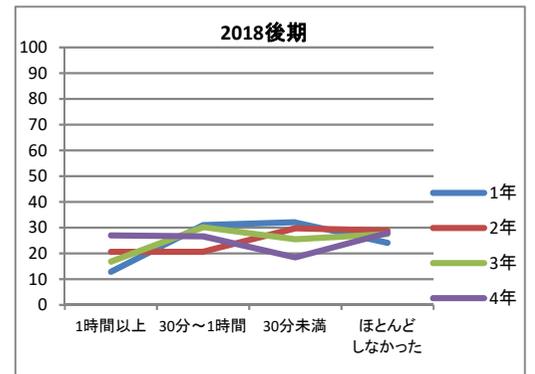
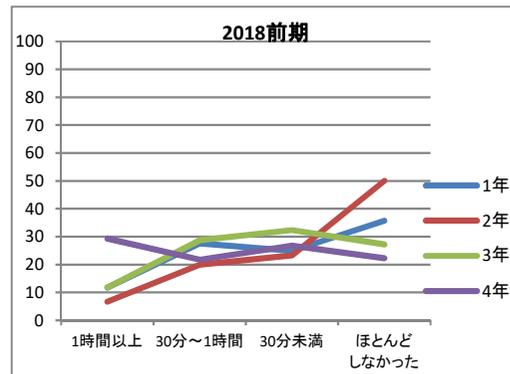
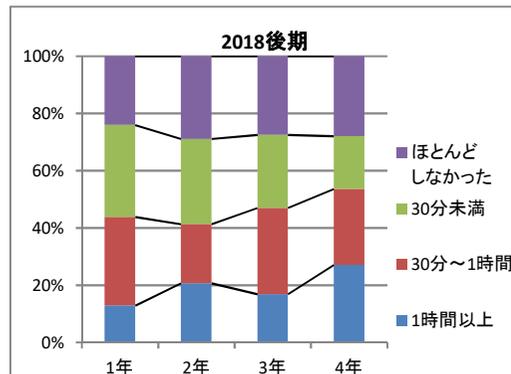
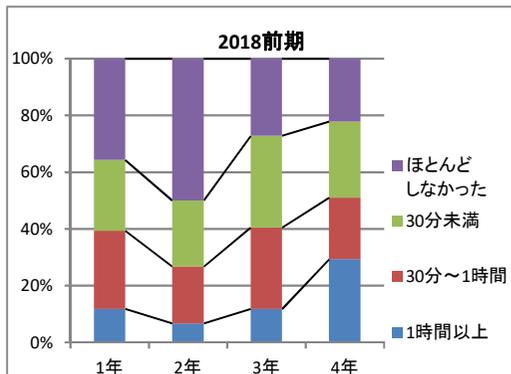
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



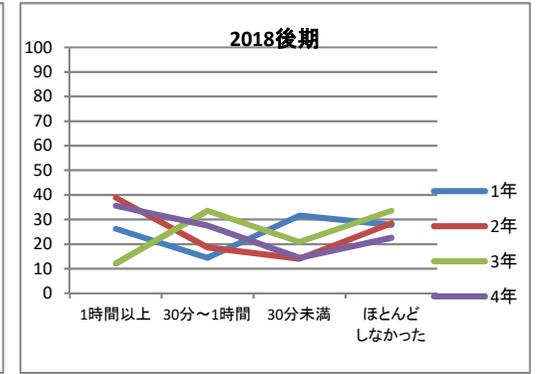
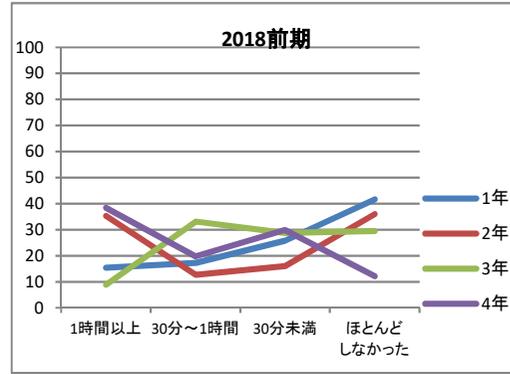
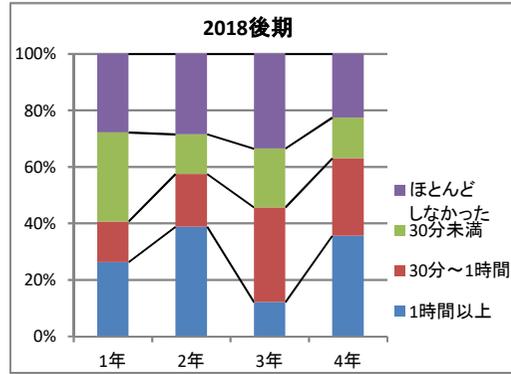
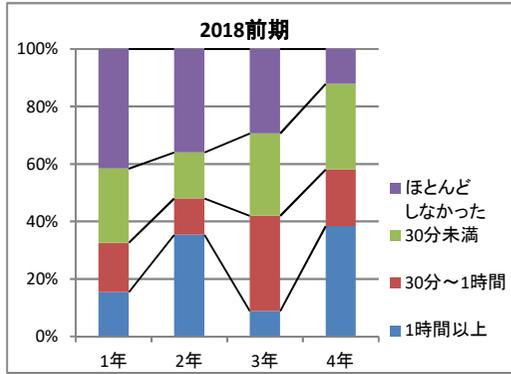
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



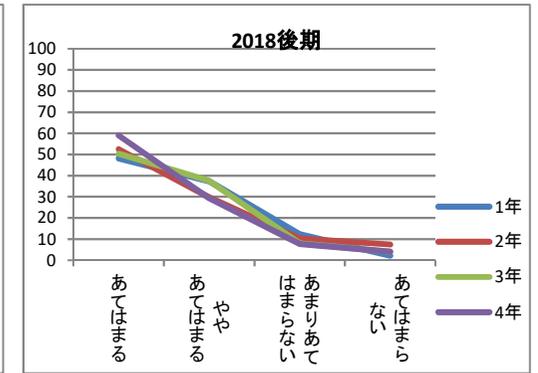
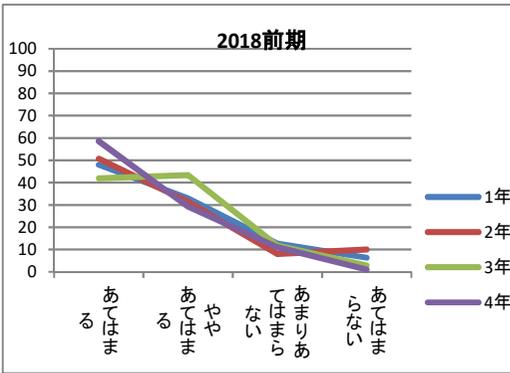
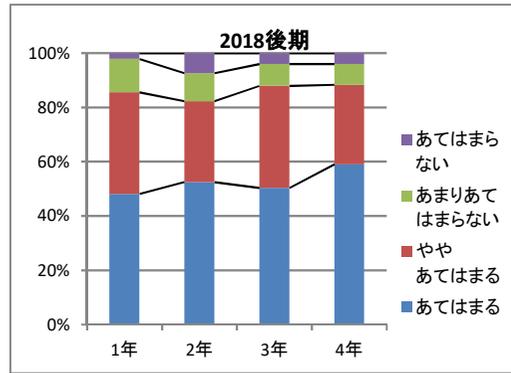
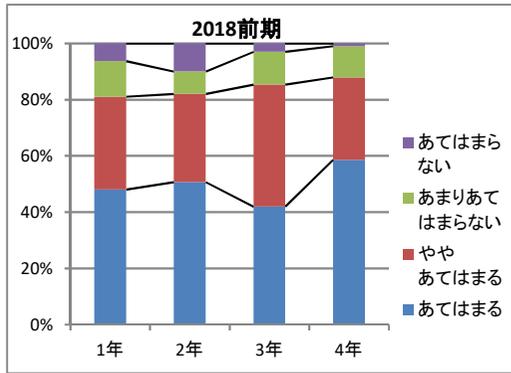
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



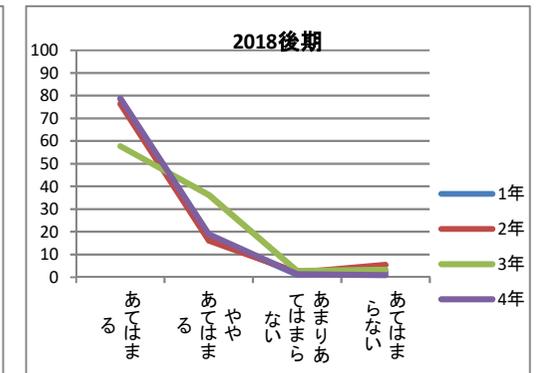
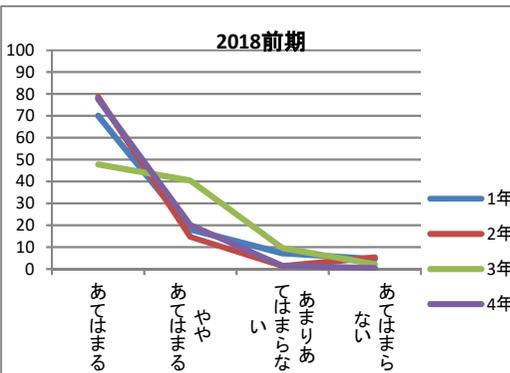
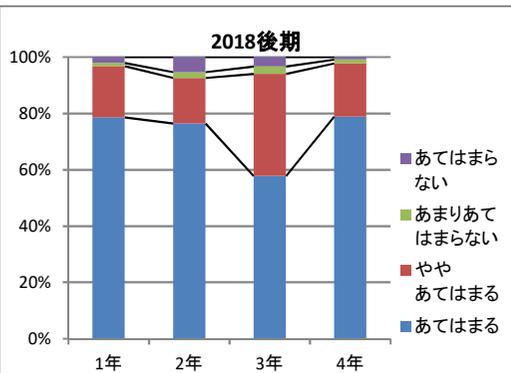
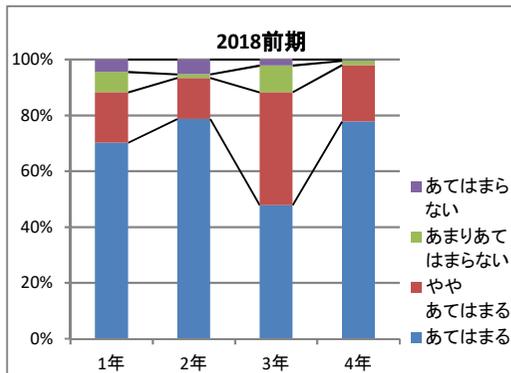
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



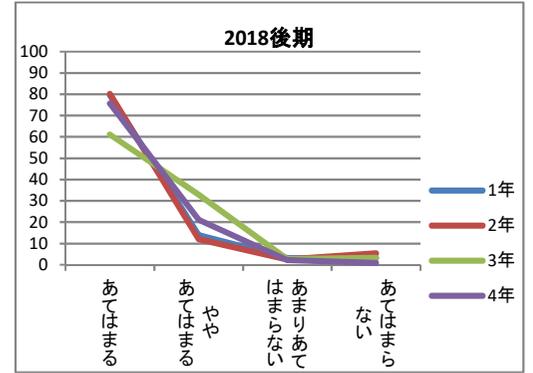
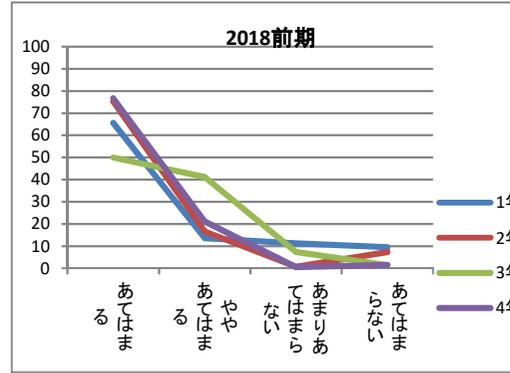
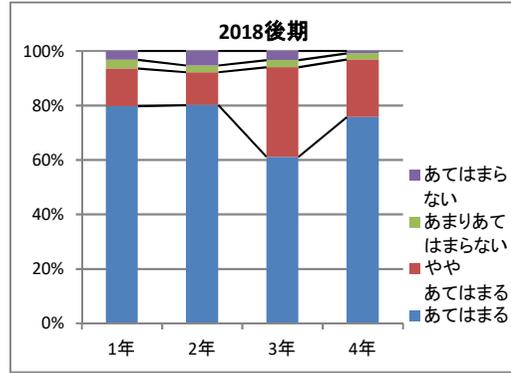
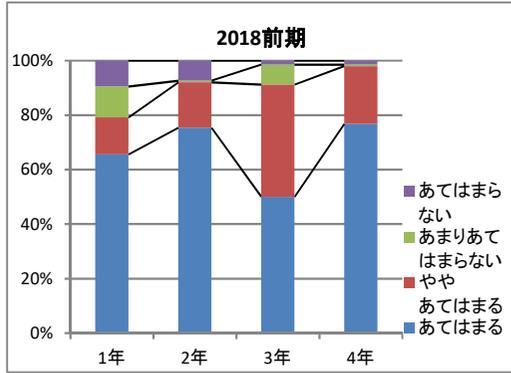
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



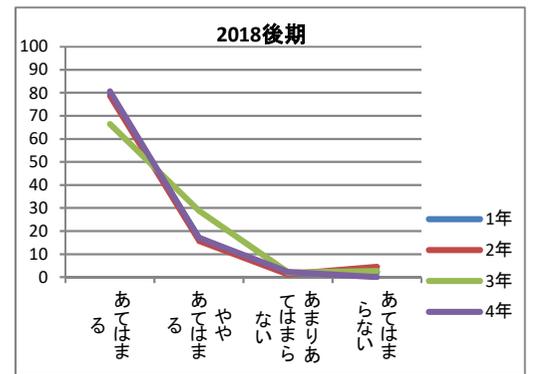
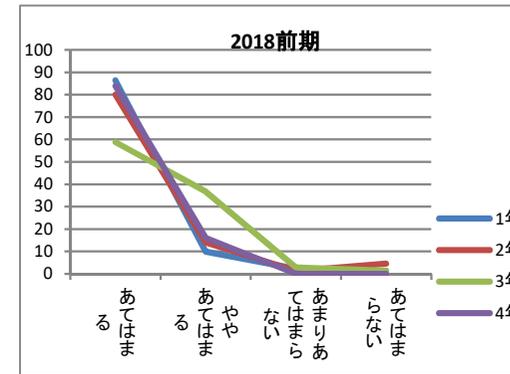
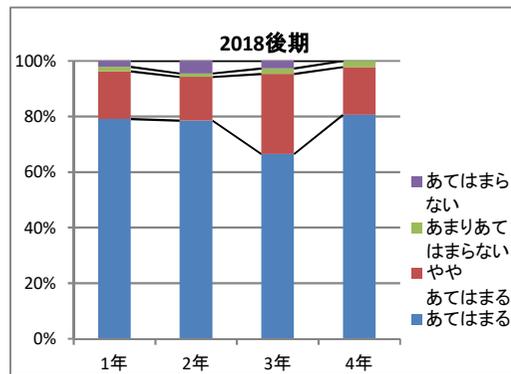
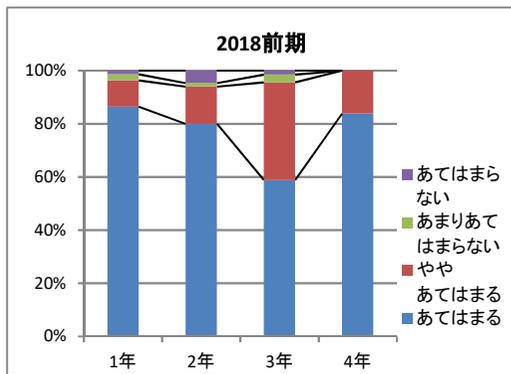
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



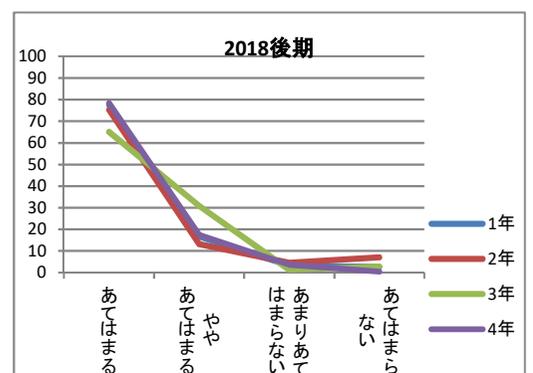
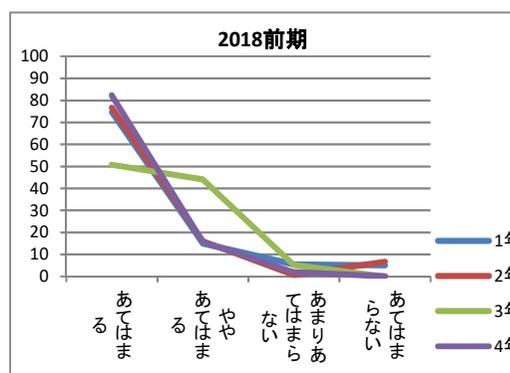
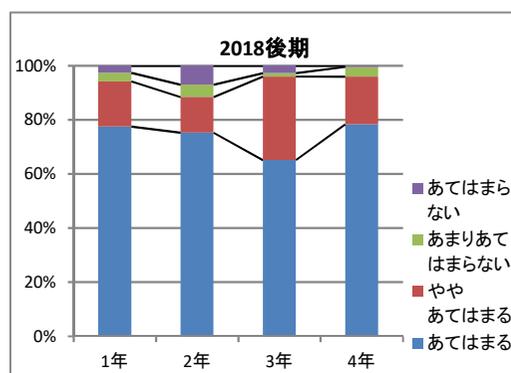
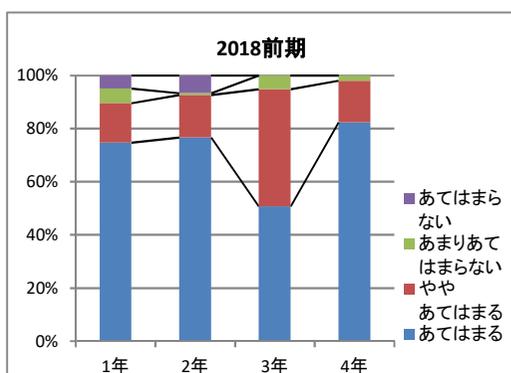
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



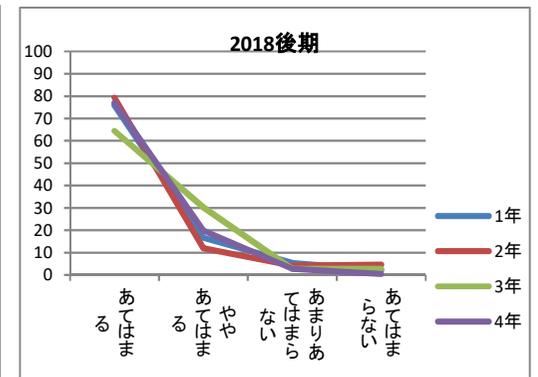
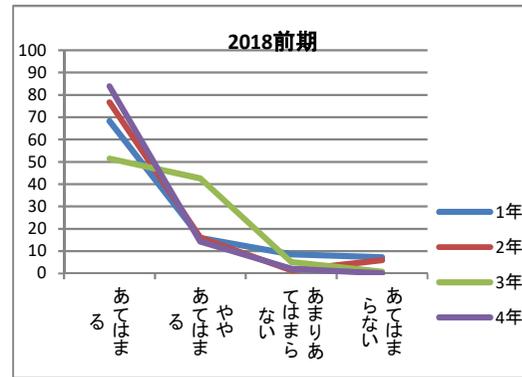
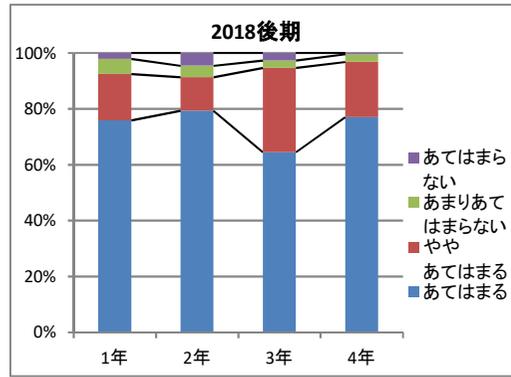
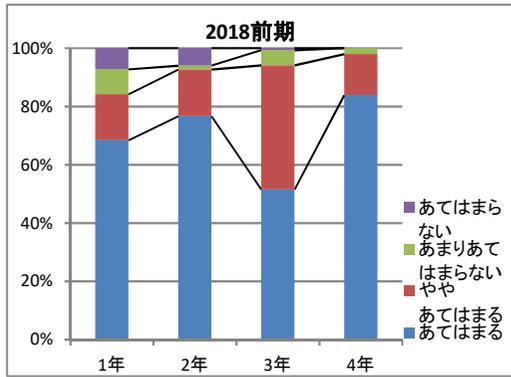
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



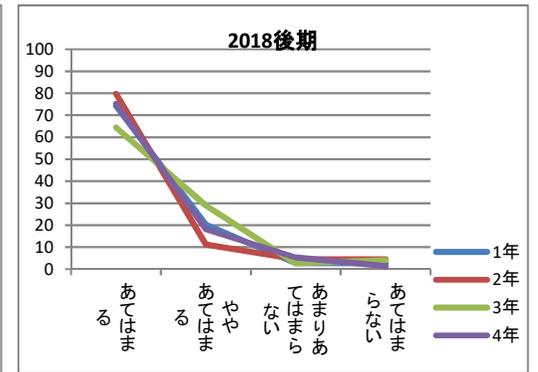
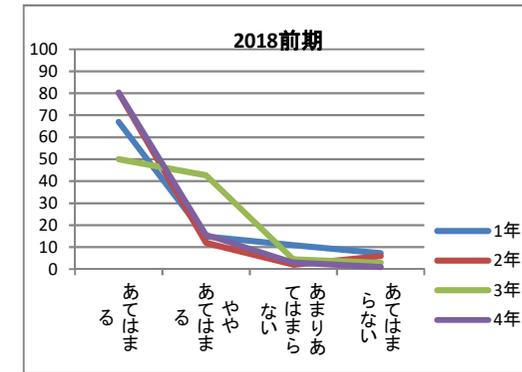
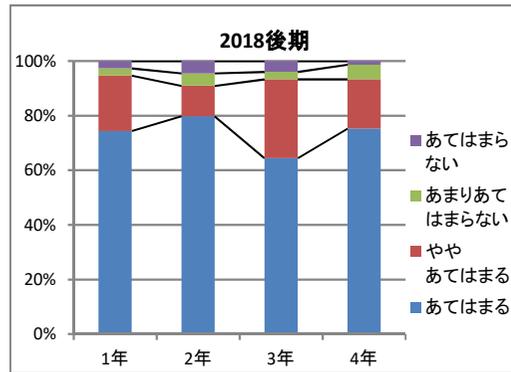
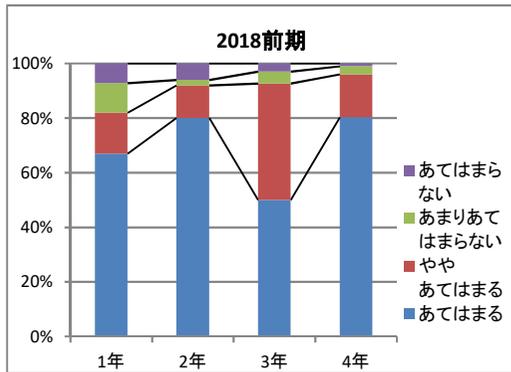
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



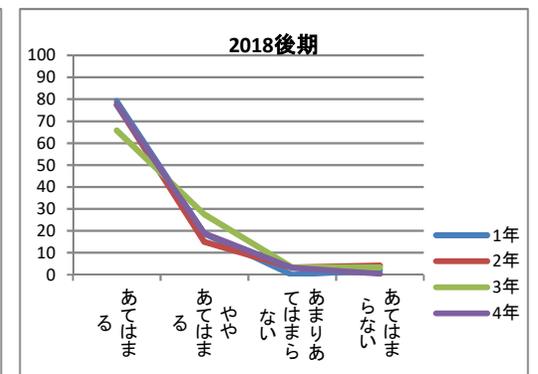
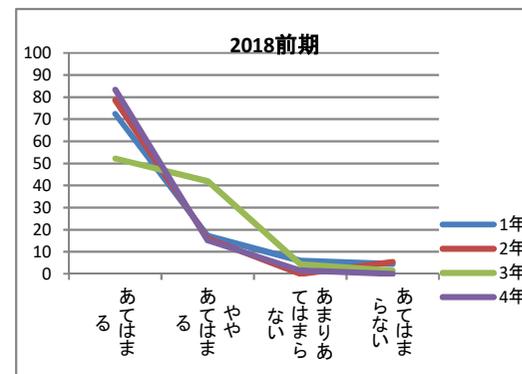
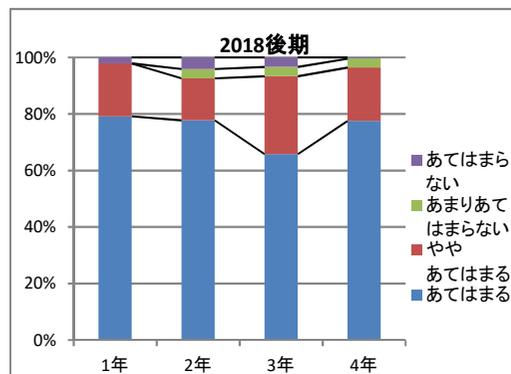
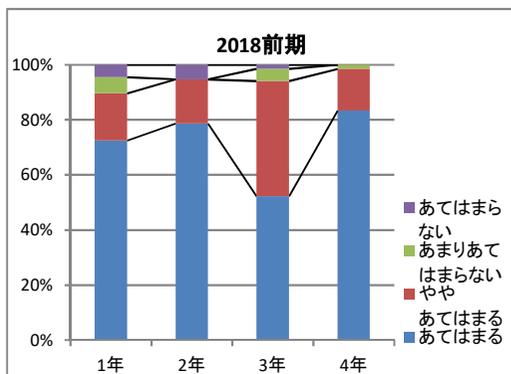
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



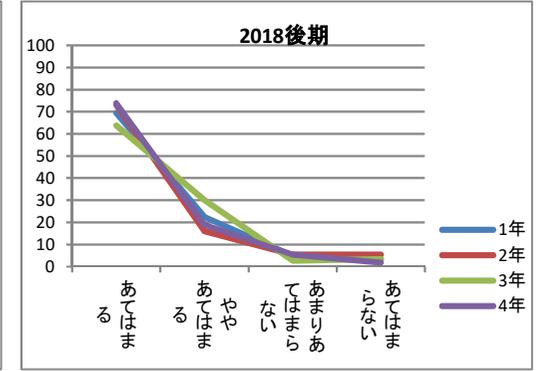
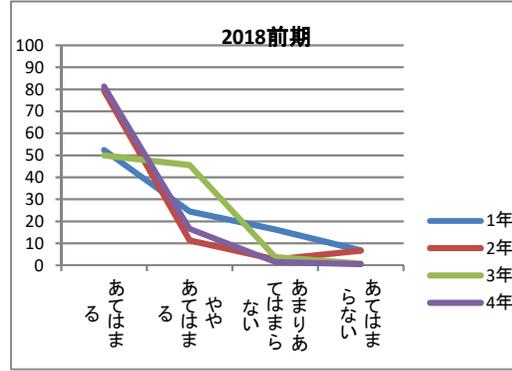
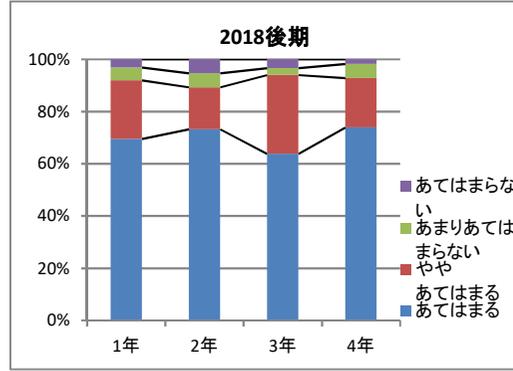
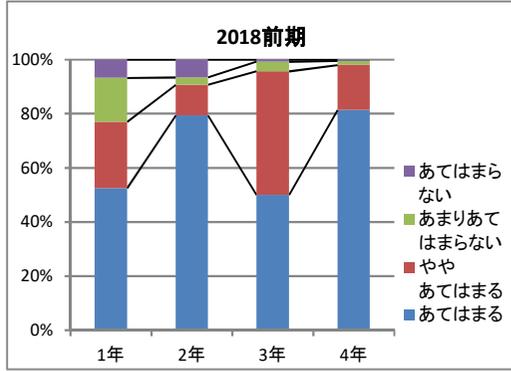
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



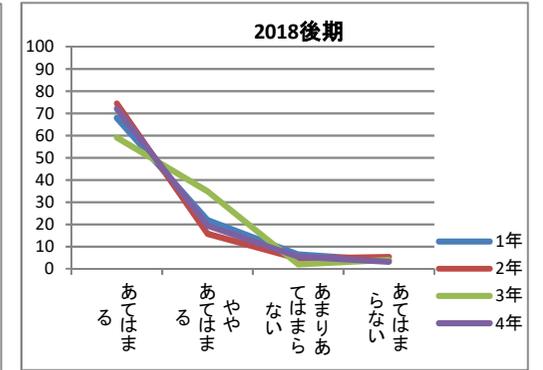
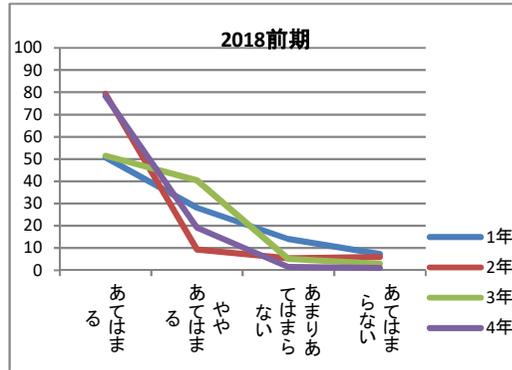
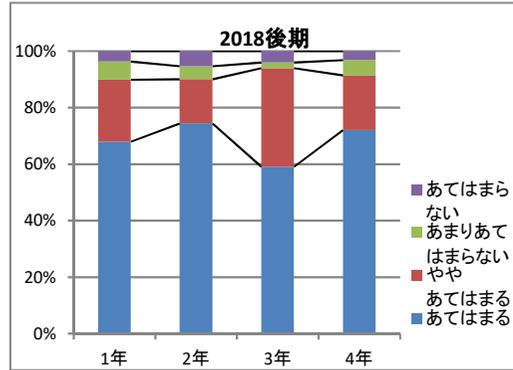
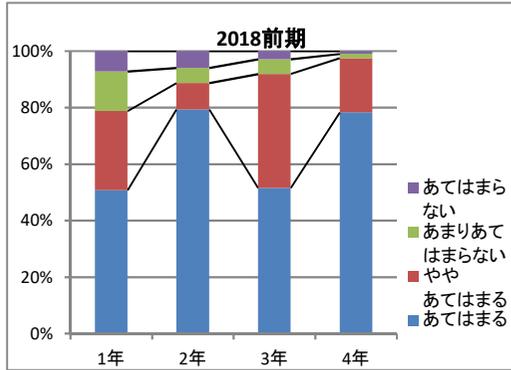
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



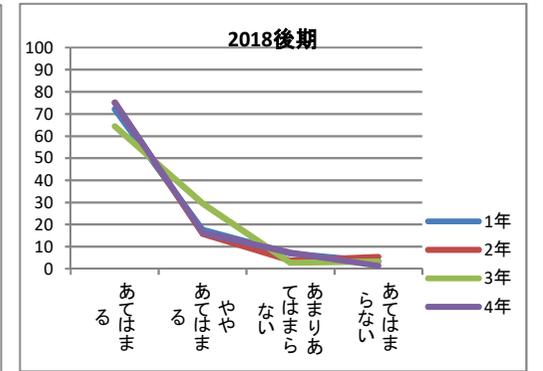
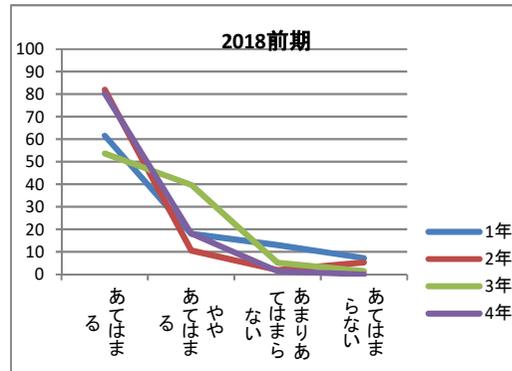
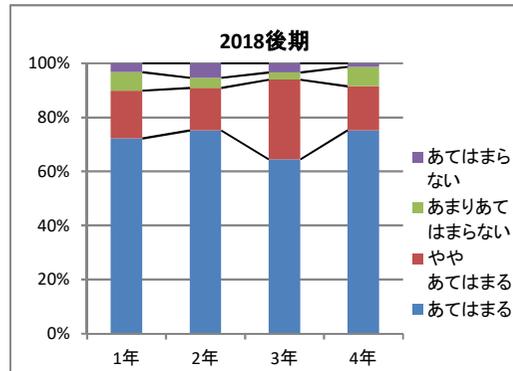
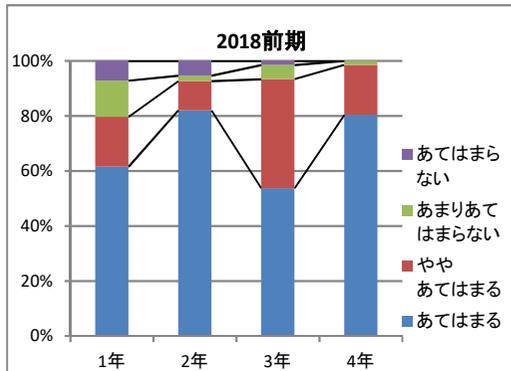
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。

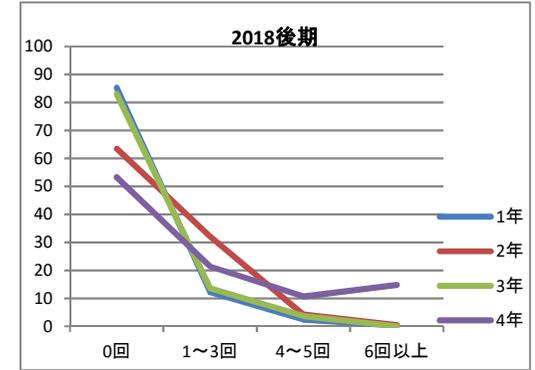
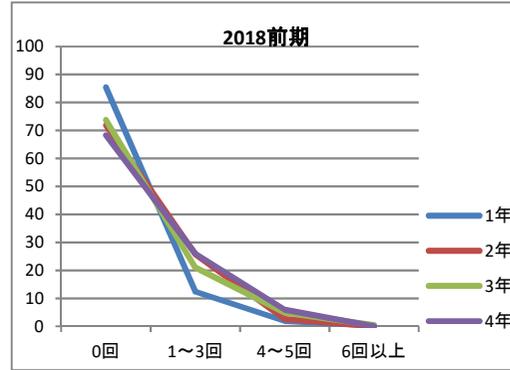
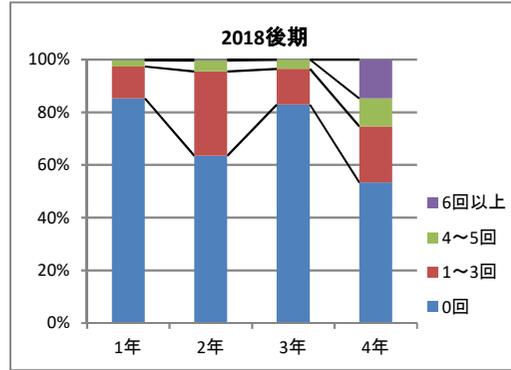
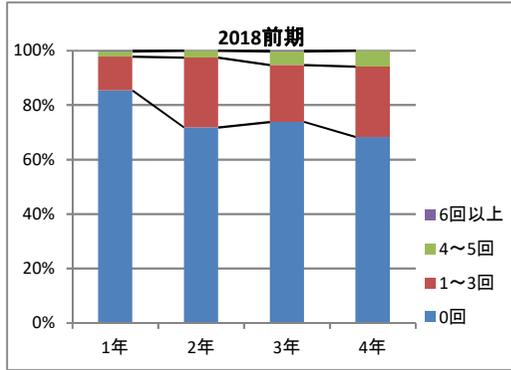


授業アンケート 平成30年度 2018年度

<生命医科学科>

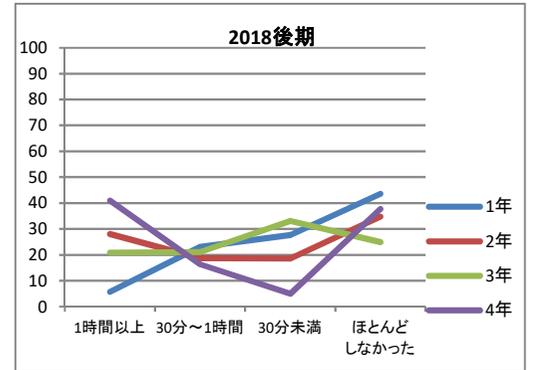
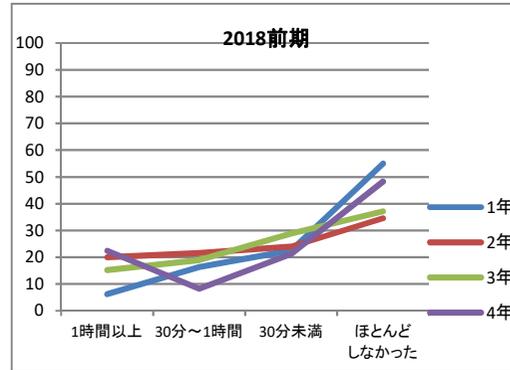
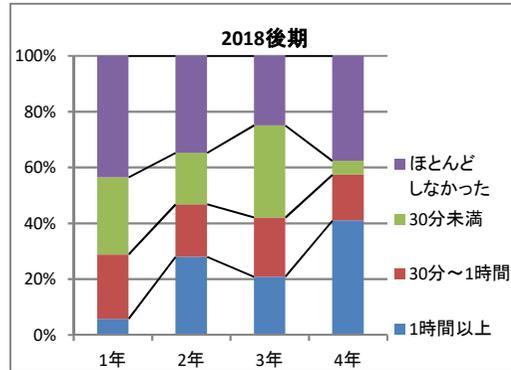
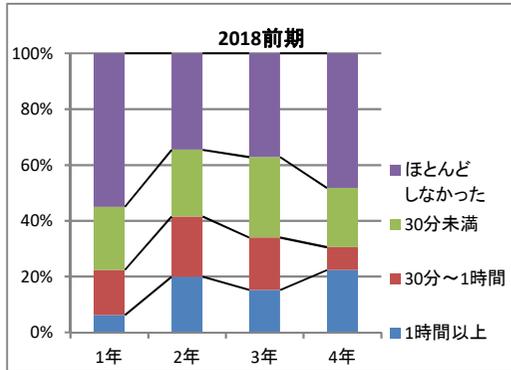
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



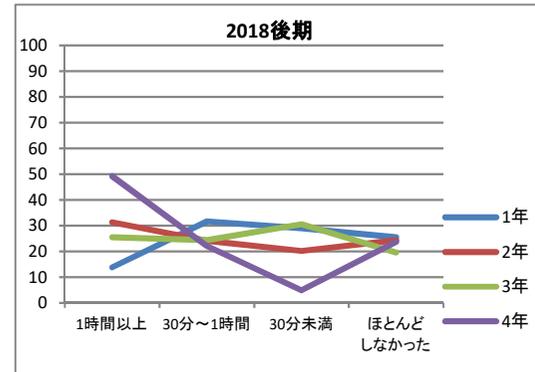
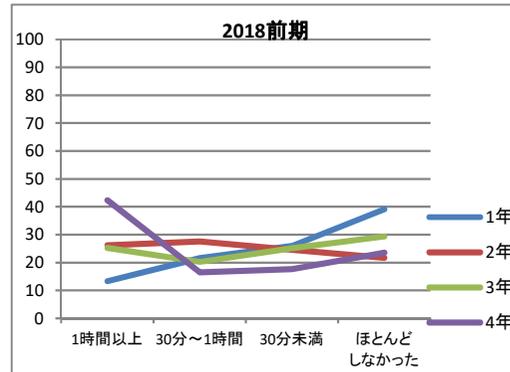
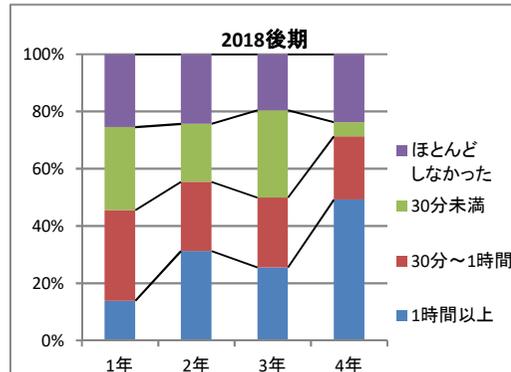
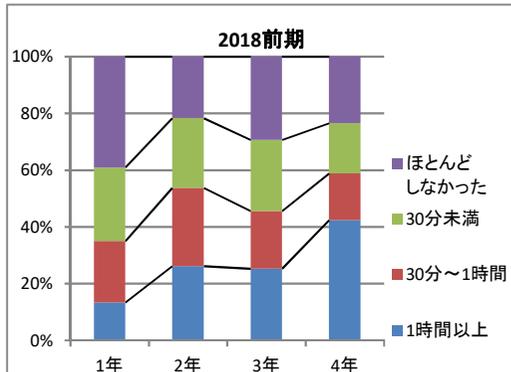
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



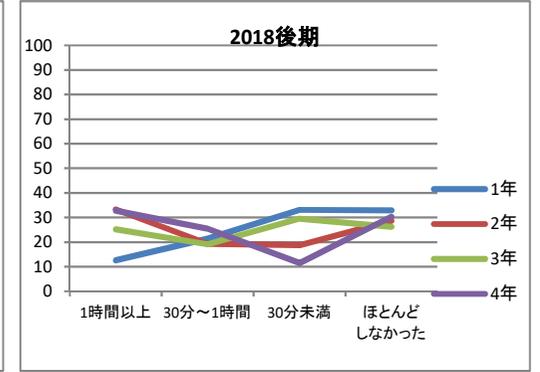
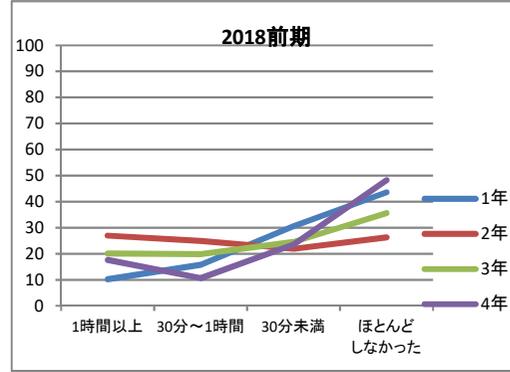
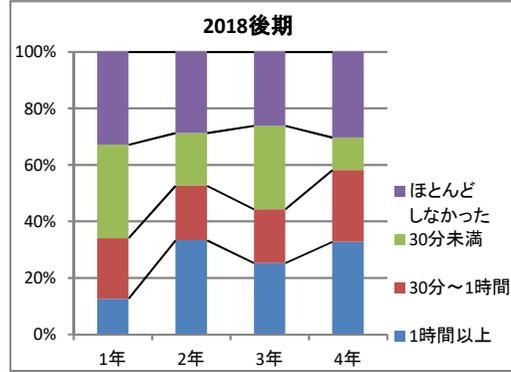
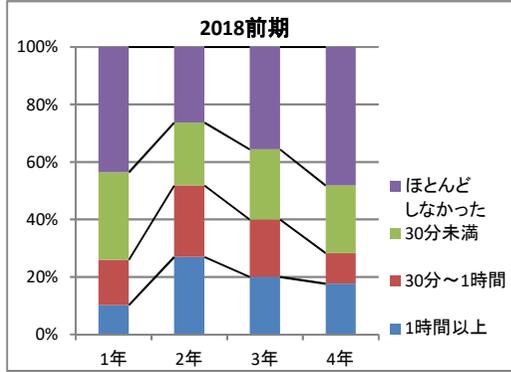
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



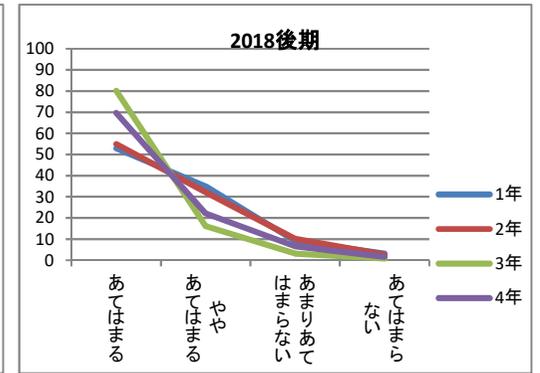
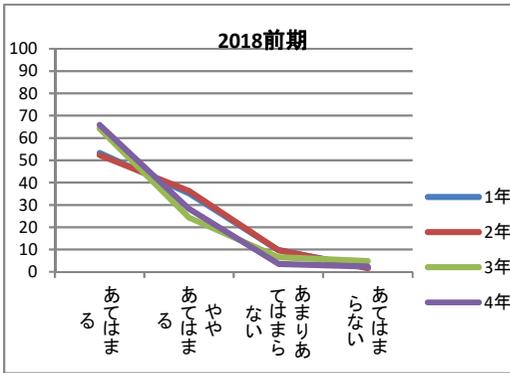
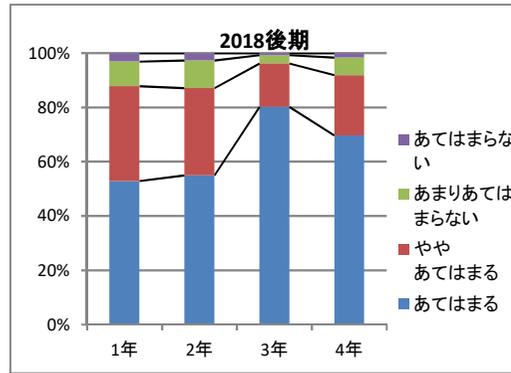
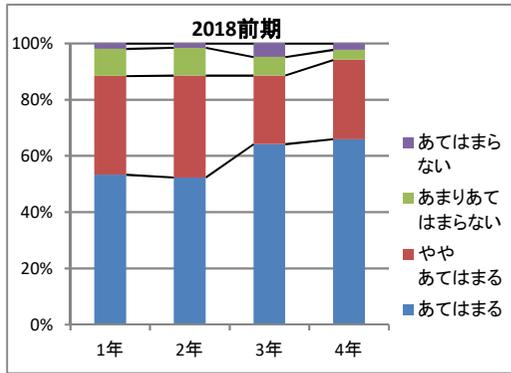
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



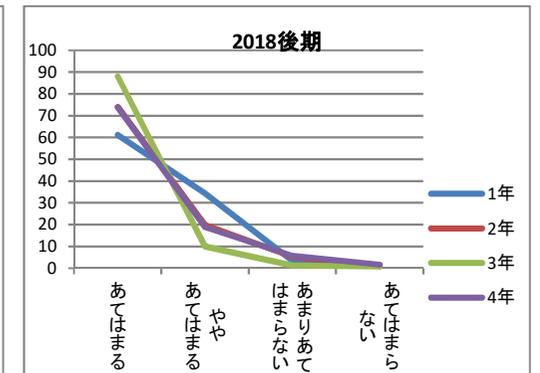
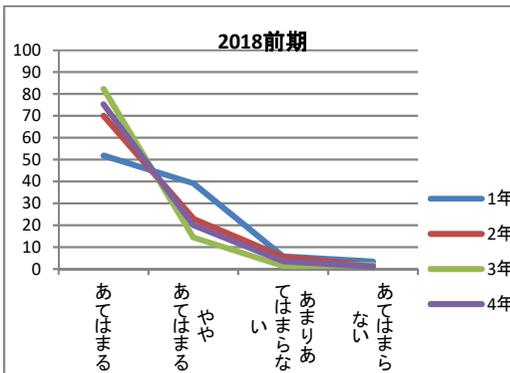
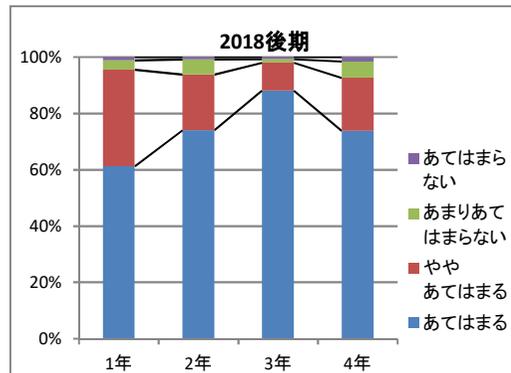
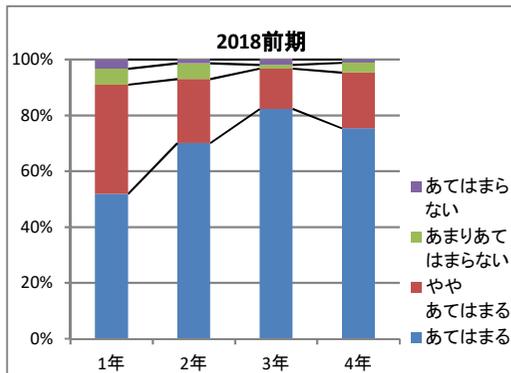
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



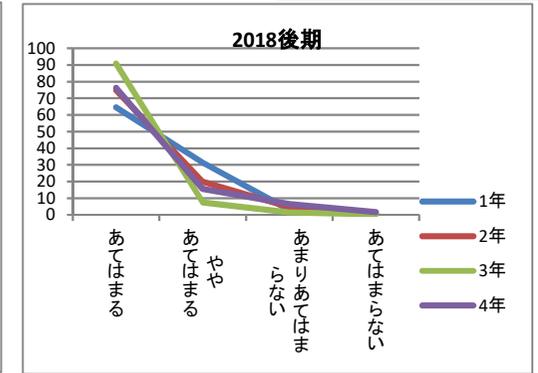
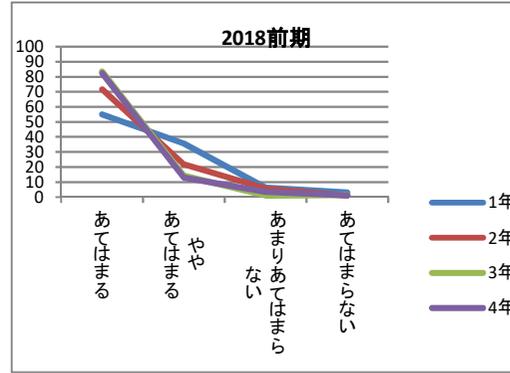
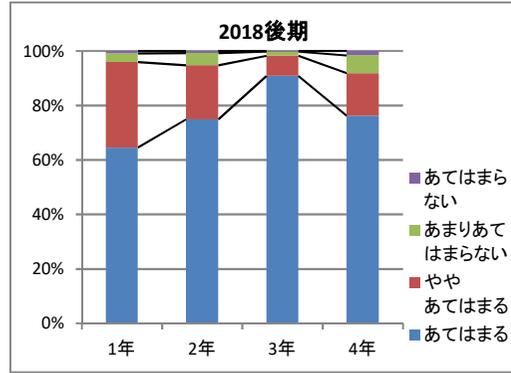
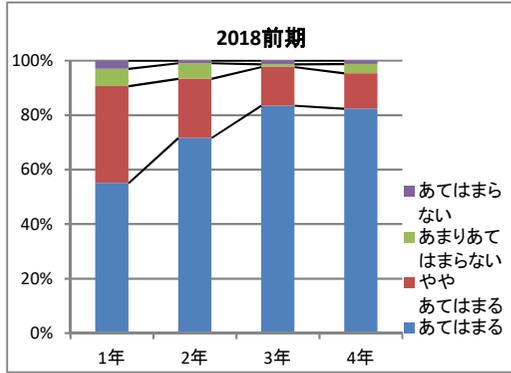
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



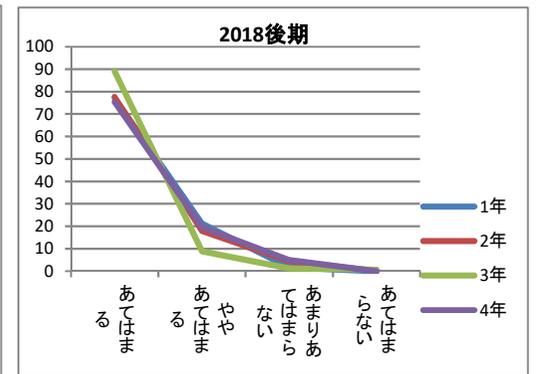
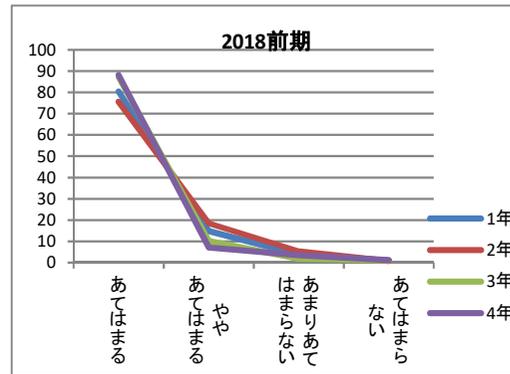
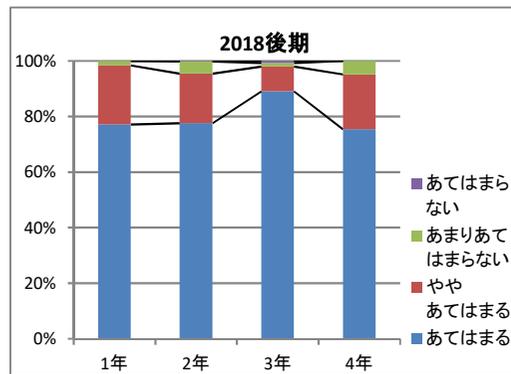
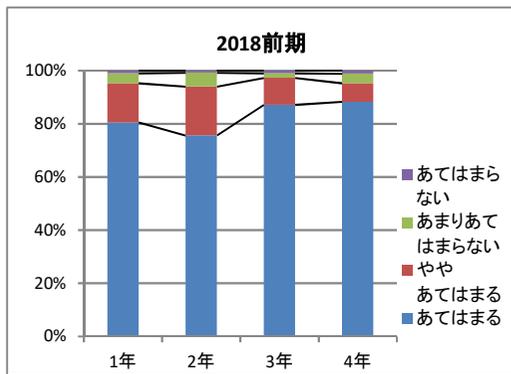
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



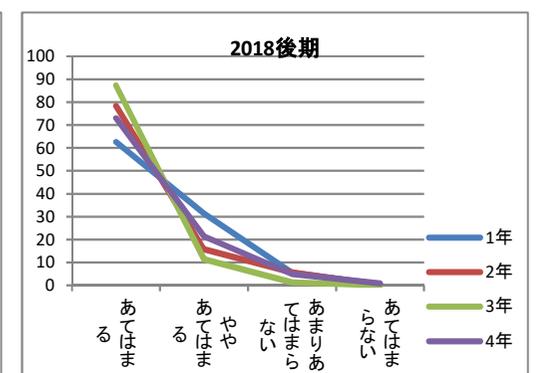
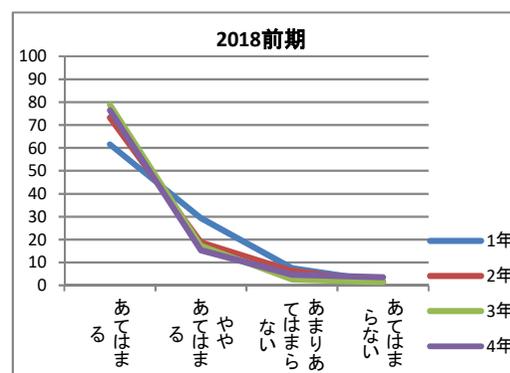
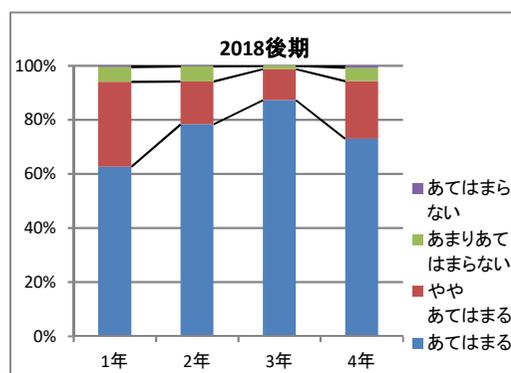
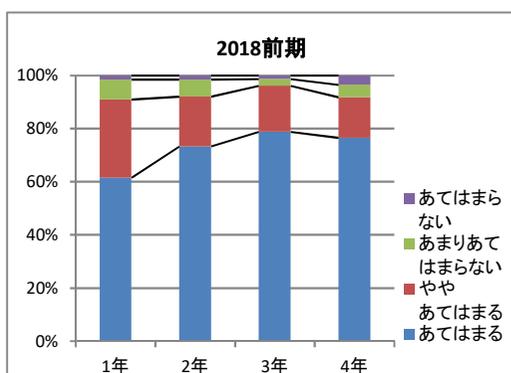
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



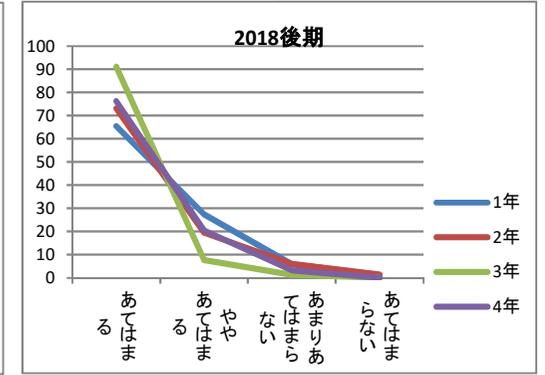
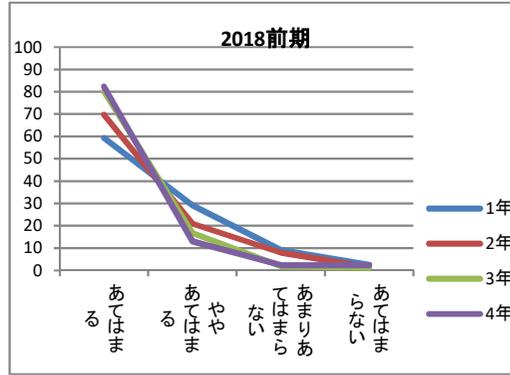
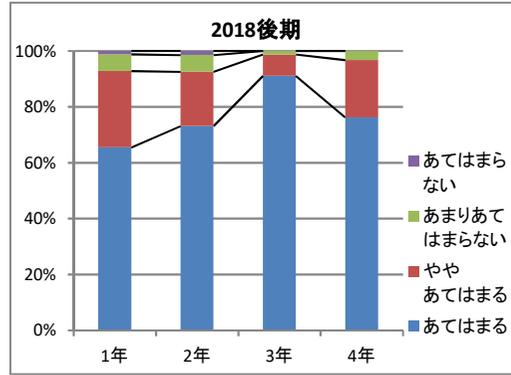
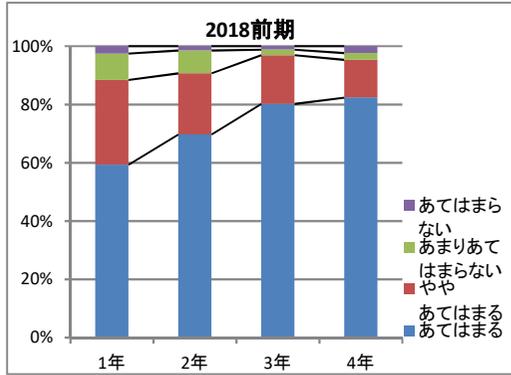
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



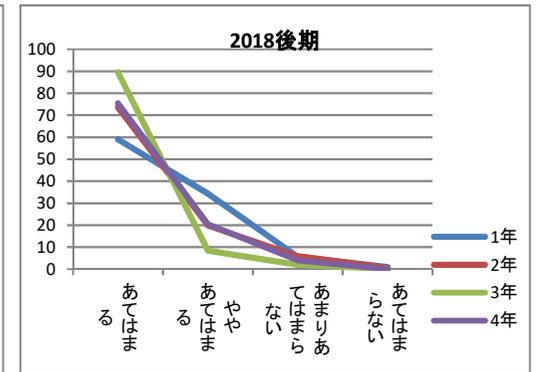
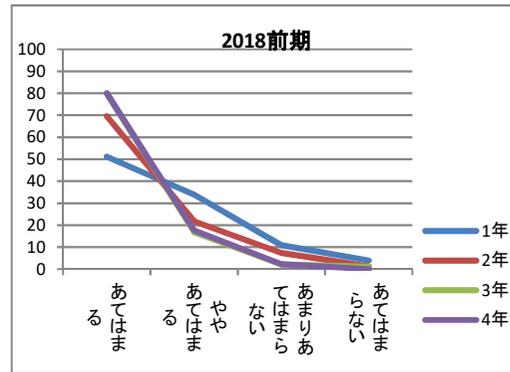
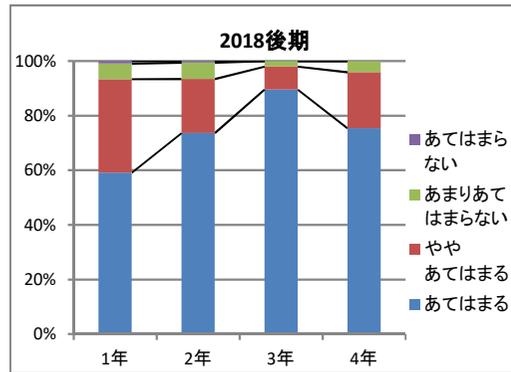
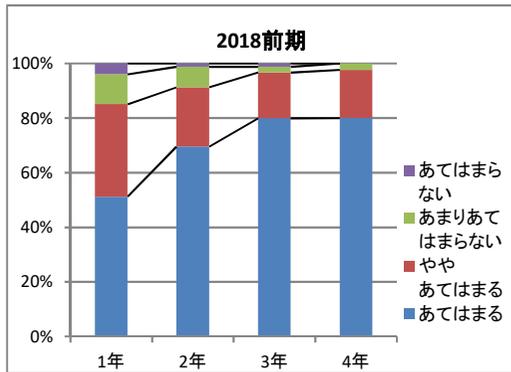
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



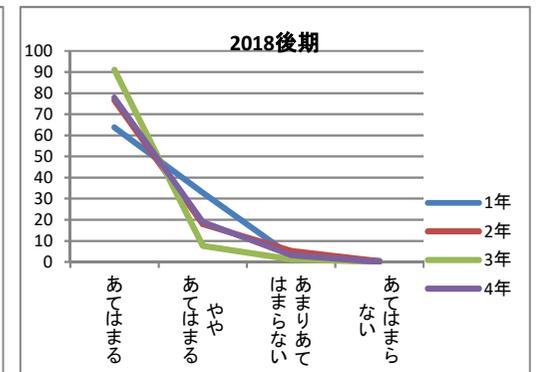
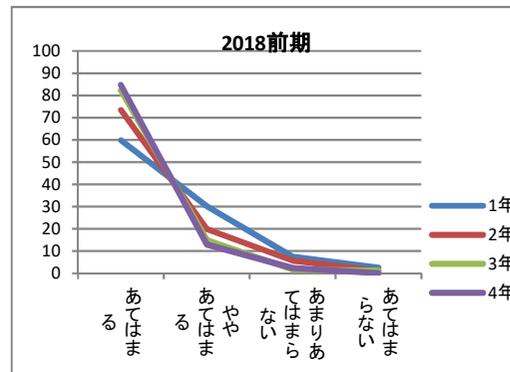
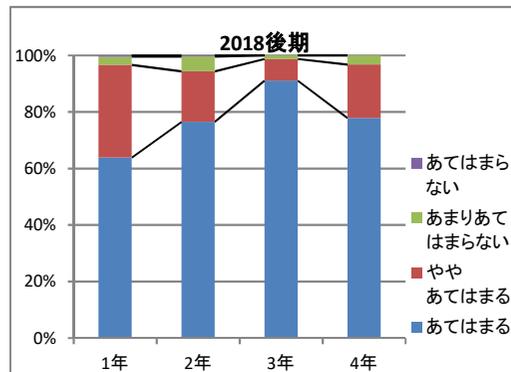
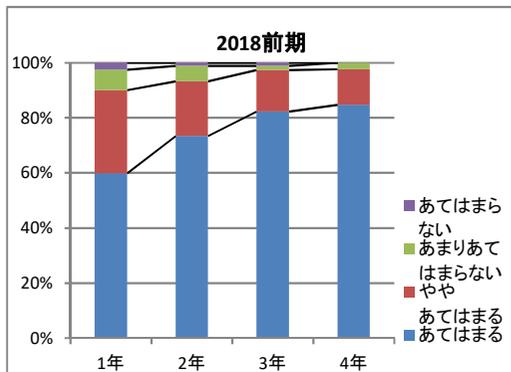
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



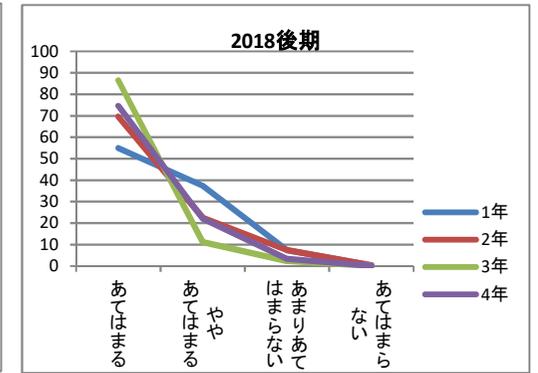
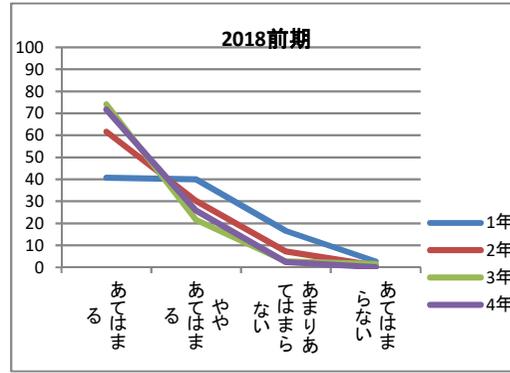
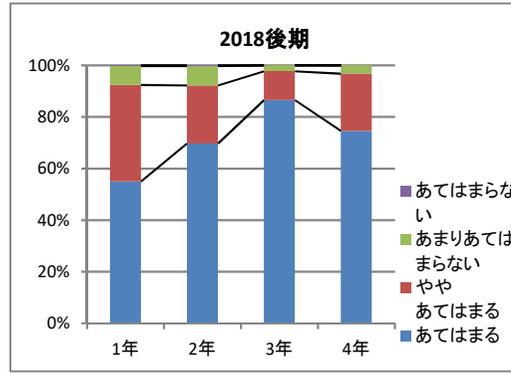
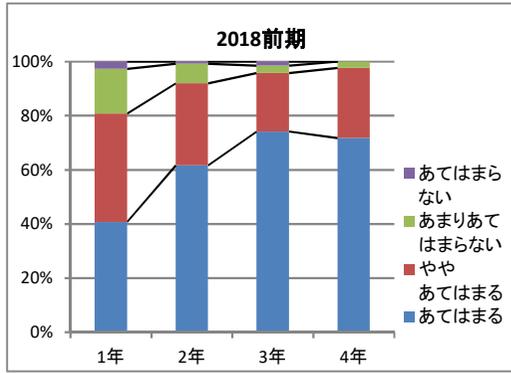
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



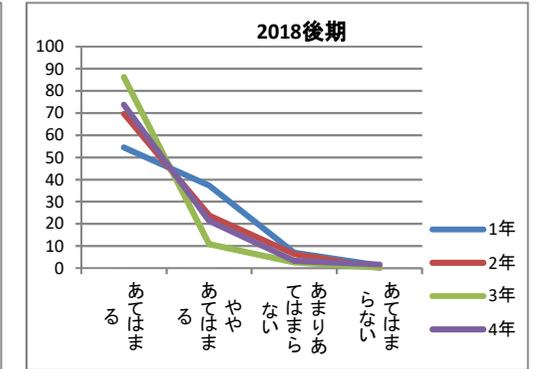
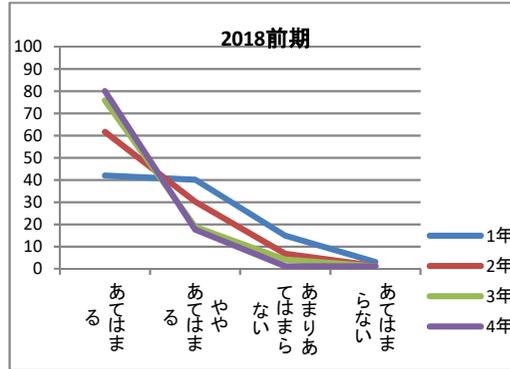
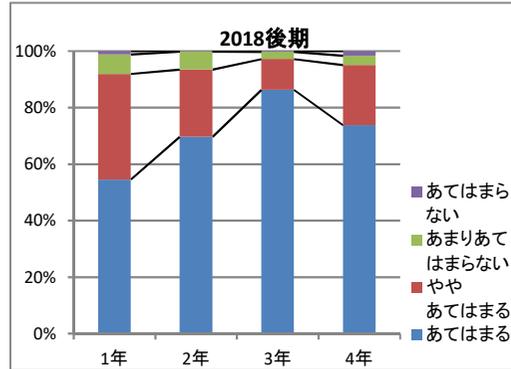
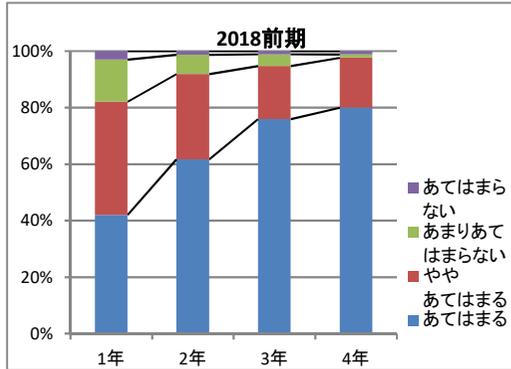
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。

